

清水遺跡

第1～7・9次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第238集



第一分冊 第1・3・7次編

2020

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



清水遺跡

第1～7・9次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第238集

第一分冊 第1・3・7次編

令和2年

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成24年4月1日に財団法人から移行）が発掘調査を実施した、清水遺跡第1～7・9次の発掘調査の成果をまとめたものです。

清水遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する村山市にあります。村山市は、中央に最上川が北流し、東に甕岳、西に葉山を望み、美田とそば畑が広がる豊かな土地にあります。

遺跡は、村山市名取地区に所在し、最上川が大きく蛇行する地域の右岸部に展開する河島山丘陵の東裾に立地します。その範囲は、南北1.3km、東西約150～380mを測り、縦長で広大な遺跡です。

この度、東北中央自動車道（東根～尾花沢）事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、清水遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡を検出し、それらのいくつかは915年に噴火した十和田火山の火山灰によって埋まっていました。遺跡からは大量の墨書土器をはじめとする多くの出土遺物が出土し、この地の歴史を解明する上で大きな成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育ててきた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 菅間 裕晃

凡 例

- 1 本書は、東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設に係る「清水遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成24年4月1日に財団法人から移行）が実施した。
- 4 本書の執筆編集は、伊藤邦弘、氏家信行、天本昌希が担当し、斎藤穂、黒坂雅人、荒木渉、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第1編 天本昌希

第2編 伊藤邦弘・氏家信行

第3編 氏家信行

- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系(世界測地系)により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…竪穴建物	SB…掘立柱建物	SK…土坑・陥穴	SD…溝跡
SG…河川	SP…ピット	SX…性格不明遺構	
EP…遺構内柱穴	EK…遺構内土坑	EL…遺構内炉	

- 7 遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示しているが、基本は以下の通り。

遺構 = 1/60・1/30 遺物（土器）= 1/3 遺物（須恵器甕）= 1/4

遺物ドット

遺構トーン

○ …土師器坏類

■ …須恵器甕類

 …火山灰単純層

 …焼土

● …須恵器坏類

□ …土師器甕類

- 8 遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は左から表面・裏面・断面の順に掲載した。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新振興標準土色帖」による。
- 10 遺物の法量について、単位はミリとグラムである。口径、底径の残存率をそれぞれ8分率で示し、径の復元は2/8をこえるもので行う。4/8未満の復元値は、()で示す。ただし、歪みなどで有効な径が2/8以上確保できないものは復元径を出していない。有効な径が2/8に満たないもので径を復元したものは、(*)で示す。破損などでの残存値は、< >で示す。
- 11 本書を作成するにあたり、下記の方々からご指導とご助言を頂いた（敬称略）。

富山県埋蔵文化財センター

新潟市教育委員会

奈良文化財研究所 金田明大 山口啓志 中村亜希子

国立歴史民俗博物館 三上喜孝

調査要項

遺跡名	清水遺跡（第1～7・9次）	
遺跡番号	208-114（平成11年度新規登録）	
所在地	山形県村山市大字名取字清水	
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所	
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成22・23年度） 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成26年度以降）	
受託期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日（現地調査・整理作業） 平成23年4月1日～平成24年3月31日（現地調査・整理作業） 平成26年4月1日～平成27年3月31日（現地調査・整理作業） 平成27年4月9日～平成28年3月31日（整理作業） 平成29年4月1日～平成30年3月31日（整理作業） 平成30年4月1日～平成31年3月31日（整理作業） 平成31年4月1日～令和2年3月31日（整理作業）	
現地調査	平成22年5月17日～11月30日（第1次調査） 1地区 平成22年5月18日～11月30日（第2次調査） 2地区 平成23年5月16日～10月27日（第3次調査） 1地区 平成23年5月9日～11月11日（第4次調査） 2地区 平成23年5月9日～12月2日（第5次調査） 3地区 平成23年7月20日～9月9日（第6次調査） 4地区 平成26年6月2日～8月5日（第7次調査） 1地区 平成26年8月6日～12月3日（第9次調査） 2地区	
調査担当者	平成22年度	調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘
	第1次調査	主任調査研究員 高桑登（調査主任） 調査研究員 三浦勝美・戸田敬・庄司昭一・天本昌希 調査員 安部将平
	第2次調査	主任調査研究員 齋藤健（調査主任） 調査研究員 中里秀樹・江波大 調査員 伊藤純子・山田めぐみ
	平成23年度	調査課長 安部実 課長補佐 伊藤邦弘
	第3次調査	調査研究員 天本昌希（調査主任） 調査員 五十嵐萌・岩崎恒平
	第4次調査	主任調査研究員 齋藤健（調査主任） 調査員 山田めぐみ

	第5次調査	専門調査研究員 調査研究員 調査員	氏家信行（調査主任） 庄司昭一 渡部裕司・濱松優介・齋藤和樹
	第6次調査	調査員 調査員	渡部裕司（調査主任） 濱松優介
	平成26年度	調査課長 課長補佐	齊藤敏行 須賀井新人
	第7・9次調査	専門調査研究員 調査員	氏家信行（調査主任） 森谷康平
整理作業			
調査担当者	平成27年度	整理課長 課長補佐 主任調査研究員 調査員	伊藤邦弘 須賀井新人 天本昌希（調査主任） 岩崎恒平
	平成29年度	業務課長 課長補佐 主任調査研究員 調査員	伊藤邦弘 須賀井新人 天本昌希（調査主任） 五十嵐萌
	平成30年度	業務課長 課長補佐 調査研究専門員 専門調査研究員 調査員	伊藤邦弘 須賀井新人 氏家信行（調査主任） 齋藤健 吉田満
	平成31年度	業務課長 課長補佐 調査研究専門員 調査員	伊藤邦弘 須賀井新人 氏家信行（調査主任） 安達将行
調査指導			山形県教育庁文化財保護推進課（平成22～23年度） 山形県教育庁文化財・生涯学習課（平成26年度以降）
調査協力			東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 村山市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所
業務委託	基準点測量業務	株式会社山形用地補償研究所（平成22年度） 株式会社三和技研（平成23年度） 株式会社三和技術コンサルタント（平成23・26年度）	
	遺構測量図化業務	株式会社成和技術株式会社（平成22年度） 株式会社三和技術コンサルタント（平成23年度） 株式会社ワクニ（平成22・23・26年度）	
	理化学分析業務	バリノ・サーヴェイ株式会社（平成23・26・30年度） 株式会社加速器研究所（平成27・29年度）	

遺物保存処理業務 株式会社吉田生物研究所（平成 27・29 年度）

公益財団法人山梨文化財研究所（平成 29・31 年度）

発掘作業員	青木勲	相原繁雄	青柳直行	明石謙也	阿曾吾朗	安達ひとみ	阿部賢一	
	阿部博幸	阿部保子	生島弥生	石井敏巳	石川孝	石川政子	石川政治	
	伊藤久美	伊藤耕平	伊藤義昭	井上恵司	井上耕一	今田英子	岩田正雄	
	延藤正春	太田恵美	大沼善一	大場耕一	大場信行	大類千代子	大類彦一郎	
	大類洋子	小川誠志	奥山和子	尾崎たつ子	押切康樹	小野ゆう子	折原たつ子	
	海藤三男	加藤哲子	加藤美佐子	金子一子	穂葉敏一	菊田尚美	工藤一弘	
	工藤秀昭	工藤美智子	公平滋	小関成一	後藤義満	小林正一	小松八十吉	
	今晴夫	今野博子	今野弘	今野吉一	齋藤弘治	齋藤良一	笹崎梨奈	
	笹原功	笹原庄司	笹原武司	佐竹山士	柴田春男	柴田みよ江	鈴木千秋	
	鈴木智	須藤美知子	関敏雄	関美恵子	高橋浩二	高橋惣太郎	土屋千光	
	縄正治	西塚勉	沼沢富貴子	延沢好文	原田幸三	船塚勝代	古瀬和樹	
	星川敬子	星川正和	堀澄雄	堀雄一	増川多美子	松坂英勝	松田義洋	
	村山良三	元木正治	森芳子	矢口和子	柳沢かおり	結城章雄	(五十音順)	
	整理作業員	池野仁	石山聡	板垣牧子	伊藤瑞	井上和替	小川幸子	加藤道雄
		國井宏司	後藤幸子	志鎌久悦	鈴木薫	鈴木美香	玉木良子	土屋彩
		永岡陽一	中島夕佳	保科京子	矢野昌子	山口裕美子	(五十音順)	

総目次

[第1分冊]

序編

- I 調査の経緯と経過
- II 遺跡の位置と環境

第1編 1地区(第1・3・7次調査)

- I 発掘調査と整理事業の方法
 - II 遺構と遺物
 - III 理化学分析
 - IV まとめ
- 写真図版

[第2分冊]

第2編 2地区(第2・4・9次調査)

- I 調査の概要
 - II 遺構の概要
 - III 遺構と遺物
 - IV まとめ
- 写真図版

[第3分冊]

第3編 3・4地区(第5・6次調査)

- I 3・4地区の調査概要
 - II 3地区の概要
 - III 3地区の遺構と遺物
 - IV 調査のまとめと考察
 - V 4地区の概要
 - VI 4地区の遺構と遺物
 - VII 理化学分析
 - VIII 遺跡の総括
- 写真図版

報告書抄録

清水遺跡第2・5次遺構配置図 付図

[第1分冊] 目次

序編

I 調査の経緯と経過

- 1 調査に至る経緯…………… 1
- 2 各年度の発掘調査の経過…………… 1
- 3 各年度の整理作業の経過…………… 4

II 遺跡の位置と環境

- 1 地理的環境…………… 7
- 2 歴史的環境…………… 8

第1編 1地区（第1・3・7次調査）

I 発掘調査と整理作業の方法

- 1 調査の概要…………… 13
- 2 発掘調査の方法…………… 13
- 3 整理作業の方法…………… 14

II 遺構と遺物

- 1 竪穴建物跡と出土遺物…………… 27
- 2 掘立柱建物跡と出土遺物…………… 34
- 3 河川跡と出土遺物…………… 35
- 4 土坑ほかと出土遺物…………… 37
- 5 遺構外出土遺物…………… 41

III 理化学分析

- 1 清水遺跡1地区における放射性炭素年代（AMS測定）…… 163
- 2 種実同定…………… 166
- 3 火山灰の分析…………… 169

IV まとめ

- 1 1地区出土の墨書土器について…………… 173
- 2 火山灰の堆積について…………… 174
- 3 調査のまとめ…………… 174

表

表1 山形盆地北部における古代遺跡	12	表16 出土遺物観察表 11	156
表2 清水遺跡1地区の遺構一覧 1	23	表17 出土遺物観察表 12	157
表3 清水遺跡1地区の遺構一覧 2	24	表18 出土遺物観察表 13	158
表4 清水遺跡1地区の遺構一覧 3	25	表19 出土遺物観察表 14	159
表5 清水遺跡1地区の遺構一覧 4	26	表20 出土遺物観察表 15	160
表6 出土遺物観察表 1	146	表21 出土遺物観察表 16	161
表7 出土遺物観察表 2	147	表22 出土遺物観察表 17	162
表8 出土遺物観察表 3	148	表23 放射性炭素年代測定結果 (δ ¹³ C補正值)	165
表9 出土遺物観察表 4	149	表24 放射性炭素年代測定結果 (δ ¹³ C未補正值、 暦年較正用 ¹⁴ C年代、較正年代)	165
表10 出土遺物観察表 5	150	表25 種災判定結果	167
表11 出土遺物観察表 6	151	表26 テフラ分析結果	170
表12 出土遺物観察表 7	152	表27 掲載遺物土器集成1	176
表13 出土遺物観察表 8	153	表28 掲載遺物土器集成2	177
表14 出土遺物観察表 9	154	表29 中央道調査による火山灰検出遺構	177
表15 出土遺物観察表 10	155		

図 版

第1図 清水遺跡調査区概要図1	5	第26図 竪穴建物跡15 (IST1290-2、IST1286)	56
第2図 清水遺跡調査区概要図2	6	第27図 掘立柱建物跡1 (ISB657、ISB665、ISA667)	57
第3図 村山盆地北部の地形と遺跡の分布	10	第28図 掘立柱建物跡2 (ISB666、ISA668)	58
第4図 清水遺跡周辺の遺跡分布図	11	第29図 掘立柱建物跡3 (ISB1405、ISA1406)	59
第5図 清水遺跡全体と大・中グリッド配置図	16	第30図 河川跡1 (北部平面図)	60
第6図 清水遺跡1地区の遺構配置図と小グリッド配置図	17	第31図 河川跡2 (北部断面図)	61
第7図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 1	18	第32図 河川跡3 (中央東側断面図)	62
第8図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 2	19	第33図 河川跡4 (中央東側断面図)	63
第9図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 3	20	第34図 河川跡5 (ISD186遺物出土状況図1)	64
第10図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 4	21	第35図 河川跡6 (ISD186遺物出土状況図2)	65
第11図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 5	22	第36図 河川跡7 (ISD186遺物出土状況図3)	66
第12図 竪穴建物跡1 (IST121)	42	第37図 河川跡8 (中央西側上層断面図)	67
第13図 竪穴建物跡2 (IST281)	43	第38図 河川跡9 (中央西側下層断面図)	68
第14図 竪穴建物跡3 (IST330-1)	44	第39図 河川跡10 (中央西側上・下層断面図)	69
第15図 竪穴建物跡4 (IST330-2)	45	第40図 河川跡11 (南部平面図1)	70
第16図 竪穴建物跡5 (IST365-1)	46	第41図 河川跡12 (南部平面図2)	71
第17図 竪穴建物跡6 (IST365-2)	47	第42図 河川跡13 (南部断面図1)	72
第18図 竪穴建物跡7 (IST510)	48	第43図 河川跡14 (南部断面図2)	73
第19図 竪穴建物跡8 (IST566、IST581)	49	第44図 河川跡15 (中央部平面図)	74
第20図 竪穴建物跡9 (IST740)	50	第45図 河川跡16 (D・G区平面図)	75
第21図 竪穴建物跡10 (IST777)	51	第46図 河川跡17 (中央部、D・G区断面図)	76
第22図 竪穴建物跡11 (IST1158-1)	52	第47図 河川跡新旧関係図	77
第23図 竪穴建物跡12 (IST1158-2、IST1184-1)	53	第48図 土坑ほか1 (A区-1)	78
第24図 竪穴建物跡13 (IST1184-2)	54	第49図 土坑ほか2 (A区-2)	79
第25図 竪穴建物跡14 (IST1290-1)	55	第50図 土坑ほか3 (A区-3、B区-1)	80

第 51 図	土坑ほか 4 (B 区-2)	81	第 87 図	出土遺物 20 (1ST1290-1)	117
第 52 図	土坑ほか 5 (B 区-3、C 区-1)	82	第 88 図	出土遺物 21 (1ST1290-2・1286、1SB665・1405)	118
第 53 図	土坑ほか 6 (C 区-2)	83	第 89 図	出土遺物 22 (1SD186-1)	119
第 54 図	土坑ほか 7 (C 区-3)	84	第 90 図	出土遺物 23 (1SD186-2)	120
第 55 図	土坑ほか 8 (C 区-4)	85	第 91 図	出土遺物 24 (1SD186-3)	121
第 56 図	土坑ほか 9 (C 区-5)	86	第 92 図	出土遺物 25 (1SD186-4)	122
第 57 図	土坑ほか 10 (C 区-6)	87	第 93 図	出土遺物 26 (1SD186-5)	123
第 58 図	土坑ほか 11 (C 区-7)	88	第 94 図	出土遺物 27 (1SD186-6)	124
第 59 図	土坑ほか 12 (A 区-4、G 区、H 区)	89	第 95 図	出土遺物 28 (1SD186-7)	125
第 60 図	土坑ほか 13 (E 区-1)	90	第 96 図	出土遺物 29 (1SD186-8)	126
第 61 図	土坑ほか 14 (E 区-2)	91	第 97 図	出土遺物 30 (1SD186-9)	127
第 62 図	土坑ほか 15 (E 区-3)	92	第 98 図	出土遺物 31 (1SD186-10)	128
第 63 図	土坑ほか 16 (E 区-4)	93	第 99 図	出土遺物 32 (1SD186-11)	129
第 64 図	土坑ほか 17 (E 区-5)	94	第 100 図	出土遺物 33 (1SD186-12)	130
第 65 図	土坑ほか 18 (E 区-6)	95	第 101 図	出土遺物 34 (1SD186-13)	131
第 66 図	土坑ほか 19 (F 区-1)	96	第 102 図	出土遺物 35 (1SD186-14)	132
第 67 図	土坑ほか 20 (F 区-2)	97	第 103 図	出土遺物 36 (1SD186-15)	133
第 68 図	出土遺物 1 (1ST121・281・330-1)	98	第 104 図	出土遺物 37 (1SD186-16)	134
第 69 図	出土遺物 2 (1ST330-2)	99	第 105 図	出土遺物 38 (1SD186-17)	135
第 70 図	出土遺物 3 (1ST330-3)	100	第 106 図	出土遺物 39 (1SD186-18)	136
第 71 図	出土遺物 4 (1ST330-4)	101	第 107 図	出土遺物 40 (1SD186-19・河川跡-1)	137
第 72 図	出土遺物 5 (1ST365-1)	102	第 108 図	出土遺物 41 (河川跡-2)	138
第 73 図	出土遺物 6 (1ST365-2)	103	第 109 図	出土遺物 42 (河川跡-3、土坑ほか-1)	139
第 74 図	出土遺物 7 (1ST365-3)	104	第 110 図	出土遺物 43 (土坑ほか-2)	140
第 75 図	出土遺物 8 (1ST365-4)	105	第 111 図	出土遺物 44 (土坑ほか-3)	141
第 76 図	出土遺物 9 (1ST365-5・510)	106	第 112 図	出土遺物 45 (土坑ほか-4)	142
第 77 図	出土遺物 10 (1ST566・581)	107	第 113 図	出土遺物 46 (土坑ほか-5)	143
第 78 図	出土遺物 11 (1ST740-1)	108	第 114 図	出土遺物 47 (遺構外出土-1)	144
第 79 図	出土遺物 12 (1ST740-2)	109	第 115 図	出土遺物 48 (遺構外出土-2)	145
第 80 図	出土遺物 13 (1ST740-3)	110	第 116 図	種実遺体	168
第 81 図	出土遺物 14 (1ST740-4)	111	第 117 図	火山ガラスの屈折率	171
第 82 図	出土遺物 15 (1ST777-1)	112	第 118 図	テフラ・砂分の状況	172
第 83 図	出土遺物 16 (1ST777-2)	113	第 119 図	1 地区出土の黒青土器の集成 1	178
第 84 図	出土遺物 17 (1ST1158-1)	114	第 120 図	1 地区出土の黒青土器の集成 2	179
第 85 図	出土遺物 18 (1ST1158-2)	115	第 121 図	清水遺跡から検出した火山灰の堆積状況の集成	180
第 86 図	出土遺物 19 (1ST1158-3・1184)	116			

写真図版

- 写真図版 1 遺構写真1～8 (全景)
- 写真図版 2 遺構写真9～10 (全景)
- 写真図版 3 遺構写真11～18 (1ST121～330)
- 写真図版 4 遺構写真19～26 (1ST330～510)
- 写真図版 5 遺構写真27～34 (1ST566～740)
- 写真図版 6 遺構写真35～42 (1ST740～1158)
- 写真図版 7 遺構写真43～50 (1ST1158～1290)
- 写真図版 8 遺構写真51～57 (1ST1290～1SA1406)
- 写真図版 9 遺構写真58～59 (1SD186)
- 写真図版 10 遺構写真60～64 (1SD186)
- 写真図版 11 遺構写真65～69 (1SD186)
- 写真図版 12 遺構写真70～77 (1SD27～1378)
- 写真図版 13 遺構写真78～85 (1SD1378～1383)
- 写真図版 14 遺構写真86～100 (1SK98～351)
- 写真図版 15 遺構写真101～115 (1SK353～571)
- 写真図版 16 遺構写真116～126 (1SK639～1SX1163)
- 写真図版 17 遺構写真127～141 (1SK1208～1062)
- 写真図版 18 竪穴建物出土遺物写真1 (上段: 1ST121、
中段: 1ST281、下段: 1ST330)
- 写真図版 19 竪穴建物出土遺物写真2 (1ST330)
- 写真図版 20 竪穴建物出土遺物写真3 (1ST330)
- 写真図版 21 竪穴建物出土遺物写真4 (1ST365)
- 写真図版 22 竪穴建物出土遺物写真5 (1ST365)
- 写真図版 23 竪穴建物出土遺物写真6 (上段: 1ST365、
下段: 1ST510)
- 写真図版 24 竪穴建物出土遺物写真7 (上段左: 1ST510、
上段右: 1ST566、中段: 1ST581、下段: 1ST740)
- 写真図版 25 竪穴建物出土遺物写真8 (1ST740)
- 写真図版 26 竪穴建物出土遺物写真9 (1ST740)
- 写真図版 27 竪穴建物出土遺物写真10 (上段: 1ST740、
下段: 1ST777)
- 写真図版 28 竪穴建物出土遺物写真11 (1ST777)
- 写真図版 29 竪穴建物出土遺物写真12 (1ST1158)
- 写真図版 30 竪穴建物出土遺物写真13 (1ST1158)
- 写真図版 31 竪穴建物出土遺物写真14 (上段: 1ST1184、
下段: 1ST1290)
- 写真図版 32 竪穴建物出土遺物写真15 (上段: 1ST1290、
下段左: 1ST1286、下段中: 1SB665、
下段右: 1SB1405)
- 写真図版 33 河川出土遺物写真1 (1SD186)
- 写真図版 34 河川出土遺物写真2 (1SD186)
- 写真図版 35 河川出土遺物写真3 (1SD186)
- 写真図版 36 河川出土遺物写真4 (1SD186)
- 写真図版 37 河川出土遺物写真5 (1SD186)
- 写真図版 38 河川出土遺物写真6 (1SD186)
- 写真図版 39 河川出土遺物写真7 (1SD186)
- 写真図版 40 河川出土遺物写真8 (1SD186)
- 写真図版 41 河川出土遺物写真9 (1SD186)
- 写真図版 42 河川出土遺物写真10 (1SD186)
- 写真図版 43 河川出土遺物写真11 (1SD186)
- 写真図版 44 河川出土遺物写真12 (1SD186)
- 写真図版 45 河川出土遺物写真13 (1SD186)
- 写真図版 46 河川出土遺物写真14 (1SD186)
- 写真図版 47 河川出土遺物写真15 (1SD186-1SD27)
- 写真図版 48 河川出土遺物写真16 (1SK28-1SK241)
- 写真図版 49 土坑ほか出土遺物写真1 (1SK33-1SK692)
- 写真図版 50 土坑ほか出土遺物写真2 (1SK358-1SK411)
- 写真図版 51 土坑ほか出土遺物写真3 (1SK418-1SX1162)、
調査区一括出土遺物写真1
- 写真図版 52 調査区一括出土遺物写真2
- 写真図版 53 墨書土器赤外線写真1
- 写真図版 54 墨書土器赤外線写真2
- 写真図版 55 墨書土器赤外線写真3

序 編

I 調査の経緯と経過

1 調査に至る経緯

清水遺跡の発掘調査は、国土交通省による東北中央自動車道（以下、中央道）建設工事に伴って実施された。中央道は福島県相馬市から山形県内陸部を縦貫し、秋田県横手市まで268kmをつなぐ高速道路計画であり、敷設予定地内には数多くの埋蔵文化財が含まれている。

清水遺跡は平成11年に山形県教育委員会（以下、県教委）が中央道事業予定地内を踏査したところ、村山市大字名取字清水地内の畑に土器片の散布が認められたため、新たに登録された遺跡である。清水遺跡の取り扱いについて、国土交通省東北整備局山形河川国道事務所（以下、国交省）ならびに東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所と県教委は、慎重に協議を重ね、記録保存とする結果になった。記録保存は国交省からの委託を受けて平成22年から公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（以下、センター）が行う事となった。

清水遺跡は河島山丘陵の東裾部の等高線に沿って広がり、「3」字状を呈し、南北1.3kmに及ぶ細長い遺跡である。この遺跡範囲に対して、中央道は南側と北側の端部を貫くように計画されている。そのため同一遺跡内において、調査区が南北に大きく分かれることとなっている。平成23年度まで南側を清水遺跡（1）または1地区、北側を（2）～（4）または2～4地区として調査しており、それぞれの地区でさらに第1次調査としていた。年報や調査報告会においても同様の名称を用いている。しかし、同一遺跡において地点、調査次数がそれぞれ複数になり煩雑になるため、平成26年度の調査からは、南北すべての調査地点において、統一した連番の調査次数で管理することとなった。清水遺跡の調査は、調査開始日を起点として1次～8次までの調査が行われている。旧名称との対応は、以下の通り。

調査年度	旧名称	統一名称
平成22年	清水遺跡（1）	清水遺跡第1次
平成22年	清水遺跡（2）	清水遺跡第2次
平成23年	清水遺跡1地区第2次	清水遺跡第3次
平成23年	清水遺跡2地区第2次	清水遺跡第4次
平成23年	清水遺跡3地区	清水遺跡第5次
平成23年	清水遺跡4地区第2次	清水遺跡第6次
平成26年		清水遺跡第7次
平成26年		清水遺跡第8次
平成26年		清水遺跡第9次

調査地点を示す地区名は、便宜上そのまま残し、本報告書では、地区ごとにまとめている。

2 各年度の発掘調査の経過

平成22年度

平成22年度は、第1～2次調査を実施している。対象地区は、1地区と2地区である。

第1次調査

第1次調査は、1地区を対象としたもので、平成22年5月17日から3名の調査員で開始した。まず、地区全域を対象にトレンチを入れ、遺構の分布状況を確認した。この結果をうけて6月16日に国交省、県教委、センター間で協議がもたれ、南側には遺構が延長することから調査区を拡張すること、今年度は南側半分6020㎡を調査対象とし、北半分は次年度とすることなどが決定された。

6月24日から重機を導入し表土の掘削に入り、次年度調査区の北側を掘土置場とした。この表土除去と平行して8月3日まで遺構検出を行う。調査区南端から北進しながら作業を進め、農道などで区切られるため調査区をA～C区に分けた。検出を進めると、灰白色の火山灰で埋もれる竪穴建物や溝状遺構などが多数検出し、作業予定より上回る状況が把握された。この後の協議で9月より隣接する同一事業地内で調査中の経塚森遺跡、田向遺跡から調査員が配置換えで2名増の5名の調査員とすることや、調査終了期間を11月30日まで延長す

ることを決定した。

遺構精査は8月4日からA区南端より開始し、同月23日からは平行してC区南西端からも精査を始めた。面積の小さいB区は、10月18日からの精査開始である。調査初頭の確認調査によって南側に拡張する調査区をD区とし、10月25日から精査を開始した。A区は、北進しながら溝状遺構を中心に調査を進めた。9月前半で1SD186から大量の土器が出土することが把握され、同月末までには床面から大量の墨書土器が出土する様子が明らかとなった。また、調査の進展によってA区の西側に重複して下層面があり、溝状遺構が南のD区まで延長することが確認されたため、11月10日の国交省との協議で、次年度の調査に加えることが決められた。10月24日には発掘調査現地説明会を開催し、80名の参加を得た。

調査の進展に伴い、記録を適宜作成しながら進めた。検出した遺構は、遺構検出図面の作成後、種別にかかわらず連番で001から登録し、出土遺物は、位置を記録したものをすべて連番で0001から記録していった。平面図は1/100で作成した検出図面を、隙間なく1/20の大きさで分割したものに記載した。測量は次節にまとめるグリッドを基準に、遣り方で測ったものを図化している。断面図の基準高や平面図のレベルリングは、水準杭からの高さを基にオートレベル、トータルステーションなどで測量したものである。写真撮影は35ミリのフィルムカメラと6×7の中判カメラで撮影したものを調査記録とし、メモ用にコンパクトデジカメを併用した。同一のカットをそれぞれのカメラでカラーリバーサルとモノクロの両方のフィルムを用いて撮影している。

10月27日には、バリノサーヴェイ株式会社に委託し、遺構覆土中に堆積している火山灰の分析試料採取を行った。11月22日には成和技術株式会社に委託し、空中撮影と地形測量を行った。11月下旬に国交省と現地引き渡しの協議を行い、現地の状況を確認、次年度の3次調査の終了まで調査区内の工事は進まないことを確認し、同月30日に現場器材を撤収、調査を終えた。

第2次調査

第2次調査は、2地区を対象としたもので、隣接する東熊野苗畑遺跡の調査と並行しながら調査員5名で実施した。平成22年5月18日から2地区だけでなく、3・

4地区を含む遺跡範囲北側全域を対象にトレンチを入れ、遺構の分布状況を確認した。この結果をうけて6月24日に県教委とセンター間で協議がもたれ、今年度は市道を挟んだ4900㎡を対象に行い、残りは次年度とすることなどが決められた。

7月7日から重機を導入し表土の掘削に入り、平行して10月初頭まで遺構検出を行う。市道で区切られる調査区を南側のA区・北側のB区に分け、遺構精査は10月上旬からA・B区並行して開始した。調査の進展に伴い、A区を中心に火山灰の堆積する竪穴建物や、焼失建物などが複数重複する様子が明らかになった。11月21日には発掘調査現地説明会を開催し、109名の参加を得た。

調査の進展に伴い、記録を適宜作成しながら進めた。記録の方法は、第1次調査のものと同じである。遺構番号は、A区のものから連番で付けられ、B区は1001番から付けられる11月25日には株式会社ワクニに委託し、空中撮影と地形測量を行った。同月30日に現場器材を撤収、調査を終えた。

平成23年度

平成23年度は、第3～6次調査を実施している。対象地区は1～4地区に及ぶ。

第3次調査

第3次調査は1地区における調査で、平成23年5月16日より調査を開始し、10月27日まで、3名の調査員で実施した。第1次調査で行った確認調査の結果に基づき、昨年度に調査したC区の北側をE区、市道を挟んでさらに北側をF区とし、下層面で溝状遺構が確認されたA区、D区の一部を合わせた4450㎡を対象に調査している。

重機による表土掘削を北側のF区から始め、南側の第1次調査区の調査終了地を排土置き場とした。表土除去は6月2日まで行い、平行して7月6日まで遺構検出を行う。遺構精査は7月7日からF・E区と平行して始め、8月4日にはF区の精査が終了、9月1日からはE区と平行してA区の調査を開始し、10月11日にはD区に着手した。同月15日には、発掘調査現地説明会を開催し、70名の参加者を得ている。

調査の進展に伴い、適宜記録を作成しながら進めた。検出した遺構と遺物は、第1次調査と重ならぬよう桁を

変え、遺構は種別にかかわらず連番で1001から登録し、出土遺物は、連番で3001から記録していった。平面図、断面図ならびに写真撮影の方法については、第1次調査のものと同じである。10月25日に現場引き渡しのための協議が国交省ともたれ、現地の状況を確認、翌々日27日に現場器材を撤収し、予定通り調査を終えた。

第4次調査

第4次調査は、2地区の南側を対象とし、第2次調査A区の南側2260㎡を対象として5月9日から11月11日まで調査員2名、9月からは1名増員して3名で実施している。

表土除去を5月25日、遺構検出を7月22日までを行い、南西側より遺構精査を開始する。調査区南端の2SG266より灰白色火山灰の堆積や墨書土器の集中が見られた。また、東斜面黒ボク土中に多くの竪穴建物を検出している。調査も終盤に近づいた11月3日には調査の成果を広く公表する発掘調査説明会を4次調査と合同で開催し、121名の参加者を得た。

調査記録の方法は、隣接する第2次調査のものと同じであり、検出した遺構番号は第2次調査で付されたものからの連番である。11月2日に空中撮影と地形測量を株式会社ワクニに委託して実施した。11月10日に現場引き渡しのための協議が国交省ともたれ、現地の状況を確認、翌日11日に現場器材を撤収し、予定通り調査を終えた。

第5次調査

第5次調査は、第2次調査でB区とした調査区の北側を3地区として独立させたものである。当初の予定は、面積5300㎡を5月9日から11月11日とし、調査員3名で実施した。

最初に、調査範囲を設定し周縁の線掘りを行い、遺構と遺物の検出できる深さを確認した後、重機による表土除去を5月12日から始め5月26日まで行った。その後、6月1日に格子点杭打ち作業（三和技建）を行い、遺構検出作業を7月21日まで行った。遺構検出を進めると、北側の遺構が調査区外に広がることが判明した。ただし、拡張する調査区の範囲内に調査事務所があることから、現調査区の調査をある程度進めてから、事務所を移動して範囲を確認することとした。

遺構検出終了後、検出状況の写真撮影を行い遺構に登

録番号を付けた後に遺構配置図の作成と共に遺構精査作業を開始した。検出した遺構は、多数の掘立柱建物跡や区画溝、竪穴建物などである。これらの精査は、土層を観察するために覆土をベルト状に残したり、半載したりして掘り下げ、土層の写真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器などについては登録番号を付け、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。

調査が進んだ、9月21日に事務所の一部を移動し、9月27・28日には再度、重機による表土除去を行い北側の遺構の拡張範囲を確認した。その結果、竪穴建物や掘立柱建物跡、土坑などが検出され、調査面積が400㎡増加し、5700㎡になることが確認された。国土交通省と協議を行い、面積の増加に伴い、調査期間を12月2日まで延長し、第6次調査を終了した調査員2名を増員することで合意した。そして、拡張部分も含めた調査を進め、11月3日には発掘調査説明会を4次調査と合同で開催し、121名の参加者を得た。

11月18日には委託業務である図化のための調査区全体の空中写真撮影（成和技術）を行い、12月2日に機材の撤収をした。現地調査の実働は、138日間である。

第6次調査

第2次調査で行った確認調査で遺構の分布が確認された清水遺跡範囲の北端部の調査区である。この地区を4地区として独立して扱い、面積1100㎡を対象に7月20日から9月9日の期間、調査員2名をもって実施した。

最初に調査範囲を設定し、西側平坦部は重機による表土除去を実施し、7月22日まで行った。その後、遺構の検出を行い、遺構番号を付け、写真撮影や遺構配置図を作成した。7月29日には格子点杭打ち作業（三和技建）を行った。そして、炭窯跡が確認されている東側斜面は、人力による表土の除去を行い、その後、検出作業を進めた。炭窯跡の検出終了後には写真撮影を行った。

遺構の精査は、西側の平坦部から開始した。精査は、土層観察のため覆土を半載し、土層の写真や図面を作成した後に完掘していった。平坦部の精査終了後、斜面の炭窯跡の掘り下げを行い写真撮影や図面を作成した。

調査終了日も近づいた9月6日には調査区全体の空中写真撮影（三和技術コンサルタント）を行い、その後、埋め戻しを行い、9月9日に現地調査を終了した。

平成 26 年度

平成 26 年度は、第 7～8 次調査を実施している。第 7 次調査は 1 地区における調査で、第 8 次調査は 2～3 地区にまたがる調査である。第 8 次調査は中央道に接続する県道の調査であり、すでに報告済みであるため、詳細はそちらを参照されたい（センター 224 集）。

第 7 次調査

第 7 調査は、平成 26 年 6 月 2 日から 8 月 5 日まで、3 名の調査員により、第 8 次調査と一部平行して行われた。1 地区の農道部と未買収地だった地区 1100 m を対象にした調査である。

1 地区は、第 3 次調査終了からすでに 2 年半が経過しており、調査の終了した南側の A・D 区では、中央道本体の建設工事が進み、北側の C・E 区には、7 次調査区を貫いて事業地中央に土砂運搬のための工用仮設道路ができていた。また、今回の調査は、農道部分のため、事業地内に迂回路を別に設けて周辺農地への進入路を確保しているため、調査面積が狭まっている。

調査は西端の水田部分の G 区と、工用道路上に東西を分断される農道部分の H 区の西側から始めた。重機による表土除去は 6 月 6 日まで行い、平行して遺構検出、遺構精査を同月 23 日まで行った。調査済みの調査区は、工事との関係から翌 24・25 日に埋め戻された。残る H 区東側の調査は、7 月 1・2 日に重機による表土除去、平行して遺構検出を同月 4 日まで行い 2 軒の堅穴建物などを検出、遺構精査は 8 月 5 日まで行った。

調査の進展に伴い、適宜記録を作成しながら進めた。検出した遺構と遺物は、第 1 次調査の続きから、第 3 次調査までの空き番号を用いた。作図方法はこれまでのものと変わりはない。写真撮影はフルサイズ判のデジタルカメラと、6×7 の中判カメラのモノクロフィルムでそれぞれ撮影している。8 月 1 日に空中撮影と地形測量を株式会社フクニに委託して実施した。

7 月 29 日に現場引き渡しのための協議が国交省側ともたれ、現地の状況を確認、調査終了後の 8 月 5 日に調査区内を埋め戻して第 7 次調査を終了、以降、担当調査員らは第 8 次調査区に移った。

3 各年度の整理作業の経過

平成 22・23・26 年度

各年度において発掘調査終了後、それぞれの年度末までは整理作業を実施している。遺物の洗浄、注記、記録類の整理などの基礎整理を進めた。平成 23 年度調査まで注記は、旧名称を基本としていたため、遺跡名を「シズ」とした後、地区名の数字に、() で各地区ごとの調査回数を書き記している。

平成 27 年度

年度当初より整理作業を行う。1 地区のものをを中心に、遺構図面のトレースと、出土遺物の分類、接合と復元作業を進める。委託業務としては、株式会社加速器分析研究所に委託して 1 地区出土の炭化物の年代測定や種実の同定を行う。また、金属製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。

平成 29 年度

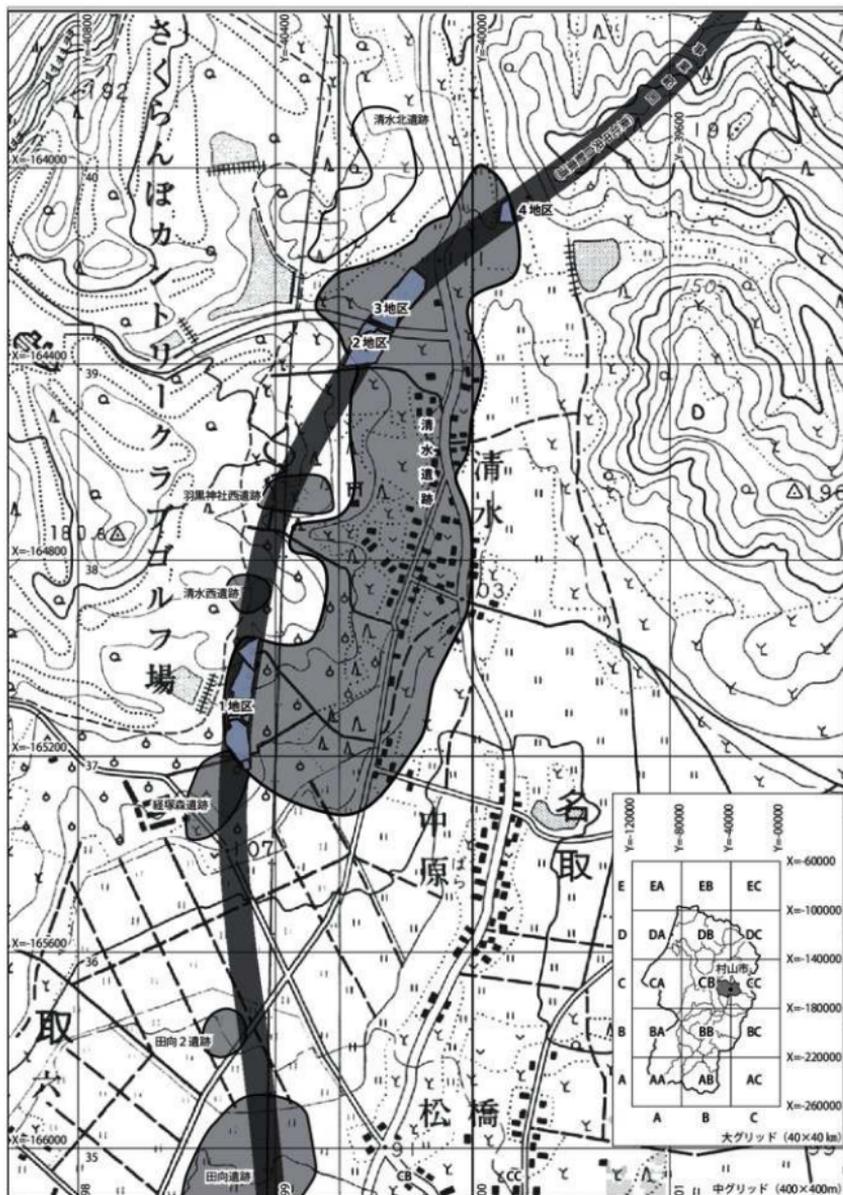
年度当初より 1 地区と 3 地区のものを中心に作業を進める。1 地区は、実測、トレース、レイアウト、写真撮影等を進め、作業を修了する。3 地区は、接合、復元を行う。委託業務としては、株式会社加速器分析研究所に委託して 2・3 地区出土の炭化物の年代測定や種実の同定を行う。また、同地区の金属製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。

平成 30 年度

年度当初から 3・4 地区を中心に整理作業を進めた。遺物の実測とトレース、拓本、古代の遺物の写真撮影を行った。その後、3 地区の編集作業と併行して、2 地区の遺物の接合・復元を行う。委託業務は、創和システム株式会社と 3・4 地区出土石器の実測図化業務とハリノ・サーヴェイ株式会社と 2・3 地区の炭化材の樹種同定や年代測定、土壌の分析、火山灰分析などの理化学的分析を行った。

平成 31 年度

年度当初から 2 地区の整理作業を中心に行った。遺構図の編集と遺物の実測、トレース、拓本、写真撮影を進め、3・4 地区の縄文時代の遺物の写真撮影も行った。その後、2～4 地区の個別に作成した遺構図や遺物図の編集作業、観察表の作成、原稿執筆を進めた。そして、1～4 地区の原稿の校正を行い、報告書を印刷・刊行した。委託業務は、金属製品 2 点の保存処理を山梨文化財研究所に委託した。



第1図 清水道跡調査区概要図1



第2図 清水遺跡調査区概要図2

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

清水遺跡は、村山市大字清水名取清水南・清水北に位置する遺跡である。山形盆地北部の最上川右岸に広がる河島山丘陵の裾部に展開する。遺跡範囲の西側は、丘陵裾の標高120m程度の等高線に沿い、東側は現在の清水集落を含む範囲で標高100数mと、東に下る。丘陵が入り組むため、遺跡範囲は「3」字形を呈する。遺跡範囲は南北に長く、直線で1.3kmを測る。1地区は「3」の下側、2、3地区は上の調査区である。

遺跡の所在する山形盆地は、東を奥羽山脈、西は朝日連峰に囲まれ、盆地のほぼ中央部を最上川が北流する、南北40km、東西20kmの船底型を呈する盆地である。山形盆地は扇状地の発達がよく、図面中には盆地内最大の乱川扇状地や橋岡扇状地、最上川右岸には寒河江川扇状地などが見られる。最上川はこれらの扇状地間を北流し、氾濫原を形成する。第3図中に見られる地形的な特徴について、南側から順に概説しておく。

図面上南東に広がる乱川扇状地は、乱川をはじめとした河川の開析を受け、段丘化の進んだ広大な開析扇状地であり、扇頂部と端部で150mの高度差をもつ。段丘低位面に現在の東根市市街地が展開している。乱川扇状地から最上川を挟んで対岸には、寒河江扇状地が展開している。勾配の緩やかな扇状地で、縁辺が判然としない。現在の河北町の中心市街地が広がっている。

図面中央部には最上川を挟んで扇状地の前縁部になる河間低地と後背湿地からなる低地が広がる。中でも北部の名取低地は、内水氾濫の常襲地であり、地名としても「浮沼」が残る。盆地東縁部の断層崖下には橋岡扇状地が形成され、現在の村山市の中心市街地となっている。最上川流域は氾濫原が広がっている。最上川の両岸に続く自然堤防と旧流路、後背湿地からなり、この3者は互いに入り組み、複雑な分布を示している。現在の圃場整備で不明瞭になっている部分も多く、発掘調査により明らかになる旧地形も多いだろう。盆地西縁部には北山丘陵や千座川、樽石川が開析する段丘が広がっている。

これらの北側には清水遺跡の立地する河島山丘陵が最上川右岸に広がる。この丘陵は、標高194mの河島山から北東部に広がる丘陵で、波浪状の小起伏の形態を有する。丘陵北部の赤土化した地表部は、リス、ヴェルム間水期以前の地形面と考えられる。ただし、清水遺跡の立地する低段丘面は、寒冷な気候化に形成された緩斜面であろうと考えられている(米地・豊島1981)。その西側を流れる最上川は、流路を河島山丘陵により遮られ大きく蛇行する。大淀峡谷と呼ばれるこの地を含めた一帯は、河床に岩盤が露出する岩礁地帯であり、船運上の難所として知られている。左岸には白鳥段丘や富並段丘が展開している。

図面の北端部には最上川右岸に袖崎低地が見られる。尾花沢盆地と山形盆地を結ぶ低地であるが、大きな河川はない。かつては最上川がここを流下したこともあったとみられる。この低地の東縁は横岳断層崖でこの崖下に小扇状地が並ぶ地形になっている。最上川は北流を続け、図外で丹生川に合流する。丹生川の南岸に尾花沢段丘が展開し、現在の尾花沢市と大石田町の市街地が所在している。

調査区の大部分を占める土壌は、表層腐食質黒ボク土壌に属する。黒ボク土は主として段丘・台地に分布し、水はけのよさから畑地として利用されている。調査区内では主に斜面裾部に厚く堆積している。付近一帯は農地としての利用率が高く、低地を水田、丘陵や段丘を畑地や果樹として利用することが多い。黒ボク下のローム質土の上位には、地国外北西部に位置する約1万年前の肘折火山の爆発に伴うテフラが含まれている。

遺跡の所在する村山市は、山形県のほぼ中央に位置する。面積約197㎓を測り、その45%が山林、26%が農地で占められる自然豊かな土地である。中心市街地である橋岡は、明治から大正にかけて北村山郡の中心地として郡役所が置かれるなど、地域一帯の中心地であった。1955年、この橋岡町を中心に近隣の町村と合併、編入により現在の行政区となっている。

2 歴史的環境

清水遺跡の展開する山形盆地北部は、旧石器時代から近世まで数多くの遺跡が存在していることが知られている。ただし、本書と同じ東北中央自動車道（以下、中央道）を起因とする近隣地区の発掘調査の報告書がすでに多く刊行されており、通時代的な周辺遺跡の状況については、それらを参照していただきたい。ここでは本遺跡の中心をなす古代（奈良・平安時代）を中心に、これまでの発掘調査成果について概観する。古代において山形盆地一帯は、出羽国の最上郡にあたる。9世紀後半には清水遺跡も位置する盆地北部域が村山郡として最上郡から分郡されている。村山郡の管轄として、和名抄には6か郷が記されている。これらの郷が現在のどの場所に相当するかは、古くから研究がなされてきた。諸説はあるものの、遺跡の展開する河島山からその北部周辺は、村山郷、あるいは大倉郷に比定されている（柏倉1982）。

第4図は、清水遺跡（1）を中心に周辺の遺跡の分布を5万分の1の地図上に落としたものであり、網掛けが古墳時代から奈良・平安時代のものを含む遺跡である。2010年からはじまった中央道に伴う調査によって事業範囲内に多くの遺跡が発見されたため、遺跡の分布が南北直線的に並んでいる。図中、（1）から（18）までが中央道を契機とする調査によるものである。

古代前史として古墳時代の遺跡のあり方を見ておくと、墳丘としては中期前葉の1辺30mほどの方墳である大塚古墳（38）と、後期と目される河島山古墳（32）がある。日本海側の内陸部では、現在のところ、これらが最北端の墳丘である。集落遺跡では、東根市の扇田遺跡（33）が大塚古墳とほぼ同時代の集落として知られている。同市の八反遺跡（16）では扇田遺跡に後続する中期中葉の集落を検出している。

古代について、清水遺跡を中心に北側に目を向けると、古代遺跡の密度は薄く、第4図の範囲においては、集落と呼べる規模のものは調査されていない。中央道を契機に調査されたものでは、沼田2遺跡（3）は、遺物はわずかながら、古代の陥穴や溝跡を検出している。これらの覆土上層に十和田火山灰の堆積が確認されている。北原4遺跡（5）からは、8世紀末～9世紀初頭の須恵器が散見される。東熊野苗加遺跡（7）からは、古代の堅

穴建物や掘立柱建物が数棟検出されており、ここの河川跡からも十和田火山灰の堆積が確認されている。羽黒神社西遺跡（8）と清水西遺跡（9）は、清水遺跡の北西側の丘陵上位に立地する遺跡である。それぞれ縄文時代中期と旧石器時代を中心とする遺跡であり、遺構は検出していないものの、須恵器の坏や土師器の甕など9世紀中～後半の土器を得ている。

中央道以外では、落合遺跡（18）や宮の前遺跡（19）が、縄文時代の大遺跡として知られているが、わずかに須恵器片が混在することも報じられている。北原遺跡（20）では、古代のものか判然としないが、平地下式の炭窯を2基検出している。その他、羽根沢C遺跡（21）、本飯田赤石遺跡（22）、清水北遺跡（23）などでは、分布調査で遺物が散見されている。

このように現状での清水遺跡より北側の古代の遺跡調査事例は、限定的な状況である。地図よりも更に北側に進み、現在の最上郡地域に入れば、古代の遺跡は、より限られてくる。山形県内で最も遺跡数の多くなる時代において、このように希薄な状況を示すのは、未確認遺跡の存在を差し引いても、古代の安定的な開発の北限が清水遺跡近辺にあったことを示唆しよう。むろん、北部地域にまったく遺跡が存在しなかった訳ではなく清水遺跡から直線距離で北側14kmほどに、古代駅家の「野後駅」として推定される大石田町の駒籠橋跡（図外）があり、継続的な発掘調査が続けられている。このような遺跡の存在から、清水遺跡以北の古代の開発は、拠点単位で飛び石的なものであったことが想起される。

清水遺跡の南側に目を向けると、清水遺跡1地区の南西に隣接する経塚森遺跡（10）では、2棟の掘立柱建物跡と9世紀前半の土器を得ている。これらは清水遺跡跡の集落と同一のものでよいだろう。田向2遺跡（11）、田向遺跡（12）は、共に2次に渡る調査が行われた。田向2遺跡からは、堅穴建物跡1棟、掘立柱建物跡4棟と9世紀後半から10世紀後半の土器を得ている。松橋遺跡（13）は、2次に渡る調査で、5棟の掘立柱建物跡や19基の井戸、200基を超える土坑などを検出し、9世紀後半から10世紀前半の土器を得ている。鯉田遺跡（14）は、掘立柱建物跡4棟と河川跡から大量の遺物が出土している。墨書土器は「定」と記されたものを中心に148点に及び、畜産などの木製品も多く出

土していることから、祭祀関連の遺跡と目される。また、底部に綱代痕のある土師器環などの存在は、出羽北部とのつながりを予想させる。年代の中心となるのは9世紀後半から10世紀前半のものである。

中央道以外の調査で清水遺跡の南側に展開するものは、西原C遺跡(24)では、1995年の宅地開発に伴い調査され、多くの掘立柱建物跡を検出している。規格的に並ぶ建物配列を看取り、主軸の違いから時期差があるものと思われる。鉄滓を含む遺構は、鍛冶関連遺構の可能性がある。全体的な出土遺物は、8世紀末～9世紀前半の土器群が中心となる。この近隣に位置する西原B遺跡(25)、草伊賀B遺跡(26)、最上川を挟んで対岸の棚子遺跡(27)や川口A遺跡(28)は、分布調査で古代の遺物の出土が確認されている。

これらの一群とは少し離れた南東部の盆地縁部の楕圓扇状地、現在の村山市の中心市街地付近には、東沢公園の造成時に発見された東沢公園遺跡(30)があり、詳細は不明ながら古代の須恵器窯が検出されている。

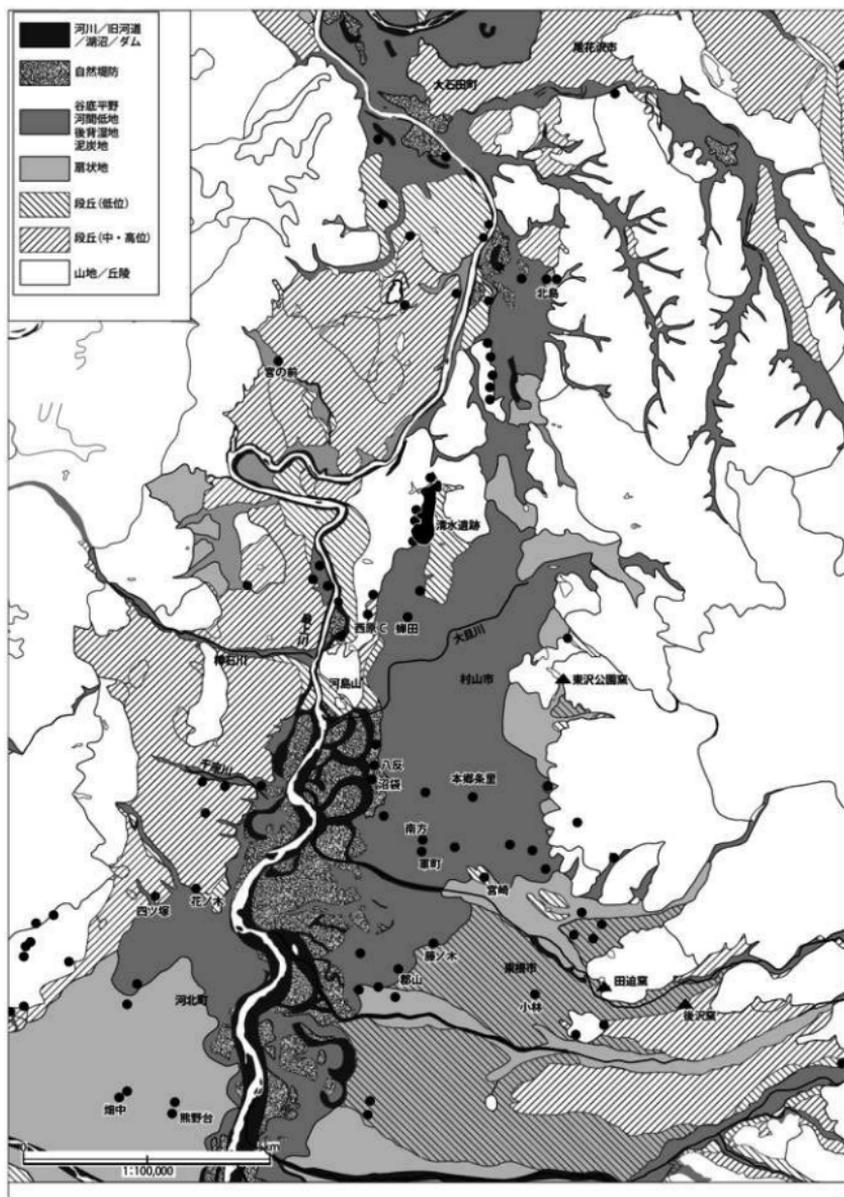
更に南に進み、東根市の市域付近には、中央道の調査で、河島八反遺跡(15)が試掘のみであるものの調査され、須恵器片などが出土している。八反遺跡(16)では、県内では少ない7世紀代の集落が検出され、8世紀を中心に9世紀まで継続的に営まれる。全体では39棟の竪穴建物を検出し、7世紀末から8世紀初頭のもの、うち7棟である。そこからは北東北で特徴的な頸部に多段の沈線をもつ土師器甕が出土するなど、特徴的な様相を見せる。沼袋遺跡(17)では、8世紀中葉から9世紀にかけての集落が展開し、10棟の竪穴建物と4棟の掘立柱建物跡が検出している。

中央道以外では、1970年代初頭の記録保存で多数の遺跡が調査されており、南方遺跡(34)では、1971年の圃場整備中にほぼ完形の木棺が出土し、9世紀代の土師器環と骨片が出土している。宮崎遺跡(39)は、1970年の宅地造成工事中に見えられ、2棟の竪穴建物跡と8世紀末～9世紀初頭の土器を得ている。軍町遺跡(35)は、1971年に水路工事に伴い発見された。2棟の竪穴建物跡と8世紀末～9世紀初頭の土器を得ている。本郷条里制跡(36)は、地籍図等から条里制水田と推測されている広大な遺跡である。1971～1972年の圃場整備に伴い発掘調査され、水路補強の木材や、9

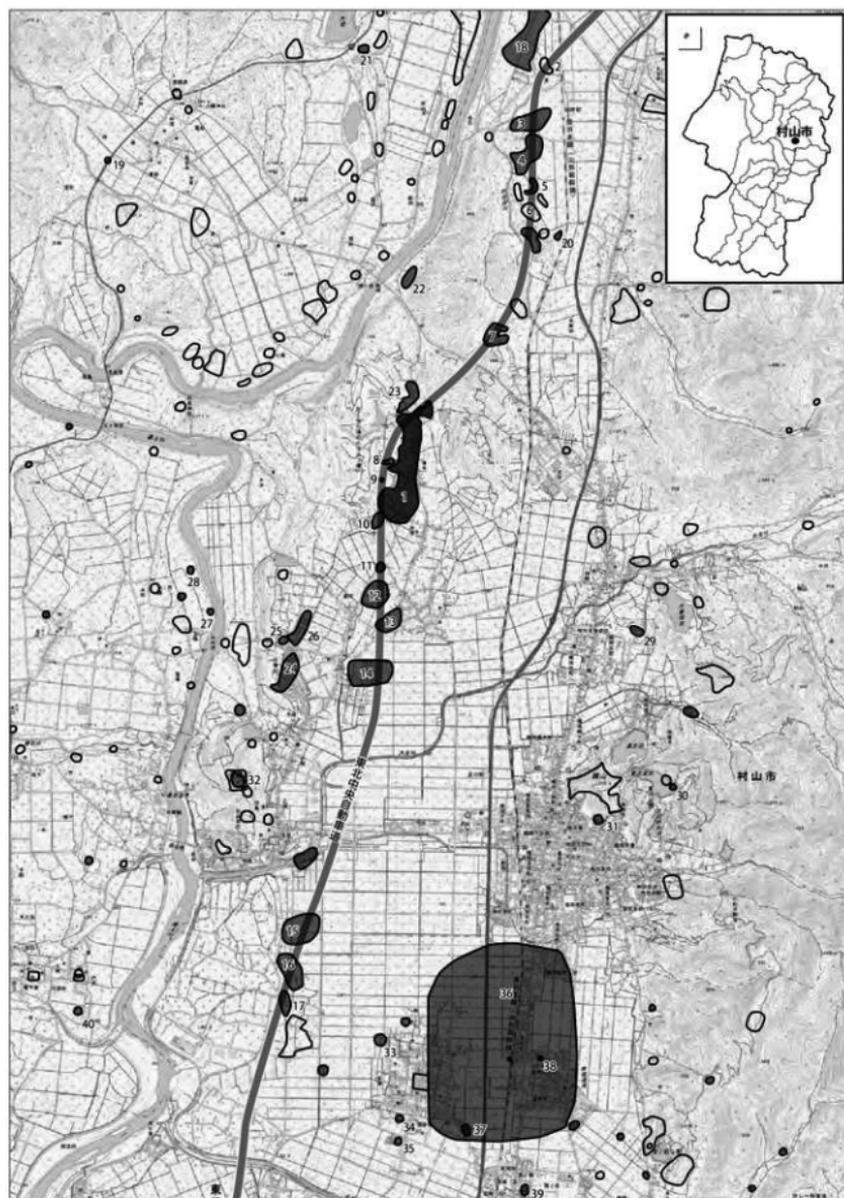
世紀代の土器などが出土している。また、図外の南側、第3図の範囲に記される郡山遺跡は、「郡山」の地名のから、9世紀後半に最上郡から分郡された村山郡の郡衙候補地として注目され、1981、1983年に調査がなされている。結果、大型柱穴跡などの存在は確認されているものの、郡衙たる確定的なものを得られていない。9世紀代後半～10世紀前半が出土遺物の主体となる。

南部の最上川西岸を見ると、村山市の市の町遺跡(40)があり、1980年の河川改修に伴い調査され、3棟の竪穴建物跡を検出し、8世紀後半～9世紀前半の土器が出土している。最上川西岸の南側地図外、第3図に記される、河北町域は、1980年初頭からの圃場整備により市街地南部の調査が行われている。そのなかでも畑中(一の坪)遺跡は、8世紀後半からの9世紀代の土器を中心に出土し、「大山郷」の墨書土器が出土することから、付近一帯は最上郡大山郷に比定されるのではないかという説が出されている(柏倉前掲)。「日本三代実録」には出羽守が津波に襲われた国府を最上郡大山郷に移転したい旨を中央に訴えるが却下されるという記述があるため、大山郷の位置を巡っては、古くから問題とされてきた。今後の調査によって解明されることが期待される。熊野台遺跡は、古代の竪穴建物跡28棟と5棟の掘立柱建物跡から8～10世紀代の土器を得ている。出土遺物では、「大刀自」の刻書土器、土師質で丸底長胴のいわゆる出羽甕などが注目される。ここで特筆すべきは、本報告の1地点で大量に出土しているものと同じ「繩」の墨書土器である。墨書土器にこの文字が記されるものは稀であり、隣県では秋田に1点、新潟に2点のみのため、本遺跡との繋がりをうかがわせる。

山形盆地北部の古代遺跡の展開は、県内の他地域と同様に8世紀後半以降、急激に増加し、10世紀になると減少するという方向性を見せる。これまでみてきたように、清水遺跡を境に、南側には数多くの古代遺跡が展開しており、規格的な建物配列を検出する遺跡もいくつかみられる。一方、本遺跡の北側では散発的な状況を呈している。このように清水遺跡の立地は、古代社会の北方開発の前線にあたる地域といえよう。この地域での今後の発掘調査の進展は、古代の蝦夷政策や北方の開発政策についての解明に大きく寄与することであろう。



第3図 村山盆地北部の地形と遺跡の分布



第4図 清水遺跡周辺の遺跡分布図

表1 山形盆地北部における古代遺跡

番号	遺跡名	種別	文献
1	清水遺跡	集落	セ224集
2	八幡田遺跡	集落	セ213集
3	沼田2遺跡	集落	セ221集
4	沼田遺跡	集落	セ221集
5	北原4遺跡	集落	セ207集
6	北原2遺跡	集落	セ207集
7	東熊野苗畑遺跡	集落	セ237集
8	羽黒神社西遺跡	集落	セ239集
9	清水西遺跡	集落	セ220集
10	緑塚森遺跡	集落	セ219集
11	田向2遺跡	集落	セ218集
12	田向遺跡	集落	セ217集
13	松輪遺跡	集落	セ229集
14	輝田遺跡	集落	セ226集
15	河島八反遺跡	集落	照217集
16	八反遺跡	集落	セ235集
17	沼袋遺跡	集落	セ216集
18	落合遺跡	集落	セ36集
19	宮の前遺跡	集落	照9、セ19・65
20	北原遺跡	集落	照35集
21	羽黒沢C遺跡	集落	照199

番号	遺跡名	種別	文献
22	本飯田赤石遺跡	集落	照148
23	清水北遺跡	集落	照201集
24	西原C遺跡	集落	村山市4集
25	西原B遺跡	集落	照20集
26	草伊賀B遺跡	集落	照20集
27	榎子遺跡	集落	照20集
28	川口A遺跡	集落	照20集
29	当岳遺跡	集落	照148集
30	東沢公園遺跡	竪跡	遺跡地図
31	橋岡小学校遺跡	集落	遺跡地図
32	河島山古墳	古墳	村山市史1991
33	扇田遺跡	集落	東根市史
34	南方遺跡	集落	東根市史
35	軍町遺跡	集落	東根市史
36	本郷条里跡	集落	東根市史
37	白金遺跡	集落	照171
38	大塚古墳	古墳	東根市史
39	宮崎遺跡	集落	東根市史
40	市の町遺跡	集落	村山市1集

引用文献

- 米地文夫・永沢裕子 1979 「II 地形分類」『土地分類基本調査 尾花沢』山形県企画調整部土地対策課編
 山形県企画調整部土地対策課編 1979 「地形分類図 尾花沢5万分の1」『土地分類基本調査 尾花沢』
 米地文夫・豊島正幸 1981 「II 地形分類」『土地分類基本調査 橋岡』山形県企画調整部土地対策課編
 山形県企画調整部土地対策課編 1981 「地形分類図 橋岡5万分の1」『土地分類基本調査 橋岡』
 柏倉亮吉 1982 「第七章 国部制支配の進展と蝦夷の叛乱 5 和名抄による郷の分布」『山形県史』第一巻

第1編 1地区 (第1・3・7次調査)

I 発掘調査と整理作業の方法

1 調査の概要

清水遺跡1地区は、楕円形の遺跡範囲の南端部に位置し、平成22年に1次調査を、23年に3次、26年に7次調査を行っている。

調査区は北に向けて緩やかに上る緩斜面で、調査前の状況を見ると低地部は水田、斜面部は畑、果樹畑、その間を走る砂利敷の農道などとして利用されていた。第1・3・7次調査の総面積は、11,570㎡に及び、斜面中位に竪穴建物や掘立柱建物が分布し、低地部では河川跡が検出している。竪穴建物(ST)13軒、掘立柱建物(SB)4棟、土坑(SK)425基、複数の溝状遺構(SD)は、1つの河川の流路変化によるものと思われる。

竪穴建物の覆土には、灰白色の火山灰が厚く堆積しているものもある。この火山灰は、分析の結果915年噴火の十和田火山灰との結果が得られている。しかし、この火山灰が認められる遺構から出土する遺物は、9世紀代のものであり、火山灰も遺構の床面から堆積しているのではなく、堆積覆土中に認められるものである。そのため、集落として廃絶された後、残っていた窪地に火山灰が入り込んだと解釈できる。

2 発掘調査の方法

グリッドと調査区

調査区を設定するグリッドは、山形県域全体を囲むように、南西端を原点に、南北をX軸、東西をY軸として、40km四方の大グリッドを設定した。原点は国土地理院の定める平面直角座標系の第X系： $X = -26000000$ 、 $Y = -12000000$ となり、X軸をA～E、Y軸をA～Cと15区画に分割している。この大グリッドの中を更に400m単位のグリッドで10000分割したものを中グリッド、これを更に4m単位で10000分割したものを

小グリッドとする。中・小グリッドは、共に4桁の数字で表記し、南から北に00～99、西から東へ00～99で表記する(第5、6図)。

(例) C B 3 7 9 9 - 2 2 0 8

- ①…大グリッド南北 (40km単位)
- ②…大グリッド東西 (40km単位)
- ③…中グリッド南北 (400m単位)
- ④…中グリッド東西 (400m単位)
- ⑤…小グリッド南北 (4m単位)
- ⑥…小グリッド東西 (4m単位)

本遺跡の調査区をグリッドで覆うと、400m単位の中グリッドで1地区は、「3698」、「3699」、「3798」、「3799」にまたがることになる。ただし、これを100×100に分割した4m単位の小グリッドで見ても、同じグリッド名となるところはなないため、1地区のみを記述する場合は、大・中グリッドを省略し、小グリッド名のみを記す。

調査区へのグリッドの設置は、水準測定のなされた基準杭を測量業者に委託して数本打設し、それを基準としたグリッド格子点は、トータルステーションを用いて調査員が打設した。1地区の作図は、この格子点を基準とした遺り方測量で平面図を、基準杭に付された水準値から断面図を作っている。

1地区は調査回数または道路や水路などに隔てられた現地での状況に合わせてA～H区に分割している。これは1地区のみで独立してつけたものである。

遺構

重機での表土除去後、遺構を確認した順に通し番号をつけていった。第1次調査ではA～C区まで調査し、001～704番までの遺構を登録している。第3次調査ではA区の下層、D～F区を調査し、遺構番号は桁を変え、1001～1405まで登録している。第7次調査ではH・G区を調査し、遺構番号は第1次と第3次の間の欠番を

使い、705～794までを登録している。これらの遺構番号は、調査の進展により混乱と判断されたり、別遺構と同一のものと判断されたりするなど、欠番が多数出ているが、混乱を避けるため、そのまま遺構番号としている。この遺構番号は、1地区のみで独立してつけられているため、同じ番号の遺構が2～4地区で発生してしまう。混同を避けるため、本報告では遺構種別を示す2文字のアルファベットの前に、1地区の場合「1」を足して1SD186や1ST365などと表記する。

遺構の掘り下げは、半截やベルト状に残すなど、埋没過程を確認しながら掘り進め、断面図の記録を採った後に完掘している。記録は測量図面と写真を主体としている。図面はB3判の方眼紙に書き込み、写真はフィルムとデジタルで撮っている。第1・3次調査での写真は、6×7判の中判カメラを主体とし、デジタルは補助的なものであったが、第7次調査では、主体となるカメラとしてデジタル一眼レフカメラが導入され、補助、保存用に中判カメラが用いられた。

出土遺物は、グリッドごと、遺構ごとに取り上げ、出土位置情報を記録する必要のあるものには、登録番号(RP)を付し、トータルステーションで測った位置情報と対応するようにしている。図中では「○」が土師器環類、「●」が須恵器環類、「□」が土師器甕類、「■」が須恵器甕類、「▲」土製品、石製品、金属製品などを示している。

3 整理作業の方法

遺物の実測は、従来の方法による作図のほか、土製品や石製品、調整痕などの実測には、デジタルカメラによる画像合成を利用したSFM (Structure from Motion) の技術を用いてオルソ画像を作成し、実測下図としている。

1 分類基準について

清水遺跡の主体を占める古代の出土遺物は、環、有台環、蓋、瓶、壺、鉢、甕、そして土製品などである。各器種の分類基準については後述するが、破片資料や欠損資料のため最終的な器種の判断ができないものについては、環と蓋をまとめて「環類」、瓶や壺、甕などの大型品をまとめて「甕類」と呼称しておく。

これらにはそれぞれ土師器製のものと須恵器製のもの

があるが、本遺跡で出土する須恵器は、器体全体は白～赤褐色を呈し、部分的に青灰色を残すといったものが少なくない。従ってロクロのみで調整される環などの須恵器と土師器の区分は困難であり、それが欠損資料ともなればなおのことである。そこで比較的硬質で一部でも青灰色が認められるものは、すべて須恵器とし、これに対してやや軟質で青灰色の色調が認められない黄褐色～赤褐色のものは、土師器として分類している。

それぞれの器種名称と細分基準は以下の通り。

環・有台環

平底のものを「環」、高台が付されるものを「有台環」として大別する。また、環形とは明確に区分できる極端に浅身なものを「皿」、体部に把手のつくものを「双耳」としても分けておく。さらに底部の切り離し方法、体部の調整方法、器形で細分する。

底部 A…ヘラキリによる底部切り離しのもの

B…回転系切りによる底部切り離しのもの

体部 1…ロクロのみによるもの

2…ミガキ調整し、黒色処理を施すもの

器形 a…器高/口径比が0.39以下の環形のもの

b…器高/口径比が0.40以上の椀形のもの

回転系切りのロクロ調整で浅身のものは、「B-1a」と表記する。欠損等により不明なものは、判別可能な箇所のみ記す。

蓋

環蓋と壺蓋をまとめる。全体の数量が少ないため、細別はせずに環蓋か壺蓋かのみ分けておく。

瓶

頸が長く、口縁の開きの大きいものをまとめる。タタキ目を残すものも見られるが、それのみで完結するものではなく、カキメやナデにより整形される。

長頸瓶…胴部と同等の長さの頸部をもつ小・中型のもの
横瓶…横長円筒形の胴部の長軸方向に頸をつけたもの
壺

頸が短く、口縁の開きの小さいものをまとめる。口縁のみの資料では、甕との区別は困難である。総じて甕よりも小型でかつナデ、カキメ整形を主とする。瓶と同様にタタキ目を残すものも見られるが、それのみで整形されるものではなく、丸底のものはない。

広口壺…甕より小さい。タタキ目を残す物もあるが、内

面にアテ具痕がなく、平底のもの。

短頸壺…短い頸がほぼ垂直に立ち上がるもの
鉢

口径が最大幅それに近くなるものをまとめる。

括れ鉢…口縁部が短く「く」の字形にくびれるもの

鍋…すべて土師器で口径に対して器高の低いもの

椀形鉢…口径小型で深身のもの

仏鉢…金属器模倣の托鉢用仏具。破片のみ出土している。

甕類

部分的な資料のため、瓶、壺、鉢、甕の区別の付かないものを総称するもの。

甕

須恵器においては、タタキ成形を主体とし、丸底を基調とするもの。土師器は、長胴甕と小型品からなる。

須恵器の口縁部の器形は、壺などと類似するが、それらより比較的大型で、叩き出しの丸底となる。調整は外面に平行タタキ、内面に円形や平行アテ具痕を残すものが中心となる。全体を復元できるものは少ないが、口径から推測するに、幾つかの大きさの規格を推定できる。また、土師器の長胴甕に類似した器形も確認できる。

土師器は煮炊具としての長胴甕と貯蔵用の小型品があり、体部の調整はヘラケズリを主とするものと、ハケメのものがある。小型品は、坏と同程度の150 mm以下の口径のものが大部分である。

特大…口径500 mm前後を超えるもの

大型…口径300 mmを超えるもの

中型…口径200 mmを超えるもの

小型…口径200 mm以下のもの

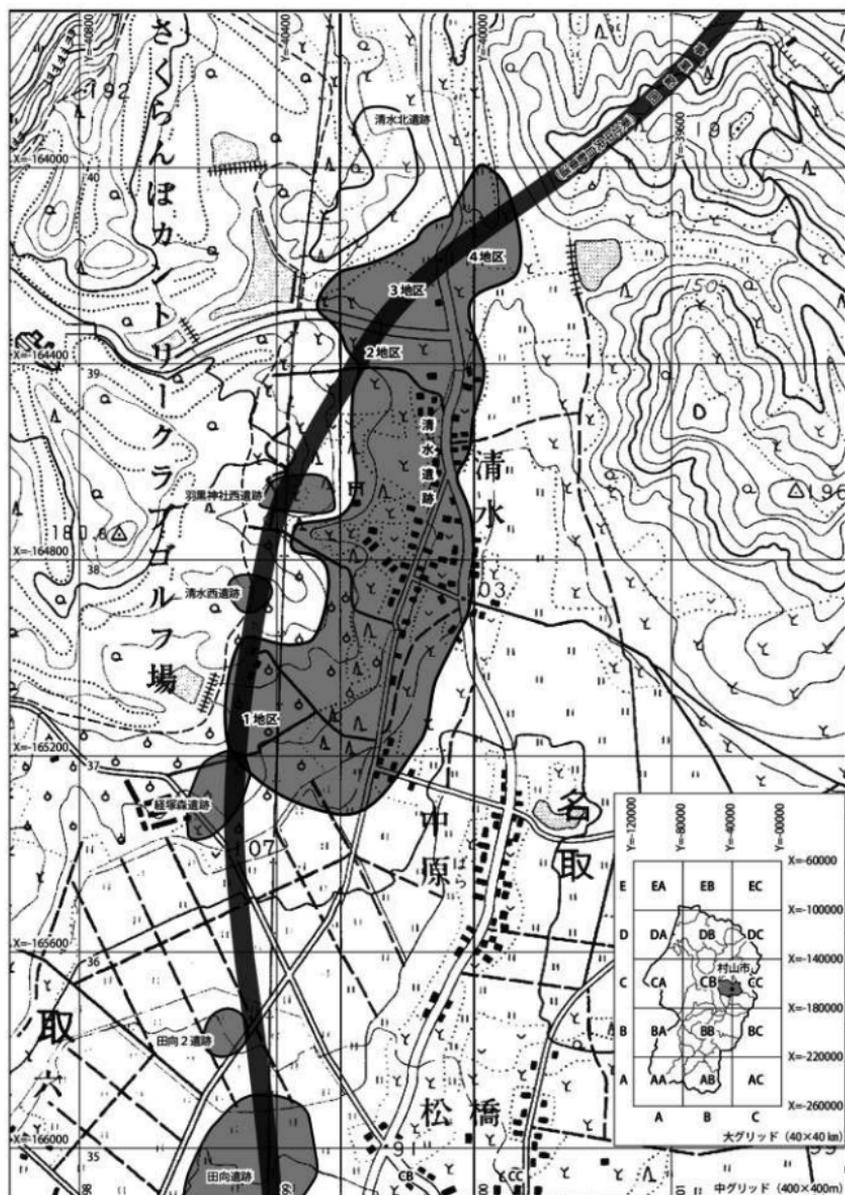
長胴甕…円筒形の器形をとるもの

2 測定値について

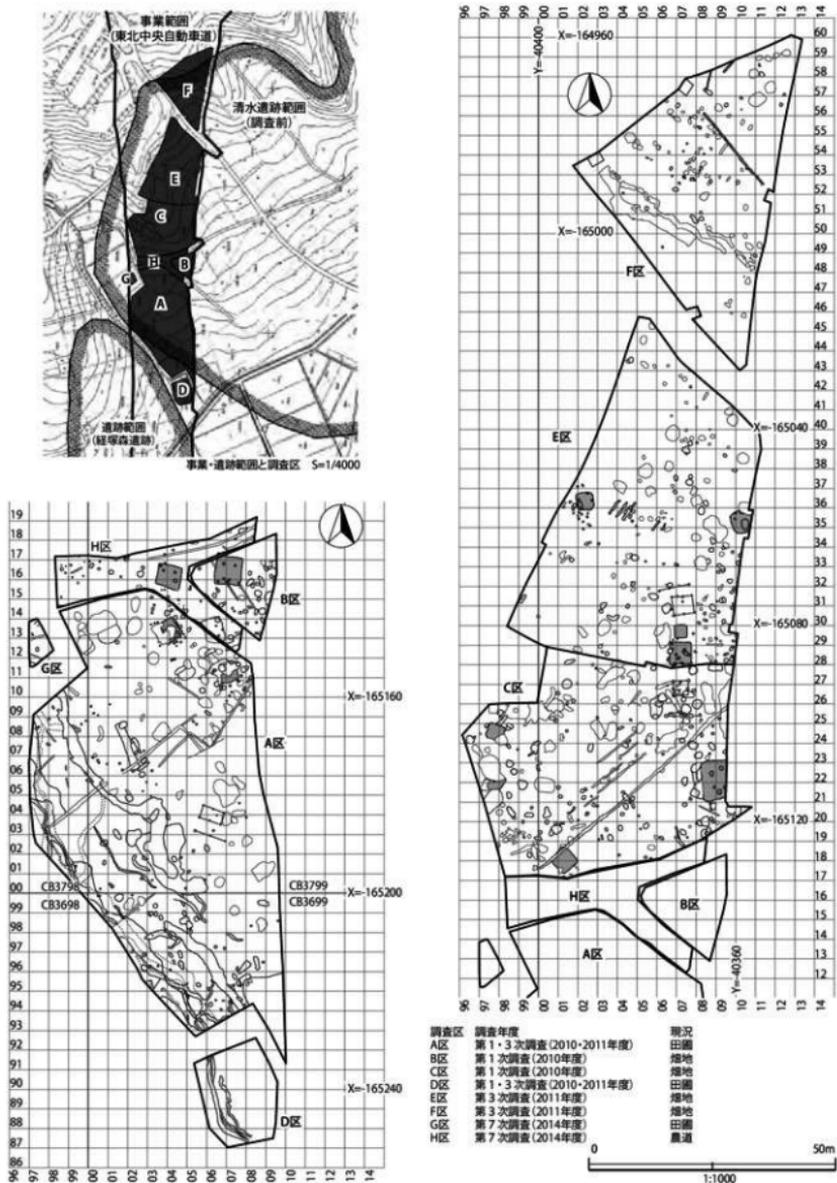
観察表に記載する測定値について、口径は、口縁部の外径最大幅であり、底径は接地点の最大幅である。両者とも2mm単位で複数用意した同心円形のテンプレートを当ててそれぞれ径を復元している。歪みは極力排し、製作者が意図した径の復元に努めた。口径と底径の中心点が一致するところで器高を測っている。

残存値については、口縁と底部の残存値を8分率で記入している。値は切り上げであり、例えば1/8のラインを少しでも越えたものは、2/8として扱っている。復元図化しているものは、基本的に口径ないし底径が

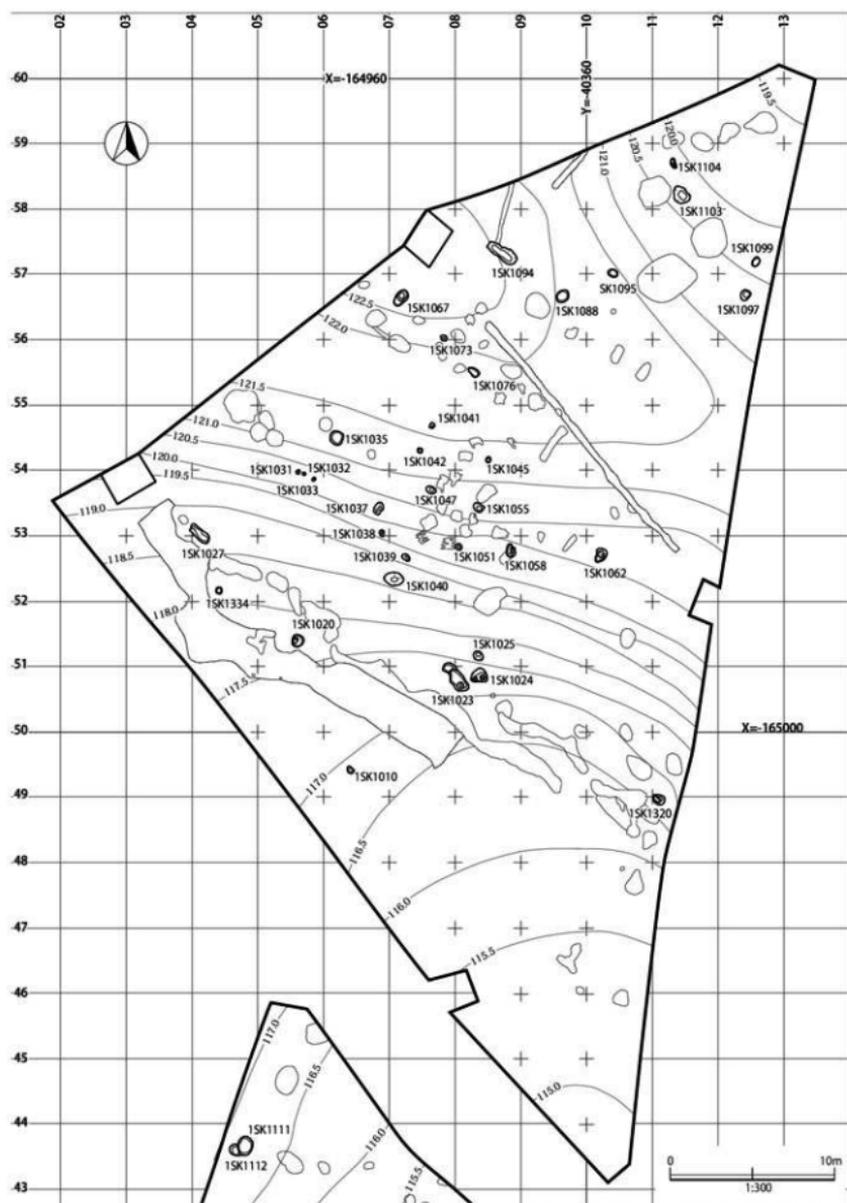
2/8以上残存するもので行なった。口径や底径の残存が満たないものでも頸部や胴部の残存が同等かそれ以上あるものについては、そこから中心点を出して復元している。計測値について残存率が3/8以下のものは、推定測定値とし、()で記し、4/8以上残存するものは、そのまま記している。ただし、4/8以上の残存率であっても、歪みなどで計測可能な部分が3/8以下になる場合は、()を付けている。1/8以下の残存率のもので復元した数値や、歪みが激しく原形の復元が困難なものは、参考値として(*)をつける。欠損資料の器高などの残存値は、< >で記す。



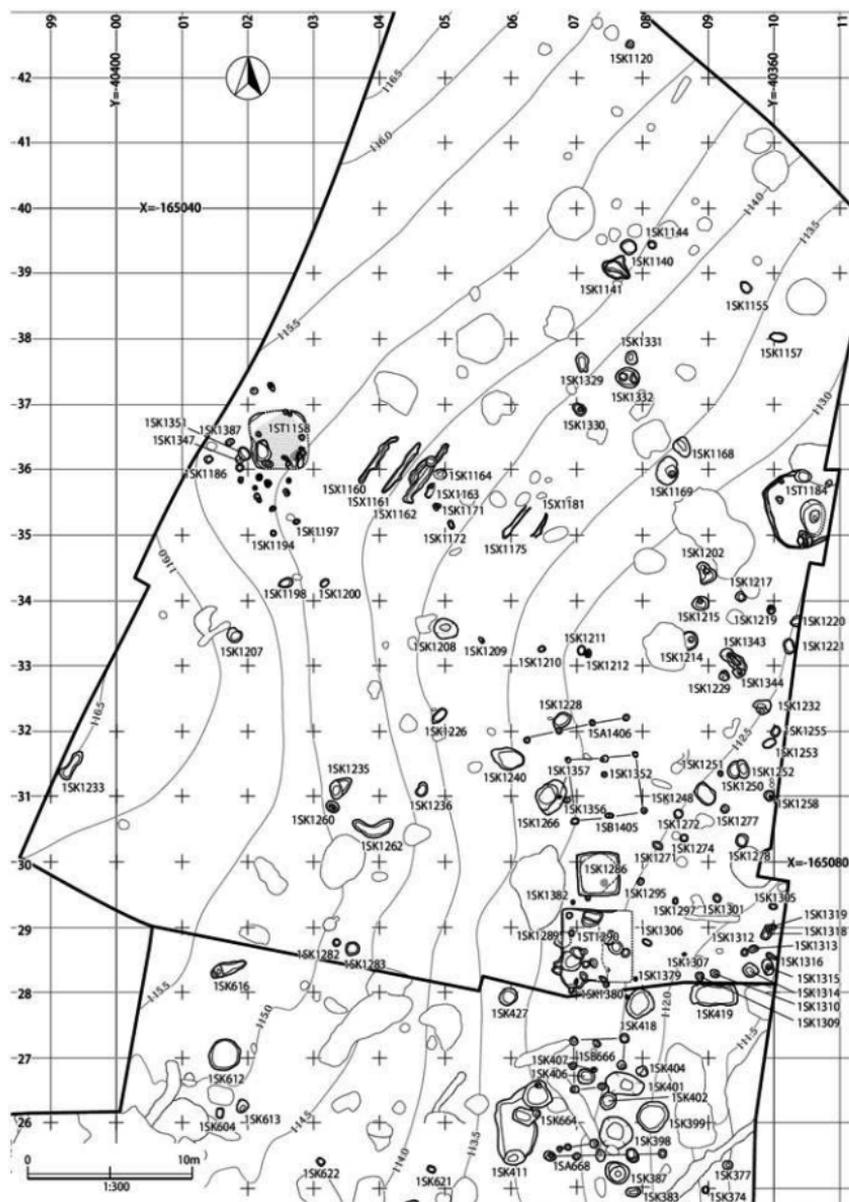
第5図 清水遺跡全体と大・中グリッド配置図



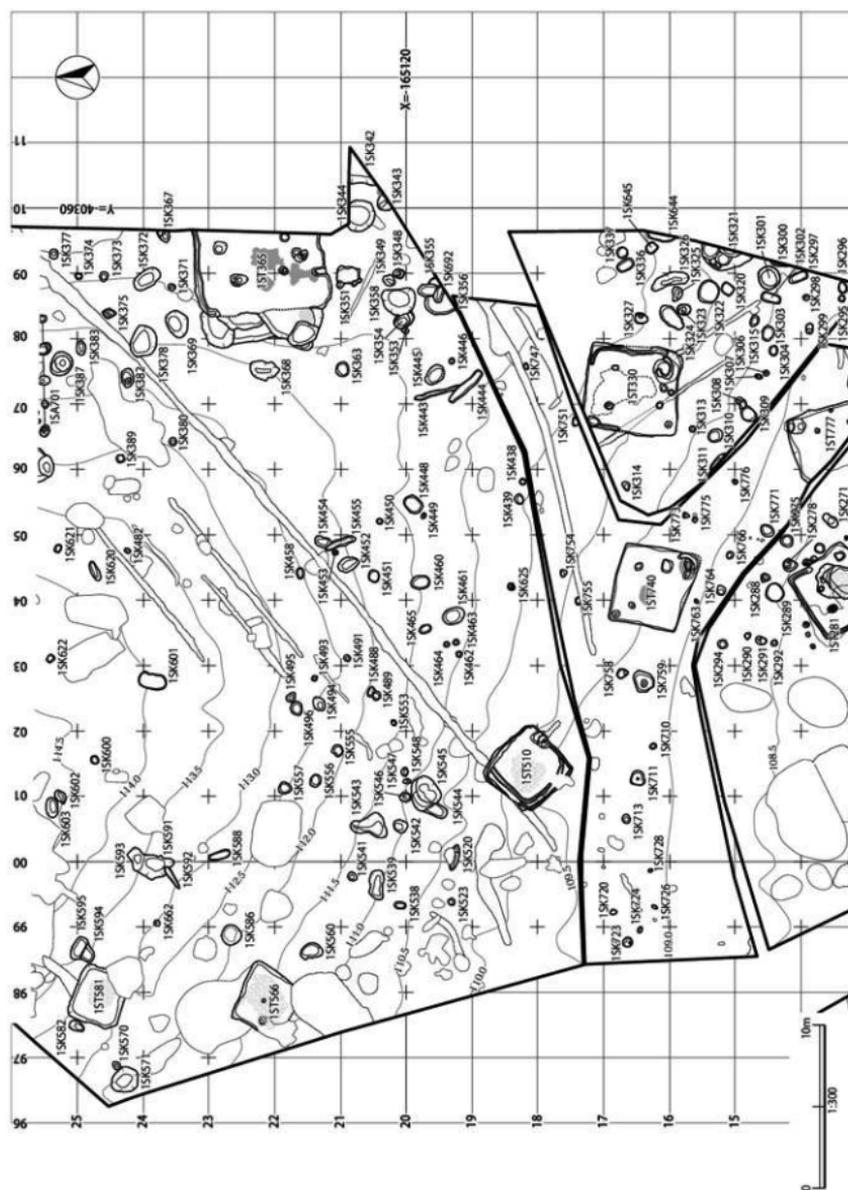
第6図 清水遺跡1地区の遺構配置図と小グリッド配置図



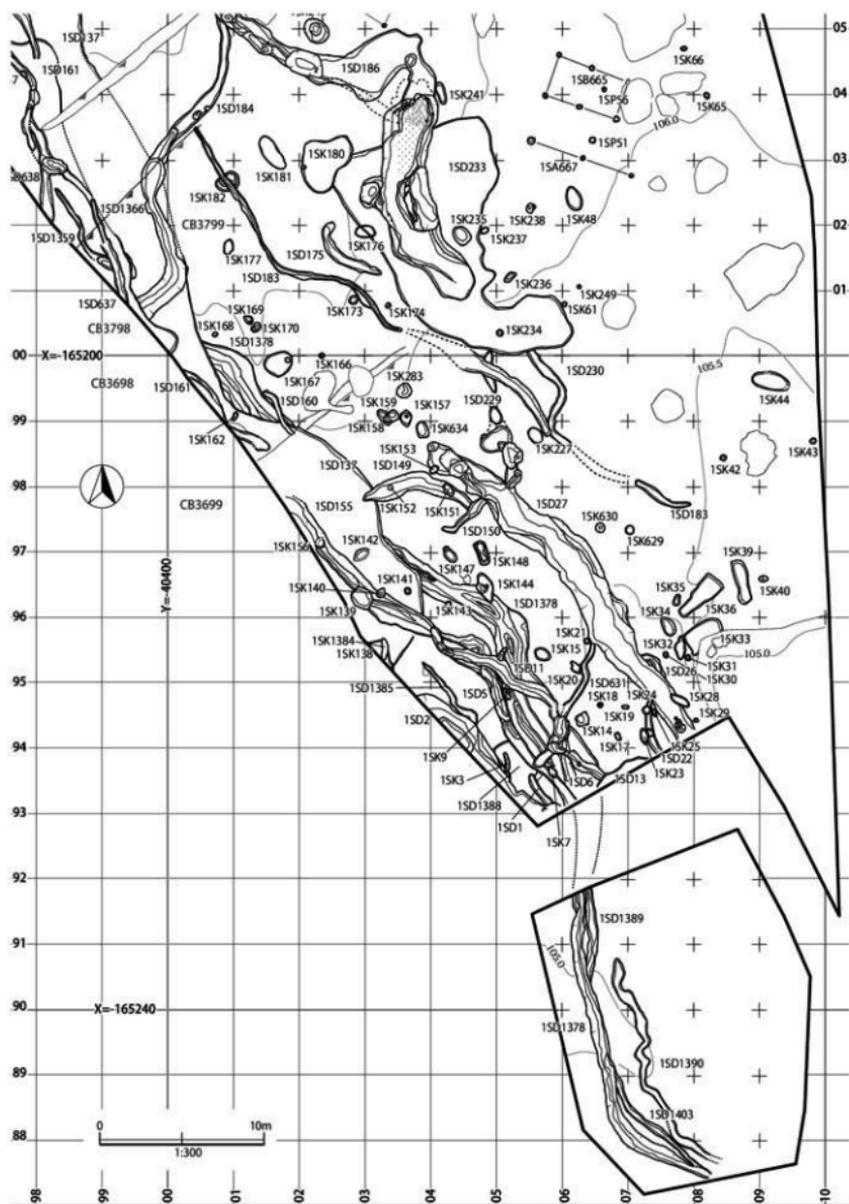
第7図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 1



第8図 清水遺跡1地区の遺構配置分図 2



第9図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 3



第11図 清水遺跡1地区の遺構配置分割図 5

表2 清水遺跡1地区の遺構一覧 1

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	1	9305	A	第40図
SD	2	9404.9305	A	第40図
SK	3	9305	A	第40図
SD	5	9504-9305	A	第40図
SD	6	9306.9305	A	第40図
SK	7	9305	A	第40図
SK	9	9405	A	第40図
SD	11	9504.9405	A	第40図
SD	13	9306.9307	A	第40図
SK	14	9406	A	第40図
SK	15	9505	A	第40図
SK	17	9406	A	第40図
SK	18	9406	A	第40図
SK	19	9406	A	第40図
SK	20	9506	A	第40図
SK	21	9506	A	第40図
SD	22	9407.9307	A	第41図
SK	23	9407	A	第41図
SK	24	9407	A	第41図
SK	25	9407	A	第41図
SD	26	9407.9507	A	第41図
SD	27	9407~9804	A	第41図
SK	28	9407	A	第41図
SK	29	9408	A	第41図
SK	30	9507	A	第48図
SK	31	9507	A	第48図
SK	32	9507	A	第48図
SK	33	9507.9508	A	第48図
SK	34	9507	A	第48図
SK	35	9607	A	第48図
SK	36	9607.9608	A	第48図
SK	39	9608	A	第48図
SK	40	9608.9609	A	第48図
SK	42	9808	A	第11図
SK	43	9809	A	第11図
SK	44	9908.9909	A	第49図
SK	48	0206	A	第49図
SP	51	0306	A	第27図
SP	56	0406	A	第27図
SK	61	0006	A	第11図
SK	65	0408.0308	A	第11図
SK	66	0407	A	第11図
SK	71	1108.1008	A	第49図
SK	72	1008	A	第49図
SK	85	0907	A	第10図
SK	86	1007	A	第10図
SK	87	1007	A	第10図
SK	88	1007.1008	A	第10図
SK	89	1008	A	第10図
SK	96	0805	A	第10図
SK	97	0805	A	第10図
SK	98	0906	A	第49図
SK	100	1005.1006	A	第49図
SK	106	1105	A	第10図
SK	108	1106	A	第49図
SK	114	1006	A	第49図
SK	115	1006.1007	A	第49図
SK	119	1107.1108	A	第49図
SK	120	1108	A	第49図
ST	121	1107	A	第12図
SK	129	1207	A	第49図
SK	133	1006	A	第12図

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	137	0897~9503	A	第30図+37図+40図
SK	138	9503	A	第40図
SK	139	9602.9603	A	第40図
SK	140	9603	A	第40図
SK	141	9603	A	第40図
SK	142	9703	A	第40図
SK	143	9604	A	第40図
SK	144	9604	A	第40図
SK	147	9604.9704	A	第40図
SK	148	9604.9704	A	第40図
SD	149	9703.9704	A	第41図
SD	150	9704	A	第41図
SK	151	9704.9804	A	第41図
SK	152	9703	A	第41図
SK	153	9804	A	第41図
SD	155	9603.9702	A	第40図
SK	156	9702	A	第40図
SK	157	9803.9903	A	第49図
SK	158	9903	A	第49図
SK	159	9903	A	第49図
SD	160	9801.9901	A	第37図
SD	161	0497~0000	A	第30図+37図
SK	162	9901	A	第37図
SK	166	0002	A	第38図
SK	167	9901	A	第38図
SK	168	0000	A	第38図
SK	169	0001	A	第38図
SK	170	0001	A	第38図
SK	173	0002	A	第44図
SK	174	0003	A	第44図
SD	175	0102	A	第44図
SK	176	0102.0103	A	第32図
SK	177	0100	A	第38図
SK	180	0202.0302	A	第32図
SK	181	0201.0301	A	第32図
SK	182	0200.0201	A	第46図
SD	183	0300~9707	A	第44図
SD	184	0400~0099	A	第38図
SD	186	1297~0104	A	第30図~36図
SK	188	0500	A	第30図
SK	189	0500	A	第30図
SK	190	0600	A	第30図
SK	194	0601	A	第30図
SK	195	0600	A	第30図
SK	196	0600	A	第30図
SK	197	0700	A	第30図
SK	200	0899	A	第30図
SK	201	0899	A	第30図
SK	202	0899	A	第30図
SK	203	0800	A	第10図
SK	204	0900	A	第10図
SK	205	0900	A	第10図
SK	206	0900	A	第10図
SK	208	0798	A	第30図
SK	211	0998.0898	A	第30図
SK	212	0897	A	第30図
SK	213	0897	A	第30図
SK	214	0998	A	第30図
SK	217	0901	A	第10図
SK	218	1101	A	第50図
SK	227	9805	A	第44図
SD	229	9904	A	第44図

表3 清水遺跡1地区の遺構一覧 2

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	230	9006～0005	A	第44図
SD	233	0304～0005	A	第32図
SK	234	0005	A	第32図
SK	235	0104	A	第32図
SK	236	0105	A	第32図
SK	237	0104	A	第32図
SK	238	0205	A	第11図
SK	241	0304.0404	A	第32図
SK	243	0402.0502	A	第50図
SK	248	0603	A	第48図
SK	249	0106	A	第11図
SK	250	0602	A	第48図
SK	251	0702	A	第48図
SD	252	0602～0801	A	第48図
SK	253	0602	A	第48図
SK	254	0602.0603	A	第48図
SK	255	0801.0802	A	第48図
SK	256	0702.0802	A	第48図
SK	257	0702	A	第48図
SK	258	0702	A	第48図
SK	259	0602.0603	A	第48図
SK	262	0601	A	第48図
SK	263	0601	A	第48図
SK	267	1201	A	第50図
SK	268	1104.1204	A	第10図
SK	269	1204	A	第10図
SK	271	1305	A	第50図
SK	275	1404	A	第50図
SK	278	1404	A	第50図
ST	281	1303.1304	A	第13図
SK	283	9903	A	第49図
SK	288	1404	A	第50図
SK	289	1404	A	第50図
SK	290	1403	A	第9図
SK	291	1403	A	第9図
SK	292	1403	A	第9図
SK	294	1503	A	第9図
SK	295	1308	B	第50図
SK	296	1308	B	第50図
SK	297	1308.1408	B	第50図
SK	298	1308	B	第50図
SK	299	1308	B	第50図
SK	300	1409	B	第50図
SK	301	1408.1409	B	第50図
SK	302	1408	B	第50図
SK	303	1407.1408	B	第50図
SK	304	1407	B	第50図
SK	306	1407	B	第50図
SK	307	1407	B	第9図
SK	308	1406.1407	B	第51図
SK	309	1406	B	第51図
SK	310	1506	B	第51図
SK	311	1505.1506	B	第51図
SK	313	1506	B	第9図
SK	314	1605	B	第9図
SK	315	1408	B	第51図
SK	320	1508	B	第51図
SK	321	1409～1509	B	第52図
SK	322	1508	B	第51図
SK	323	1508	B	第51図
SK	324	1508.1608	B	第51図
SK	325	1508	B	第51図

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	326	1508.1608	B	第51図
SK	327	1608	B	第51図
ST	330	1506～1707	B	第14図+15図
SK	336	1609	B	第51図
SK	337	1609	B	第51図
SK	342	2010	C	第52図
SK	343	2010	C	第52図
SK	344	2009.2010	C	第52図
SK	348	2008.2009	C	第52図
SK	349	2008	C	第52図
SK	351	2008～2109	C	第52図
SK	353	1908.2008	C	第53図
SK	354	1908.2008	C	第53図
SK	355	1908	C	第53図
SK	356	1908	C	第53図
SK	358	1908.2008	C	第53図
SK	363	2007.2107	C	第53図
ST	365	2108～2309	C	第16図+17図
SK	367	2309	C	第9図
SK	368	2107.2207	C	第53図
SK	369	2308	C	第53図
SK	371	2308	C	第9図
SK	372	2308.2408	C	第53図
SK	373	2408.2409	C	第9図
SK	374	2408.2409	C	第49図
SK	375	2408	C	第9図
SK	377	2509	C	第9図
SK	378	2307～2408	C	第54図
SK	380	2306	C	第9図
SK	382	2407	C	第54図
SK	383	2407	C	第54図
SK	387	2507	C	第54図
SK	389	2406	C	第9図
SK	398	2507.2607	C	第55図
SK	399	2508.2608	C	第55図
SK	401	2607	C	第55図
SK	402	2607	C	第54図
SK	404	2607.2608	C	第54図
SK	406	2607	C	第54図
SK	407	2607	C	第28図
SK	411	2505～2606	C	第55図
SK	418	2707.2708	C	第55図
SK	419	2708～2809	C	第55図
SK	427	2705	C	第54図
SK	438	1805	C	第9図
SK	439	1805	C	第9図
SK	443	1907	C	第55図
SK	444	1807.1907	C	第55図
SK	445	1907	C	第54図
SK	446	1907	C	第9図
SK	448	1905.2005	C	第54図
SK	449	1905	C	第9図
SK	450	2005	C	第9図
SK	451	2004	C	第54図
SK	452	2004	C	第56図
SK	453	2104	C	第56図
SK	454	2104	C	第56図
SK	455	2004.2104	C	第56図
SK	458	2104	C	第56図
SK	460	1904	C	第56図
SK	461	1903	C	第56図
SK	462	1903	C	第9図

表4 清水遺跡1地区の遺構一覧 3

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	463	1903	C	第9図
SK	464	1903	C	第9図
SK	465	1903	C	第56図
SK	482	2404	C	第9図
SK	488	2002	C	第56図
SK	489	2002	C	第56図
SK	491	2003	C	第9図
SK	493	2102	C	第9図
SK	494	2102	C	第56図
SK	495	2102	C	第56図
SK	496	2102	C	第56図
ST	510	1700~1802	C	第18図
SK	520	1999,1900	C	第56図
SK	523	1999	C	第9図
SK	538	2099	C	第9図
SK	539	2099	C	第56図
SK	541	2099	C	第9図
SK	542	2000	C	第56図
SK	543	2000	C	第56図
SK	544	1900	C	第57図
SK	545	1900,1901	C	第57図
SK	546	2000	C	第57図
SK	547	2001	C	第9図
SK	548	2001	C	第9図
SK	553	2002	C	第9図
SK	555	2001,2101	C	第57図
SK	556	2101	C	第57図
SK	557	2101	C	第57図
SK	560	2198	C	第57図
ST	566	2197~2298	C	第19図
SK	570	2496	C	第57図
SK	571	2496	C	第57図
ST	581	2497,2498	C	第19図
SK	582	2497,2597	C	第19図
SK	586	2298	C	第57図
SK	588	2200	C	第57図
SK	591	2399,2499	C	第58図
SK	592	2399	C	第58図
SK	593	2499,2400	C	第58図
SK	594	2498	C	第57図
SK	595	2498,2598	C	第57図
SK	600	2401	C	第9図
SK	601	2302,2402	C	第58図
SK	602	2500,2501	C	第58図
SK	603	2500	C	第58図
SK	604	2601	C	第58図
SK	612	2601,2701	C	第58図
SK	613	2601	C	第58図
SK	616	2801	C	第58図
SK	620	2404	C	第58図
SK	621	2504	C	第9図
SK	622	2503	C	第9図
SK	625	1804	C	第9図
SK	629	9707	A	第44図
SK	630	9706	A	第44図
SD	631	9506,9406	A	第40図
SK	634	9803	A	第49図
SD	637	0199~0298	A	第37図
SD	638	0298	A	第37図
SK	639	1106,1107	A	第59図
SK	640	1106,1107	A	第59図
SK	643	1304	A	第59図

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	644	1509,1609	B	第59図
SK	645	1609	B	第59図
SB	657	0502,0503	A	第27図
SK	662	2399	C	第9図
SK	664	2606	C	第55図
SB	665	0405~0407	A	第27図
SB	666	2606~2707	C	第28図
SA	667	0305~0207	A	第27図
SA	668	2506~2508	A	第28図
SK	692	1908	C	第53図
SK	710	1601	H	第9図
SK	711	1601	H	第59図
SK	713	1600	H	第9図
SK	720	1699	H	第59図
SK	723	1698	H	第59図
SK	724	1698	H	第9図
SK	726	1699	H	第9図
SK	728	1699	H	第9図
SK	736	1297	G	第59図
ST	740	1503~1604	H	第20図
SK	747	1807	H	第9図
SK	751	1706	H	第9図
SK	754	1704	H	第9図
SK	755	1703	H	第9図
SK	758	1602	H	第59図
SK	759	1602	H	第59図
SK	763	1503	H	第9図
SK	764	1504	H	第9図
SK	766	1504	H	第9図
SK	771	1405	H	第59図
SK	773	1505	H	第9図
SK	775	1505	H	第9図
SK	776	1505	H	第9図
ST	777	1306	H	第21図
SK	781	1307	H	第59図
SK	783	1207	H	第59図
SK	1010	4906	F	第7図
SK	1020	5105	F	第60図
SK	1023	5007,5008	F	第60図
SK	1024	5008	F	第60図
SK	1025	5108	F	第60図
SK	1027	5204,5304	F	第60図
SK	1031	5305	F	第7図
SK	1032	5305	F	第7図
SK	1033	5305	F	第7図
SK	1035	5406	F	第60図
SK	1037	5306	F	第60図
SK	1038	5306	F	第7図
SK	1039	5207	F	第7図
SK	1040	5207	F	第60図
SK	1041	5407	F	第60図
SK	1042	5407	F	第7図
SK	1045	5408	F	第7図
SK	1047	5307	F	第60図
SK	1051	5208	F	第7図
SK	1055	5308	F	第60図
SK	1058	5208	F	第61図
SK	1062	5210	F	第61図
SK	1067	5607	F	第61図
SK	1073	5607	F	第7図
SK	1076	5508	F	第61図
SK	1088	5609	F	第61図

表5 清水遺跡1地区の遺構一覧 4

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	1094	5708	F	第61図
SK	1095	5610,5710	F	第61図
SK	1097	5612	F	第61図
SK	1099	5712	F	第61図
SK	1103	5811	F	第61図
SK	1104	5811	F	第61図
SK	1111	4304	E	第62図
SK	1112	4304	E	第62図
SK	1120	4207	E	第62図
SK	1140	3907	E	第62図
SK	1141	3807,3907	E	第62図
SK	1144	3908	E	第66図
SK	1155	3809	E	第62図
SK	1157	3810	E	第62図
ST	1158	3602	E	第22図+23図
SX	1160	3503~3604	E	第63図
SX	1161	3504,3604	E	第63図
SX	1162	3504,3604	E	第63図
SX	1163	3504	E	第63図
SK	1164	3504	E	第63図
SK	1168	3608	E	第62図
SK	1169	3508,3608	E	第62図
SK	1171	3504	E	第63図
SK	1172	3505	E	第63図
SX	1175	3505,3506	E	第63図
SX	1181	3506	E	第63図
ST	1184	3510	E	第23図+24図
SK	1186	3601	E	第63図
SK	1194	3502	E	第63図
SK	1197	3502	E	第63図
SK	1198	3402	E	第63図
SK	1200	3403	E	第64図
SK	1202	3408,3409	E	第64図
SK	1207	3301	E	第64図
SK	1208	3304,3305	E	第64図
SK	1209	3305	E	第64図
SK	1210	3306	E	第64図
SK	1211	3307	E	第64図
SK	1212	3307	E	第64図
SK	1214	3308	E	第64図
SK	1215	3308,3408	E	第64図
SK	1217	3409	E	第64図
SK	1219	3309	E	第64図
SK	1220	3310	E	第64図
SK	1221	3310	E	第64図
SK	1226	3204	E	第64図
SK	1228	3206	E	第64図
SK	1229	3209	E	第65図
SK	1232	3209	E	第65図
SK	1233	3199	E	第65図
SK	1235	3103	E	第65図
SK	1236	3104	E	第65図
SK	1240	3105,3106	E	第65図
SK	1248	3008~3109	E	第65図
SK	1250	3109	E	第8図
SK	1251	3109	E	第65図
SK	1252	3109	E	第65図
SK	1253	3109	E	第65図
SK	1255	3110,3210	E	第65図
SK	1258	3009,3109	E	第66図
SK	1260	3003	E	第66図
SK	1262	3003,3004	E	第66図

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	1266	3006,3106	E	第66図
SK	1271	3008	E	第66図
SK	1272	3008	E	第66図
SK	1274	3008	E	第66図
SK	1277	3009	E	第66図
SK	1278	3009	E	第66図
SK	1282	2803	E	第66図
SK	1283	2803	E	第66図
ST	1286	2907,3007	E	第26図
SK	1289	2806	E	第25図
ST	1290	2806~2907	E	第25図+26図
SK	1295	2907	E	第66図
SK	1297	2908	E	第8図
SK	1301	2909	E	第66図
SK	1305	2909,2910	E	第66図
SK	1306	2808	E	第66図
SK	1307	2808	E	第8図
SK	1309	2808	E	第66図
SK	1310	2809	E	第66図
SK	1312	2809	E	第67図
SK	1313	2809	E	第67図
SK	1314	2809	E	第67図
SK	1315	2809	E	第67図
SK	1316	2809,2810	E	第67図
SK	1318	2809	E	第67図
SK	1319	2910	E	第67図
SK	1320	4811	F	第61図
SK	1329	3707	E	第67図
SK	1330	3607	E	第67図
SK	1331	3707	E	第67図
SK	1332	3707	E	第67図
SK	1334	5204	F	第7図
SK	1343	3209,3309	E	第67図
SK	1344	3209	E	第67図
SK	1347	3601	E	第22図
SK	1351	3601	E	第22図
SK	1352	3107	E	第29図
SK	1356	3006,3106	E	第66図
SK	1357	3006,3106	E	第66図
SD	1358	0898~0997	A	第30図
SD	1359	0897~0298	A	第30図
SD	1366	0198~0299	A	第38図
SD	1378	0000~8708	A・D	第38図+41図+45図
SK	1379	2807	E	第67図
SK	1380	2707	E	第67図
SK	1382	2906	E	第67図
SD	1383	9602~9405	A	第41図
SK	1384	9503	A	第41図
SD	1385	9503~9404	A	第41図
SK	1387	3601	E	第67図
SD	1388	9305	A	第41図
SD	1389	9006,9106	D	第45図
SD	1390	9006~8708	D	第45図
SD	1403	8707~8806	D	第45図
SB	1405	3006~3107	E	第29図
SA	1406	3106~3207	E	第29図

遺構番号は、遺構の種類を問わず、登録順の通し番号である。
 欠番は、調査の進展により掘削と判断したものや、他の遺構と統合したもの、空番としたものである。

II 遺構と遺物

1 竪穴建物跡と出土遺物

1地区では13軒の竪穴建物跡を検出している。第12～26図は、それらの遺構図面であり、第68～88図は出土遺物の図面である。検索の便宜をふまえ、遺構と遺物をそれぞれまとめて掲載した。以下、図面掲載順に解説する。

1ST121 竪穴建物跡 (第12、68図)

1ST121は、1次調査のA区北東部1107グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。1地区内で検出した竪穴建物跡の中では、南へ下る丘陵裾部の最も低位に位置し、現地表面で標高108m前後、遺構確認面で標高108～107.5mほどの斜面に位置する。攪乱により南半部を失っており、重複する1SK639・640土坑に切られる。付近一帯の調査前の状況は、ゴミや廃材が埋められていたため、確認面が低くなっている。

N-175°-Wに主軸を持つ。規模は南北で4.7m、東西は残存部で3.5mほどであり、東西に伸びる可能性を考慮してもやや南北に長い長方形を呈することになるだろう。壁面の立ち上がりは逆台形状だが浅く、残存する東部で8cmほどで、斜面下位の南部はほぼ床面での検出である。床面は明黄褐色の地山をほぼ水平にし、標高107.75m前後を測る。確認面からの深さは8cm前後である。中央部には固く踏み締められた硬化面が確認できた。覆土は黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設はEL1カマドと、竪穴の内外に検出したEP1～10柱穴である。EL1カマドは壁面南側に検出し、遺存状態が悪く往時の形状を伝えるものではないが、砂と粘土で構築されたソデの残欠や被熱硬化した床面からその存在を確認できる。柱穴は竪穴内にほとんど検出されず、EP6・8が竪穴縁辺にあるほかは、竪穴外のものである。EP3はカマドのすぐ後ろに深めのピット状の掘り込みが検出している。建て直し前のものが、別遺構のものであろう。

出土遺物は須恵器有台(1)と土師器甕(2～6)である。時期判断をなすのに十分な遺物の出土状況とは言

えないが、内容的に周辺の遺構の年代と大きく離れるものではないと思われる。9世紀中葉の年代が考えられる。

1ST281 竪穴建物跡 (第13、68図)

1ST281は、1次調査のA区北部1304グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地表面で標高108.5m前後、遺構確認面で108.5～108mほどの南へ下る斜面に位置し、地区をまたいで8mほど東に1ST777が立地する。1ST121と同様の立地環境のため、攪乱により西半部を失っているものの、北側ではその下に床面が残存する。また、中心部は915年噴火の十和田火山灰が厚く堆積する1SK643土坑に切られている。

N-150°-Wに主軸を持つ。規模は南北で5m、東西は残存部で4.7mほどであり、ほぼ正方形を呈する。壁面は残存の良い北部で周溝から逆台形状に22cmほど立ち上がるものの、南西部は攪乱もあって立ち上がりが不明である。床面は明黄褐色の地山をほぼ水平にし、標高108.25m前後、確認面からの深さは20cm前後を測る。覆土は暗褐色のシルトを基調とする。

附属施設はEL1、2カマドと、竪穴の内外に検出したEP1～18柱穴があり、北半部のみ浅く周溝を確認できる。カマドは壁面南東角にあり、EL1は建て直し前のカマドの残欠と解釈している。柱穴はEP8と9、EP14と15が主柱穴と考えられる深さを持つが、竪穴の東西幅に比べて狭く、柱通りも悪い。周辺のピット群は、竪穴と軸を異にするものもあるが、ここに掲載しておく。

出土遺物は須恵器有台(7)、須恵器瓶類(8)、土師器甕(9～12)がある。こちらも時期判断をなすのに十分な出土量や状況ではないが、9世紀中葉の年代が考えられる。

1ST330 竪穴建物跡 (第14・15、68～71図)

1ST330は、1次調査のB区北部1606～1607グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地表面で標高110.5～109.5mほどの南西に下る斜面に位置し、地区をまたいで12mほど西に1ST740が立地する。調査前は畑地であり、旧農道の側溝らしき溝状の攪乱が入るものの、それ以外の遺存状態は良好である。

N-170° -W に主軸を持つ。規模は南北で 5.6m、東西は 5.5 m で、ほぼ正方形を呈する。壁面は斜面上位の北側で周溝から逆台形状に立ち上がり、30cm 前後を測る、反対の南側では不明瞭な立ち上がりで 5cm 程度となる。斜面を水平にして床面を作り出そうとしているものの、北と南の床面で 20cm 程度の標高差がある。床面中心部で標高 110.05m 前後を測り、確認面からの深さは 25cm ほどである。中心部が硬化している。覆土は黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設は EL1 カマドと、竪穴内に検出した EP1 ~ 6 柱穴があり、東壁から北壁角と西壁一部に周溝も確認できる。カマドは壁面南東角にあり、粘土と砂で構築される。床面は強く被熱しており、多くの遺物が出土している。柱穴の配列は、竪穴に対して東西に短く長方形になることや、カマドのすぐ近くにあることなども含めて 1ST281 と近い。

出土遺物は大量にあり、須恵器環を 5 点 (13 ~ 17)、須恵器有台環を 2 点 (18、19)、須恵器蓋 (20)、須恵器長頸瓶 (21)、須恵器横瓶 (22)、須恵器甕を 4 点 (23 ~ 26)、土師器甕を 4 点 (27 ~ 30) 掲載している。須恵器環はいずれも回転系切りのもので、河川跡から大量に出土しているものとおなじ「縄」の墨書をもつもの (13) も見られる。「貞」の墨書をもつ (15) と「真」の墨書の有台環 (19) は、同じ字を意図したのかも知れない。横瓶は (22) が出土遺物中で認識できる唯一のものである。外側のタタキ目は、ナデ消されて判然としない。カマドの東ソデより出土している。(23) は、平底だが内外ともに並行アテ具痕が明瞭に残っているため、長胴タイプの須恵器甕と判断した。(24) は、竪穴中央部床面から出土した中型のもので、器面赤紫色を呈する。底部を欠くものの、それ以外の残存率は比較的良いものである。(25) は、カマド中央から西ソデにかけて潰れるように出土した大型の須恵器甕である。接合片は 1ST365 の覆土からも出土している。大甕の制作痕跡を示す底部付近で器厚がいったん肥厚し、細くなって丸底の底部に至る様子が観察できる。また、内面のアテ具痕は、上位で円形アテ具で下位で並行アテ具に変わっている。(26) も大型の須恵器甕であるが、すべては接合せず 3 分割となる。竪穴中央部東側の床面でまとまって出土し、調整痕や器面の質感から同一と判断され

るが、器形は図面のもとと変わってくるかもしれない。1ST184 の貼床下で出土した破片と接合している。土師器甕 (27、29、30) は、カマド付近で出土したものである。

須恵器甕 25、26 が 1ST365、1ST184 から出土していることから、大きな時期差はなかったものの、これよりも先行すると考えられる。9 世紀中葉を当てておく。

1ST365 竪穴建物跡 (第 16・17、72 ~ 76 図)

1ST365 は、1 次調査の C 区南東部、2108 ~ 2209 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東部 1/3 程度は調査区外へ延長するものと思われる。南へ下る斜面が弧を描き、東方向へと下り、現地表で標高 112m ほど、確認面で標高 111.5 ~ 111m ほどの斜面に位置する。地区をまたいで 23m ほど南に 1ST330 が立地する。遺構検出時には 2 軒の竪穴が重複するものとして捉えていたが、覆土の同質性や形状から同じ遺構の附属施設と考える。

主軸は N-175° -W で、竪穴の規模は南北で 8m、東西は検出部竪穴で 5m あり、EK1 ~ 5 とした部分を含むならば 7m を超える。さらに調査区外へ伸びることを考慮すれば、この時期の竪穴建物としては、かなり大型のものであろう。壁面は斜面に並行する南北で、逆台形状に立ち上がり 25 ~ 30cm ほど、斜面上位の西側の壁は、55cm 前後を階段状に立ち上がる。床面は明黄褐色の地山をほぼ全面貼床し、水平に整える。明確な硬化面は観察できない。床面の標高は 110.9m 前後を測り、確認面からの深さは 32cm ほどである。覆土は黒ボク土を基調とする。

附属施設は床面の被熱痕跡が中央から南側に 3 か所ある。西壁に接続して不定形な階段状の掘り込みがみられ、EK1 ~ 5 とした。柱穴は EP1 ~ 5 まで検出している。EL1 とした被熱痕跡付近の壁面が地山を掘り残すように出っ張っており、カマドのようにも見える。しかし、反対側のソデが確認できないことや、壁際に被熱痕跡が寄らないことから明確なカマドとは判断できない。これらの被熱痕跡付近からは、鍛冶に伴うものか、椀形滓などの鉄滓が出土していることから、この建物はカマドを持たない鍛冶工房としての可能性も考えられる。EK1 ~ 5 とした西側の掘り込みは、覆土や床面のレベルに差が

ないため、竪穴に付随する張出施設として解釈したい。EK1の覆土中位には、火山灰ブロックが、ややまとまって検出している。検出した柱穴は、近隣の他の竪穴建物と同様に柱通りが悪い印象を受ける。

出土遺物は、須恵器環を13点(31～43)、須恵器有台を5点(44～48)、土師器環を9点(49～57)、土師器有台を4点(58～61)、須恵器瓶(62)、須恵器鉢(63)、須恵器瓶類を2点(64、65)、土師器鉢を2点(66、67)、土師器甕を12点(68～79)、帯金具(80)、土玉を2点(85、86)、砥石(87)を掲載している。

本遺構は貼床が深く、床下から大量に遺物が出土している。第16図上、出土遺物ドットが床面ライン以下になっているものは、それを示すものである。特に南壁近くの床下からは、4点の須恵器環(32、39、41、42)がまとまって出土している。須恵器か土師器か、有台の有無を問わず、環類の底部はすべて回転糸切りである。これらの中で黒書されるものが9点あり、判読できるものは、「千」が3点(32、33、49)、「繩」が2点(36、37)ある。環類で土師器の出土量が他の竪穴建物出土のものに比べて多い。また、土師器有台の60、61は、内黒のもので、高台を貼付けではなく、棒状工具による削り出し作出しているものである。

土師器鍋66は、下半部に煤が濃く付着するロクロ整形のもので、67は、刷毛整形のもので貼床下から出土している。土師器甕79は、タタキ整形のもので、IST1158で出土している195と同様のものになるかもしれない。須恵器甕の出土は少なく、破片のみであり掲載できるものはない。ただし、IST330で出土している25と接合する破片が出土している。

帯金具(80)は青銅製の巡方で、貼床下より出土した。山形県内の集落遺跡で出土する鈿帯具は、石製のものが大部分を占めており、金属製の出土事例は少ない。日本海に面する県北の遊佐町の木原遺跡(埋文セ1994)で漆塗りの丸柄が柱穴覆土から、同町上高田遺跡(埋文セ1998)で巡方が河川跡から出土した2例のみである。今回出土の巡方は、長軸27mmで、平城京出土の鈿帯規格によれば、この所有者の位階は従八位にあたる(村松2002)。ただし、今回のように集落遺跡に単独で出土する事例は、官人の所在を示すというのではなく、

それ単独で意味をもっていたことをうかがわせる。貼床下から出土するもの地鎖的な行為に用いられたことを示唆しよう。

これらの出土遺物からは、9世紀中～後葉の年代が与えられる。IST330出土の大甕25の同一片があることから、これに後続するものと考えられる。

15T510 竪穴建物跡(第18、76図)

15T510は、1次調査のC区南部1701～1801グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地地表で標高110.5～110m、確認面で110～109.5mほどの南へ下る斜面に位置し、地区をまたいで13mほど南東に15T740が立地する。確認面まで大量のゴミが堆積していたものの、床面が深かったため失われずに検出できている。南端部は耕作に起因すると思われるC区を東西に横断する溝状の攪乱に切られている。

N-132°Wに軸を持ち、竪穴の規模は4.2m四方の正方形を呈する。周溝は西壁側で2条確認されており、建て直されたことがわかる。当初の壁面から東側へ40cmほど狭くしているため、南北4.2m、東西3.8mのやや南北に長い長方形になる。壁面は斜面上位の北、東側で45cmほどあり、急角度で立ち上がる。斜面下位の西壁では5cm程度しか残らずに立ち上がりは判然としない。床面は明黄褐色の地山斜面をほぼ水平に掘削し、標高109.5m前後を測る。確認面からの深さは、28cmほどである。覆土は黒ボク土を基調とし、最上層には十和田火山灰の単純層が10cm前後検出している。

附属施設はEL1カマドのみで、貼床を剥がしても内外に柱穴はみられなかった。周溝は竪穴構築当初の外側のものの方が深く、内側のものは浅く形状もぼやける印象を受ける。カマドは南壁の東寄りに位置し、粘土と砂で構築される。燃焼部床面から15cmほど上の壁外に1.2mほど伸びるプランを検出したものの、掘り込みはなく土色変化のシミのみで、被燃痕跡も検出しなかった。とはいえ、カマドの位置から考えれば、煙道の床面を薄皮一枚検出できたものと考えてよいだろう。燃焼部は良く焼けており、焼土層が5cm程度堆積している。カマドと同じ素材の支脚が燃焼部に残され、付近からは多数の遺物が出土している。

出土遺物は、須恵器環を3点(88～90)、須恵器甕(91)、土師器甕を5点(92～96)掲載している。こ

これらの大部分はカマド内か、その付近からの出土である。須恵器環は、ヘラ切りで扁平な形状のもの(88, 89)と、糸切りのもの(90)がある。出土遺物は多くはないが、上層に火山灰が堆積し、出土遺物に古手のヘラ切りの環が入ることも共通する IST740 や IST777 と同じ年代になるものと考え、9世紀中葉を与えておく。

1ST566 竪穴建物跡(第19, 77図)

1ST566は、1次調査のC区西部2197～2298グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南へ下る斜面が弧を描き、西方向へと下り、現地表で標高112m、確認面で111～112mほどの斜面に位置する。類似する形態の1ST581が北10mほどに立地する。

東西方向N-60°-Wに主軸を持ち、竪穴の規模は攪乱を受けずに東西で3.6mほどあり、正方形を呈するものと思われる。壁面は斜面上位の北側でやや開き気味の逆台形状に40cmほど立ち上がるが、反対側では攪乱が多いこともあり、明確な立ち上がりは確認できない。床面は斜面を水平に削り出そうとする意図を感じさせるものの、斜面上位の北側と南側で20cmほどの差がある。床面中心部の標高は111.12m前後を測り、確認面からの深さは40cmほどある。覆土は黒ボク土を基調とし、十和田火山灰単層10～15cm前後を中位に挟んでいる。

附属施設は攪乱の下から柱穴EP1が検出した他は、カマドを含め検出していない。他の竪穴建物に比べ小型であり、異なる性質を持つように思えるが、1ST581も同様の形状していること、床面は水平に作られていることなどを考慮し、建物跡と判断する。中央部に人頭大の円礫が床面に据えられている。叩打痕など目立った使用の痕跡は見られない。

出土遺物は、97～99の計3点を掲載している。内訳は、須恵器環(97)が1点、須恵器長頸瓶(98)が1点、須恵器甕(99)が1点である。97は、底部の円板のみだが、ヘラ切り底部の須恵器環と判断した。98は、長頸瓶の頸部で、環状凸帯をもつ。99は大型の甕と思われる胴部片である。時期判断をなすのに十分な出土量ではないが、本遺構の年代は、98などの存在から9世紀代のものであり、遺構の類似点から1ST581と同じ9世紀中葉の年代を与えておく。

1ST581 竪穴建物跡(第19, 77図)

1ST581は、1次調査のC区西部2497グリッドを中

心に検出した竪穴建物跡である。南へ下る斜面が弧を描き、西方向へと下り、現地表で標高114～113.5m、確認面で113.5～113mほどの斜面に位置する。類似する形態の1ST566が南10mほどに立地する。

東西方向N-68°-Wに主軸を持ち、攪乱で南東部を欠く。竪穴の規模は南北3.1m、東西で3.5mほどであり、やや東西に長い長方形を呈する。壁面は斜面上位の北側で逆台形状に40cmほど立ち上がるが、反対側では12cmほどの立ち上がりである。床面は斜面を水平に削り出そうとする意図を感じさせるものの、斜面上位の北側と南側で30cmほどの差がある。床面中心部の標高は112.47m前後を測り、確認面からの深さは28cmほどある。覆土は黒ボク土を基調とし、10cm前後の十和田火山灰単層を中位に挟んでいる。

附属施設にカマドはなく、竪穴に隣接する1SK582とした小型の土坑が付属する柱穴の可能性のある程度のものである。小型でカマドを持たないことや覆土の堆積など、1ST566とは類似する点が極めて多い。

出土遺物は、100～104まで計5点を掲載している。内訳は、須恵器環が2点、須恵器蓋が1点、土師器甕が2点である。須恵器環は、いずれも残存率は高くはないがヘラ切りである。100はやや深みで底径が小さくなり、101よりも新しい印象を受ける。これに対して2点の土師器甕の底部はいずれも糸切りである。時期を判断するのに十分な出土量ではないが、9世紀代中葉が考えられる。

1ST740 竪穴建物跡(第20, 78～81図)

1ST740は、7次調査のH区中央部、1604グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南に下る緩斜面中、現地表で標高110m前後、確認面で109.5mほどに位置する。周囲には、地区をまたいで東に12mに1ST330が、南11mには1ST281が位置する。

N-169°-Wに主軸を持ち、竪穴の規模は、南北で4.5m、東西で4.9mやや東西に長い長方形を呈する。壁面は斜面上位の北側を見ると、比較的急斜度で40cmほど立ち上がるのに対し、反対の南側では5cmと僅かに立ち上がりが確認できる程度である。床面は斜面を平坦に掘削しており、斜面上位と下位で10cm程度の差はあるものの、ほぼ平坦をなし、標高は109.2m前後を測る。確認面からの深さは30cmほどである。北側

は平坦に掘削した地山をそのまま床面として利用しているのに対し、南側は貼床で床面を形成している。覆土は黒褐色シルトを基調とし、上位に十和田火山灰の単純層が10数cm堆積している。また、火山灰は覆土全体にブロック状に含まれている。

附属施設は、燃焼施設としてカマドであるEL1が南東角にあり、竪穴中心部や西よりに床面の被熱したEL2が検出している。燃焼部にあたる部分には、掛口部周辺の構築材が崩落したものとと思われる焼土が厚く堆積していた。粘土や砂で構築されているが、ソデ部には角礫が出土しており、カマドの芯材として利用されたと思われる。燃焼部からは、土師器甕片などが出土している。EP1～4は、柱穴などと考えられるものであるが、本調査区の他の竪穴建物と同様に柱が揃わない。EP2と3は主柱となるものであろうが、対になる南側のものがない。EP1はカマド焚口近くに、やや大きい平面形などから別の機能を持つものかもしれない。

出土遺物は105～141まで計37点を掲載し、内訳は、須恵器環が9点、須恵器有台環が4点、土師器環が4点、須恵器蓋が5点、須恵器瓶類が1点、須恵器壺が2点、須恵器甕が2点、土師器甕が6点、ミニチュア土製品が3点、鉄製品が1点である。

須恵器環、有台環はヘラ切りのものが5点(105～108、115)あり、他のものは糸切りである。ヘラ切りのものはいずれも底径が大きく器高は低いのに対し、糸切りのものは底径が小さく、器高は深めになる。前者も床面直上で出土しており、両者が共存することは間違いないが、製作された年代にはズレがある。蓋の出土が5点と調査区内では多く、無紐蓋(122)の頂部には「富」の墨書がなされ、小型品(123)、壺蓋(126)も含まれる。

127は、ロクロ整形で球胴形の胴部で、長頸瓶や短頸壺と思われる。131は、口縁部を欠くものの胴径が大きいため、大型の須恵器甕と判断できる。内面は中央部に平行アテ具痕が、上部と下部に円形アテ具痕が残る。132は、土師器長胴甕で残存率も良く、調整痕も明確に観察できる。138～140のミニチュア土製品は、土玉状の粘土塊に指を入れて窪ませた簡易なもので、甕等を模したと思われる。

これらの出土遺物から本遺構の年代は、9世紀中葉のものと考えられる。

15T777 竪穴建物跡(第21、82・83図)

本遺構は7次調査H区の南東縁辺部、1306グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南に下る緩斜面中、現地表で標高109m前後、確認度で109～108.5mほどに位置する。地区をまたいで西に8mに15T281が位置する。南西側半分は1次調査のA区にあたり、調査時には攪乱としたシミ程度の土色変化が残るのみであった。本遺構とその攪乱の位置を合わせてみると、平面形として同一のもののようにも思われる。ただし、調査前の現況として、A区は水田、H区は農道であり、すでに標高差が数十cmほどあるため、A区側は削平されて失われていたものと思われる。A区側で攪乱としたシミは、遺構の掘方などが影響したものとして解釈する。

N-165°-Eに主軸をもち、規模は残存値で南北5.3m、東西で4.4mを測り、南北に長い平面形を呈するものと推測される。壁面はやや丸みを持つ逆台形で、斜面上位の東側で30cm、北側で17cmほどで立ち上がるが、斜面下位の南側では5cmほど僅かに立ち上がるのみである。床面は明黄褐色の地山の削り出しによって形成されており、平坦で水平に近く、標高は108.5m前後を測り、確認面からの深さは18cmほどを測る。覆土は黒褐色シルトを基調とし、最上層には十和田火山灰を多く含む層が数cm検出している。

附属施設は、土坑1基と柱穴3基が検出している。北東角に検出した土坑EK1は、長軸130cm、短軸90cmのやや不整形な隅丸長方形を呈し、床面からの深さは20cmを測る。北壁の一部を20cm程掘り込んでオーバーハンクする。覆土や周辺に焼土はなく、カマドではないものの、その機能については定かではない。周辺の竪穴建物のカマドの位置を見ると、南壁面に敷設される傾向にあることから、南西側のA区削平部に存在した可能性がある。3基の柱穴は、他の竪穴建物に比べれば明確で位置も良く、主柱穴がEP1とEP3で南北の対になり、削平された南西部に東西軸の対になる柱穴があったかも知れない。EP2は壁柱穴と判断できよう。

出土遺物は142～171まで計30点を掲載し、内訳は須恵器環が5点、須恵器有台環が3点、須恵器蓋が1点、土師器環が4点、土師器有台環が3点、土師器有台皿が1点、土師器鉢が1点、土師器甕が11点、鉄製品が1点である。

須恵器環 142 や土師器環 151、土師器有台環 155 や 157 はヘラ切りのものであり、他の環類は回転糸切りである。151 は「王」が、須恵器環 143 には「繩」の墨書が底部にあり、1SD186 など大量に出土している墨書の字種と同じものである。須恵器の比率が少なく、図化できるような瓶類や甕はない。158 は、土師器有台皿で厚手のものである。竪穴から出土しているのはこれのみで、他は 1SD186 で出土している。159 はコップ形の小型土師器鉢で、他では出土していない。

本遺構の時期は、これらの出土遺物と「繩」の墨書などの共通点から、1ST365 などと同じ、9 世紀中～後葉のものと考えられる。

1ST1158 竪穴建物跡 (第 22・23、84～86 図)

1ST1158 は、E 区西側の中央部、3602 グリッドから検出した竪穴建物跡である。東に下る斜面中、現地表面で標高 116～115.5m、確認面で 115.5～115m ほどに位置する。周辺に竪穴建物はなく、土坑など他の遺構も疎な地区に 1 棟だけ離れて存在する。周辺は東西に走る谷状に窪む場所で、黒ボク土が厚く堆積している。この場所の古代の生活面は、この黒ボク土中にあるものと思われる。黒ボク土をすべて抜き、明黄褐色の地山まで下げてしまうと、浅い遺構であれば、完全に失われてしまう。そのため、黒色の土の中で遺構の土色変化を見極めねばならず、検出は困難な作業であった。本遺構は、覆土上面に灰褐色の十和田火山灰が堆積していたため、遺構として判断できたものである。

本遺構の覆土は、黒ボク土の地山に対して、若干色味が明るくなる程度の黒褐色のシルトを基調としたものが堆積する。そのため壁面の立ち上がりを検出することが非常に困難であり、断面から確認することができるものの周辺のみ可能であった。このような状況で判断できるものは、主軸は、N-176°・E 方向にあり、ほぼ真南を向く。規模は、南北 3.6m、東西 3.5m で、方形を呈する。壁面はやや丸みを帯びる逆台形状に立ち上がり、斜面上位の南西壁面で 35cm、下位の北東壁面で 13cm を測る。竪穴中心部、覆土最上位に直径 3m の不整形円形で厚さ 20cm 前後の十和田火山灰の単純層が見られる。ほぼ平坦をなす床面は、黒ボク層の下位にあり、標高 114.90m 前後、確認面からの深さは 25cm ほどを測る。遺構写真では南西側半分が明黄褐色の地山に達する

まで掘削されているが、これは掘方まで達しているもので、掘り過ぎたものである。

附属施設は、カマドである EL1、被熱ピットの EL2、これに隣接する土坑の EK1、貼床を剥がしたところ、新たに土坑が 3 基検出した (EK2～4)。柱穴と見られるものが竪穴内に 4 基 (EP1～4)、竪穴外に 12 基 (EP5～16)、また、竪穴に隣接する 1SK1347 土坑も付属するものである可能性があるため、同一の図面に掲載している。

カマド EL1 は、南東角に検出された。燃焼部はよく焼けており、粘土と砂で構築されている。崩落したカマド構築材の上に完形の須恵器環 181 と、その下に半分を欠く土師器長胴甕 195 が逆位で出土し、据え置かれたような状況を呈する。他にもカマドソデの周辺や内部に多くの遺物が出土しているが、破損したものをカマド構築材として混ぜたような出土状況である。EK3、4 土坑は、カマド西側のソデ下から検出したものである。カマド構築以前に機能したものと思われるが、ここからも多くの遺物が出土している。上位で出土したものは、カマドの構築材に含まれるものであろう。竪穴内の柱穴は、他の竪穴建物同様にはっきりしない。竪穴外に見られる柱穴は、EP5～9 と EP10～13 が列になるように検出しているが、竪穴の軸とは異なるため、別遺構の可能性もある。

出土遺物は、172～196 の計 25 点を掲載し、内訳は、須恵器環が 11 点、須恵器有台環が 1 点、土師器環が 5 点、土師器有台環が 1 点、須恵器瓶が 1 点、瓶類が 1 点、土師器甕が 4 点、刀子が 1 点である。環類はすべて回転糸切りである。176 と 177 のように底部中央がやや出っ張るようになり丸底状になるものがカマド周辺から出土している。182 は 1SD186 で大量に出土している「繩」字の墨書をもつものだが、竪穴の縁辺上位で出土しているため、本遺構に帰属するとはいいきれない。

190 は、須恵器長頸瓶の頸部で、リング状凸帯をもつものである。191 は、底部と胴部で同一個体と判断できる平底の須恵器瓶類で、広口壺などと考えられる。192 は、ほぼ完形の小型土師器甕で、底部の網代痕も明瞭に残る。195 は、口縁部や底部を欠くが、内外にタタキ整形痕を明瞭に残す土師器甕であり、いわゆる「出羽型」の底部が丸底で砲弾形を呈するものと思われる。

本遺構の年代は、これらの出土遺物から9世紀後葉のものとして判断できる。

1ST1184 竪穴建物跡 (第 23・24、86 図)

1ST1184 は、E 区中央の東側縁辺部 3510 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南東方向に下る緩斜面の裾部に位置し、現地表の標高は 113m 前後、確認面での標高は、113～112.5m ほどを測る。北東縁辺は掘削により失われ、東側は調査区外に延長する。周辺に竪穴建物は見られない。

主軸は、N-160°-E 方向にあり、南を向く。規模は南北方向で 5.25m、東西の残存部で 4.5m を測り、方形になるものと思われる。壁面は周溝から逆台形状に立ち上がり、残存する西側で 18cm、南側で 25cm を測る。床面は明黄褐色の地山をほぼ平坦に掘削しており、標高は 112.60m 前後を測る。確認面からの深さは 15cm ほどである。掘方は、竪穴中心部を溝状に大きく掘り込んでいるのが特徴的である。覆土は黒ボク土を基調とする。

附属施設は、カマド EL1 と柱穴が 5 基 (EP1～5) に、貼床を剥がした段階でさらに 3 基 (EP6～8)、周溝は全周で検出している。カマドは粘土と砂で構築され、火床面はよく焼けている。柱穴は他の竪穴建物と同じく不定形であり、深さも一定しない。

出土遺物は、197～205 まで、計 9 点を掲載している。内訳は、須恵器環 4 点、須恵器壺 1 点、須恵器鉢 1 点、土師器甕 2 点、刀子 1 点である。確認できる環類はすべて回転糸切りであり、軟質な質感は 197、198、200 に共通する。205 の刀子は、木質が錆と一緒に固まっており、鞘などと思われる。クランク状に曲がっているのは、折れたものが錆で固着したためである。また、本遺構の掘り方より 1ST330 で出土している 26 の破片が出土していることから、同遺構が先行すると考えられる。

本遺構の年代は、このような出土遺物と状況から 9 世紀中～後葉が当てられる。

1ST1290 竪穴建物跡 (第 25・26、87・88 図)

1ST1290 は、E 区の南端部 2807 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113～112.5m に位置する。検出段階で斜面下位の東側半分は覆土は削平されており、床面がわずかに残る程度である。東壁面の一部が 1SK1289 土坑と重複し、切られる。北

側 4m ほどに隣接して 1ST1286 竪穴建物がある。

主軸は、N-180° 方向にあり、真南を向く。規模は南北で 5.2m、東西は残存値で 3.4m を測る。ビットなどの検出状況からみて、平面形は方形をなすものと思われる。壁面は残存する北西側で急斜度の逆台形状を呈し、24cm ほど立ち上がる。床面は明黄褐色の地山を掘削して平坦にし、標高は 112.7m 前後、確認面からの深さは 26cm 前後を測る。検出できた西側は、全面的に硬くしまっている。また、床面の広範囲に渡って焼土の拡がりや確認され、炭化材も出土していることから、焼失建物の可能性がある。覆土は黒ボク土より僅かに薄い黒、黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設は、カマド EL1 があり、土坑が EK1～7 まであり、柱穴が EP1～9 まで検出している。カマド EL1 は、南西角に検出された。カマド部分の壁面は、外側に張り出すように作られている。火床面からは 16cm ほど高く、更に 30cm ほど外側へ張り出す幅 25cm ほどの掘り込みは、煙道部の残りと思われる。カマドは粘土や砂で構築されたようだが、残存状態は悪く、ソデの一部が残存するのみである。燃焼部に 25cm ほどの角礫があり、支脚として利用されたものと思われる。カマド付近に見られる焼土は、竪穴床面の西壁に沿って 2.6m ほど続く。EK2～5 土坑や EP6 柱穴には、竪穴床面の焼土がその覆土に溜まっていたものである。また、中央部に直径 50cm ほどの円礫が床面に据えられていたが、叩打痕など明確な使用痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、206～223 まで計 18 点を掲載している。内訳は、須恵器環 2 点、須恵器有台環 2 点、須恵器蓋 1 点、須恵器瓶 1 点、須恵器壺 2 点、土師器甕 10 点である。須恵器環 206 は回転糸切りのもので、やや扁平な器形をとる。須恵器有台環 209 は、瓶などの底部にも思える。厚手で、ヘラ切りのものである。EK1 土坑の覆土から出土している。須恵器蓋 208 は、破片資料ながら鈕部に「王」の墨書をもつ。213 は、口縁部を欠くが、212 と同様に、広口壺になるものと考えられる。土師器甕の口縁部片 214、218 は EK3 土坑の床面から、底部の 221、222 は EK4 土坑の床面からの出土である。216 は小型の土師器甕で完形品である。

本遺構の時期は、環類の出土が少ないものの、9 世紀中葉が考えられる。

1ST1286 竪穴建物跡 (第 26、88 図)

1ST1286 は、E 区の南端部 2907 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113～112.5m に位置する。南 4m に 1ST1290 竪穴建物が、北 4m に 1SB1405 掘立柱建物がある。

主軸は、N-179° -E 方向にあり、ほぼ真南を向く。規模は南北で 2.6m、東西は 2.5m ほどを測り、方形を呈する。壁面は逆台形状に立ち上がり、斜面上位の西壁で 20cm、下位の東壁で 8cm を測る。南北では北壁で 15cm、南壁で 6cm である。床面は明黄褐色の地山を掘削してほぼ平坦をなし、標高は 112.65m 前後、確認面からの深さは 17cm 前後を測る。四隅以外の床面は硬化している。覆土は、上層に黄褐色層が堆積しているが、主体をなすのは黒ボク土である。

附属施設は、南側にある被熱痕跡 EL1 の他には、南西角にカマドの煙道のような掘り込みが 30cm ほど外側へ伸びるものを検出している。しかし、被熱痕跡や焼土などは付近から検出していないため、カマドとは判断し兼ねる。

出土遺物として掲載できるものは、土師器甕の底部 1 点のみで、時期の判断は困難だが、周辺の竪穴建物と大きな時間差のあるものではないだろう。

2 掘立柱建物跡と出土遺物

本遺跡 1 地区から検出した掘立柱建物跡は、4 棟検出している。いずれも小さな柱穴で柱通りも悪い。以下、遺構番号順に解説する。

1SB657 掘立柱建物跡 (第 27 図)

本遺構は、A 区の中央部、0503 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。南東側へ僅かに下る平坦地で、現地表で標高 107m、確認面で標高 106.5m ほどに位置する。大量に遺物が出土した 1SD186 溝状遺構が大きく東側へ蛇行する部分の北隣 2m にあたる。

主軸は N-32° -W 方向にあり、桁行 1 間、梁行 1 間である。それぞれ対辺が平行しない不整形な柱間で、南北 2.7m、東西 2.1m、面積は 4.75 m² を測る。柱穴はいずれも直径 25cm 程度で、確認面からの深さは 10 数 cm ほどである。掲載できる遺物はなく、時期の特定はできないが、1SD186 に関連する可能性のあるもので、

同じ年代と想定される。

1SB665 掘立柱建物跡 (第 27、88 図)

本遺構は、A 区の中央東側、0406 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東側へ緩やかに下る緩斜面上、現地表で標高 106.5m、確認面で標高 106.2m ほどに位置する。1SD186 溝状遺構が大きく東側へ蛇行する部分の更に東 12m 先である。北東角に攪乱をうけるが、その下にみられる窪みは、柱穴の残りと思われる。

主軸は N-72° -W 方向にあり、東西桁行 2 間、南北梁行 1 間で、それぞれ 4.5m と 2.6m、面積は 11.7 m² を測る。柱穴はいずれも直径 35cm 前後のもので、深さは 10 数 cm ほどである。3m 南側には軸を同じにする 1SA667 柱穴列があり、本遺構に伴うものと思われる。掲載できる遺物は、225 の須恵器環の底部のみであり、時期の特定は困難である。

1SB666 掘立柱建物跡 (第 28 図)

本遺構は C 区の北端部東側、2607 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113～112.5m に位置する。周辺は多数の遺構が密集する地区で、南東を 1SK401 土坑と重複し、切られる。北 8m には 1ST1290 が立地している。

主軸は N-1° -E 方向にあり、ほぼ南北軸と等しく、桁行 2 間、梁行 2 間で、南北 3.13m、東西 3.06m、面積は 9.58 m² を測る。柱通りが総じて悪く、EP2 や EP7 などは軸上に乗ってこない。

南へ 4m に 1SA668 柱列があり、EP1～5 からなる N-89° -E 方向に軸を持つものと、EP6～8 からなる N-81° -E 方向に軸を持つものがあり、本遺構に関連するものと思われる。

1SB1405 掘立柱建物跡 (第 29、88 図)

本遺構は E 区の南東側、3107 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東方向に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113～112.5m ほどに立地する。南 5m に 1ST1286 があり、更に南には 1ST1290、1SB666 などが直線的に並ぶ。

主軸は N-81° -E、東西桁行 2 間、南北梁行 1 間で、それぞれ 4.2m と 3.9m ほど、面積は 16.38 m² を測る。柱穴は、直径 35～50cm の円形で、深さは 30～40cm 程度のもので構成される。北隣り 2m の位置

に ISA1406 櫛列がある。主軸が N-77° E 方向にあり、ISB1405 とやや軸を異にするものの、関連する施設と思われる。掲載できる遺物は、226 の土師器甕底部のみであり、時期の特定は困難であるが、IST1286 や IST1290 などと並ぶことから、同時代のものと思われる。

3 河川跡と出土遺物

調査区の南西側に斜面傾斜に沿って南東方向に走る溝状遺構を複数検出している。これらは蛇行しながら所々で途切れたり、重複したりを繰り返して斜面下へと続いており、人為的に作り出したものではないと判断できる。斜面を流れるひとつの自然流路が、時期と共に流れを変えて複数の流路を作り出しているものと思われる。ただし、これらの流路の中には、部分的に岸辺を加工して水場として利用している様子が検出されている。そのため本文ではこれらをまとまりとして呼称するときは、河川跡とし、個別の流路を語るときは、溝状遺構として個別の遺構名を使用する。図面は A 区の北側から分割して掲載し、D 区と G 区は最後にまとめる。断面の記号は、全ての遺構に通して付しているため、a～z の次は、aa～az、ba～と続く。この河川跡の範囲に含まれる土坑などの遺構もここに掲載している。遺物は、量が多い ISD186 を最初に掲載し、その後は遺構番号の若い順に載せている。以下、主要な遺構について解説する。

1SD186 溝状遺構 (第 30～36、89～107 図)

本遺構は、G 区南西端部から A 区中央部、1297～0104 グリッドを中心に検出する溝状遺構である。南方向に僅かに傾斜する平坦地で、検出面の標高は、108.2～106m 前後を測る。全体的な主軸は、N-31° W にあり、西側へ緩やかに弧を描きながら南下し、途中で大きく東側に蛇行する。南端部で浅くなって行き、最終的に立ち上がり不明瞭になる。G 区と A 区を合わせると、53m ほど検出している。

第 30 図にある北側では、幅 1.2～3m、確認面からの深さ 58～84cm を測る。壁面は階段状に立ち上がる場所がほとんどである。底面は中央が高くなり 2 条に分かれる地区も見られることから、複数回の流路の変遷があったことがわかる。ISD1358 は ISD186 の古い方の流路に合流すると思われる。

南側の第 32 図では、1m ほどに狭まった流路幅が東側に大きく蛇行するに従い 3.8m ほどに拡がり、確認面から 20cm 程度と浅くなる。壁面は階段状だが緩やかに、立ち上がりは 10cm ほどある。その先は再び 1m ほどにくびれ、南に向きを変える。間もなく階段状に深くなる場所があり、幅も 3m へと拡がる。確認面からの深さは 55cm ほどを測る。この場所の一部は、人為的に掘り窪められたと考えられる。南に進むと途中地山が鳥状に残り底面が二股に分かれる場所がある。西側の流路のみがそのまま南下するも徐々に浅くなって行き、入れ子状に重複している ISD233 に吸収されるように立ち上がる。

人為的に改変されていると考えられる。蛇行した浅い流路から一段深くなる部分、0303 グリッド付近は、大量の墨書土器が出土した地区である。この底面には拳大～人頭大の円礫が敷かれるように検出。加えて北側の縁辺に沿って木柱列が検出している。この縁辺の北側は、第 34 図にあるよう底面下に不定形な掘り込みが確認されており、埋め戻して形を整えて利用されている。また、東側に大きく蛇行する部分の底面下からは、蛇行せずに南東方向へ直進する溝状遺構が検出している。こちらが本来あった流路であり、これを埋めて蛇行部分を作り出していると思われる。

覆土は黒褐色のシルトと砂が互層状に堆積しており、流路として水性堆積による埋没状況を示す。改変部には最上層に十和田火山灰が単層層ではないものの、ブロック状に混在している層が 6cm 程度観察できる。

出土状況と出土遺物

出土遺物は 227～520 まで、計 294 点を掲載している。内訳は須恵器環が 179 点と圧倒的に多く、須恵器有台環が 15 点、土師器環が 30 点、土師器有台環が 18 点、土師器有台皿 3 点、須恵器蓋が 4 点で、これら環類を合わせれば掲載総数の 85% にあたる 249 点となる。甕類では、須恵器甕が 4 点、須恵器壺が 4 点、須恵器鉢が 2 点、器種判断のつかない須恵器甕類が 4 点、土師器鉢が 2 点、須恵器甕が 6 点、土師器甕が 20 点、土製品が 2 点である。環類を中心にうち黒書されるものが大量にあり、総数で 120 点を数える。

出土状況は人為的な改変部に大量の環類が出土しているほか、上流方向でも底面が窪む場所に溜まるよう

に出土している。第34図は1/60で改変部南側の出土状況をドットに落としたもの、第35図は改変部北側を1/30で示したものである。環類が大量に出土しているが、溝底に集中するわけではなく、覆土上位から下位まで広く分布していることがわかる。第36図の上は、第30図の中央部、断面c-c'ライン上の出土状況を1/30で示したもので、第36図の下は、第32図左上の1-1'ライン上のものを同じく示したものである。このように斜面上位方向からも共通する器形や墨書内容が得られている。

環類のうち、確認できるものの底部は全て回転系切りである。全体的に底径が小さく、直線的に開き、端部が外反するものが多い。須恵器は総じて軟質で、土師器との区別に悩むものが少なくない。

墨書については最終章でまとめるが、判読できる墨書のうち、最も多いものが「繩」で44点、続いて「王」の32点。それ以外では「富」や「身」、「千」などが複数点見られる。2字以上確認できるものでは、「矢田」、「真人」、「長置」、「秦善」カなどがある。

灯明皿としての利用が考えられる、縁辺に煤の付着するものが、314、362、401、403、404の5点出土している。また、転用硯と考えられる、内面に墨痕の残るものや研磨の痕跡を確認できるものが、253、272、274、333、364、374、387の7点出土しており、これらはすべて須恵器環である。

468と469は、底部に菊花状の押圧痕をもつ内黒の土師器有台環である。両者とも押圧が浅く、拓本に明確な痕跡が出ない。両者とも改変部から出土している。

485は、須恵器鉢の口縁部片である。径復元するには困難な残存半だが、素口縁で内湾することから、仏鉢形を呈するものと判断した。口縁直下に焼成前の穿孔が1か所確認できる。486も焼成前の穿孔があることから、同一か類似するものの別個体と判断している。改変部北側の底面近くから出土している。

本遺構からの出土品は、溝状遺構という性格上、上位と下位で時期差が生じるものだが、出土遺物を見る限り、竪穴建物の出土遺物よりもそれは短いように思える。環の器形からは、9世紀の中葉と考えられる。

1SD27 溝状遺構 (第41、107図)

A区南部の9804～9407グリッドに検出し、調査区

外へと続く溝状遺構である。検出長は24mを測り、幅は1.2～2.5m、確認面からの深さは14～58cmほどである。重複関係は、1SD22・26・631よりも新しく、1SD150・229よりも古い。幅の規模や主軸が1SD186と類似するが、その延長とするには位置がずれ過ぎているし、遺物の集中的な出土もみられない。出土遺物は、すべて須恵器で、環4点、有台環2点、蓋1点、甕1点を図化している。環類はすべて回転系切りで、529には判読不明な墨書が残される。

1SD137・1SD161 溝状遺構 (第30・37・40、108図)

両者ともA区西端際に検出し、北部の0897グリッドから南部の9503グリッドまで続く、調査区内に東側の立ち上がりを検出し、西側は区外へ延長している溝状遺構である。1SD137の中に1SD161が入れ子状に検出している状況であり、1SD161の方が新しい。全体形は不明であるが、検出長は、外側の1SD137で58m、1SD161で30mほどを測る。多くの溝状遺構と重複しており、1SD184・1359・1366・1378などよりは新しく、1SD155・637・638よりは古い。検出面からの深さは、全ての場所で浅く、1SD161で10cm、1SD137で20cmにそれぞれ満たない程度である。

出土遺物は、土師器有台環(536)や須恵器環(540)、須恵器甕片(537、541)などが出土している。9世紀代のものと考えられるが、時期を特定するには困難である。また、1SD161より出土した木片の炭素年代は3～4世紀という年代を示しており、出土遺物の年代とはかけ離れた数値となっている。

1SK180 土坑 (第32、108図)

0202グリッドを中心に検出し、1SD233の北西角の部分に楕円形に広がる土坑である。平面規模は3.6×1.6mで確認面からの深さは7cm程度である。1SD186から流れ込んだと考えられる須恵器がいくつか見られ、時期的にも大差ないものと思われる。

1SK182 土坑・1SD183 溝状遺構 (第44・46、108・109図)

A区中央部で検出し、1SK182を1SD183が切って、0300～0003グリッドまで南東方向に下り、途中途切れながら9707グリッドまで続く。1SK182の覆土中位には、十和田火山灰がブロック状に堆積しており、1SD183は、この層よりも上に重複していることから、915年の降灰後の流路と考えられる。

ISK182は、1.5×1.1mの楕円形で、壁面は階段状に立ち上がり、確認面からの深さは60cmを測る。最上層に20cm程度黒色のシルト層が堆積し、その下に同じ土質で火山灰をブロック状に含む層が、8cmほどの厚さで堆積している。底面までは更に30cmほどあり、そこから底面回転系切りの環類が出土している。

1SD183は、途切れている場所もつなげると、検出長37mで、幅は15～70cmほど、確認面からの深さは10～20cmを測る。ISK182だけでなく、1SD229・230をも切る。遺構のものは10世紀初頭以降と判断できるものであるが、出土遺物は少ない。図化できるものは須恵器環類の小片2点のみであり、時期判断は困難だが、流れ込みと思われる。

1SD184 溝状遺構 (第38図)

A区中央部0400～0100グリッドに渡って検出した溝状遺構で、1SD186から分岐するように西側調査区外へ延長する。西側に向かってクラック状に流れ、検出長19mを測る。西に向かって幅を広げ60cm～1.5mほど、床面は階段状に深くなり、確認面からの深さ10～60cmほどを測る。分岐点の1SD186や、調査区西壁で重複する1SD1378よりは新しく、1SD137・161よりは古い。図化できる出土遺物はない。

1SD1358・1359 溝状遺構 (第30図)

第3次調査でA区西端部の確認面を掘り下げて検出した溝状遺構で、0997～0299グリッドに渡って検出している。1SD1358は、A区北西端部から南東方向に流れ、途中で屈曲し、1SD186へと合流する。1SD186の古い流路を形成していたものと考えられる。検出長は7mで、幅1.3m、確認面からの深さも1.3mほどで、立ち上がりは階段状になり、覆土は砂層と粘土質シルト層が交互に堆積している。

1SD1359は、1SD1358の屈曲部から分岐して南へと下る旧流路と考えられる。検出長30.6mを測り、幅は30～80cmほどである。確認面からの深さは、1SD1358との分岐点で30cmほどを測るが、南に下ると徐々に浅くなり、検出できなくなる。

1SD1358の方が1359よりも後に埋没したものだが、両者とも1次調査で検出の1SD186・137・161・637などの溝状遺構よりも古いものである。図化できる遺物は得ていない。

1SD1378 溝状遺構 (第38・41・45図)

第3次調査でA区西端部の確認面を掘り下げて検出した溝状遺構で、D区南端まで続く。グリッド0000～8708に渡って検出し、A～D区間をつなげた検出長は66.1mを測る。幅はA区で1.3～3mほどあるが、D区は大きく攪乱をうけるため上層が削られており、検出幅が70cm～1m程度と狭くなる。確認面からの深さは30～60cmほどである。壁面や床面の形状は複雑で、階段状になったり、中央が鳥状に高くなったりするなど、場所により異なる。複数回の流路の変遷によるものと考えられよう。1次調査の1SD161・137・11・5などの下層から検出しているほか、同じ3次調査検出の1SD1383・1403よりも古い。一方、1SD1388・1389よりは新しく、この両流路は調査区内で最も古いものだろう。出土遺物は得ていない。

4 土坑ほかと出土遺物

土坑は425基を検出した。図面の掲載順は基本的に番号順にしてあるため、地区が前後するものもある。遺物は遺構の番号順に掲載している。全体的に出土量が少なく、時期を特定しきれないものが多い。各遺構の掲載位置については第1章の全測図並びに表2～5で確認できる。それぞれの大きさに合わせて、1/40、1/60、1/100で載せている。

1SK30～36、39、40 土坑 (第48図)

A区南東部端部の削平部に隣接した9507～9609グリッドを中心に広がる土坑群である。長方形や楕円形の平面形をなし、全体的に浅い。遺物は須恵器や土師器の小片が含まれる。積極的に時期を判断できるものではないが、他の遺構と同じ9世紀代のものと考えられる。

1SK248、250～259、262、263 土坑 (第48図)

A区中央部の0602～0802グリッドを中心に広がる土坑群である。検出長が10mを測る1SD252溝を中心に複数の土坑が見られる。1SD186などと軸は共通するが8m以上離れるため、河川群とは別に扱う。遺物はほとんど出土していない。須恵器片が確認できる程度のものである。

1SK243 土坑 (第50、109図)

A区0402グリッドを中心に検出した土坑で、長軸163cm、短軸130cm、深さ66cmを測る。1SD186溝

が蛇行を開始する場所に隣接する。遺物は須恵器環の口縁片のみのため、1SD186 溝状遺構とは時期が異なると考えられる。

1SK301 土坑 (第 50 図)

B 区南部の 1408 グリッドに検出した土坑で、径 130 cm 程度の円形を呈し、深さは 20 cm ほどである。同様の形状の土坑がいくつか見られ、A 区の 1SK289、B 区の 1SK322 など同様のものと思われるが、出土遺物がほとんどなく、覆土や床面に特徴がないため機能を特定することは困難である。

1SK321 土坑 (第 52、110 図)

B 区の 1509 グリッドを中心に検出した土坑で、東半分は調査区外へ伸びる。平面は楕円形を呈するものと思われ、検出した分で長軸 3.2m、短軸 1.3m、覆土の深さは 90cm を測る大型の土坑である。覆土は黒褐色のシルトで、中位に 8cm 程度の十和田火山灰層含む。大きさから竪穴建物とも考えられるが、立ち上がりが緩やかなり鉢状を呈し、底面は不定形で安定しないことから土坑と判断した。遺物はほとんど出土していないが、糸切りの土師器環の底部が出土している。十和田火山灰が比較的低位に検出していることから、他の遺構などと比べて新しい時期のものかもしれない。

1SK344 土坑 (第 52、110 図)

C 区南東端部の張り出し部の 2009 グリッドを中心に検出した土坑で、径 190 cm 程の円形を呈する。深さは 54 cm で、他にもいくつか見られる円形の土坑と比べ大型である。遺物は須恵器や土師器の欠片のみ。

1SK351 土坑 (第 52、110 図)

C 区南東部の 2109 グリッドを中心に検出した土坑で、四隅が張り出すような不整形長方形を呈する。長軸 130 cm、短軸 100 cm ほどの規模で、深さは 24 cm を測る。EP1、EP2 とした西側には覆土や床面レベルから付属する柱穴のような存在を看取できる。東側の四隅の平面形も歪むことから、同様のピットの存在をうかがわせる。覆土は黒褐色のシルト層を中心に、底面の一部に焼土を大量に含む層が堆積し、焼けている。北側に隣接する 1ST365 建物は、鉄滓の出土等、工房的な性格を持つ遺構であり、本遺構もそれに関連する遺構と考えられる。遺物は須恵器環や甕類、土師器では内黒の有台環や甕などが出土している。时期的に他の遺構と同じものと考

えられ、9 世中～後葉と判断する。

1SK353、354、358 土坑 (第 53、111 図)

C 区南東部の 2008 グリッドに位置し、大きさの異なる 3 基の土坑が切り合って並んでいる。中央の 1SK354 土坑が最も新しく、隣接する 1SK353 土坑と 358 土坑を切っている。長軸 130 cm、短軸 100 cm ほどの楕円形を呈する。これに切られる 1SK358 土坑は、長軸 200 cm、短軸 150 cm ほどの不整形楕円形で、覆土に炭化粒や焼土を多く含んでいる。ただし、1SK351 土坑の様に床面が焼けている様子はみられないため、1SK351 などから流入した焼土が覆土混じり込んだものと判断する。時期は 1SK351 と同じと想定できる。

1SK378 土坑 (第 54、112 図)

C 区東部 2308 グリッドを中心に検出した土坑で、東西に伸びる攪乱で北東側を失う。平面は楕円形、立ち上がりは逆台形状を呈する。長軸は 186 cm、短軸 166 cm、深さ 47 cm を測る。遺物は須恵器環 (620) が出土している。

1SK398 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2507 グリッドに検出した土坑で、平面円形を呈し、長軸 200 cm、短軸 190 cm を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 cm を測る。出土遺物は 623～625 まで、須恵器環、蓋、土師器の甕が出土している。

1SK399 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2608 グリッドに検出した土坑で、1SK398 に隣接する。平面円形を呈し、長軸短軸ともに 190 cm を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 cm を測る。出土遺物は 626～629 まで、須恵器環、土師器甕等が出土している。形状や出土遺物ともに 1SK398 と類似する。

1SK401 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2607 グリッドに検出した土坑で、1SB666 と重複する。東西に長い楕円形を呈し、長軸 235 cm、短軸 142 cm を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 cm を測る。出土遺物は、須恵器環 (630)、土師器甕 (631) が出土している。

1SK411、664 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2506 グリッドを中心に検出した土坑である。1SK411 は南北に長い長方形を呈し、両端に掘り込

みを持つ。長軸は4.1m、短軸は2.4m、断面は丸みを持って立ち上がり、深さは30cm、北部のビット状の掘り込みでは65cmを測る。1SK644は東西に長い楕円形で、東端にビット状の掘り込みを持ち、1SK411を切っている。長軸は1.7m、短軸は1.3m、断面は緩く立ち上がり、深さは50cmを測る出土遺物は、632～634で、須恵器環や土師器環、甕などが出土している。

1SK418 土坑 (第55、112 図)

C区北東部2708グリッドに検出した土坑で、平面円形を呈し、長軸185cm、短軸170cmを測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ32cmを測る。出土遺物は635、636で、いずれも土師器甕の破片である。

1SK454、455 土坑 (第56 図)

C区南部中央2004～2104グリッドに検出した土坑である。1SK454は平面楕円形を呈し、長軸100cm、短軸70cmを測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ19cmを測る。1SK455を切る。1SK455は南北に長い溝状を呈し、長軸196cm、短軸48cm、深さ12cmを測る。

1SK488、489 土坑 (第56 図)

C区南部中央2002グリッドに検出した土坑である。1SK488は平面円形を呈し、長軸64cm、短軸42cmを測る。断面は急傾斜で立ち上がり、深さ26cmを測る。1SK489は平面円形を呈し、長軸56cm、短軸46cm、深さ12cmを測る。1SK488を切る。

1SK544、545 土坑 (第57 図)

C区南西部1900～1901グリッドに検出した土坑である。1SK544は南北に長い楕円形を呈し、検出長137cm、短軸80cmを測る。断面は丸みを持って立ち上がり、深さ27cmを測る。1SK545は平面円形を呈し、長軸194cm、短軸188cm、深さ52cmを測る。1SK544を切る。

1SK591、592、593 土坑 (第58 図)

C区西部2399～2400グリッドに検出した土坑である。1SK591は南北に長い不整楕円形を呈し、検出長222cm、短軸154cmを測る。断面は丸みを持って立ち上がり、深さ80cmを測る。1SK592は楕円形を呈し、長軸160cm、短軸38cm、深さ18cmを測る。1SK591を切る。1SK593は不整円形を呈し、長軸146cm、短軸102cm、深さ62cmを測る。1SK591を切る。

1SK639・640 土坑 (第59、113 図)

A区北東部1106グリッドを中心に検出した土坑で、1ST121の擾乱で削平された部分の下から検出している。1SK639は平面円形を呈し、長軸140cm、短軸130cmを測る。断面は北側の1SK640が階段状に接続し、立ち上がりは逆台形状で、深さ45cmを測り1SK640に重複する部分はオーバーハングする。出土遺物はヘラ切りの須恵器環(638)、須恵器甕片(639)などが出土している。1SK640は東西に長い楕円形で、長軸130cm、短軸55cm、深さ15cmを測る。竪穴建物と重複することや、形状などが1SK643土坑と類似する。

1SK643 土坑 (第59、113 図)

A区北東部1304グリッドの1ST281と入れ子状に検出した土坑である。平面は方形を呈し、長軸720cm、短軸255cmを測る。断面は北側が階段状に伸び、立ち上がりは逆台形で平らな底面をつくる。深さ75cmを測る。覆土は黒ボク土を基調とし、中位に8cm前後の十和田火山灰が堆積する。出土遺物は、640～642で、土師器環、須恵器甕、金床石と考えられる台石がある。

1SK736 土坑 (第59 図)

G区中央部1297グリッドに検出した土坑で南北に長い楕円形を呈し、長軸85cm、短軸60cmを測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ22cmを測る。

1SK759 土坑 (第59 図)

H区中央部1602グリッドに検出した土坑で不整円形を呈し、130cm径を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ20cmを測る。中央部がビット状に窪む。

1SK783 土坑 (第59、113 図)

H区南東端部1207グリッドに検出した土坑で、南東部は調査区外に延長する。平面は東西に長い楕円形を呈するものと思われ、長軸148cm、短軸130cmを測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ13cmを測る。出土遺物は土師器甕(643)があり、底部と口縁部の未接合同一個体である。

1SK1094 土坑 (第61 図)

F区北西部の丘陵頂部5708グリッドに検出した土坑で東西に長い楕円形を呈し、長軸200cm、短軸は87cmを測る。断面は東側に傾斜し、西側は緩やかに立ち上がる。深さは最深部で38cmを測る。

1SK1111、1112 土坑 (第 62 図)

E 区北西端部の東向きの緩斜面上、4304 グリッドから検出した土坑である。1SK1111 の平面は楕円形、長軸 114cm、短軸 96cm、で深さは 20cm を測る。1SK1112 と重複し、これを切る。SK1112 は検出長 72cm、短軸 52cm、楕円形を呈しするもの考えられる。逆台形状の立ち上がりで深さ 18cm である。

1SK1140 土坑 (第 62 図)

E 区の北部の東向きの緩斜面上、3907 グリッドから検出した土坑である。平面は円形で長軸 98cm、短軸 91cm、斜面に傾く平坦な床面から逆台形状に立ち上がり、深さは約 10cm を測る。

1SK1141 性格不明遺構 (第 62 図)

E 区の北部 3907 グリッドから検出した遺構である。平面は不整形を呈し、長軸 180cm、短軸 150cm を測る。断面は遺構中央部が溝状に一段深くなり、深さは 75cm を測る。覆土には地山が多く含まれ、人為的な埋戻しが考えられる。

1SK1168、1169 土坑 (第 62 図)

E 区の中央 3508 ～ 3608 グリッドから検出した土坑である。東向きの緩斜面上に位置し、1SK1168 の南 50cm に隣接して 1SK1169 が位置する。1SK1168 の平面は楕円形で、長軸 117cm、短軸 91cm、断面は幅の狭い底部から不定形に立ち上がり、深さは 52cm を測る。覆土には地山を大量に含むことから、人為的な埋戻しと考えられる。1SK1169 の平面形も楕円形で、長軸 172cm、短軸で 129cm、断面は斜面上位に緩く傾斜し、下位の部分がピット状に深くなり、深さ 46cm を測る。

1SK1160 ～ 1163 性格不明遺構 (第 63、113 図)

E 区中央部の黒ボク土が厚く堆積する 3503 ～ 3604 グリッドを中心に検出した連続する南北に長い溝状の遺構である。1SX1160 は、長軸 362cm、短軸は 38cm、深さ 11cm を測る。その東側斜面下方 1m に 1SX1161 があり、長軸 376cm、短軸は 44cm、深さ 14cm を測る。さらにその東側斜面下方 50cm に 1SX1162 がある。中央部で 2 列になり、長軸 436cm、短軸は西側で 25cm、東側で 48cm、深さはそれぞれ 8cm、13cm を測る。その東側斜面下方 30cm に 1SX1163 がある。検出状況が不明瞭であり、検出長 94cm、短軸は 38cm、深さは 18cm を測る。北側に隣接する 1SK1164 土坑もこれの

延長の可能性がある。

これらにはいずれも黒ボク土中に暗褐色のシルトと灰白色の火山灰を粒状に含む覆土が堆積している。微妙な土色変化のため、正確な遺構範囲の検出は困難なものの、特徴的な覆土が帯状に平行して並んでいることで検出される。同様の遺構がさらに斜面下方 5m 東に 1SX1175、1181 として検出しており、これらにも灰白色の火山灰が見られる。出土物は 647、648 でどちらも糸切りの須恵器環である。

1SK1208 土坑 (第 64 図)

E 区の中央部 3304 ～ 3305 グリッド、黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面上から検出した土坑である。平面は東西に長い楕円形で、長軸 144cm、短軸 122cm を測る。底面は丸く、立ち上がりの傾斜も緩やかに立ち上がり、深さは 30cm となる。中央部付近の覆土最上層に、灰白色火山灰が 10cm 程の層厚を持って堆積している。

1SK1214 土坑 (第 64 図)

E 区の中央東部 3308 グリッドから検出した土坑である。黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面下位に位置し、東側を覆土によって切り込まれる。規模は長軸 108cm、短軸は残存値で 80cm を測り、平面形は楕円形を呈するものと推測される。土坑中央部が円柱状に深くなり、深さは最深部で 54cm を測る。

1SK1215 土坑 (第 64 図)

E 区の 3308 グリッドから検出した土坑である。平面円形で径 90cm、断面は丸底の底部から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 36cm を測る。中心部からやや北寄りの部分が一段深くなる。

1SK1232 土坑 (第 65 図)

E 区の東端部 3209 グリッドから検出した土坑である。黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面下位に位置する。規模は、長軸 110cm、短軸 84cm の不整形な楕円形を呈する。開口部から底面に向かって窄むが、北側が一段浅くなっている。深さは最深部で 60cm を測る。底部付近の覆土に、十和田火山と思われる灰白色火山灰粒を含んでいる。

1SK1248 土坑 (第 65、113 図)

E 区の南東側の緩斜面下位、3008 グリッドを中心に検出した土坑である。調査区東端付近、東向きの斜面に

位置する。西側には1SB1405が位置する。平面は楕円形を呈し、長軸144cm、短軸02cmで、深さは15cmである。出土遺物は須恵器環(644)がある。

1SK1251・1252土坑(第65図)

E区の南東端部3109グリッド、東向きの緩斜面下位に検出した土坑である。両土坑は重複関係にあり、1SK1251は1SK1252によって切り込まれる。1SK1251は、規模は残存値で長軸86cm、短軸64cmの楕円形を呈するものと思われる。深さは13cmを測り、底面は平坦をなす。1SK1252は、同様に残存値で長軸115cm、短軸68cmの楕円形を呈するものと思われる。深さは36cmを測り、底面は丸底型を呈する。覆土には地山塊を多量に含んでおり、人為的に埋め戻されたと考えられる。

1SK1266、1356、1357土坑(第66、113図)

E区の中央南部3006～3106グリッドに検出した土坑である。東向きの緩斜面上に位置し、東側には1SB1405掘立柱建物に隣接する。平面形は東西に長い楕円形を呈し、長軸218cm、短軸168cmを測る。斜面中に平坦な底面を作り出し、立ち上がりは斜面下方で緩やかになり、深さは34cmを測る。床面の一部には弱い被熱痕跡が認められ、覆土中にも多量の炭化微粒の混入が認められた。1SK1356は、1SK1266の東側に隣接して検出した円形の土坑で、長軸で43cm、短軸で38cm、深さ16cmを測る。1SK1357は、1SK1266の底面立ち上がり斜面から検出した楕円形の土坑で、長軸で24cm、短軸16cm、深さ18cmを測り、1SP1266より古い。

1SK1331土坑(第67図)

E区の中央部3707グリッドから検出した土坑である。規模は、長軸80cm、短軸70cmの楕円形を呈する。断面形は箱型をなし、深さは44cmを測る。底面は平坦である。覆土は半層で地山塊を含んでおり、人為的に埋戻しが行われたものと考えられる。

1SK1332土坑(第67図)

E区の3707グリッドから検出した土坑である。東向きの緩斜面中位に位置し、北側には1SK1331土坑が近接する。規模は、長軸145cm、短軸120cmの楕円形を呈する。床面は極めて不定形で、東西両側が深くなり、最深部では70cmを測る。覆土にはブロック状の地山が混入しており、人為的に埋め戻されたと考えられる。

1SK1343、1344土坑(第67図)

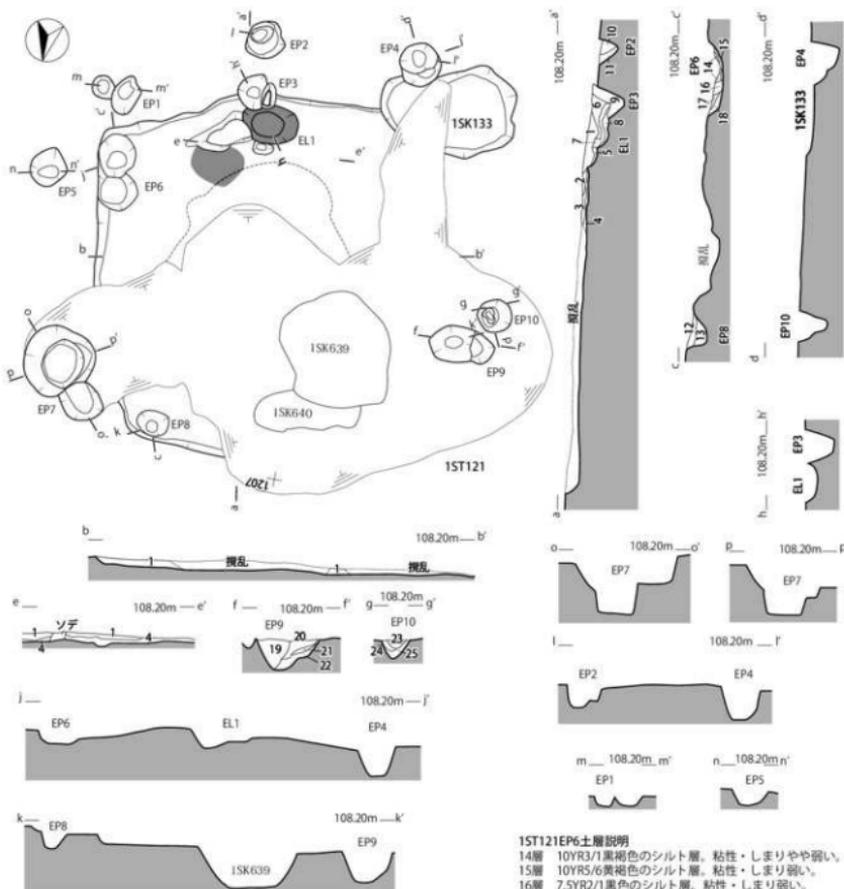
E区の東部3209～3309グリッド、東向きの緩斜面下位で黒ボク土が厚く堆積する調査区東壁際付近から検出した土坑である。1SK1343の規模は、残存値で長軸187cm、短軸84cmを測り、平面形は溝形を呈する。開口部から底面に向かって狭くなり、断面系はV字状となる。南端を1SK1344によって切り込まれる。1SK1344は長軸79cm、短軸61cm、中央部がピット状に深くなり最深部で24cmを測る。

5 遺構外出土遺物

第114、115図には遺構外の確認面精査中から出土した遺物や、遺構から出土したものの、明確に時期が異なるものをまとめる。

649～675は縄文時代の遺物である。649～657は縄文土器を、658～675には石器まとめた。縄文土器はいずれも破片資料であり、摩耗するものも多いため、時期判断に窮するものの、前～晩期までのものが確認できる。650、654、656は前期に属するものであろう。649、651、653、655は中期のものと思われる。651に関しては古墳時代の有段壺の口縁のようにもみえる。652、657は晩期の粗製土器である。石器の石材は、666を除き珪質頁岩を用いている。658～664は石畿で、658は有茎のもの、659～661は凹基のもの、662～664は平基のものである。665～667は石匙で665、667は不整形で未製品の可能性がある。666は玉髓を素材としている。668は石篋。669～673は剥片の一边に二次加工をほどこすもの。674、675は剥片である。

676はミニチュアで、677は土玉である。これらの土製品は、本調査区の堅穴建物からも出土しており、いずれも平安時代の所産である。678、679は砥石で、両者とも上半部を欠損している。全周に使用面があり、金属の線条痕をもつ。680は刀子の茎部分で刃部を欠損する。時期の特定は困難だが、平安時代以降のものであろう。681～683は古銭で元豊通宝、祥元通宝、寛永通宝である。



1ST121土層説明

- 1層 5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。焼土を含む。明黄褐色土を斑状に含む。
- 2層 5YR3/1黒褐色のシルト層。
- 3層 7.5YR5/8明褐色のシルト層。粘性・しまり強い。焼土を少量含む。
- 4層 10YR3/4暗褐色のシルト層。しまり強い。床層。

1ST121EL1(カマド)土層説明

- 5層 5YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。黄褐色土、焼土を含む。
- 6層 10YR2/3黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黄褐色土を含む。
- 7層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黄褐色土粒φ~5mmを含む。
- 8層 7.5YR2/1黒色土。粘性・しまりやや強い。

1ST121EP3土層説明

- 9層 10YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ~5mm。橙色スコリアφ~10mmを多量に含む。

1ST121EP2土層説明

- 10層 7.5YR2/1黒色のシルト層。
- 11層 10YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ~10mmを含む。

1ST121EP8土層説明

- 12層 7.5YR2/1黒色のシルト層。黄褐色土粒φ~5mmを少量含む。
- 13層 7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ~5mmを含む。

1ST121EP6土層説明

- 14層 10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
- 15層 10YR5/6黄褐色のシルト層。粘性・しまり弱い。
- 16層 7.5YR2/1黒色のシルト層。粘性・しまり弱い。
- 17層 7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
- 18層 7.5YR4/6褐色のシルト層。

1ST121EP9土層説明

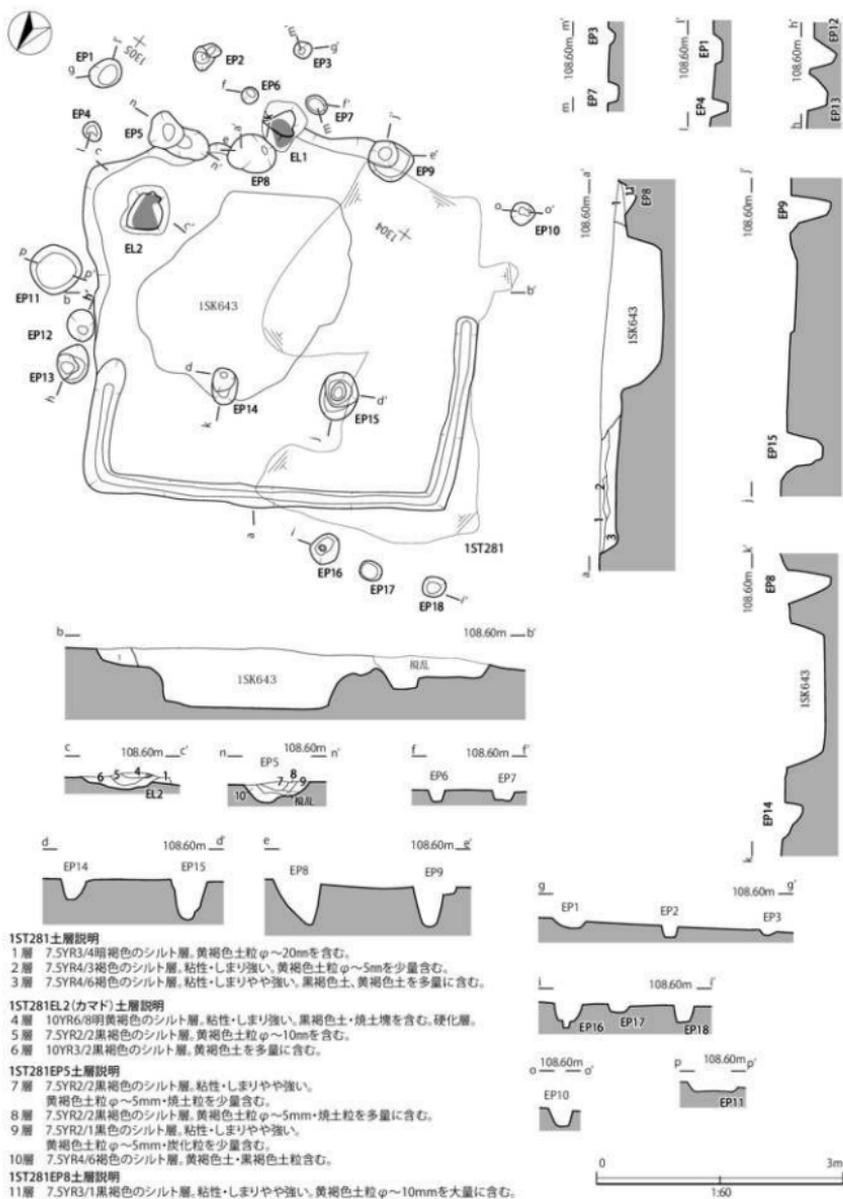
- 19層 7.5YR4/3褐色のシルト層。黄褐色土粒φ~10mm。橙色スコリアφ20mmを斑状に含む。
- 20層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
- 21層 5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ~10mmを大量に含む。
- 22層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒・橙色スコリアφ~10mmを大量に含む。

1ST121EP10土層説明

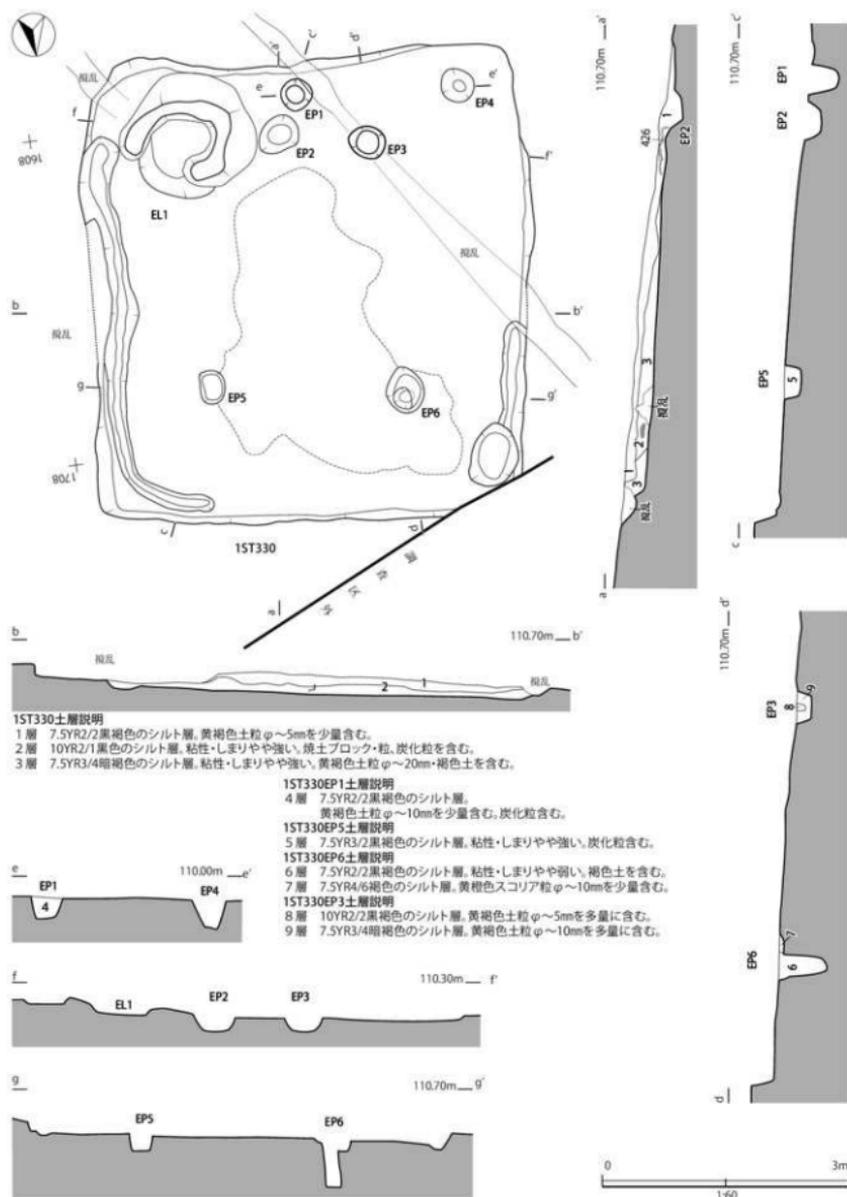
- 23層 5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ~5mmを少量含む。
- 24層 7.5YR4/6褐色のシルト層。黒褐色土を含む。
- 25層 7.5YR1.7/1黒色のシルト層。



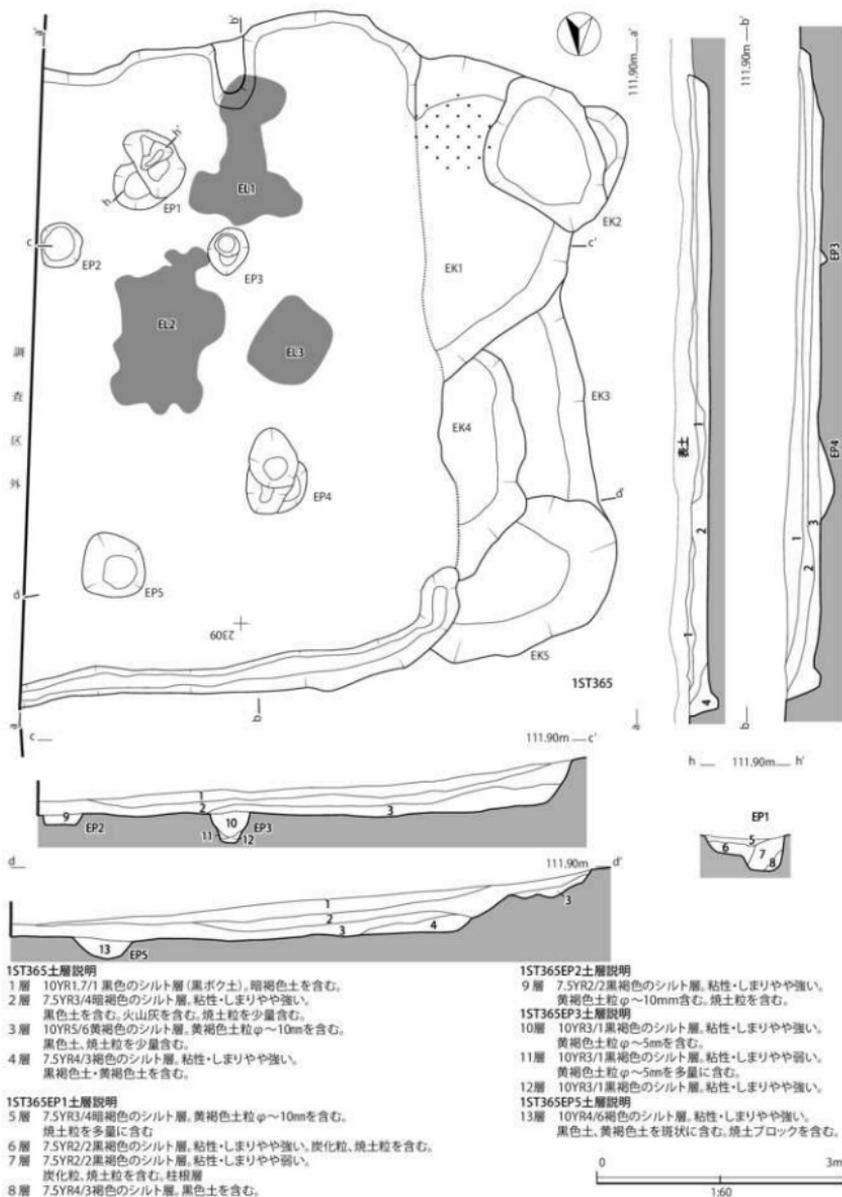
第12図 竪穴建物跡1(1ST121)



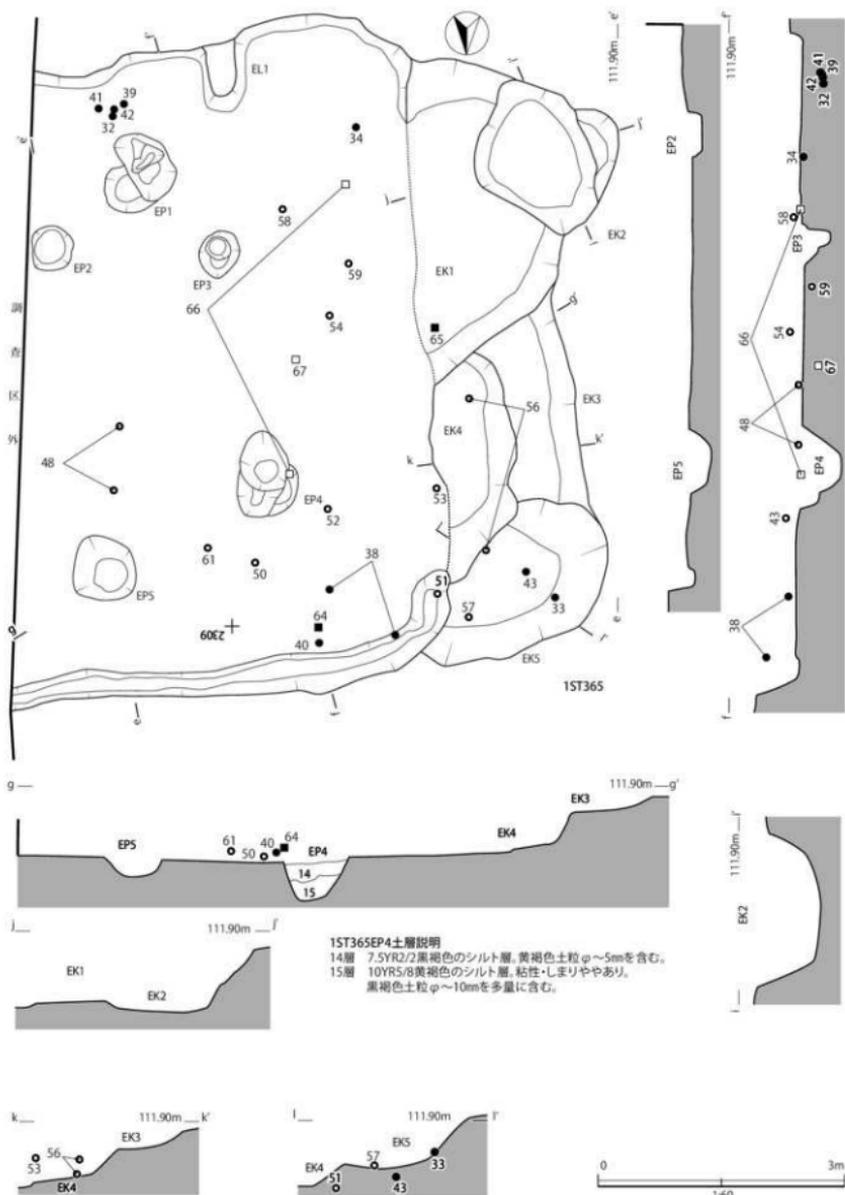
第13図 竪穴建物跡2 (15T281)

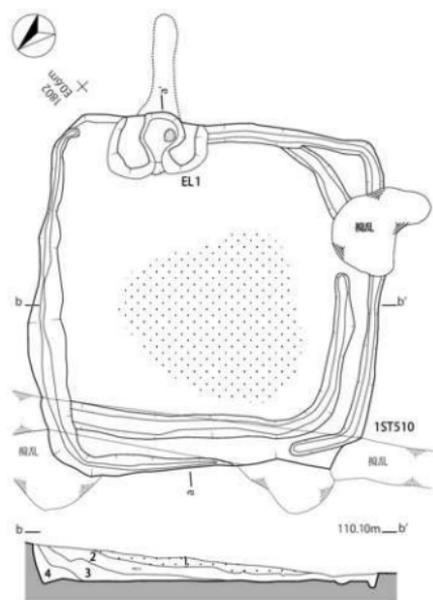


第14図 竪穴建物跡3 (1ST330-1)



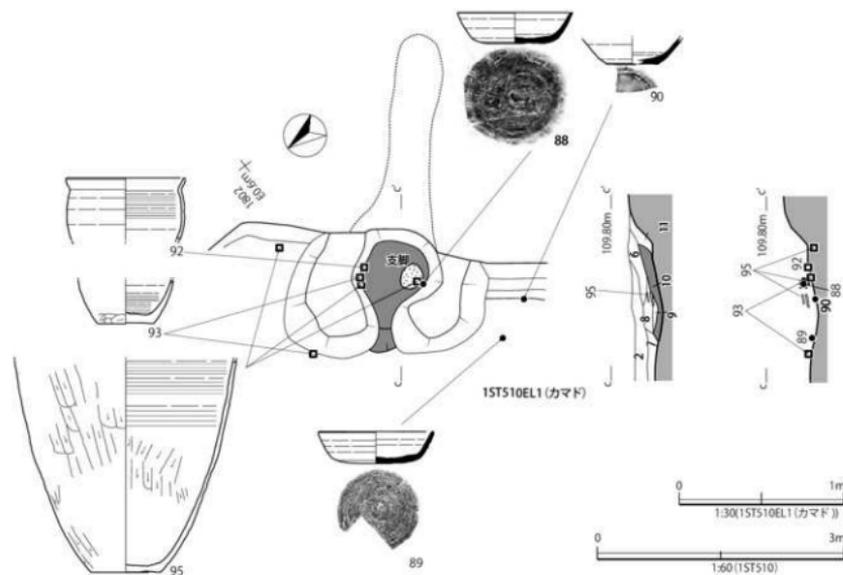
第16図 竪穴建物跡5 (1ST365-1)



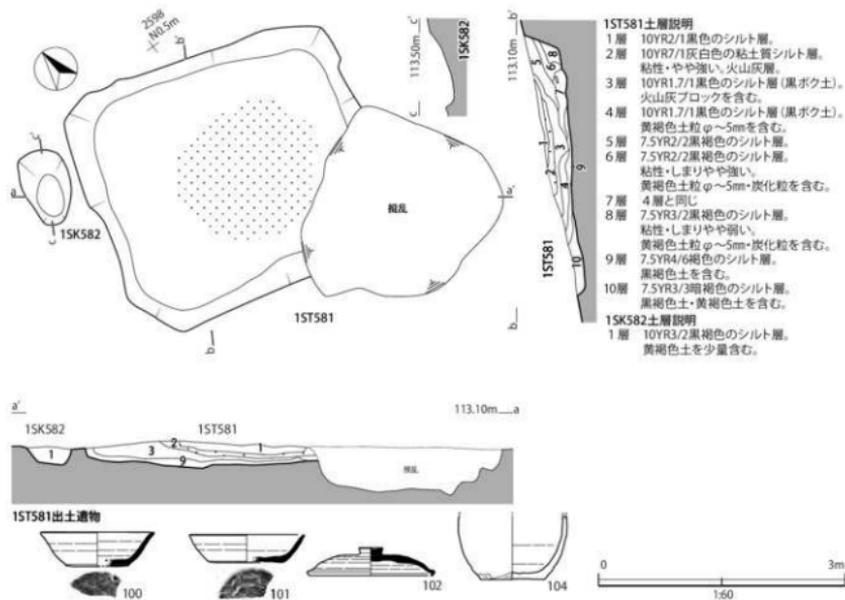
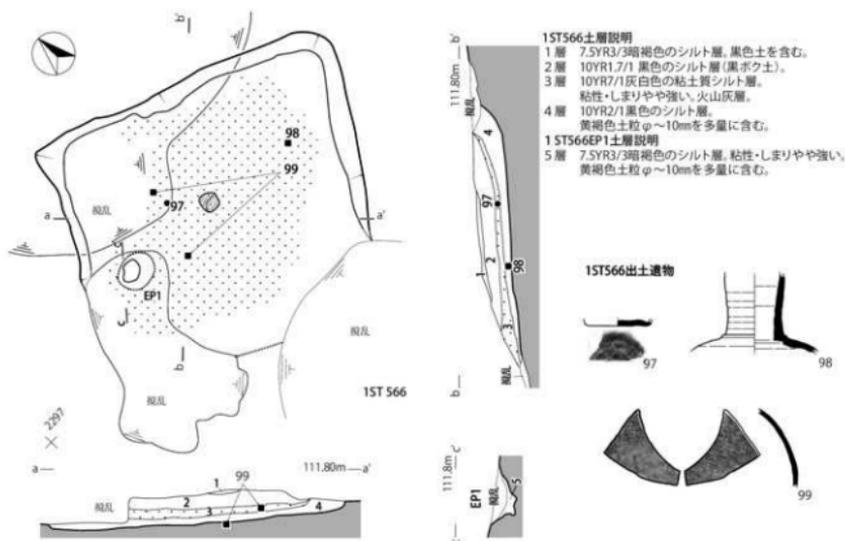


- 1ST510土層説明**
- 1層 10YR7/1灰白色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや強い、黒色土を多量含む。火山灰をブロック状に多量含む火山灰層。
 - 2層 10YR1.7/1黒色のシルト層(黒ボク土)。粘性・しまりやや強い。
 - 3層 10YR1.7/1黒色のシルト層(黒ボク土)。黄褐色土粒φ~10mmを少量含む。
 - 4層 7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを含む。
 - 5層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ~10mmを含む。
- 1ST510EL1(カマド)土層説明**
- 6層 7.5YR5/6明褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。焼土・黒色土を含む。
 - 7層 10YR4/4褐色のシルト層。焼土粒・黒褐色土を含む。黄褐色土粒φ~10mmを含む。
 - 8層 2.5YR5/6明赤褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。焼土を多量に含む。
 - 9層 5YR2/2黒褐色のシルト層。焼土を多量に含む。
 - 10層 2.5YR4/8赤褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。焼土層。
 - 11層 7.5YR2/1黒色のシルト層。黄褐色土粒φ~5mmを含む。

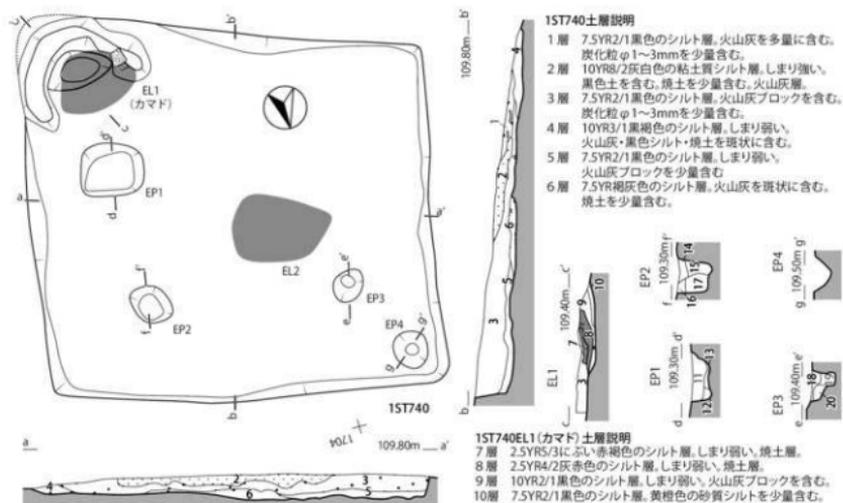
 ほほ火山灰で構成される層



第18図 竪穴建物跡7 (1ST510)

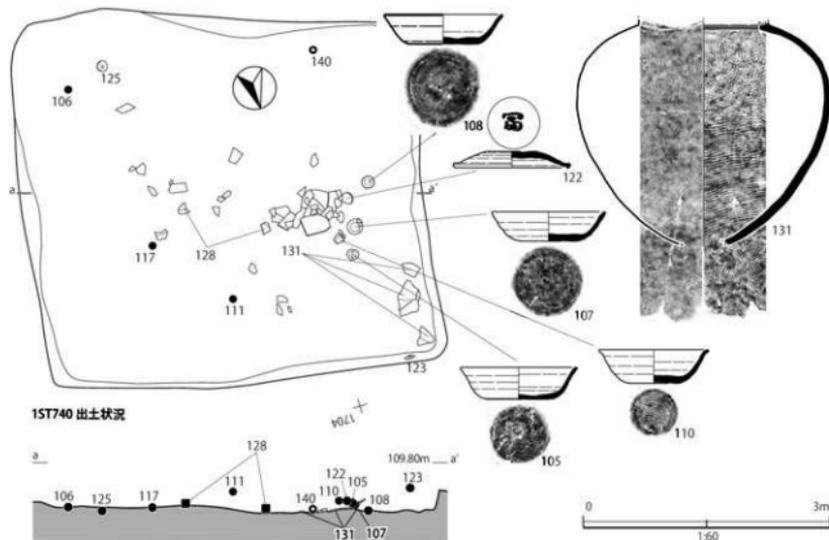


第19図 竪穴建物跡8 (1ST566、1ST581)

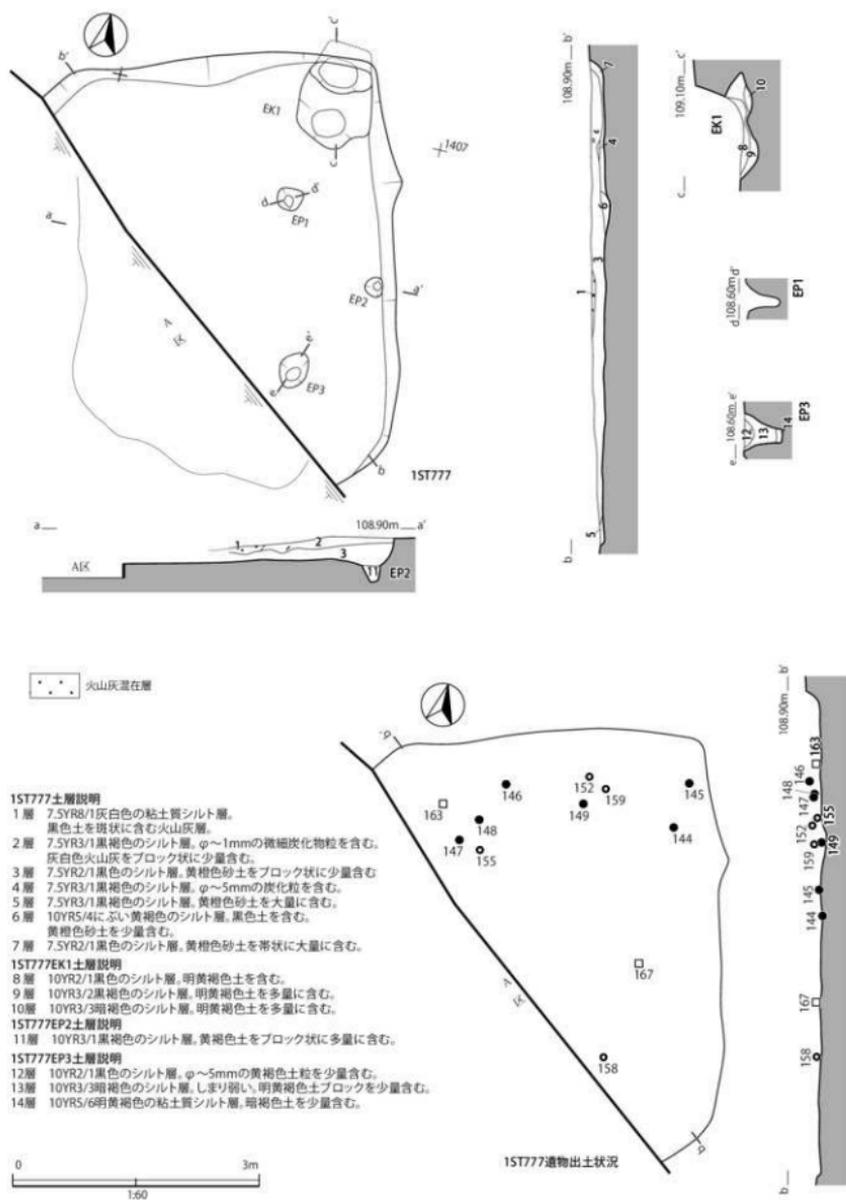


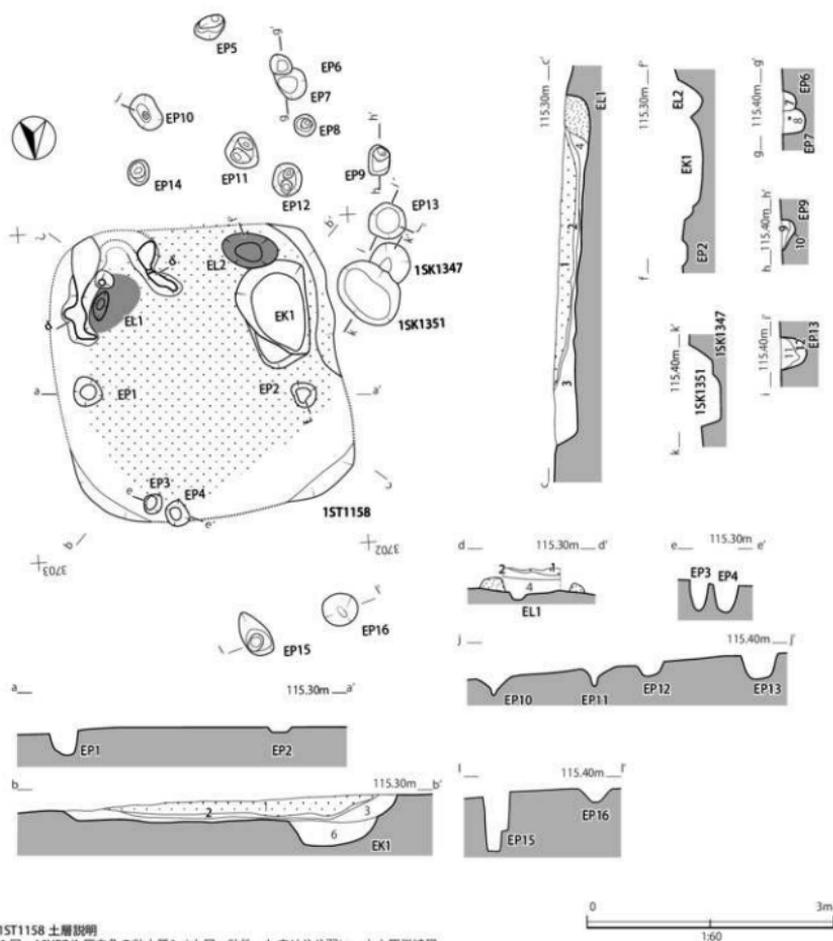
15T740EP1土層説明
 11層 10YR2/1黒色のシルト層。明黄褐色土を斑状に含む。焼土粒を微量に含む。
 12層 10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。明黄褐色土をブロック状に含む。
 13層 10YR6/6明黄褐色の砂質シルト層。黒色土を微量に含む

15T740EP2土層説明
 14層 10YR2/1黒色のシルト層。
 15層 10YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。しまり弱い。柱痕層。
 16層 10YR3/2黒褐色のシルト層。灰黄褐色土を斑状に含む。
 17層 10YR4/2灰黄褐色のシルト層。黒色土を少量含む。
 15T740EP3土層説明
 18層 10YR2/1黒色のシルト層。
 19層 10YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。明黄褐色土ブロックを少量含む。
 20層 10YR3/2黒褐色のシルト層。明黄褐色土を斑状に含む。



第20図 竪穴建物跡9 (15T740)



**1ST1158 土層説明**

- 1層 10YR7/1 灰白色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや弱い。火山灰準純層
 2層 10YR3/1 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。しまりやや弱い。1層境部分にブロック状の火山灰を多量に含む。
 3層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性弱い。φ~20mmの黄褐色スコリアを少量含む。

1ST1158EL1 (カマド) 土層説明

- 4層 7.5YR3/4 暗褐色のシルト層。粘性やや弱い。炭化物粒を少量含む。

1ST1158EK1 土層説明

- 6層 10YR2/1 黒色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
 φ~10mmの褐色土粒を多量に含む。

1ST1158EP6 土層説明

- 7層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。黄褐色土ブロックを含む。

1ST1158EP7 土層説明

- 8層 10YR2/2 黒褐色のシルト層。黄褐色土粒を斑状に含む。

1ST1158EP9 土層説明

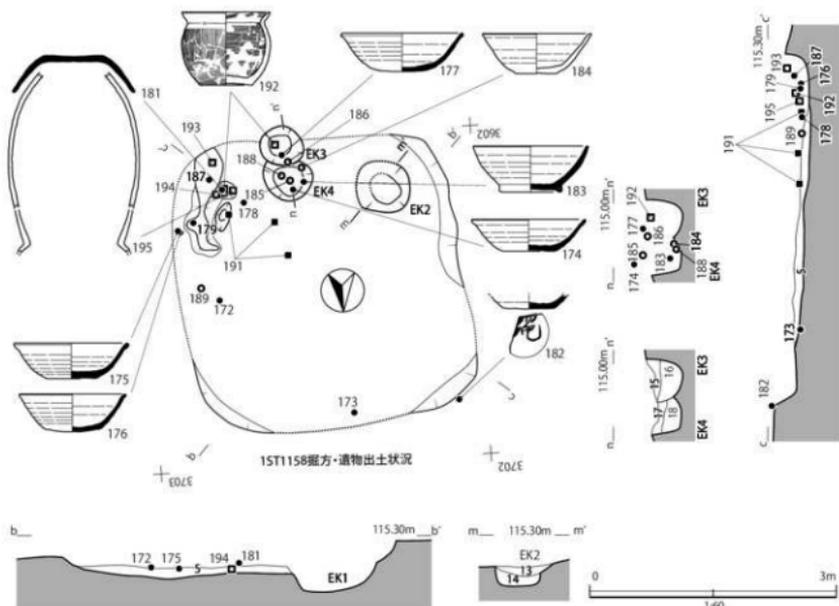
- 9層 10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
 φ~5mmの黄褐色スコリアを少量含む。
 10層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや強い。

1ST1158EP13 土層説明

- 11層 7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。炭化物を少量含む。
 φ~10mmの黄褐色スコリアを含む。
 φ~10mmの明褐色土ブロックを多量に含む。
 12層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
 褐色土をブロック状に含む。



第 22 図 竪穴建物跡 11 (1ST1158-1)

**1ST1158 掘方土層説明**

5層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。褐色土をブロック状に含む。

1ST1158EK2 土層説明

13層 7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。φ～50mmの炭化物・粒を少量含む。

φ～10mmの黄褐色スコリアを含む。φ～10mmの明褐色土ブロックを少量含む。

14層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。黄褐色土をブロック状に含む。

1ST1158EK3 土層説明

15層 10YR2/3 黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。φ～10mmの炭化物を少量含む。

φ～10mmの黄褐色スコリアを少量含む。黄褐色土をブロック状に含む。

16層 10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性強い。φ～5mmの黄褐色スコリアを少量含む。黄褐色土をブロック状に少量含む。

1ST1158EK4 土層説明

17層 10YR2/2 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。炭化粒φ～10mmを少量含む。黄褐色土粒を少量含む。

18層 7.5YR3/4 暗褐色のシルト層。粘性やや強い。褐色土をブロック状に含む。

1ST1184 土層説明

1層 7.5YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。φ～5mmの焼土粒を少量含む。φ～10mmの黄褐色土粒を少量含む。

2層 7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。しまりやや強い。φ～5mmの焼土粒・炭化物粒を含む。φ～5mmの黄褐色土粒を多量に含む。

1ST1184EL1（カマド）土層説明

3層 7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。φ～5mmの焼土粒・炭化粒を含む。

4層 7.5YR1.7/1 黒色のシルト層。しまりやや強い。

φ～5mmの焼土粒・炭化粒・黄褐色土粒を含む。

5層 7.5YR1.7/1 黒色のシルト層。暗褐色土粒を多量に含む。

φ～5mmの焼土粒と黄褐色土粒を多量に含む。

6層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。

1ST1184EP3 土層説明

7層 7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。

φ～10mmの黄褐色土粒を多量に含む。

8層 7.5YR2/1 黒色のシルト層。暗褐色土粒を少量含む。

9層 10YR6/8 明黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。

黒色土を斑状に含む。

10層 10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。

φ～30mmの黄褐色土粒を少量含む。

1ST1184EP5 土層説明

11層 7.5YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。黄褐色土を少量含む。

12層 7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

13層 7.5YR3/3 暗褐色シルト。黄褐色土を含む。

1ST1184EP4 土層説明

14層 10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。褐色土を含む。

15層 10YR5/8 黄褐色のシルト層。黒色土を含む。

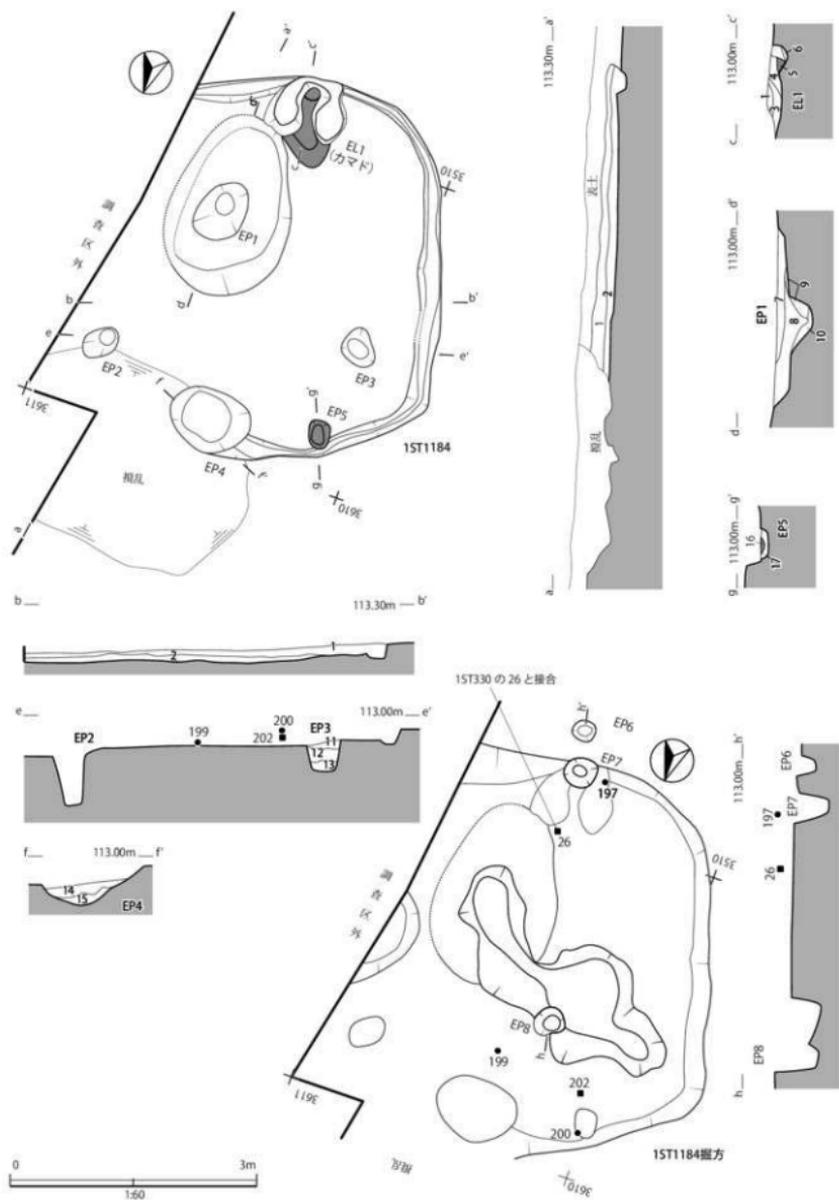
φ～10mmの暗褐色土粒を多量に含む。

1ST1184EP5 土層説明

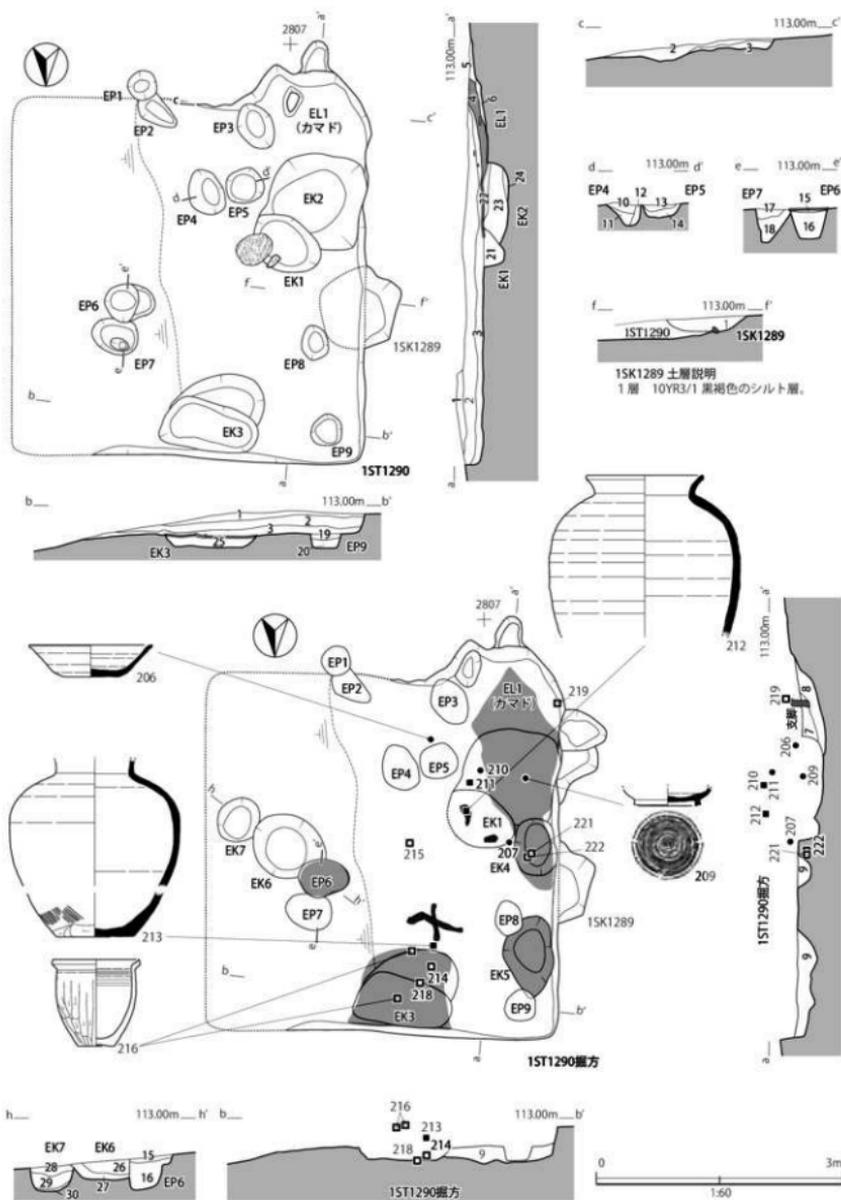
16層 10YR3/3 暗褐色のシルト層。φ～5mmの焼土粒・炭化物粒を含む。

17層 7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。φ～5mmの焼土粒・炭化物粒を含む。

第23図 竪穴建物跡12（1ST1158-2、1ST1184-1）



第 24 図 竪穴建物跡 13 (15T1184-2)



第 25 図 竪穴建物跡 14 (15T1290-1)

15T1290 土層説明

- 1層 10YR2/1 黒色のシルト層。しまりやや強い。φ～10mmの黄褐色スコリアを少量含む。
 2層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～20mmの黄褐色スコリアを含む。φ～10mmの炭化粒を少量含む。
 3層 10YR2/1 黒色のシルト層。φ～20mmの黄褐色スコリアを少量含む。焼土粒を少量含む。

15T1290E1 (カマド) 土層説明

- 4層 7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。焼土を多量に含む。φ～10mmの炭化粒を少量含む。
 5層 7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～20mmの黄褐色土粒を含む。
 6層 10YR4/3 に近い黄褐色のシルト層。しまりやや強い。

15T1290 掘方 土層説明

- 7層 10YR3/3 暗褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを斑状に含む。
 8層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～10mmの黄褐色土粒を少量含む。
 9層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。しまり強い。黄褐色土ブロックを斑状に含む。

15T1290EP4 土層説明

- 10層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～20mmの黄褐色スコリアを少量含む。
 φ～10mmの炭化粒を少量含む。棕色土を少量含む。
 11層 10YR2/1 黒色のシルト層。φ～20mmの黄褐色土粒を含む。
 12層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。

15T1290EP5 土層説明

- 13層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～10mmの炭化粒・棕色土を少量含む。
 14層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～5mmの炭化粒を少量含む。
 φ～30mmの黄褐色土を含む。

15T1290EP6 土層説明

- 15層 7.5YR4/3 褐色のシルト層。φ～10mmの炭化物粒・焼土粒を含む。
 16層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～30mmの黄褐色土粒を多量に含む。
 φ～10mmの炭化粒を少量含む。

15T1290EP7 土層説明

- 17層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～20mmの黄褐色土粒を少量含む。
 18層 10YR2/1 黒色のシルト層。φ～20mmの黄褐色土粒を含む。

15T1290EP9 土層説明

- 19層 10YR2/1 黒色のシルト層。φ～5mmの炭化粒を少量含む。
 20層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。
 φ～20mmの白色土粒(2.5YR8/2)を含む。

15T1290EK1 土層説明

- 21層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。
 φ～20mmの黄褐色土粒・炭化粒・焼土粒を少量含む。

15T1290EK2 土層説明

- 22層 10YR2/2 黒褐色のシルト層。しまりやや強い。
 φ～10mmの焼土粒を少量含む
 23層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。
 φ～20mmの黄褐色土粒・炭化粒・焼土粒を少量含む。

15T1290EK3 土層説明

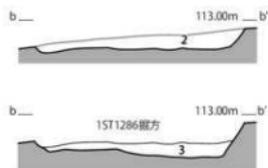
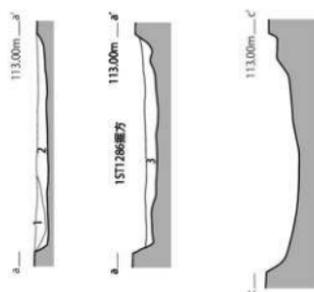
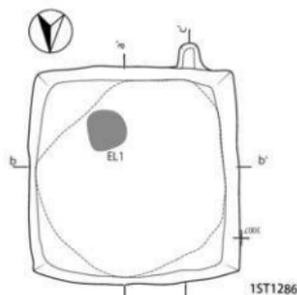
- 24層 10YR4/3 に近い黄褐色のシルト層。
 15T1290EK3 土層説明
 25層 7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。φ～20mmの焼土粒を含む。
 φ～5mmの炭化粒を少量含む。

15T1290EK6 土層説明

- 26層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。
 φ～30mmの黄褐色スコリアを多量に含む。
 27層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～5mmの炭化粒を少量含む。

15T1290EK7 土層説明

- 28層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。
 φ～30mmの黄褐色スコリアを少量含む。
 29層 10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～20mmの黄褐色土粒を少量含む。
 30層 10YR4/4 褐色のシルト層。しまりやや強い。
 φ～5mmの炭化物粒を少量含む。

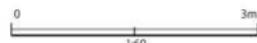


15T1286 土層説明

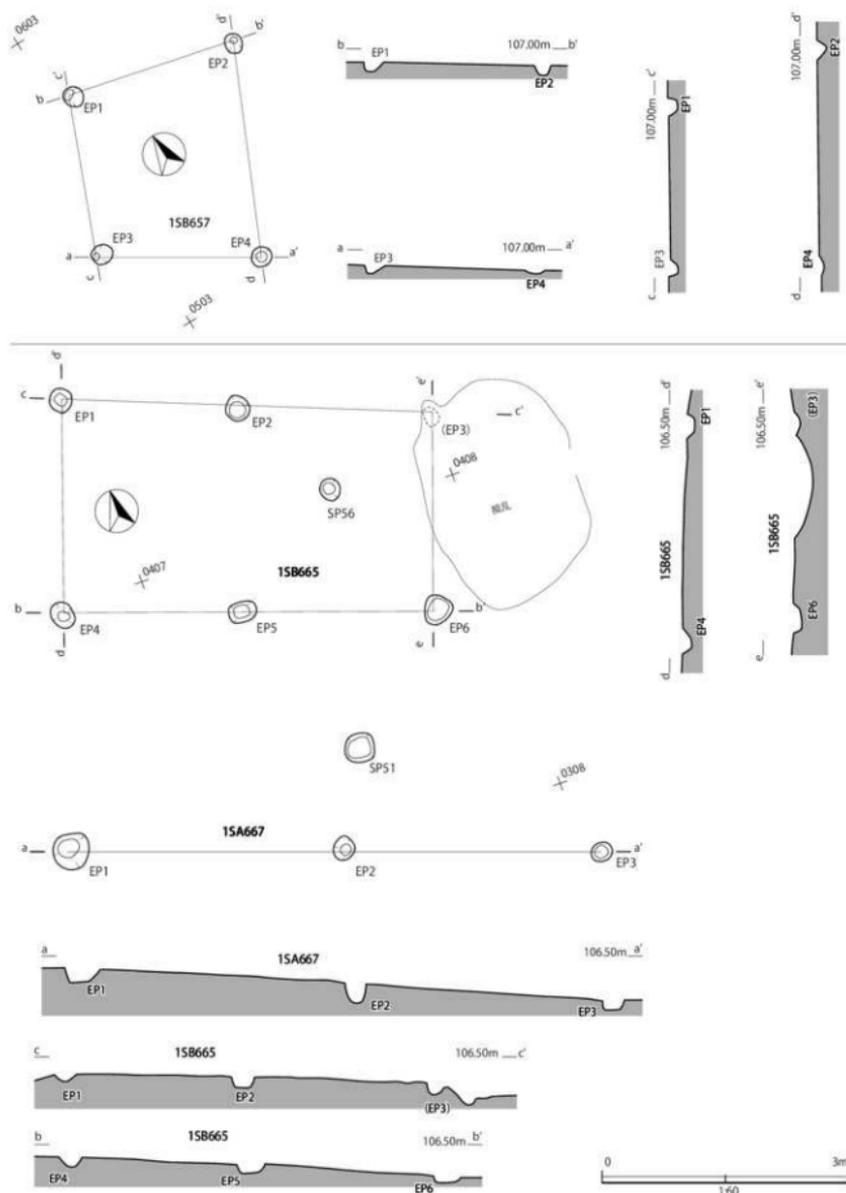
- 1層 10YR4/3 に近い黄褐色のシルト層。φ～10mmの黄褐色スコリアを含む
 2層 10YR1.7/1 黒色のシルト層(黒ボク土)。

15T1286 掘方土層説明

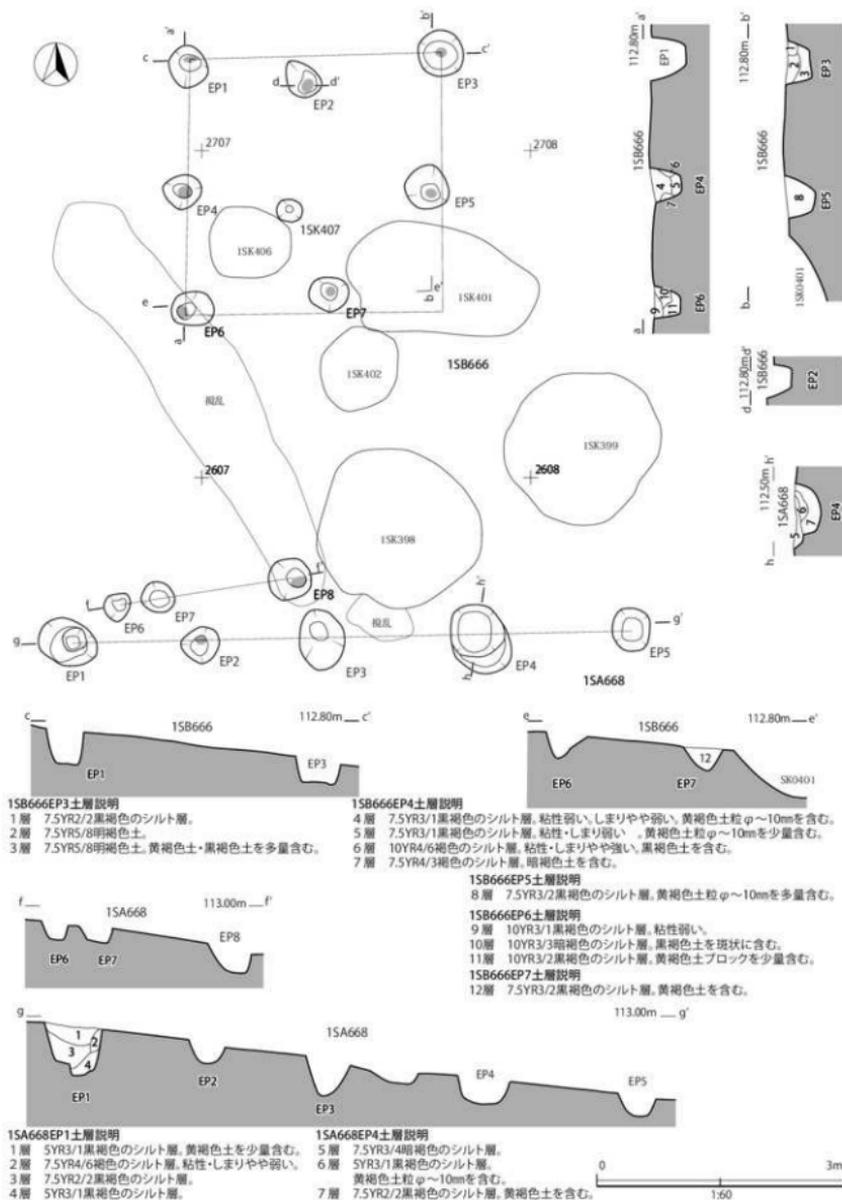
- 3層 10YR1.7/1 黒色シルト層(黒ボク土)。黄褐色土を斑状に含む。



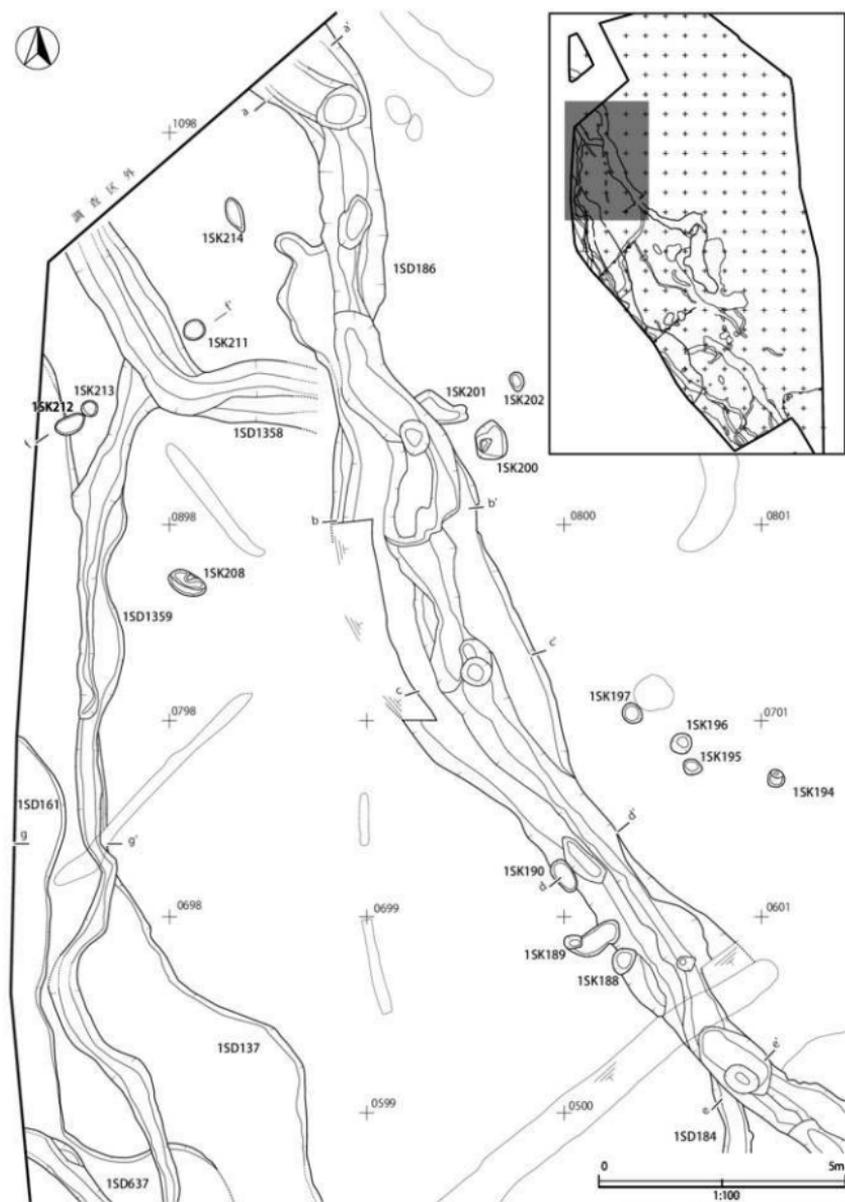
第26図 竪穴建物跡15 (15T1290-2、15T1286)



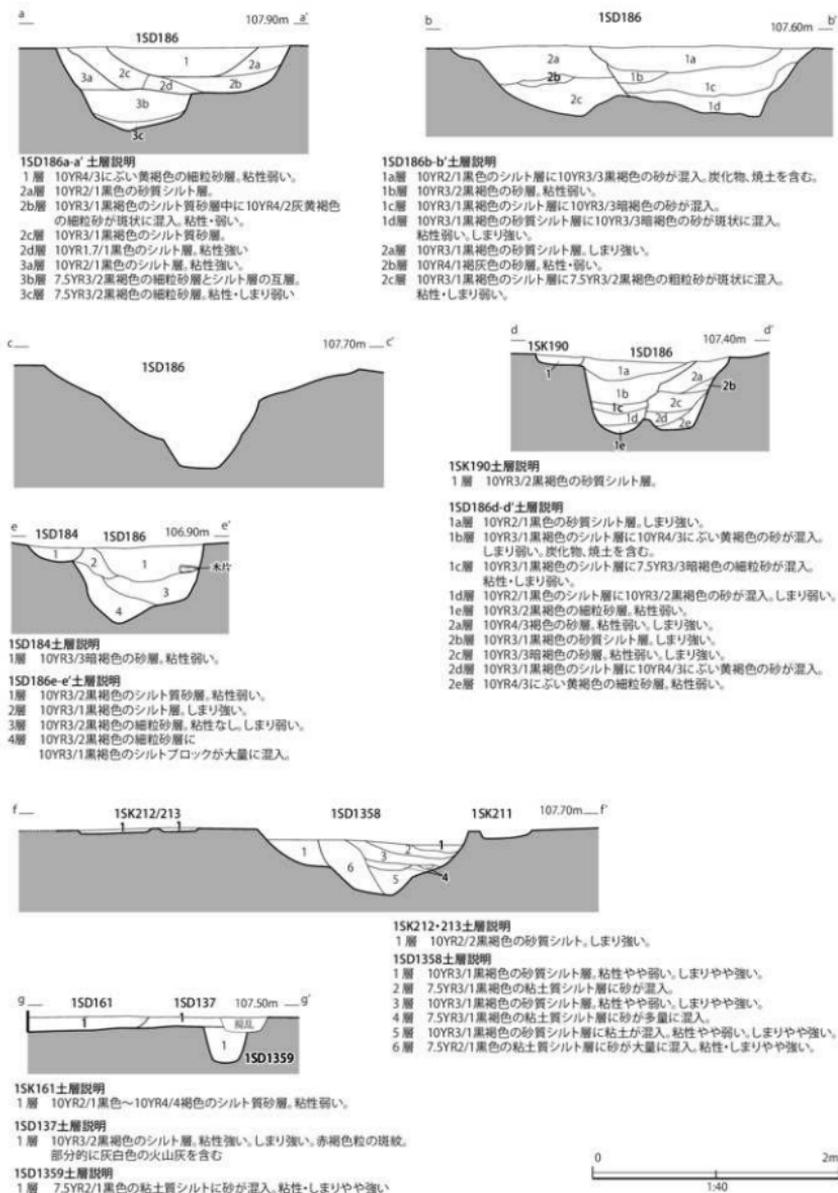
第 27 図 掘立柱建物跡 1 (15B657、15B665、15A667)



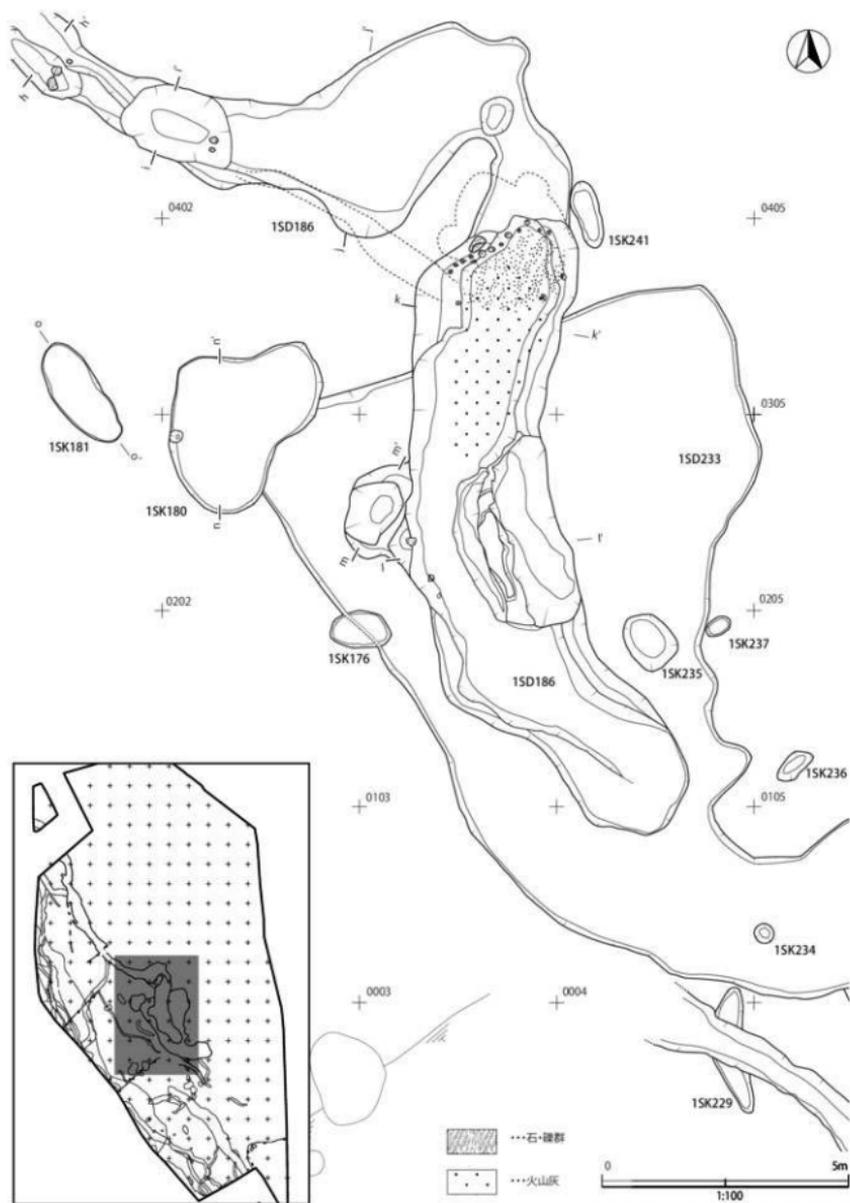
第28図 掘立柱建物跡2 (15B666、15A668)



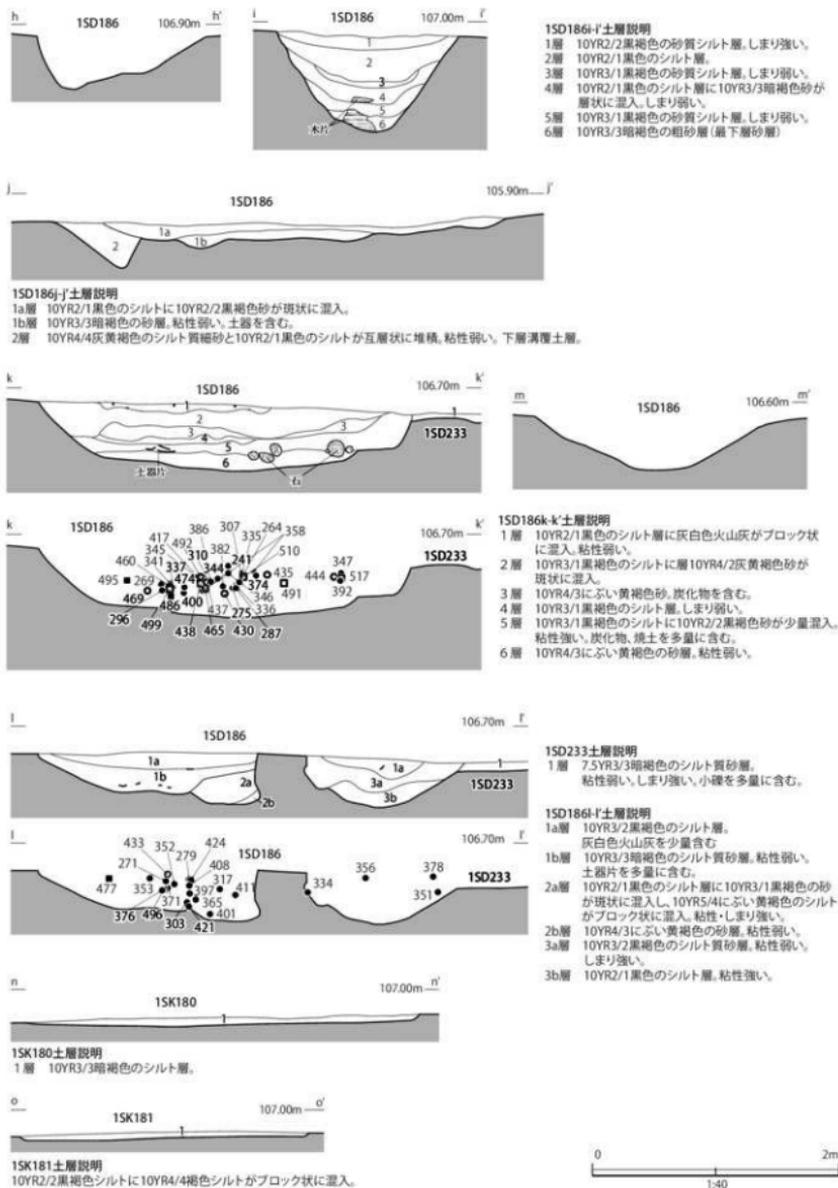
第30図 河川跡1 (北部平面図)



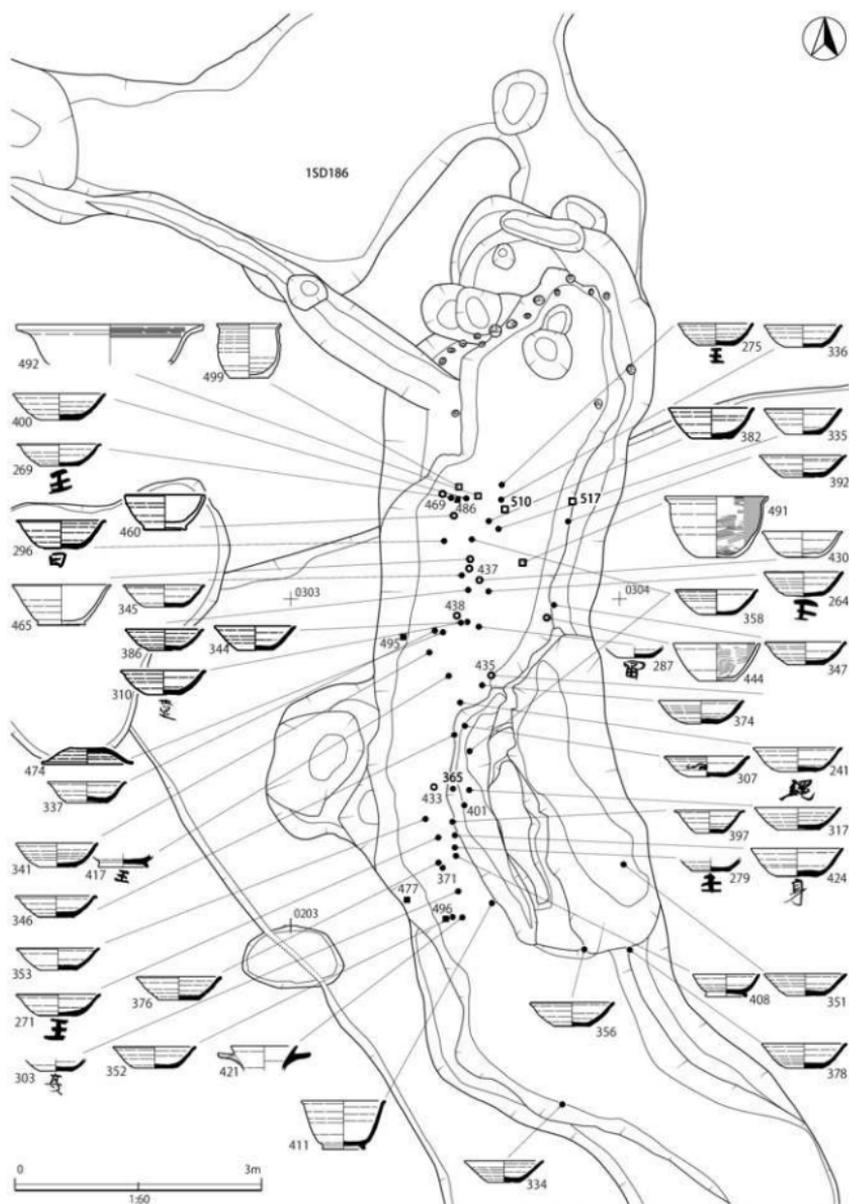
第31図 河川跡2（北部断面図）



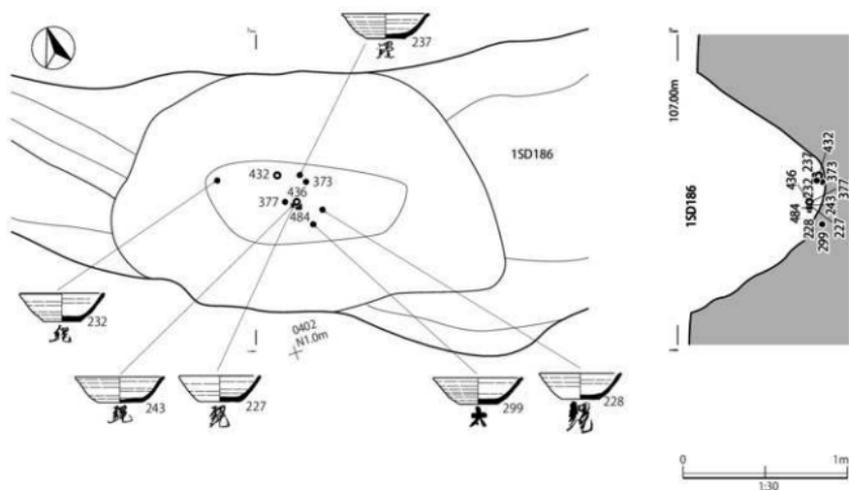
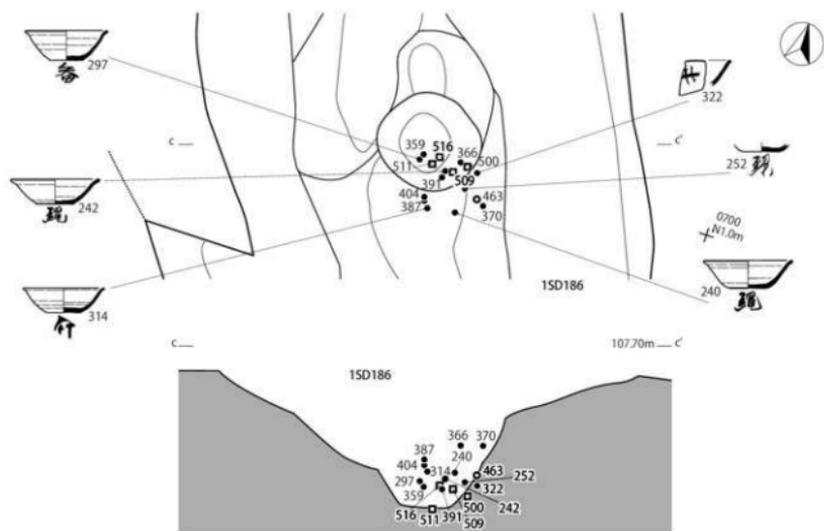
第 32 図 河川跡 3 (中央東側平面図)



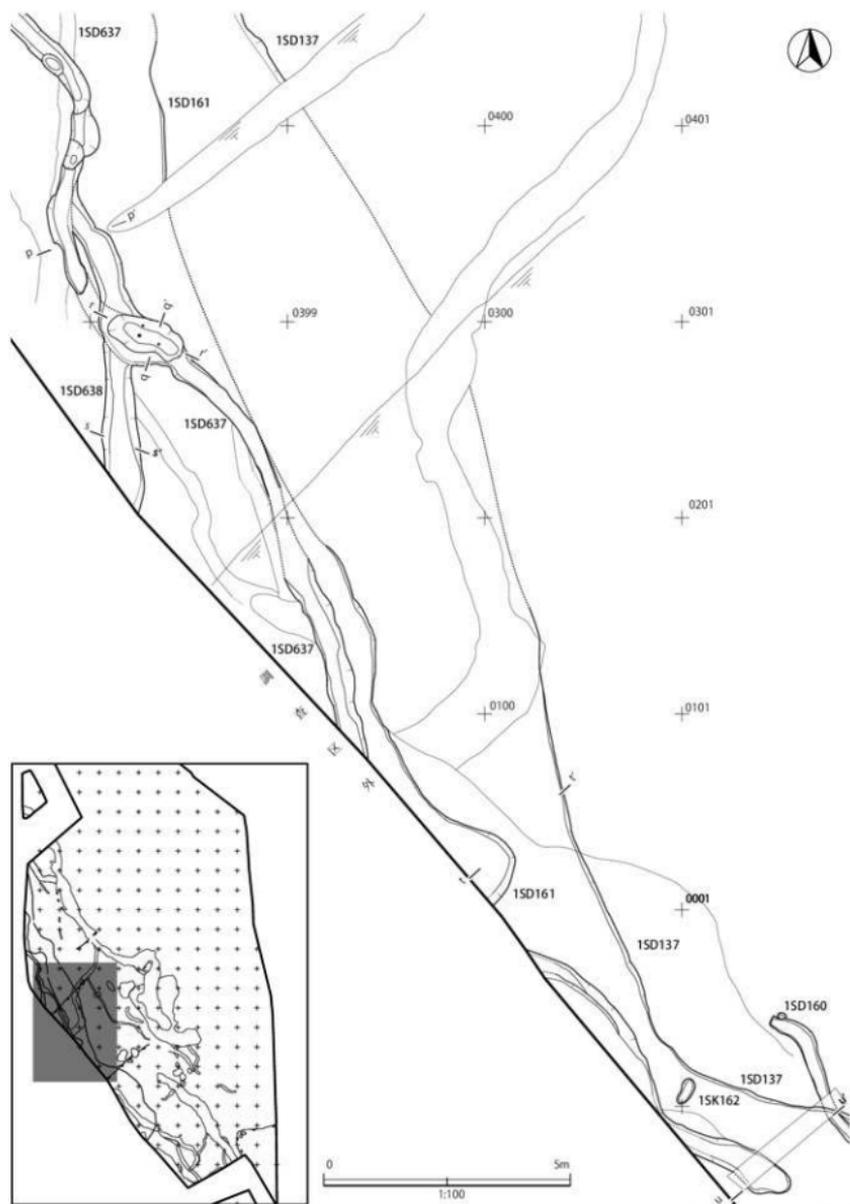
第33図 河川跡4(中央東側断面図)



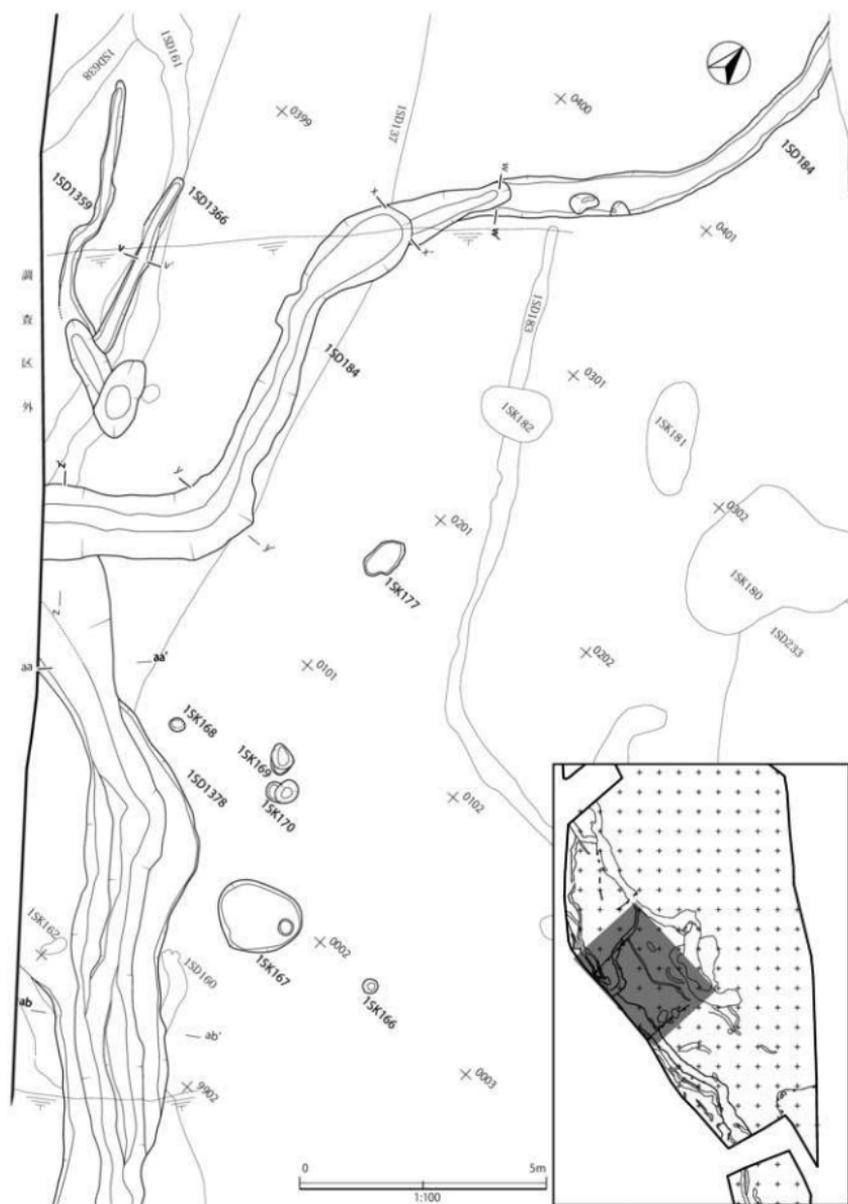
第34図 河川跡5 (15D186 遺物出土状況図1)



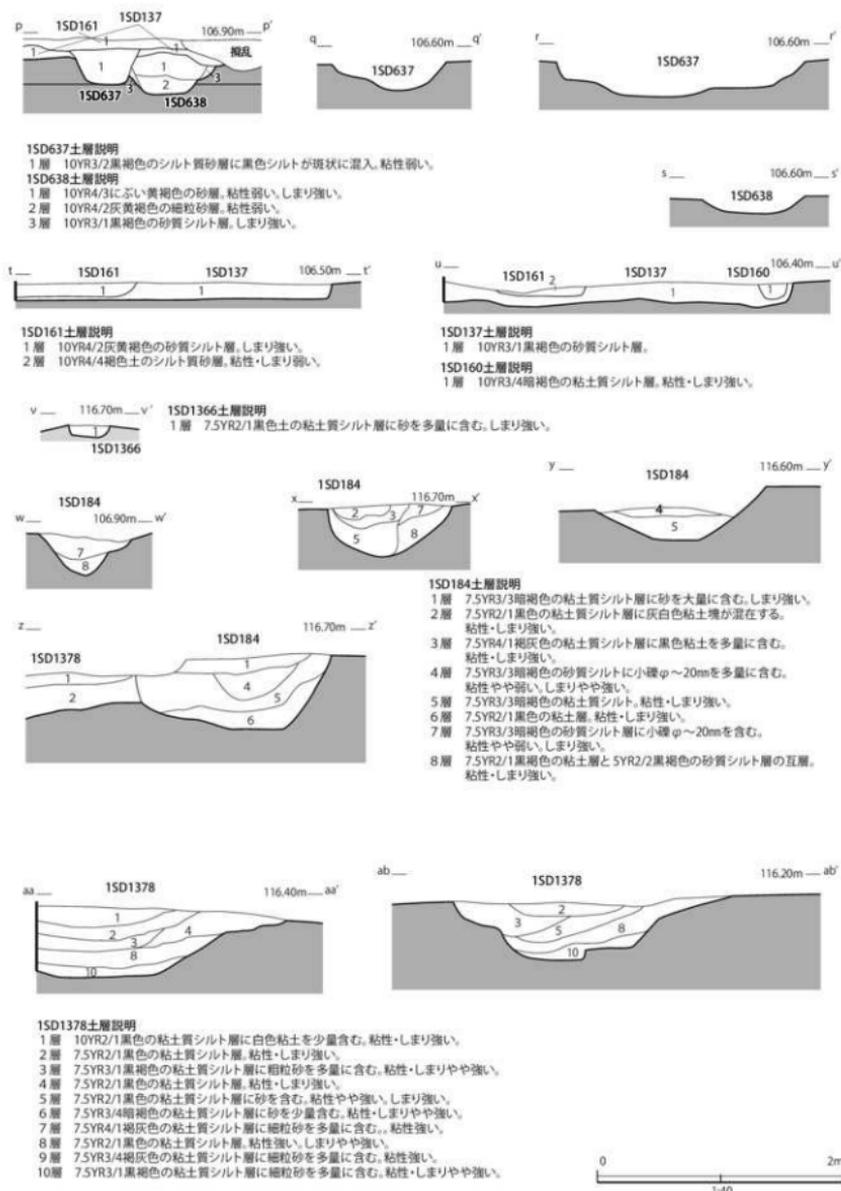
第36図 河川跡7 (ISD186 遺物出土状況図3)



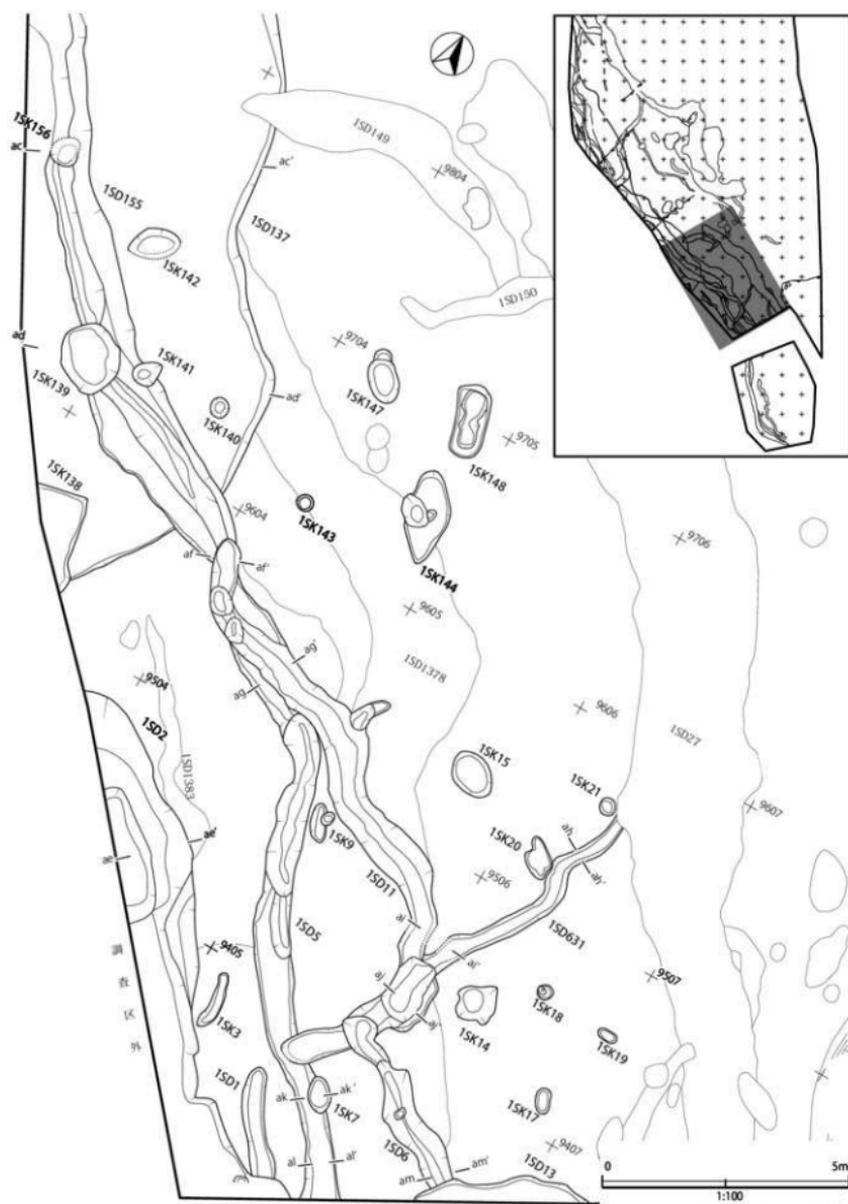
第37図 河川跡8 (中央西側上層平面図)



第38図 河川跡9 (中央西側下層平面図)



第39図 河川跡10(中央西側上・下層断面図)

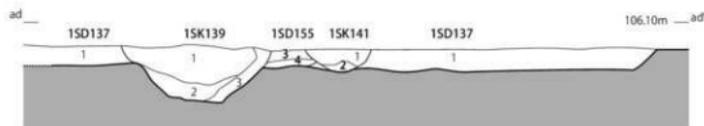






1SK156土層説明

1層 5YR2/2黒褐色の砂質シルト層, しまり強い。



1SD155土層説明

1層 10YR2/2黒褐色の粗粒砂層, 粘性弱い, しまり強い, 赤褐色土粒を含む。
 2層 10YR3/4暗褐色の砂質シルト層, しまり強い。
 3層 5YR2/1黒褐色のシルト質粘土層, 粘性・しまり強い, 黄褐色土ブロックを含む。
 4層 7.5YR3/1黒褐色の砂質シルト層, しまり強い。

1SK139土層説明

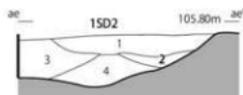
1層 7.5YR7/2明褐灰色の粘土層, 粘性・しまり強い, 赤褐色土粒を含む。
 2層 5YR5/2灰褐色土の粘土質シルト層, 粘性・しまり強い, 黄褐色・暗褐色土塊を含む。
 3層 5YR2/1黒褐色土の粘土質シルト層, 粘性・しまり強い, 黄褐色土塊を含む。

1SK141土層説明

1層 10YR3/2黒褐色の粘土質シルト層, 粘性強い, しまり強い。
 2層 10YR3/3暗褐色のシルト層, 粘性強, しまり強, 赤褐色土粒多量。

1SD2土層説明

1層 2.5YR2/2黒褐色のシルト層, 粘性強, しまり強, 赤褐色土粒を含む。
 2層 10YR3/3暗褐色のシルト層, 粘性強, しまり強, 赤褐色土粒多量。
 3層 7.5YR2/1黒色の砂質シルト層, 粘性強, しまり強。
 4層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層, 粘性強, しまり強, 黄褐色土粒を含む。

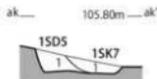


1SD11土層説明

1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い。

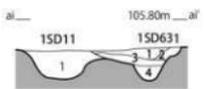
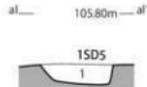
1SD5土層説明

1層 10YR4/6褐色の砂質シルト層, 粘性やや弱い, しまり強い。



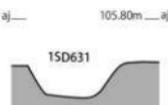
1SK7土層説明

1層 7.5YR3/4暗褐色の砂層, 粘性やや弱い。



1SD631土層説明

1層 7.5YR3/4暗褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い。
 2層 10YR2/3黒褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い, 赤褐色土粒多量。
 3層 7.5YR3/4暗褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い, 赤褐色土粒を含む。
 4層 5YR2/2黒褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い, 黒色, 黄褐色土塊を含む。

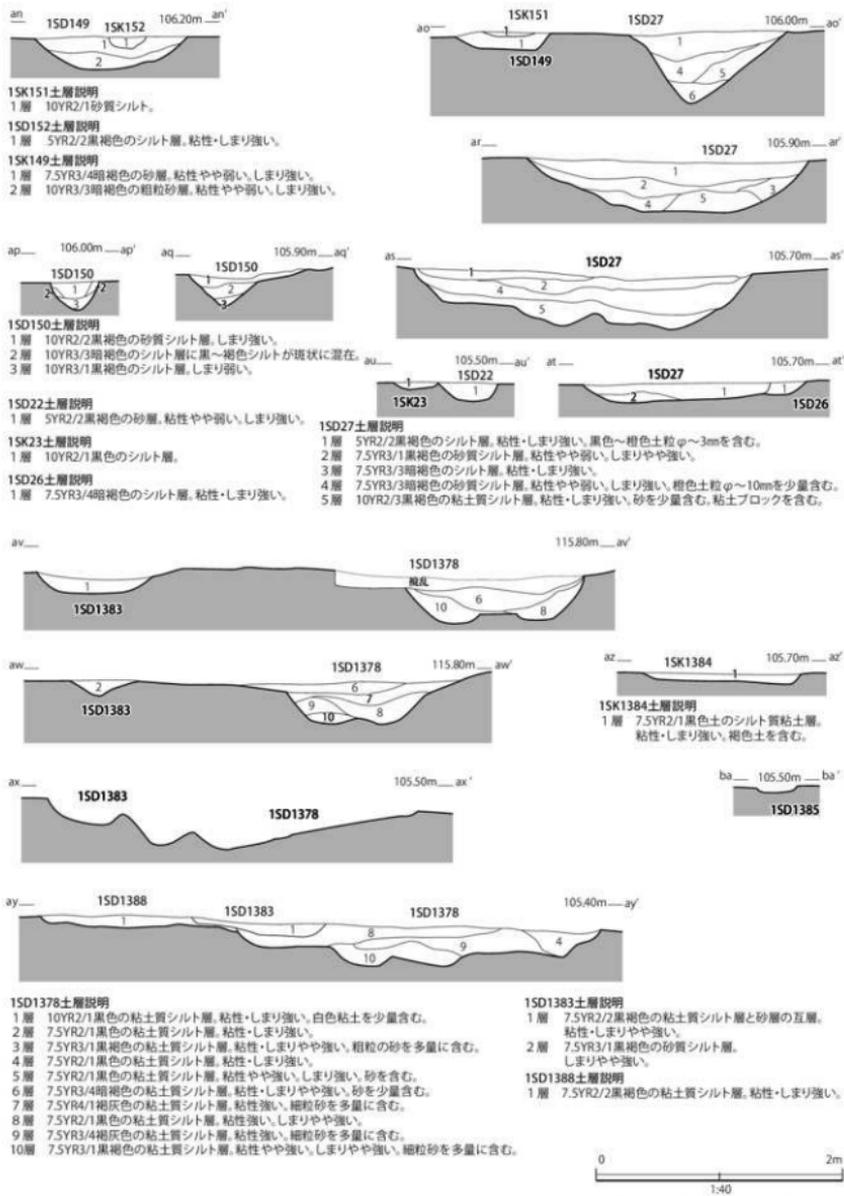


1SD6土層説明

1層 5YR2/2黒褐色のシルト層, 粘性強い, しまり強い。
 2層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層, 粘性強い。
 3層 7.5YR3/4暗褐色の粘土質シルト層, 粘性強い。



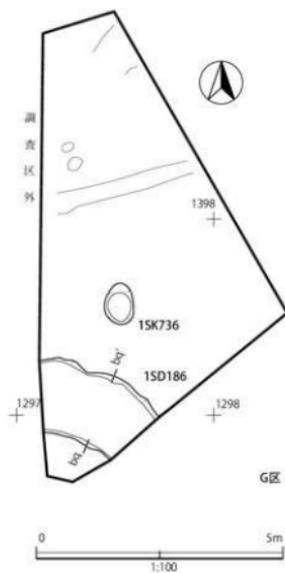
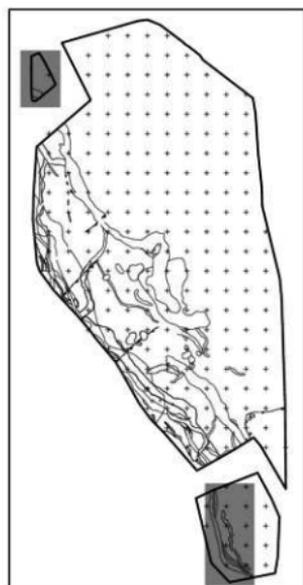
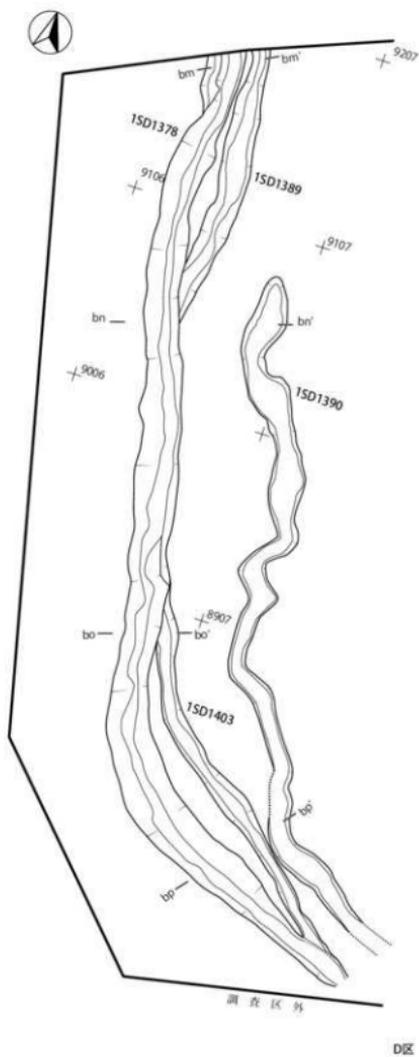
第42図 河川跡13(南部断面図1)



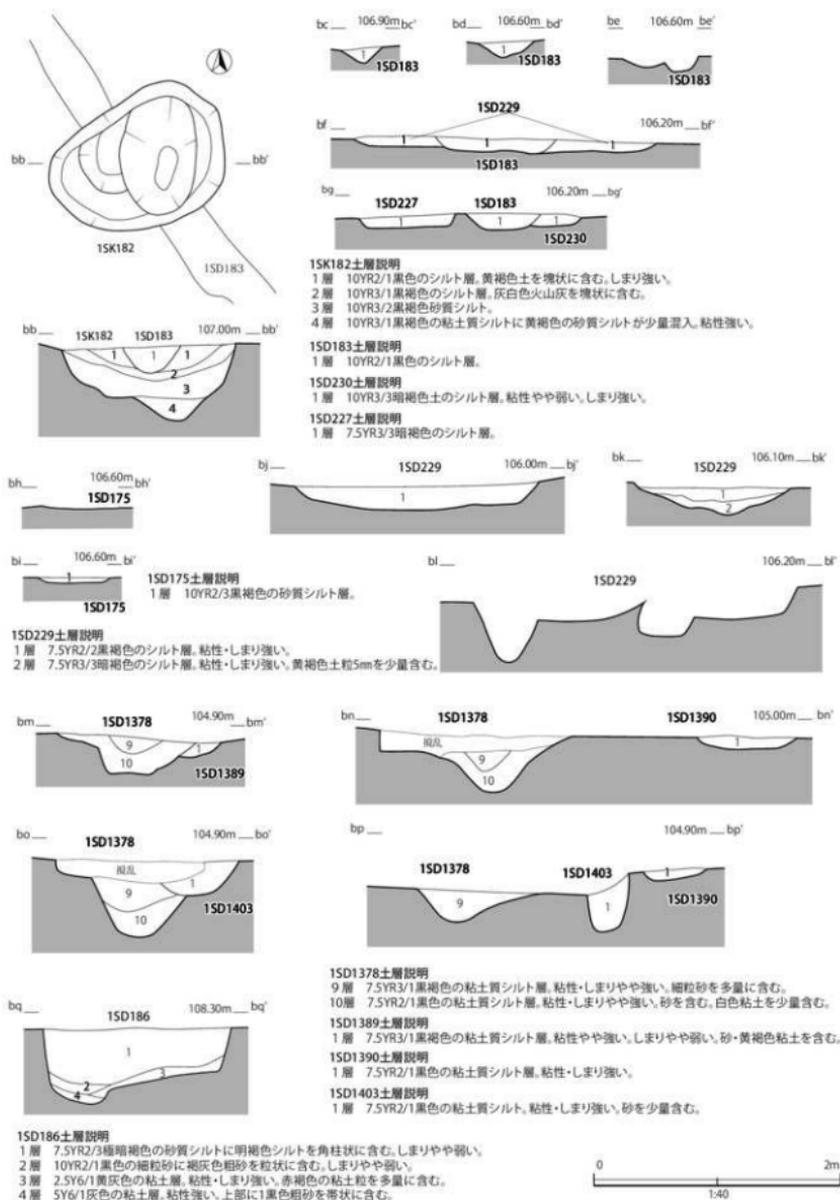
第43図 河川跡14(南部断面図2)



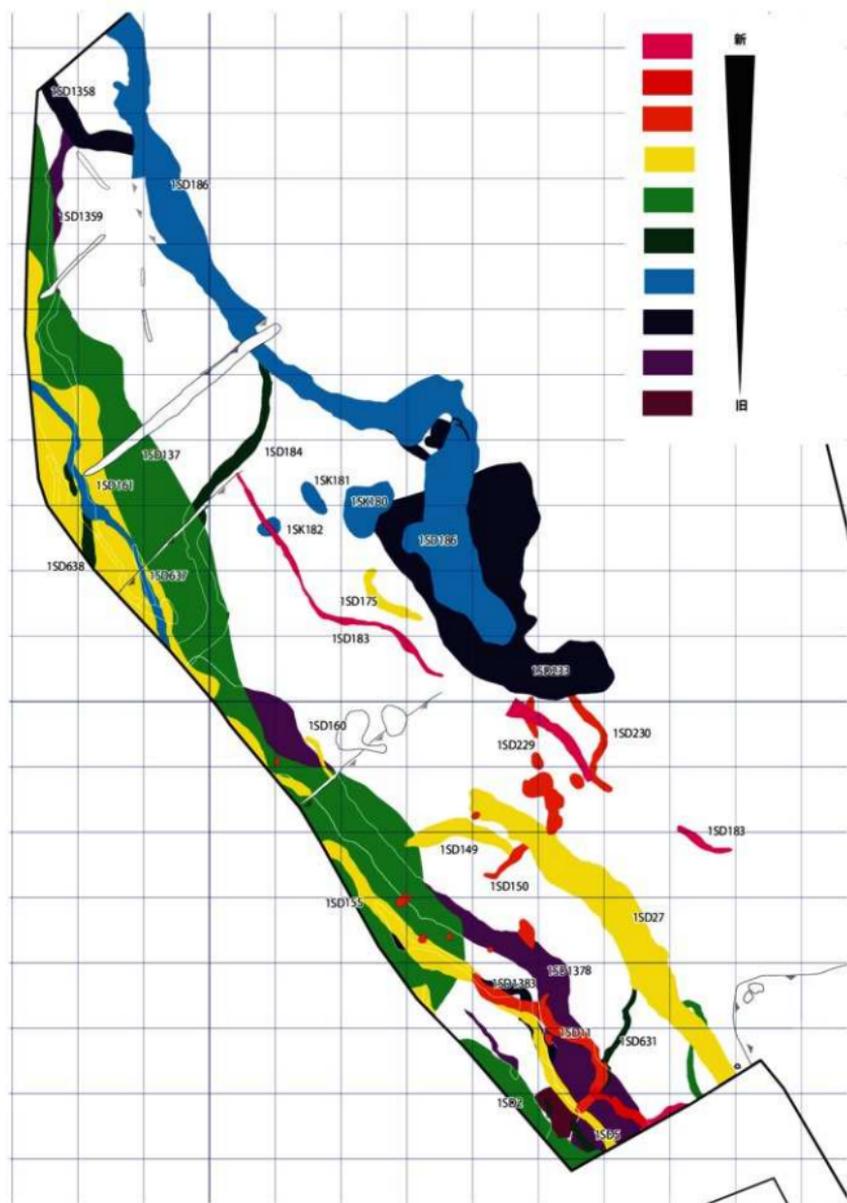
第 44 図 河川跡 15 (中央部平面図)

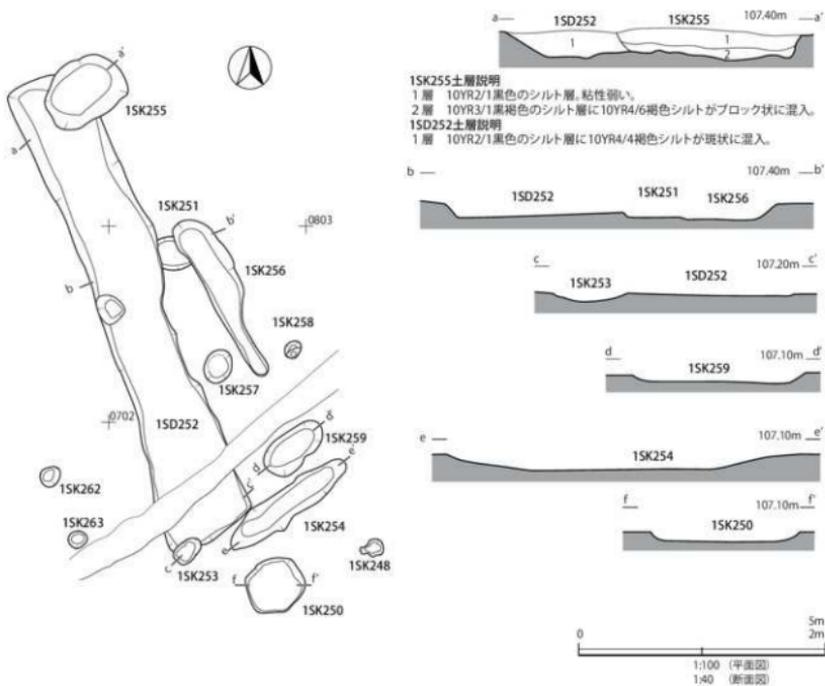
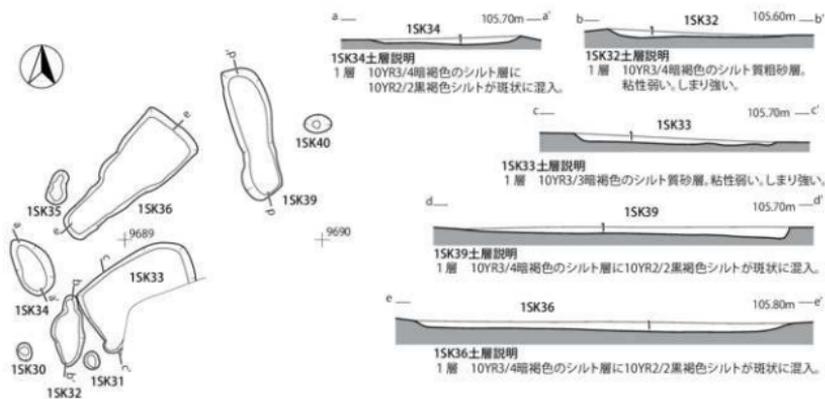


第45図 河川跡16 (D・G区平面図)

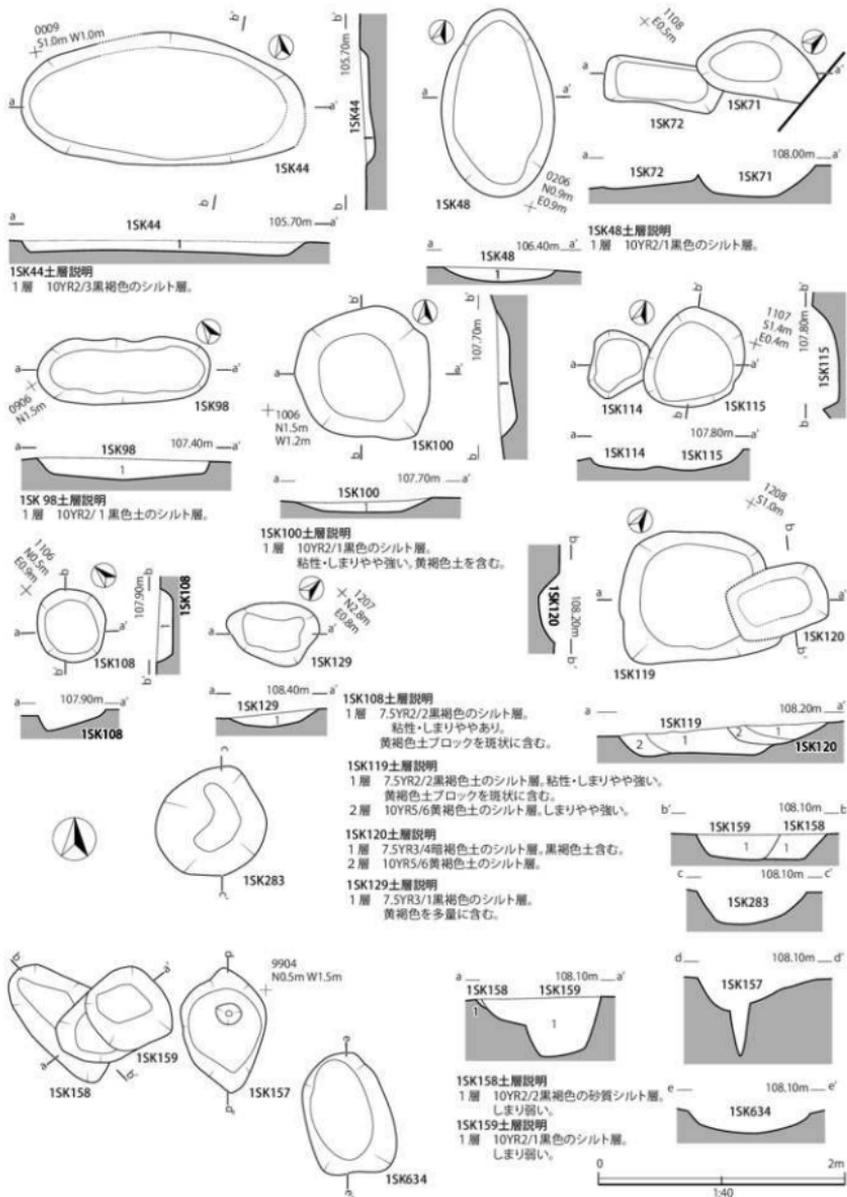


第46回 河川跡17(中央部、D・G区断面図)

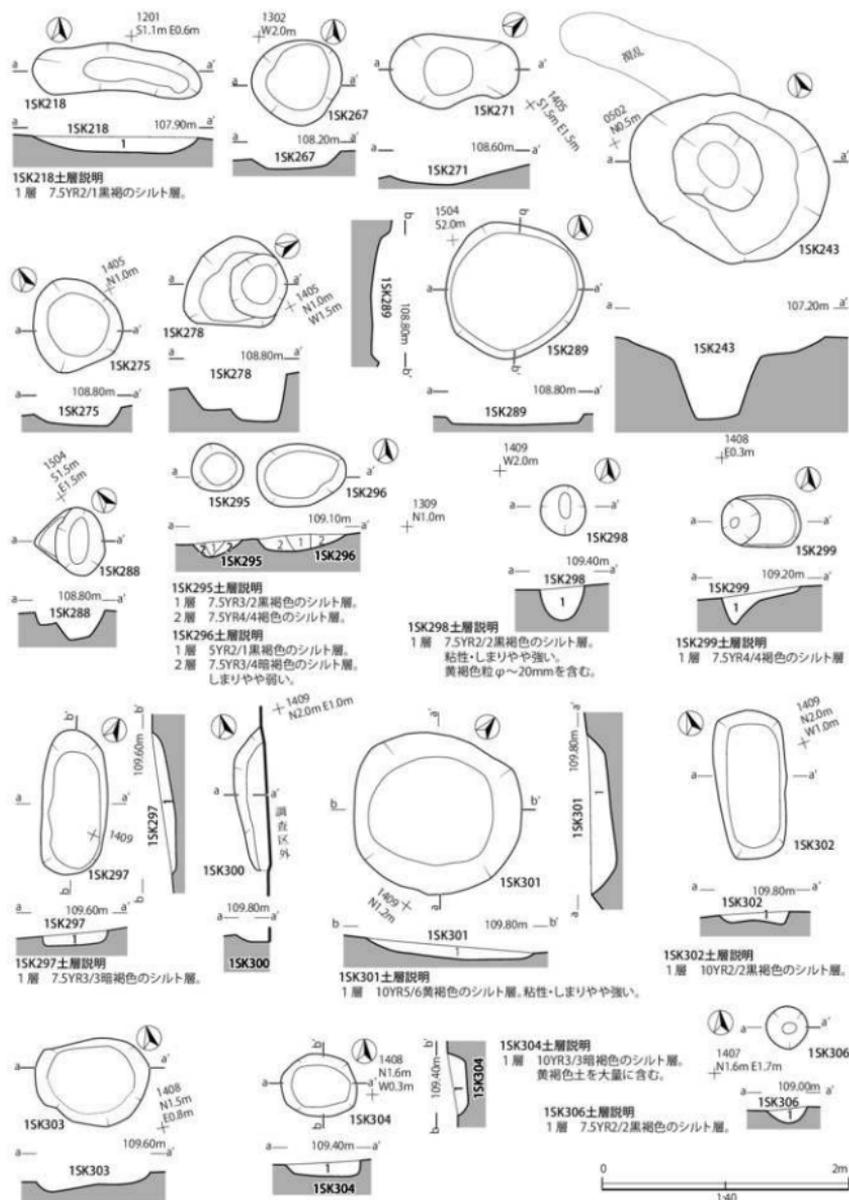




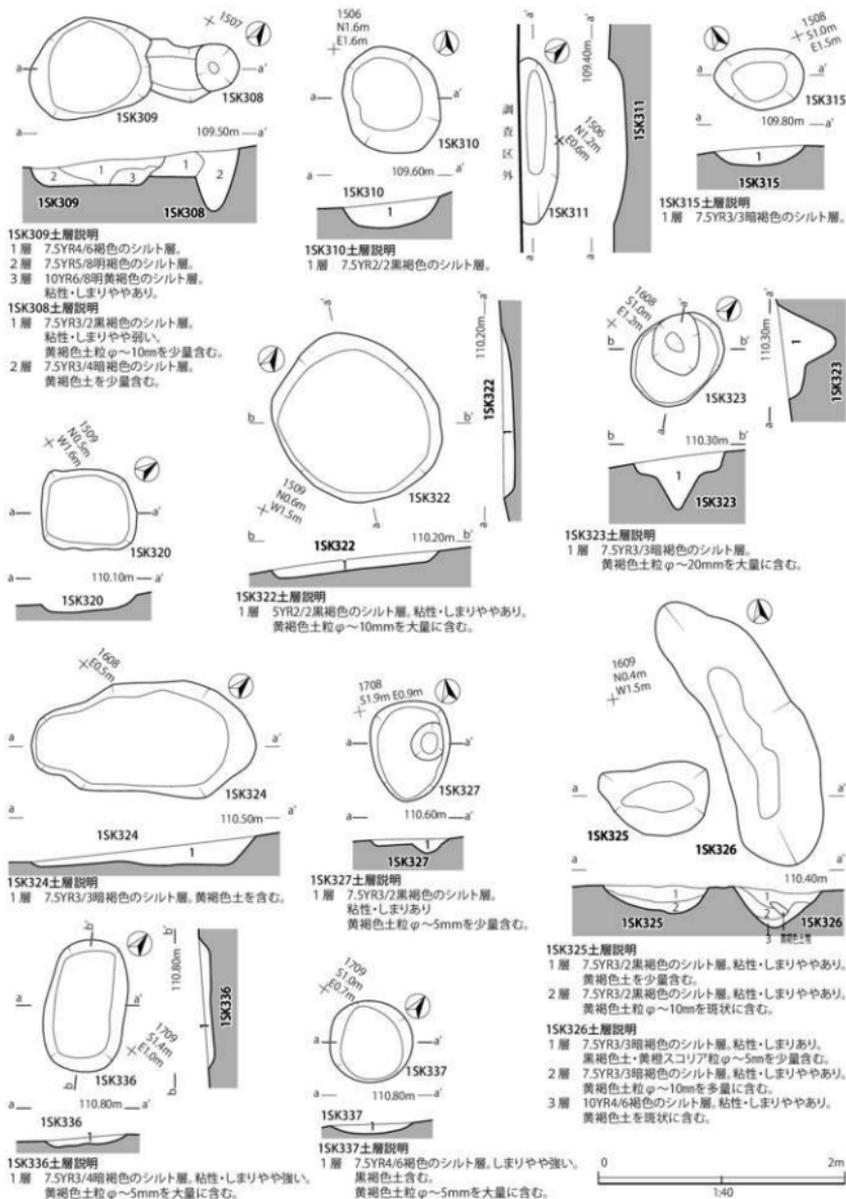
第48図 土坑ほか1 (A区-1)

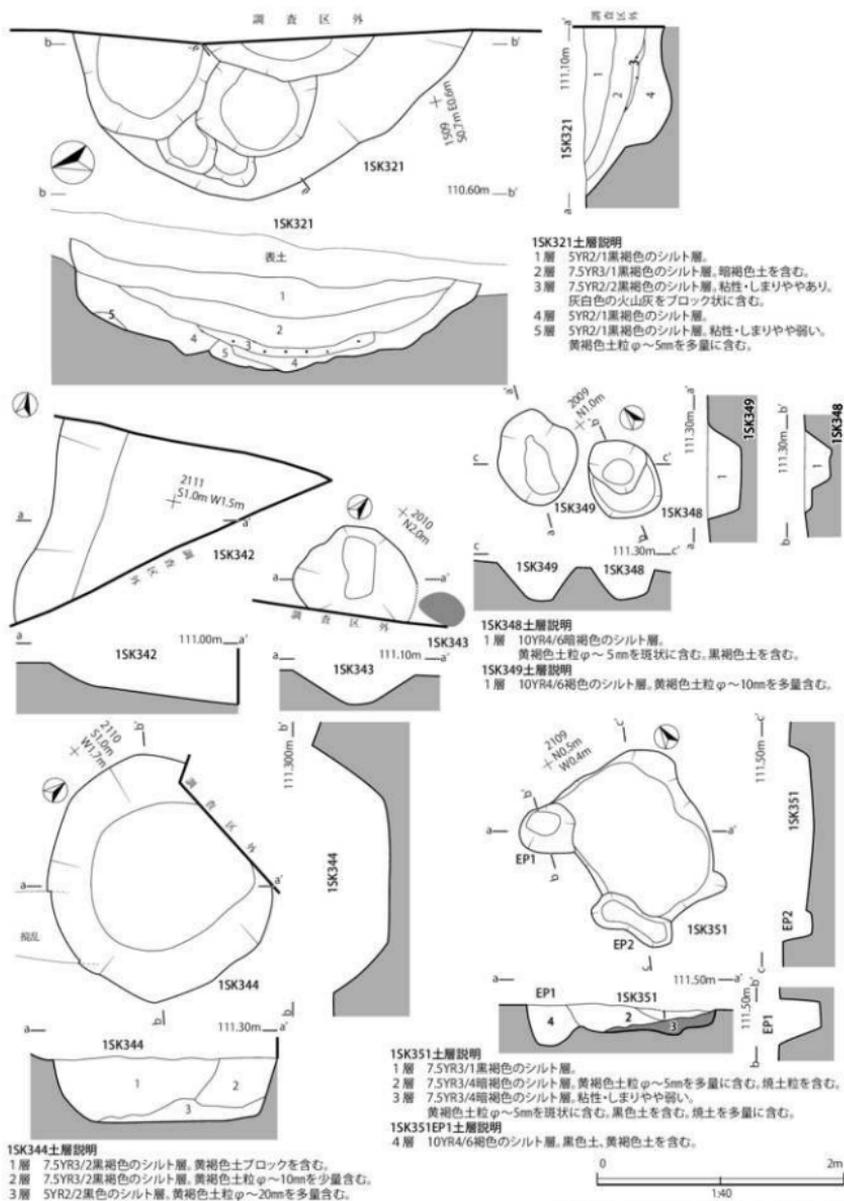


第49図 土坑ほか2 (A区-2)

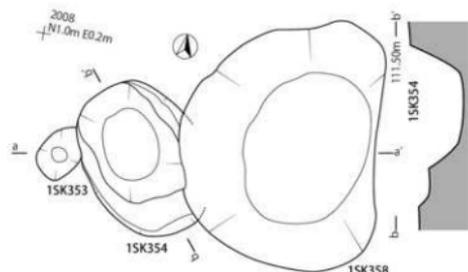


第50図 土坑ほか3 (A区-3、B区-1)

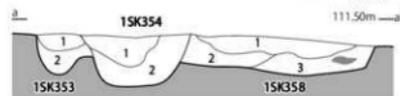




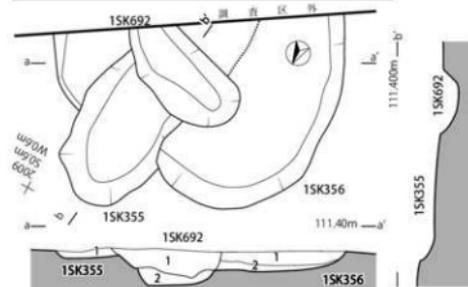
第52図 土坑ほか5 (B区-3、C区-1)

**15K353土層説明**

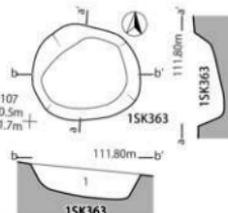
- 1層 10YR3/3暗褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~5mmを含む。
- 2層 10YR4/6褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~10mmを斑状に含む。

**15K354土層説明**

- 1層 10YR2/2黒褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~5mmを含む。
- 2層 10YR3/1黒褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。黄褐色土粒φ~5mmを斑状に含む。

**15K358土層説明**

- 1層 10YR2/2黒褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~5mmを少量含む。炭化粒・焼土粒を含む。
- 2層 10YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ~10mmを斑状に含む。焼土粒を含む。
- 3層 7.5YR4/4褐色のシルト層, 粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ~5mmを含む。炭化粒を含む。焼土を多量に含む。

**15K363土層説明**

- 1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。黄褐色土粒を含む。黄褐色土を斑状に含む。

15K355土層説明

- 1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~5mmを少量含む。

15K356土層説明

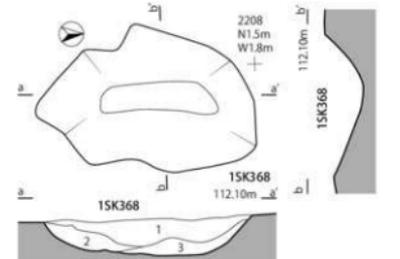
- 1層 7.5YR3/4暗褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~20mmを含む。焼土, 炭化粒を少量含む。
- 2層 7.5YR3/4暗褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。黄褐色土粒φ~10mmを斑状に含む。

15K692土層説明

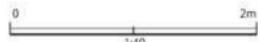
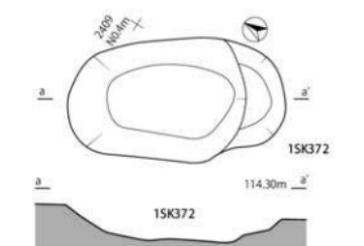
- 1層 7.5YR2/2暗褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。黄褐色土粒φ~5mmを斑状に含む。
- 2層 7.5YR2/2暗褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。

**15K369土層説明**

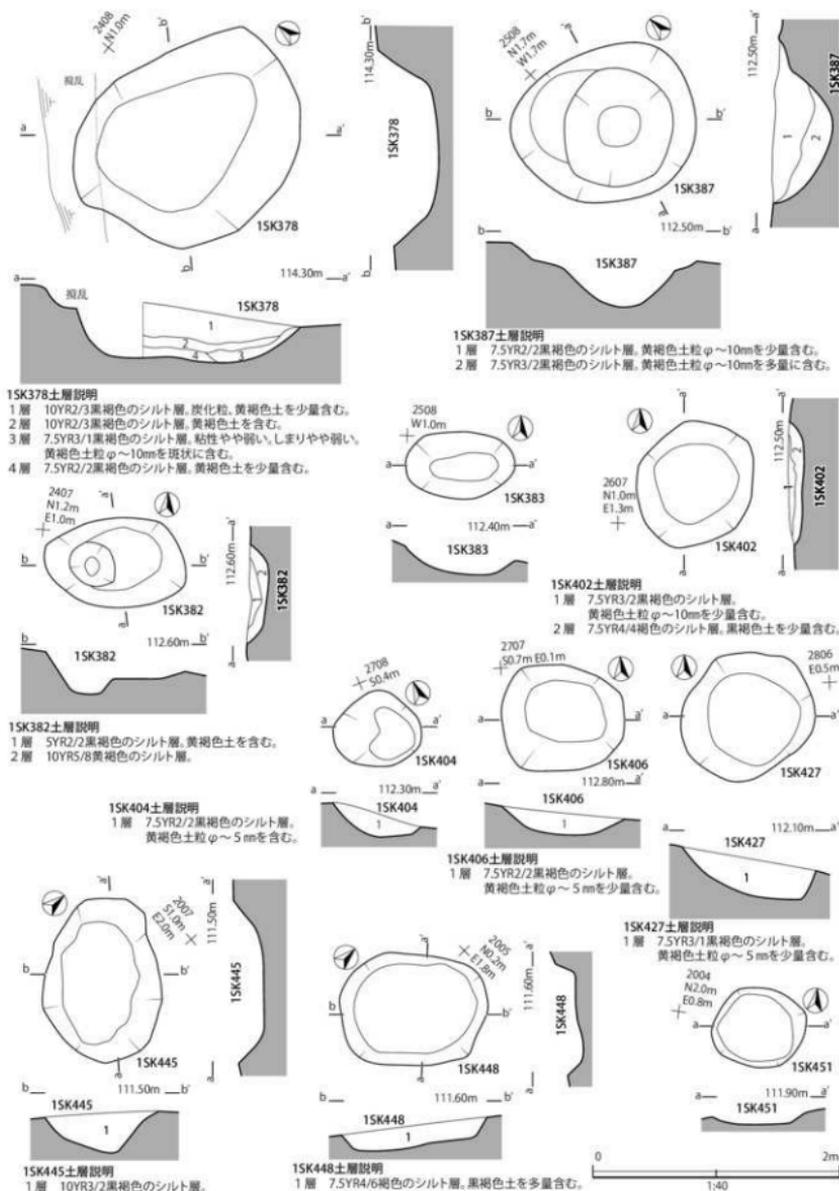
- 1層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~10mmを含む。

**15K368土層説明**

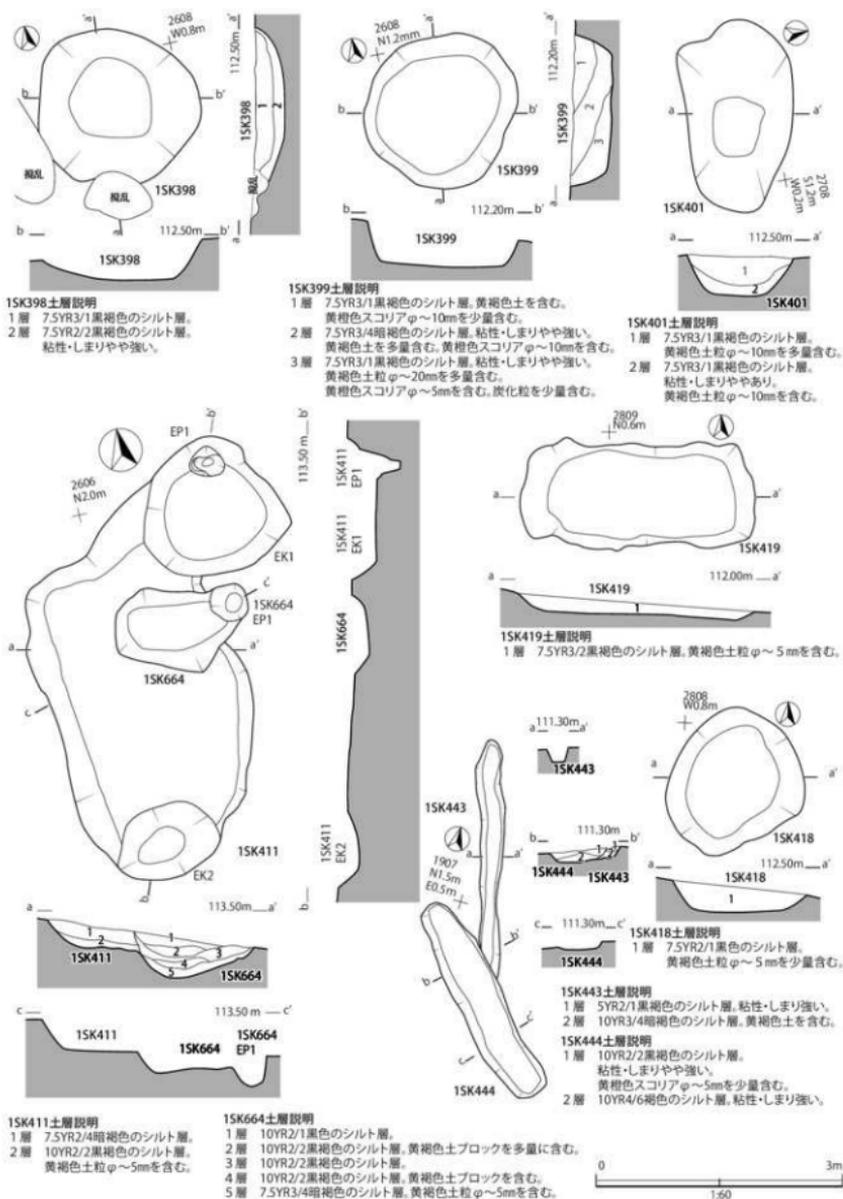
- 1層 5YR2/1黒褐色のシルト層, 粘性・しまりやや弱い。黄褐色土を少量含む。
- 2層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~10mmを斑状に含む。
- 3層 5YR2/1黒褐色のシルト層, 黄褐色土粒φ~10mmを含む。



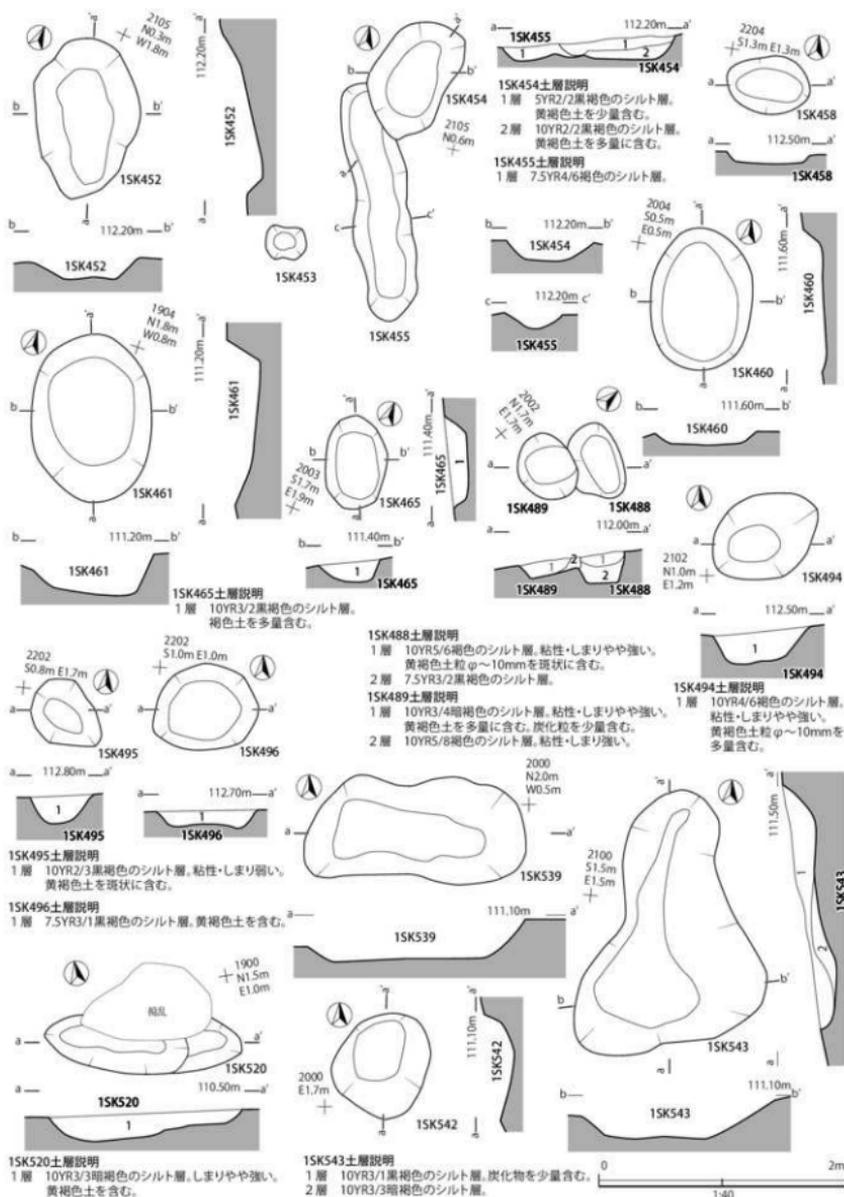
第53図 土坑ほか6 (C区-2)



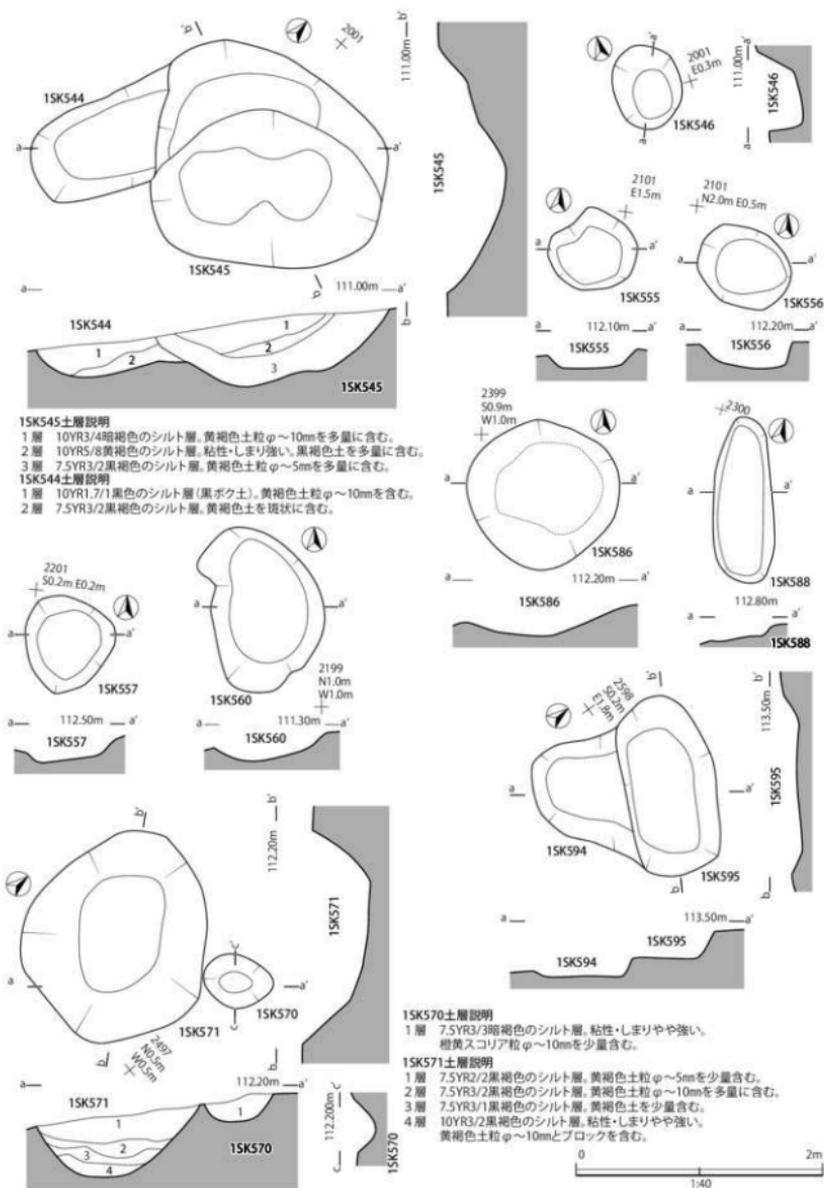
第54図 土坑ほか7 (C区-3)



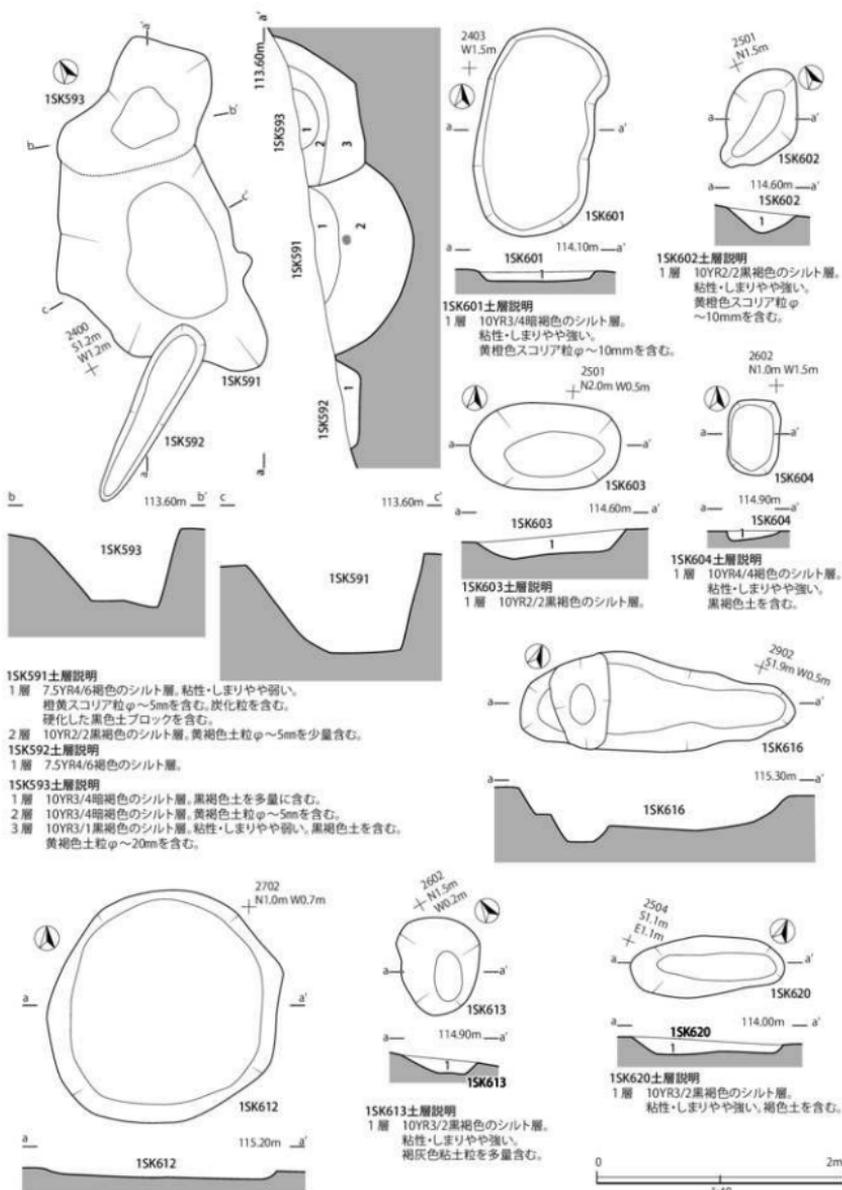
第55図 土坑ほか8 (C区-4)



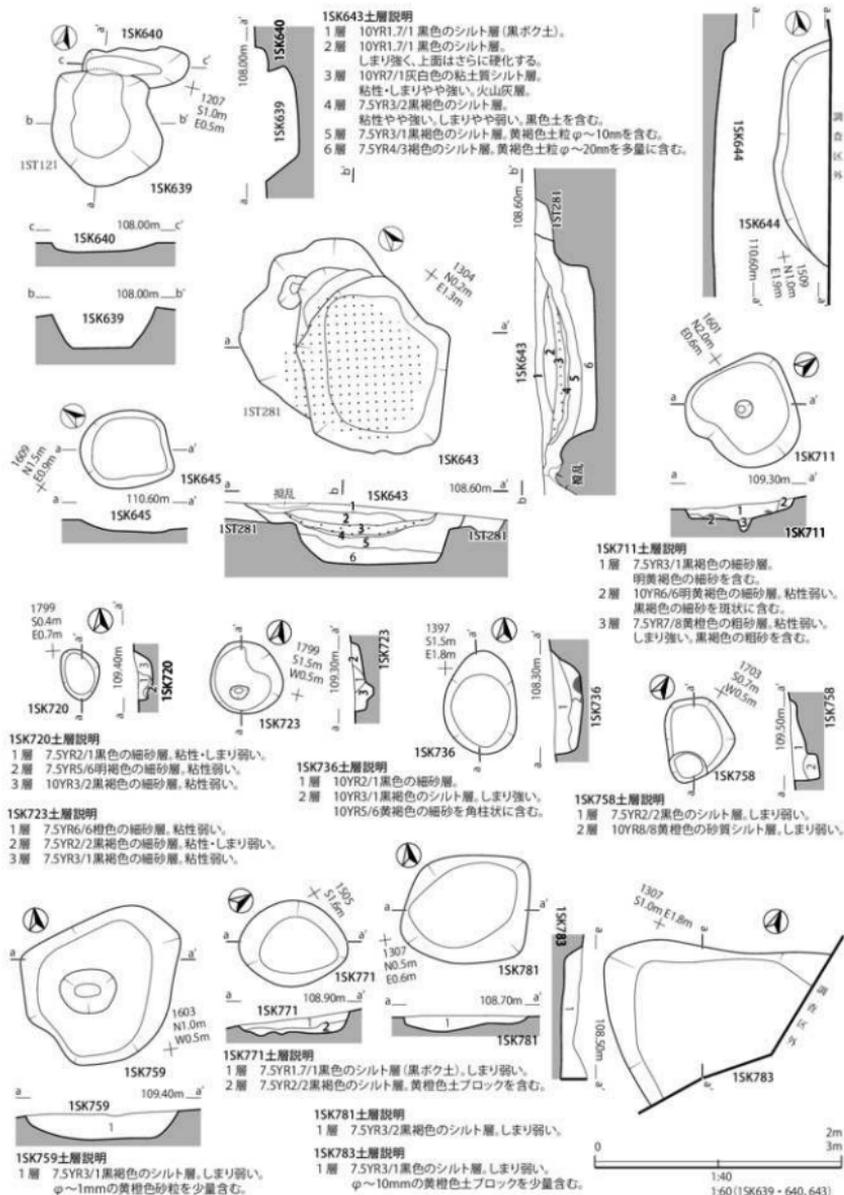
第56図 土坑ほか9 (C区-5)



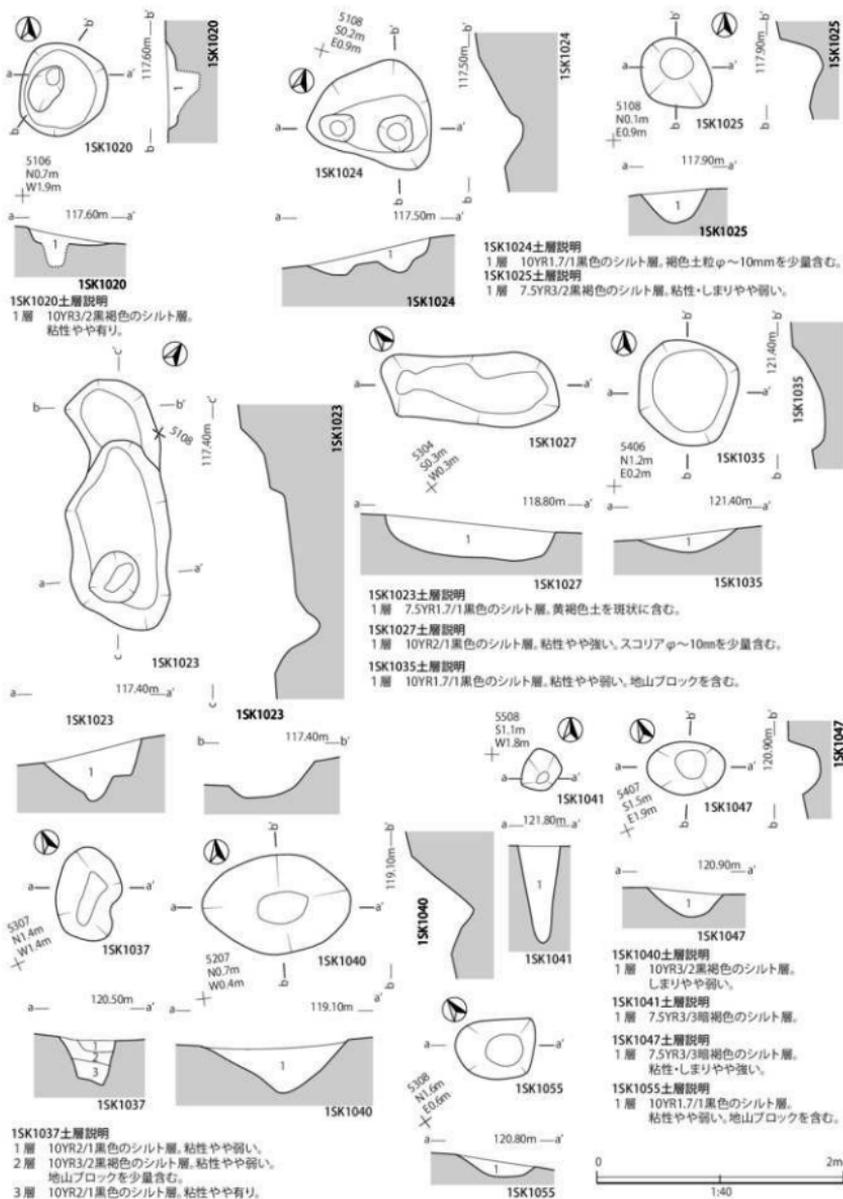
第57図 土坑ほか10 (C区-6)

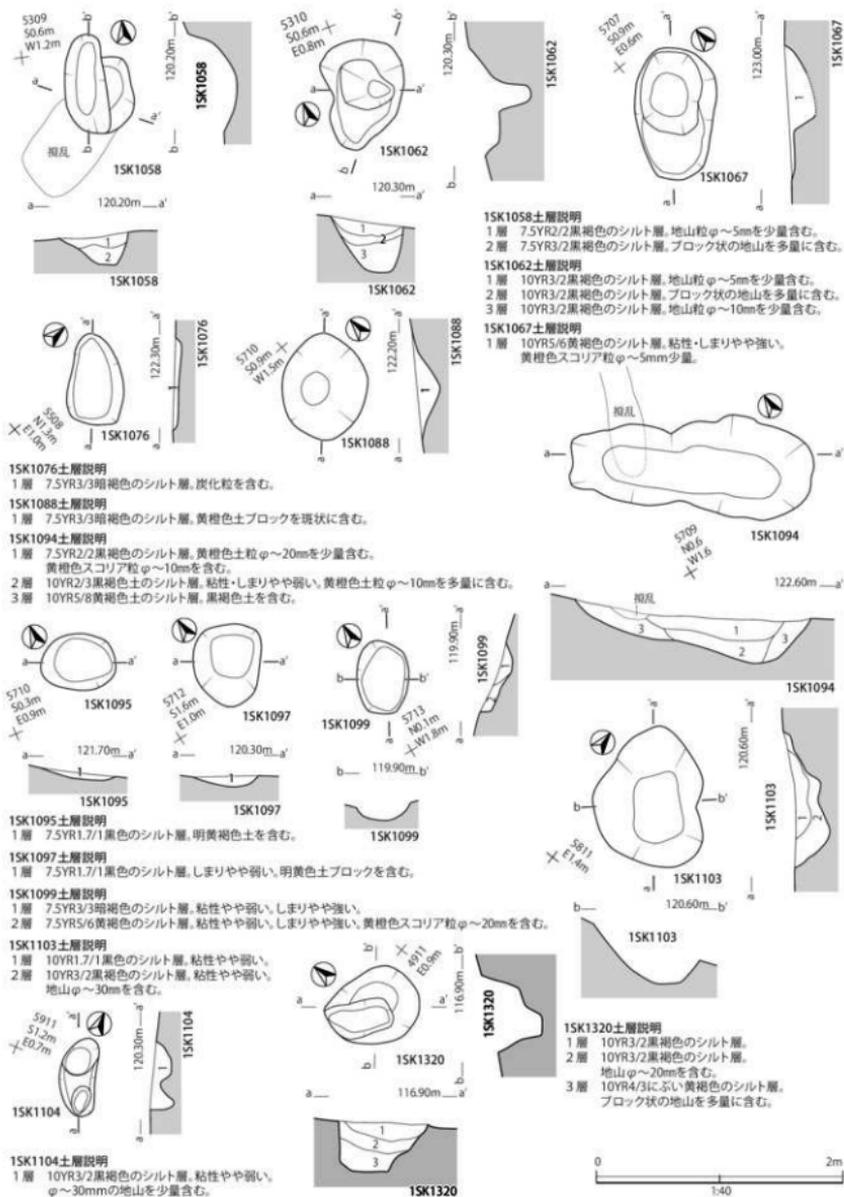


第58図 土坑ほか11 (C区-7)

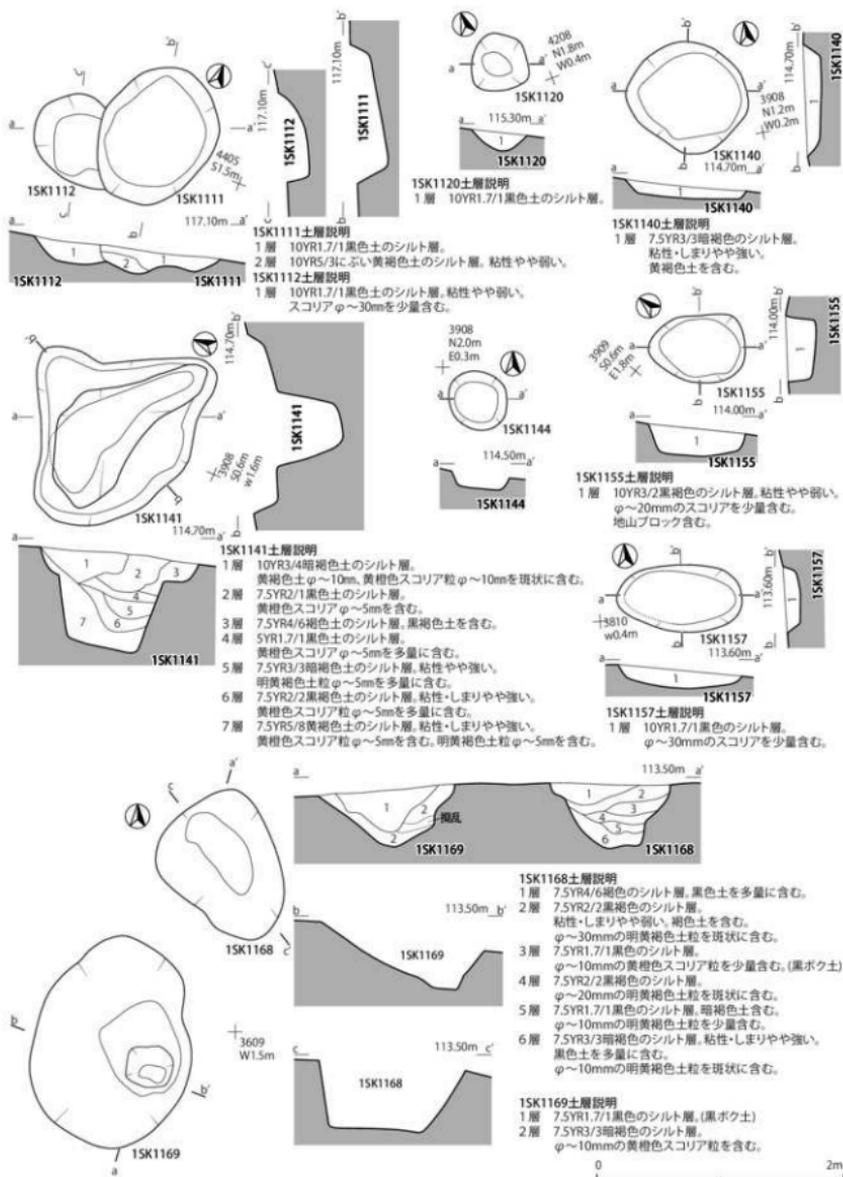


第59図 土坑ほか12 (A区-4、G区、H区)

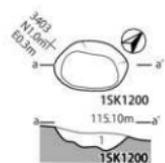




第61図 土坑ほか14 (E区-2)

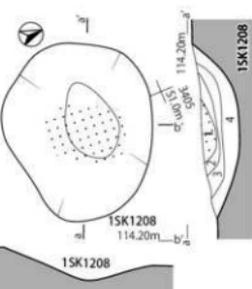
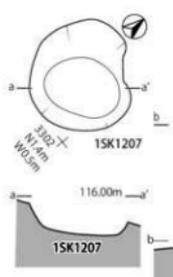


第62図 土坑ほか15 (E区・3)



1SK1200土層説明
1層 10YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性やや弱い、黄褐色スコリア
をブロック状に少量含む。

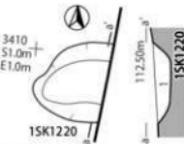
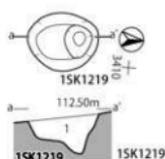
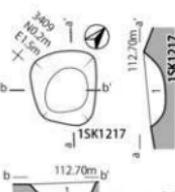
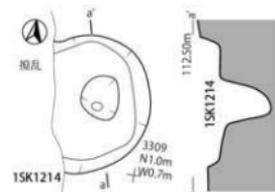
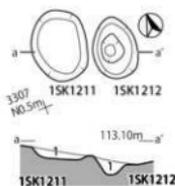
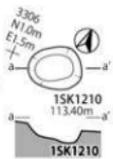
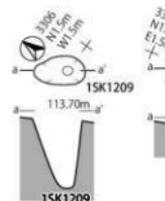
1SK1202土層説明
1層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
褐色土とφ~5mmの黄褐色
土粒を少量含む。



1SK1208土層説明
1層 7.5YR8/1灰白色火山灰。粘性やや弱い、しまりやや強い。
2層 7.5YR1.7/1黒色のシルト層。(黒ボク層)
3層 10YR3/2黒褐色のシルト層。炭化材を含む。
4層 7.5YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
炭化材を多量に含む。焼土ブロック、明黄褐色土を含む。

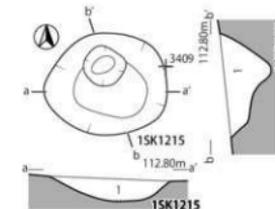
1SK1212土層説明
1層 7.5YR2/1黒色のシルト層。暗褐色土を含む。

1SK1211土層説明
1層 7.5YR3/3明褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。黒褐色土を含む。

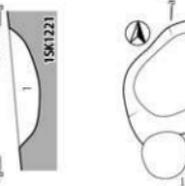


1SK1219土層説明
1層 7.5YR2/2黒褐色シルト層。
粘性・しまりやや弱い。褐色土を含む。

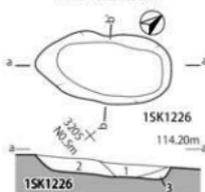
1SK1220土層説明
1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
黒色土を含む。褐色土ブロックを含む。



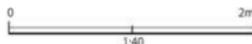
1SK1215土層説明
1層 7.5YR3/2黒褐色シルト層。
褐色土を少量含む。



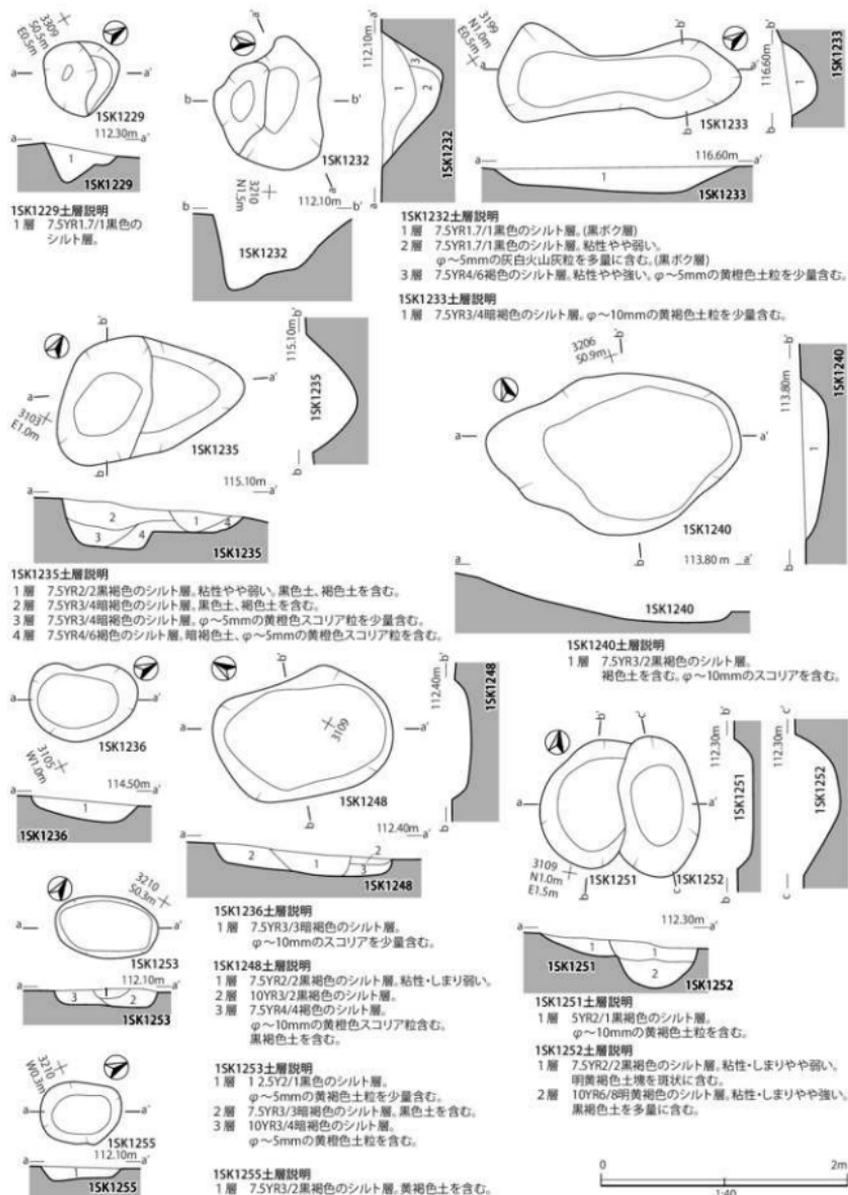
1SK1221土層説明
1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
黒色土を含む。褐色土ブロックを含む。



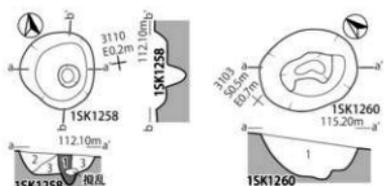
1SK1226土層説明
1層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。しまりやや強い。
φ~5mmの黄褐色スコリア粒を含む。
2層 10YR4/6褐色のシルト層。
3層 10YR6/6明黄褐色のシルト層。黒褐色土を含む。



第64図 土坑ほか17 (E区・5)

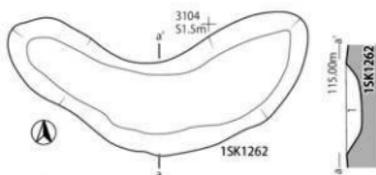


第65図 土坑ほか18 (E区・6)



SK1258土層説明

- 1層 10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりや弱い。褐色土を含む。(柱痕跡)
- 2層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。φ~30mmの明黄褐色土粒を含む。
- 3層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。

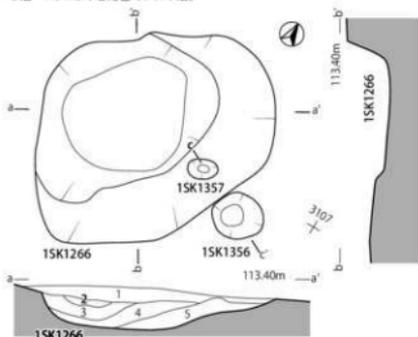


SK1260土層説明

- 1層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒色土を含む。

SK1262土層説明

- 1層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。褐色土を含む。



SK1266土層説明

- 1層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。φ~5mmの明黄褐色土粒を多量に含む。
- 2層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。φ~10mmの明黄褐色土粒を斑状に含む。黒色土を含む。
- 3層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
- 4層 φ~10mmの明黄褐色土粒を少量含む。炭化物粒を多量に含む。
- 5層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
- 6層 φ~10mmの明黄褐色土粒と黄褐色スコリア粒を斑状に含む。炭化物粒を多量に含む。



SK1271土層説明

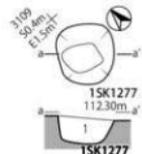
- 1層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。暗褐色土を含む。

SK1272土層説明

- 1層 7.5YR1.7/1黒色のシルト層。

SK1274土層説明

- 1層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。φ~5mmのスコリア粒を少量含む。

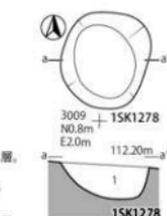


SK1277土層説明

- 1層 10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。暗褐色土を多量に含む。

SK1278土層説明

- 1層 10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。暗褐色土を含む。



SK1282土層説明

- 1層 10YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土を含む。φ~5mmのスコリア粒を少量含む。



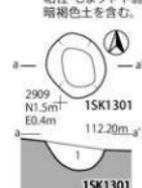
SK1283土層説明

- 1層 10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。φ~10mmのスコリア粒を少量含む。



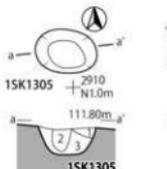
SK1295土層説明

- 1層 7.5YR3/2黒褐色のシルト層。



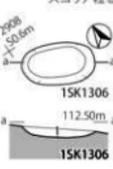
SK1301土層説明

- 1層 7.5YR3/2黒褐色シルト。暗褐色土を含む。



SK1305土層説明

- 1層 7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
- 2層 7.5YR2/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
- 3層 7.5YR5/8黄褐色のシルト層。黒褐色土を含む。



SK1309土層説明

- 1層 7.5YR3/3暗褐色のシルト層。褐色土を含む。



SK1310土層説明

- 1層 7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黒褐色土を含む。



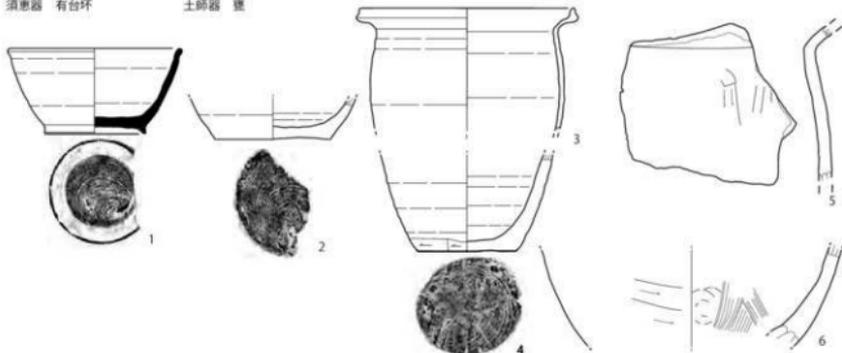


第67図 土坑ほか20 (F区・2)

15T121

須惠器 有台坏

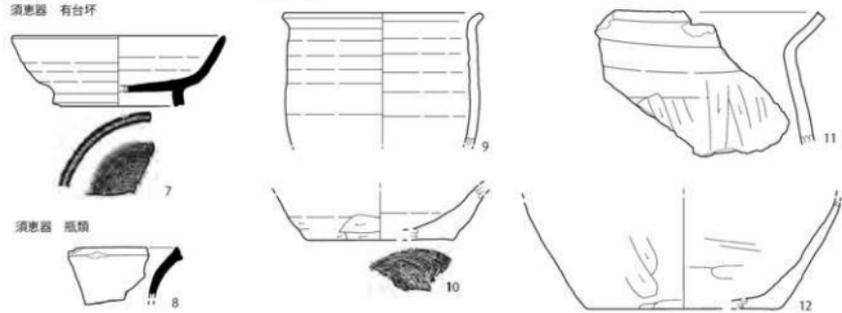
土師器 甕



15T281

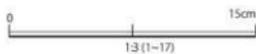
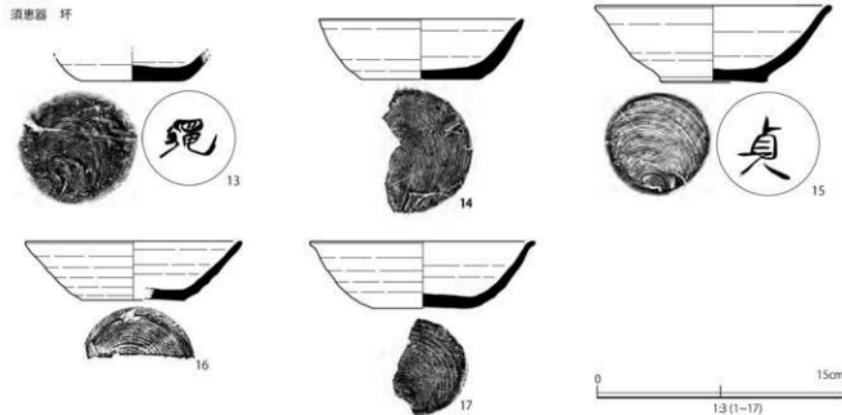
須惠器 有台坏

土師器 甕



15T330

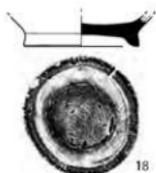
須惠器 坏



第68图 出土遺物1 (15T121・281・330-1)

15T330

須惠器 有台杯



18



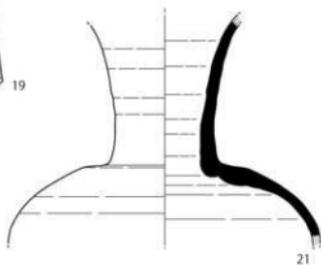
19

須惠器 蓋



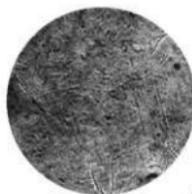
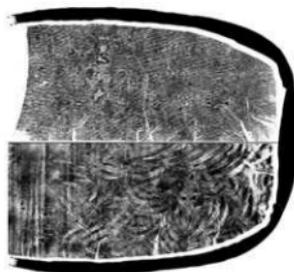
20

須惠器 長頸瓶



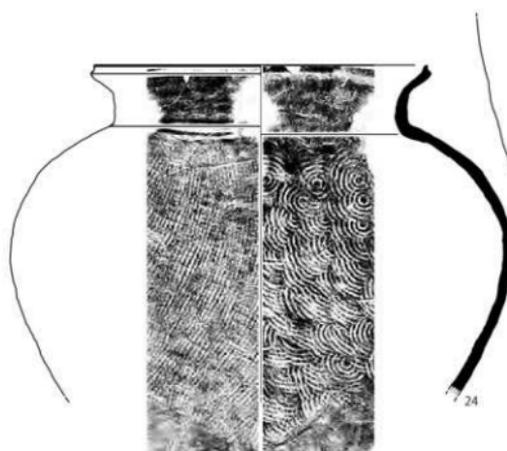
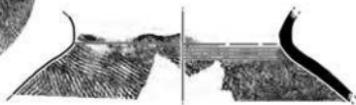
21

須惠器 横瓶

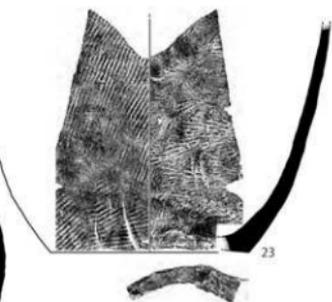


22

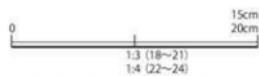
須惠器 壺



24

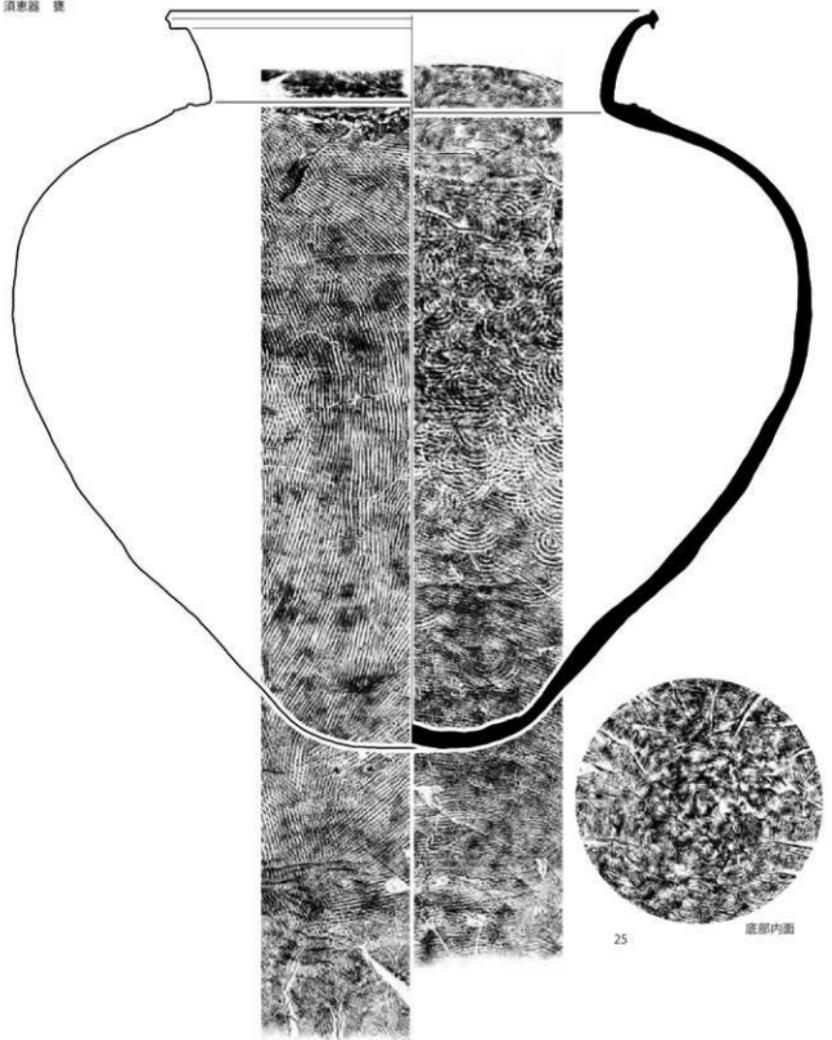


23



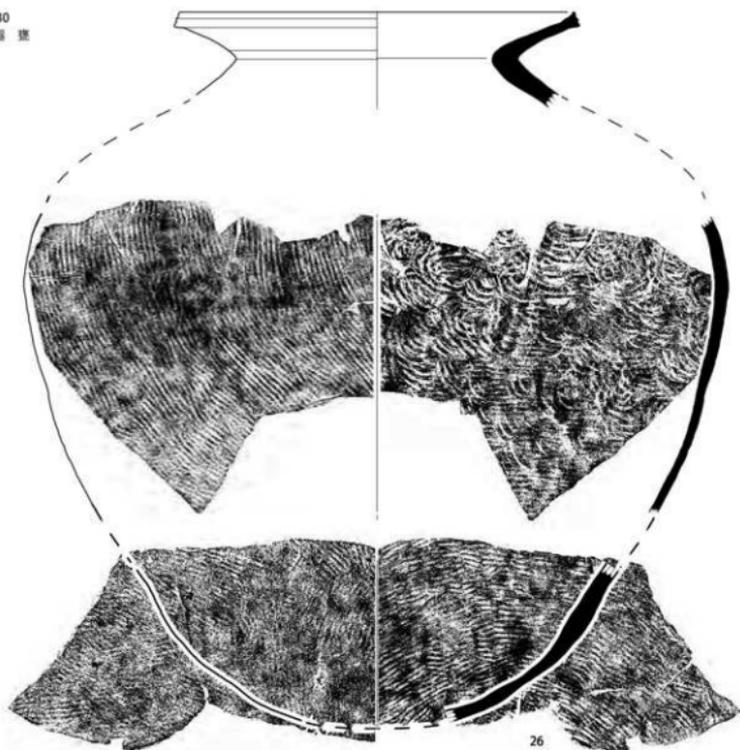
第 69 図 出土遺物 2 (15T330-2)

15T330
須磨器 甕



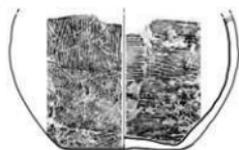
0 20cm
1:4 (25)

第70図 出土遺物3 (15T330-3)

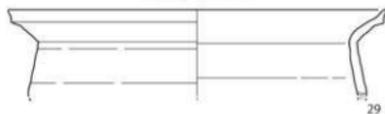
15T330
須恵器 壺

26

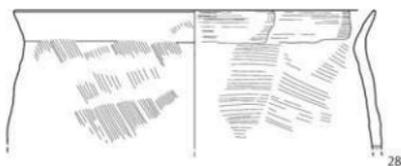
土師器 壺



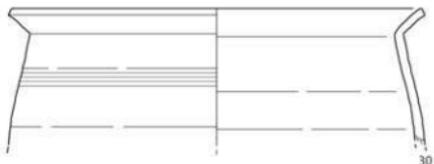
27



29



28



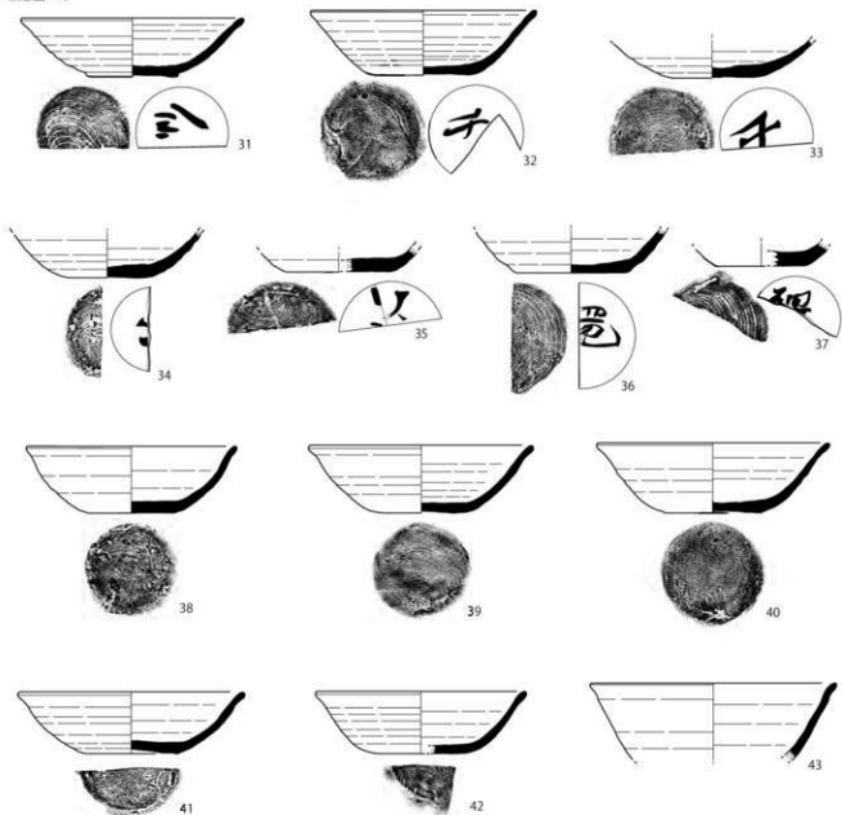
30



第71図 出土遺物4 (15T330-4)

15T365

須惠器 坏



須惠器 有台坏



第72図 出土遺物5 (15T365-1)

1ST365

須恵器 有台坏

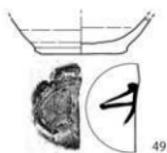


47



48

土師器 坏

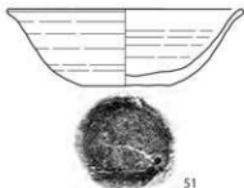


49

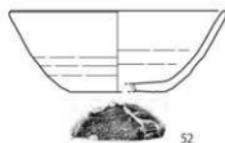
土師器 坏



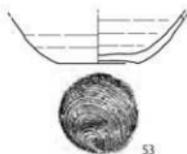
50



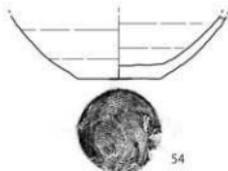
51



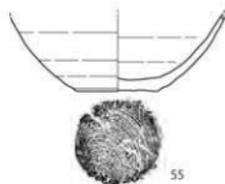
52



53



54

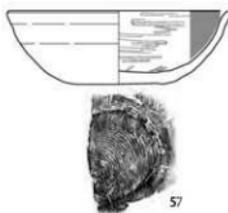


55

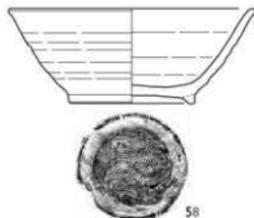
土師器 有台坏



56



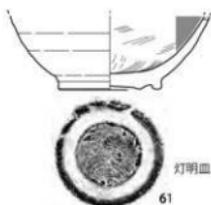
57



58

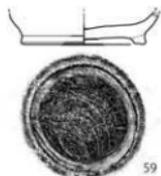


60

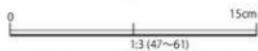


61

灯明皿



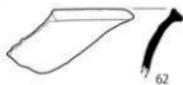
59



第73図 出土遺物6 (1ST365-2)

15T365

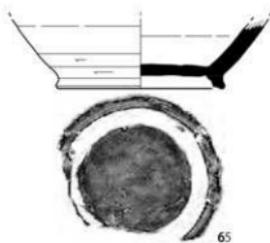
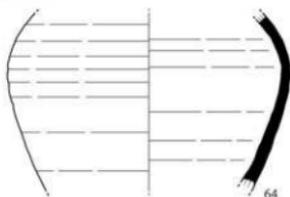
須恵器 瓶



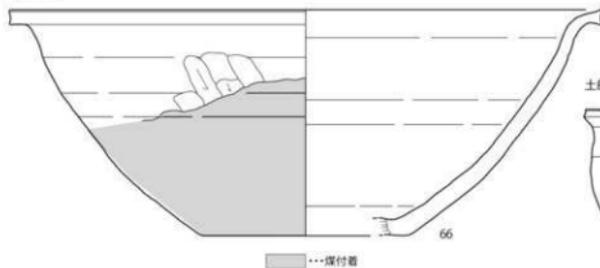
須恵器 鉢



須恵器 瓶類

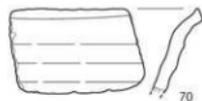
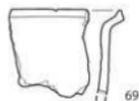
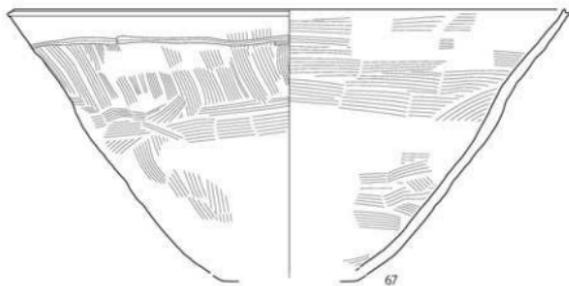
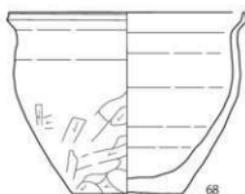


土師器 鉢



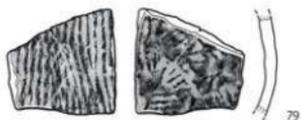
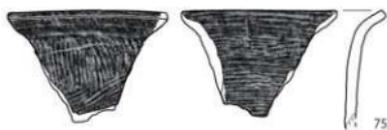
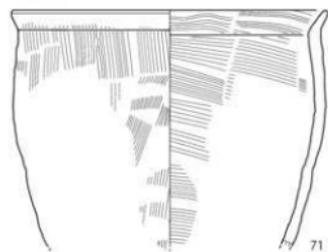
■...煤付着

土師器 甕

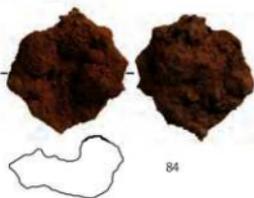
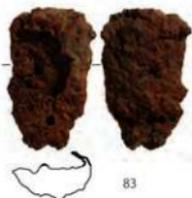
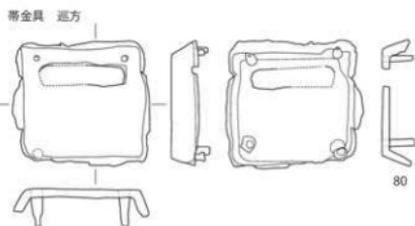
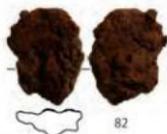
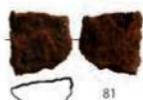


第74図 出土遺物7 (15T365-3)

15T365
土師器 甕

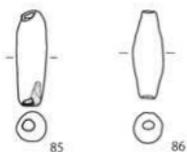


鉄滓

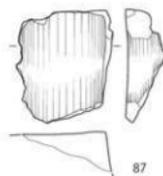


第75図 出土遺物8 (15T365-4)

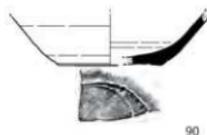
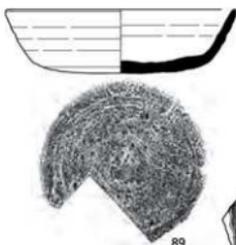
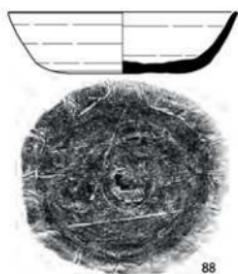
1ST365
土製品 土玉



磁石



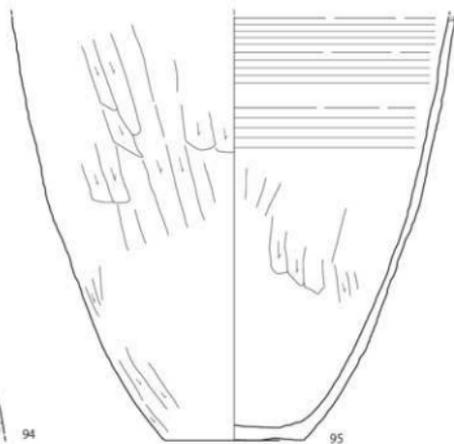
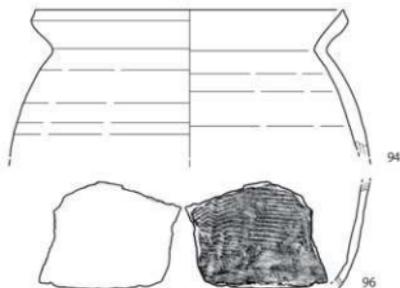
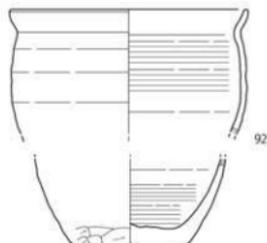
1ST510
須恵器 坏



須恵器 壺

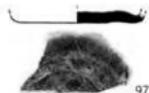


土師器 壺



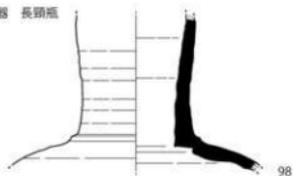
1/2 (85~87)
1/3 (88~96)
1/4 (91)

第76図 出土遺物9 (1ST365-5・510)

1ST566
須恵器 坏

97

須恵器 長頸瓶

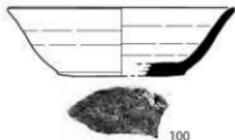


98

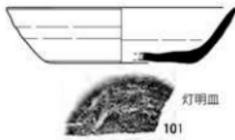
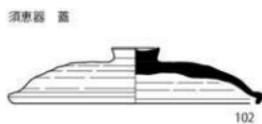
須恵器 甕



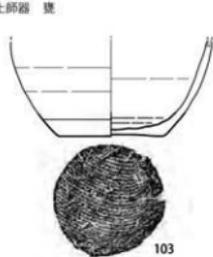
99

1ST581
須恵器 坏

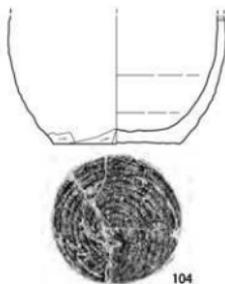
100

灯明皿
101須恵器 蓋
102

土師器 甕



103



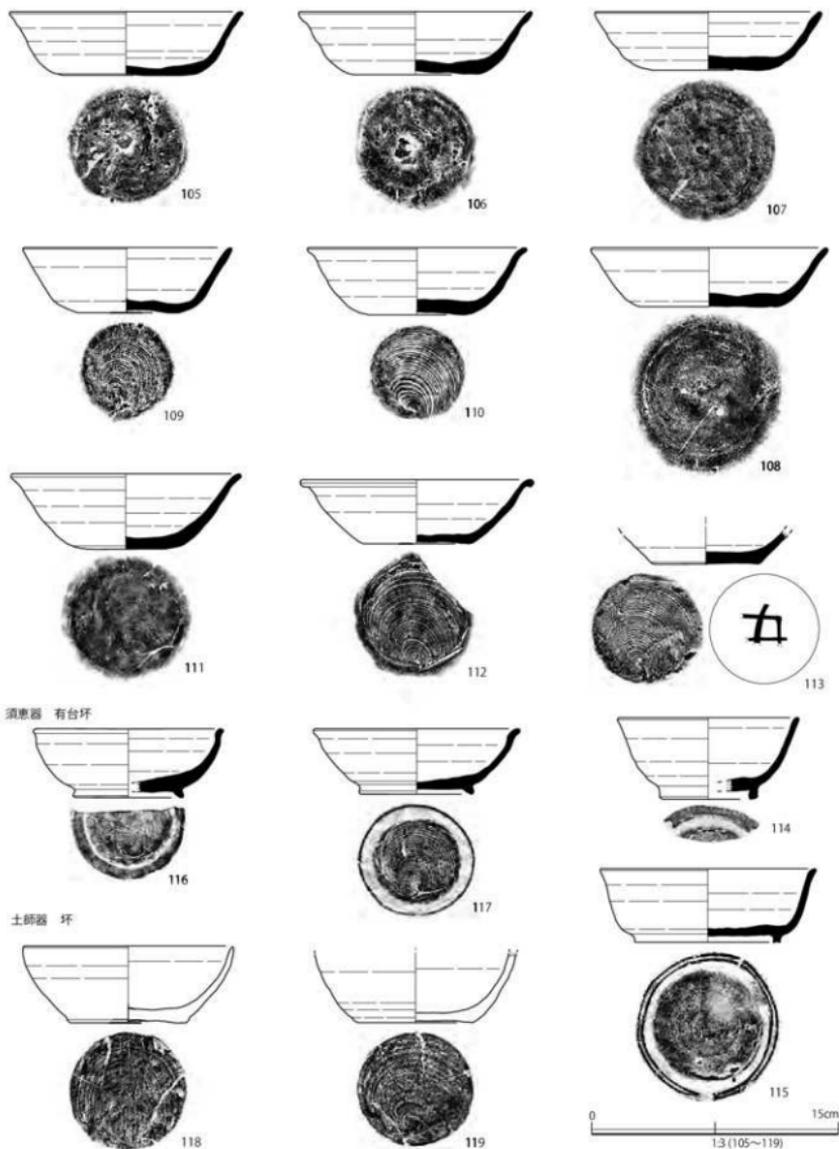
104



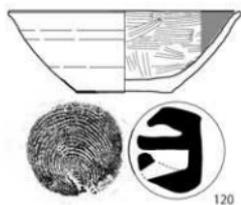
第77図 出土遺物10 (1ST566・581)

1ST740

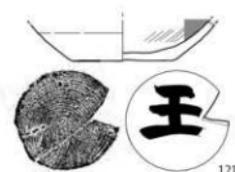
須惠器 坏



第78図 出土遺物 11 (1ST740-1)

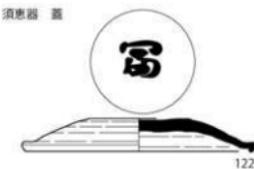
1ST740
土師器 坏

120

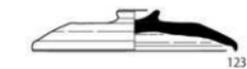


121

須惠器 蓋



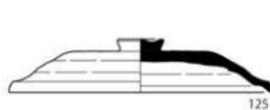
122



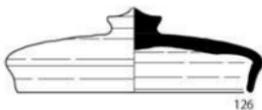
123



124

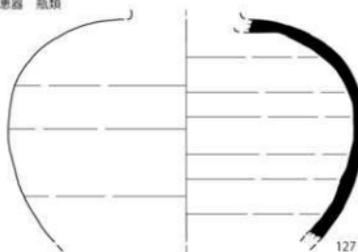


125



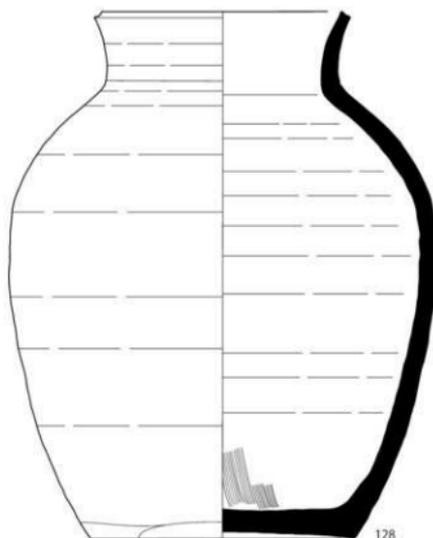
126

須惠器 瓶類

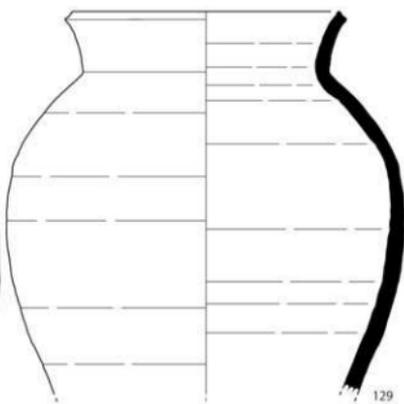


127

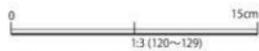
須惠器 壺



128

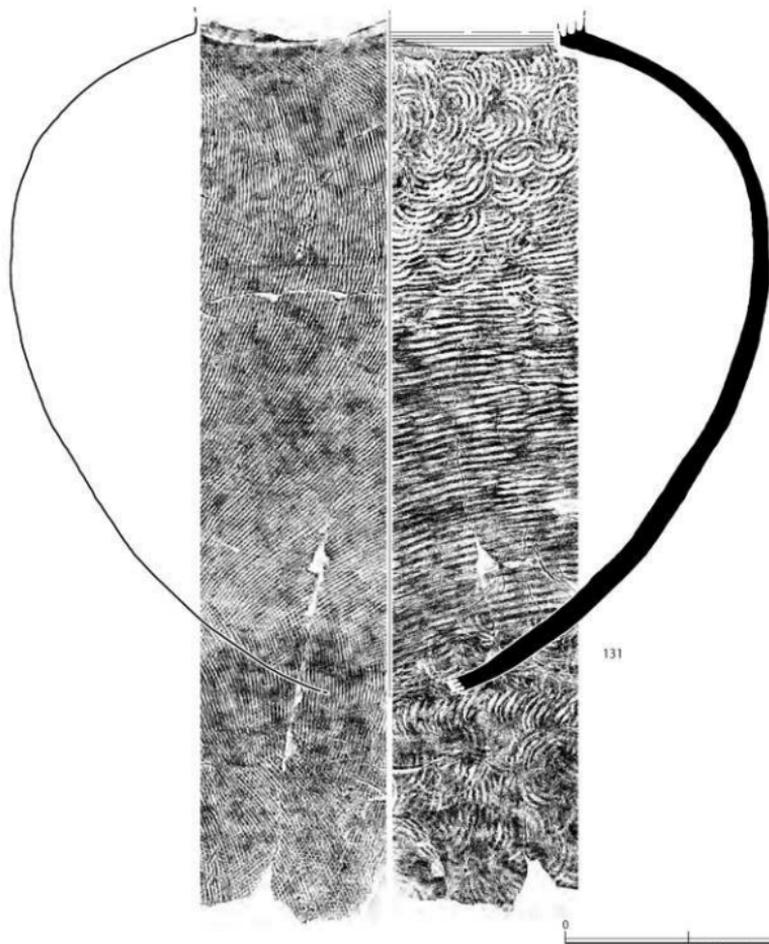
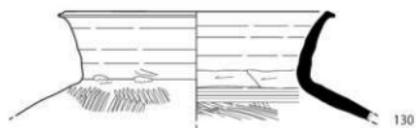


129



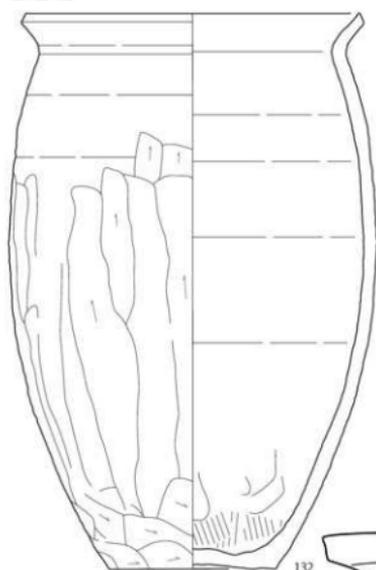
第79図 出土遺物 12 (1ST740-2)

1ST740
須磨器 壺

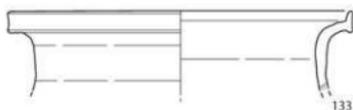


0 20cm
1/4 (130, 131)

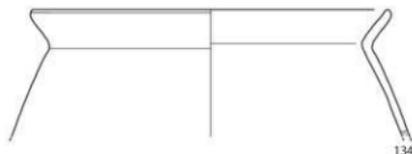
第80図 出土遺物13 (1ST740-3)

15T740
土師器 壺

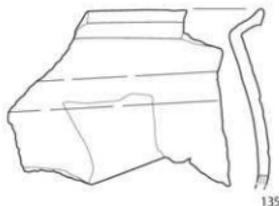
132



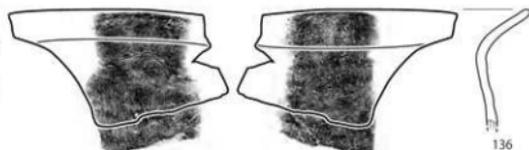
133



134



135

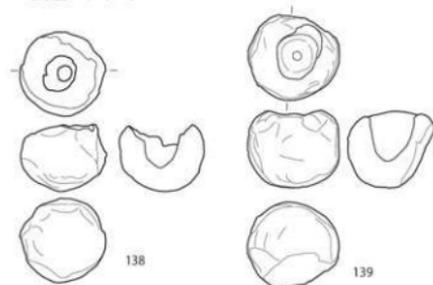


136



137

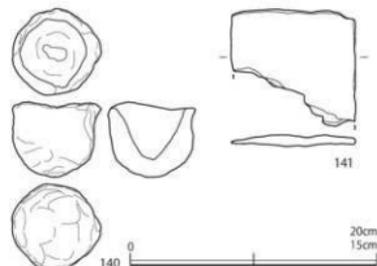
土製品 ミニチュア



138

139

鉄製品



141

140

1:2 (138~141)
1:3 (132~137)

第 81 図 出土遺物 14 (15T740-4)

1ST777

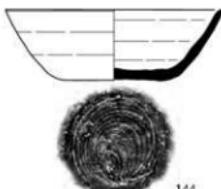
須恵器 坏



142

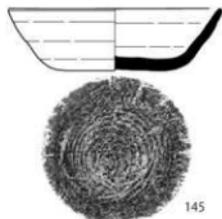


143

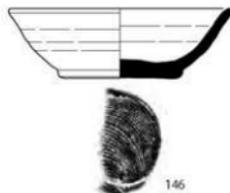


144

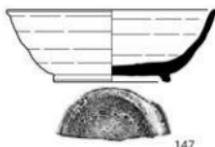
須恵器 有台坏



145

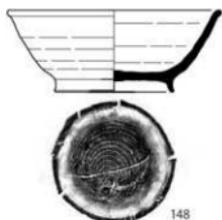


146

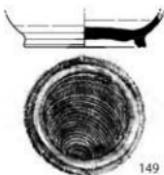


147

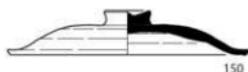
須恵器 蓋



148



149

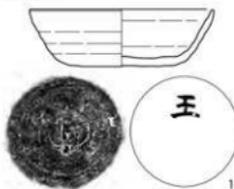


150



153

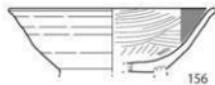
土師器 坏



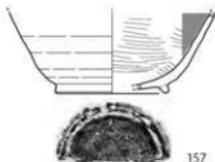
151



152

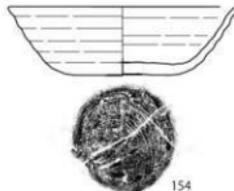


156

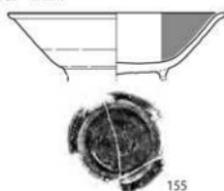


157

土師器 有台坏



154



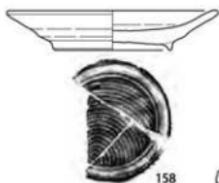
155



第 82 図 出土遺物 15 (1ST777-1)

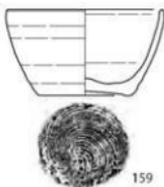
15T777

土師器 有台皿



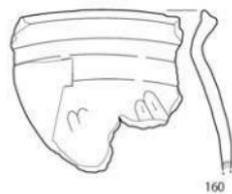
158

土師器 鉢

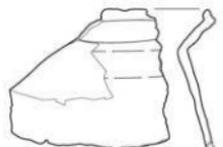


159

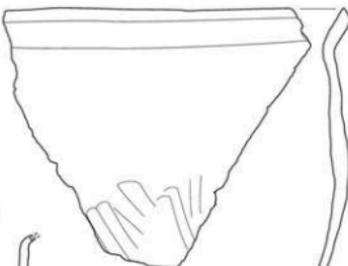
土師器 甕



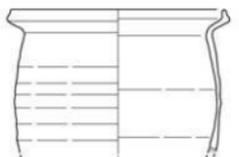
160



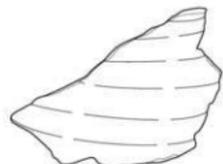
161



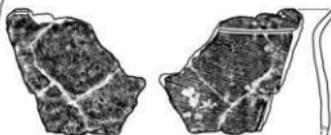
163



166



162



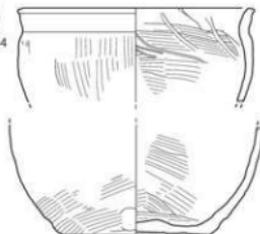
164



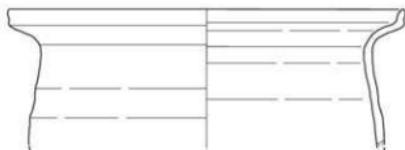
167



165

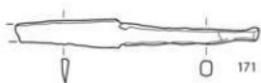


168



169

鉄製品 刀子



171



170

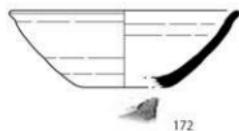
0 20cm 15cm

1:2 (171)
1:3 (158~170)

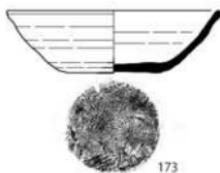
第83図 出土遺物 16 (15T777-2)

15T1158

須惠器 坏



172



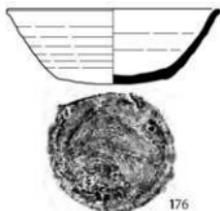
173



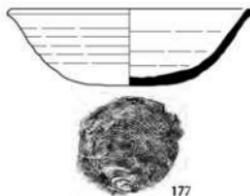
174



175



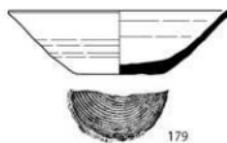
176



177



178

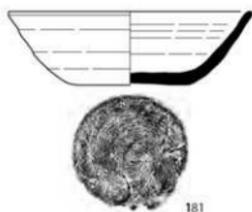


179



180

須惠器 有台坏



181

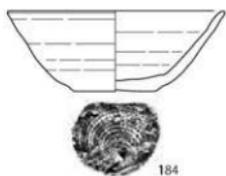


182

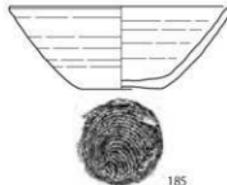


183

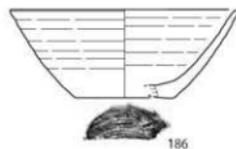
土師器 坏



184



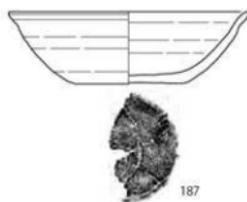
185



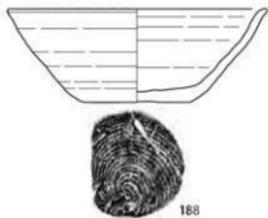
186



第84図 出土遺物17 (15T1158-1)

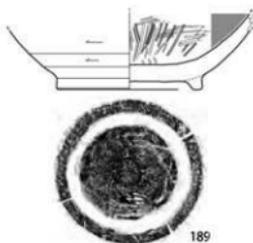
15T1158
土師器 坏

187



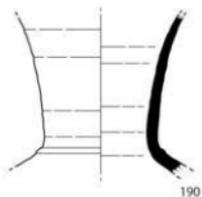
188

土師器 有台坏



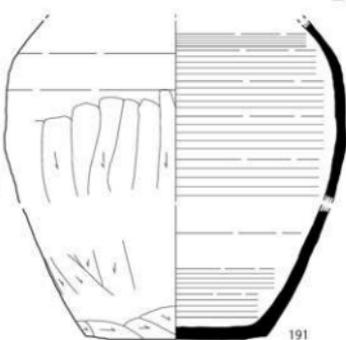
189

須恵器 瓶



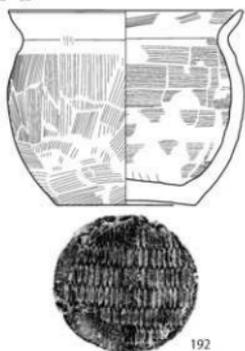
190

須恵器 瓶頸

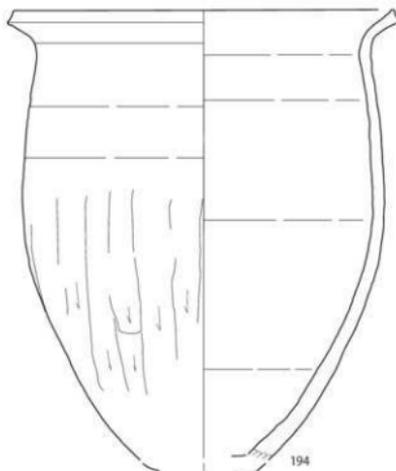


191

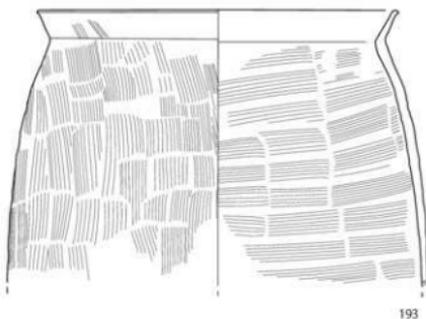
土師器 壺



192



194

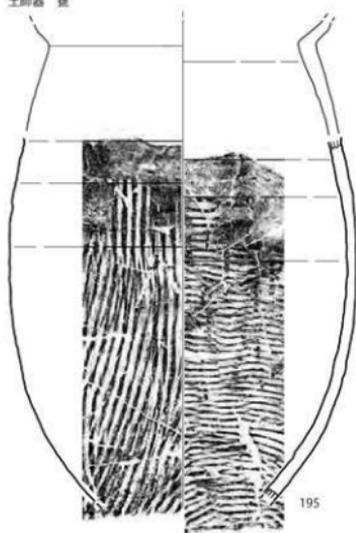


193



第85図 出土遺物 18 (15T1158-2)

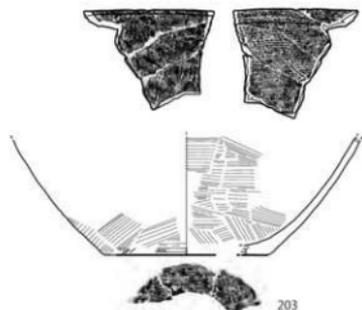
1ST1158
土師器 甕



鉄製品 刀子



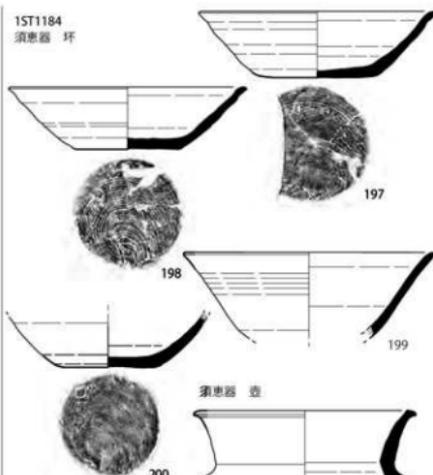
土師器 甕



鉄製品 刀子



1ST1184
須恵器 坏



198

197

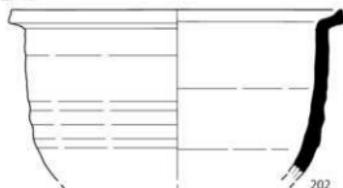
199

須恵器 壺

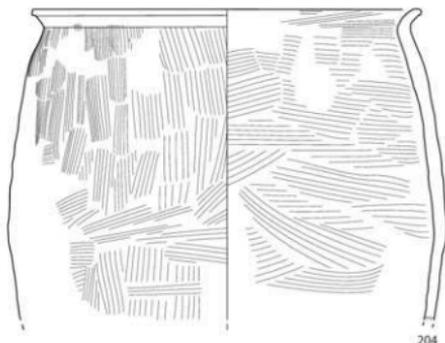
200

201

須恵器 鉢



202

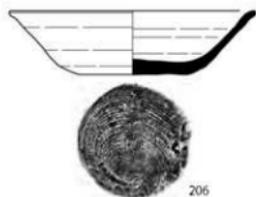


204

0 10cm 15cm

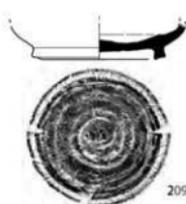
1.2 (196, 205)
1.3 (195~204)

第 86 図 出土遺物 19 (1ST1158-3・1184)

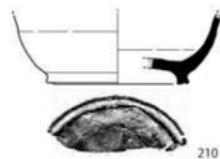
15T1290
須惠器 坏

206

須惠器 有台坏



209



210

須惠器 蓋

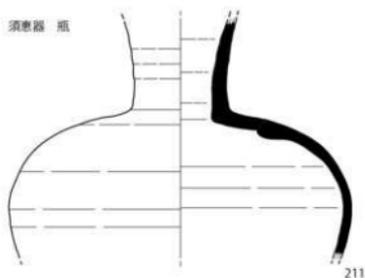


208

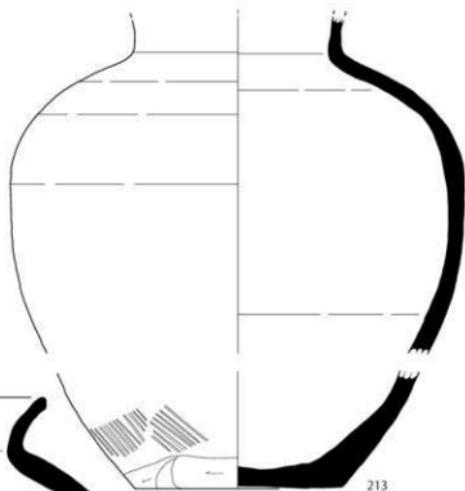


207

須惠器 瓶

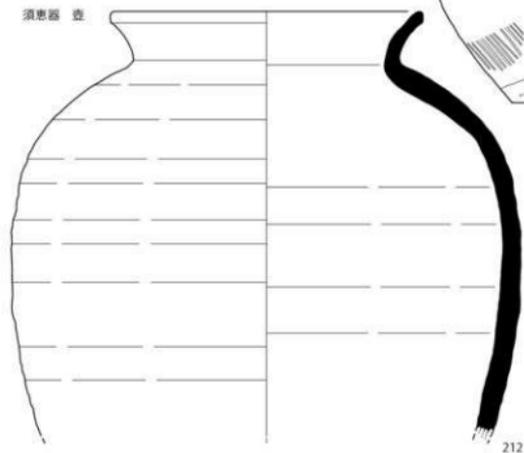


211



213

須惠器 壺



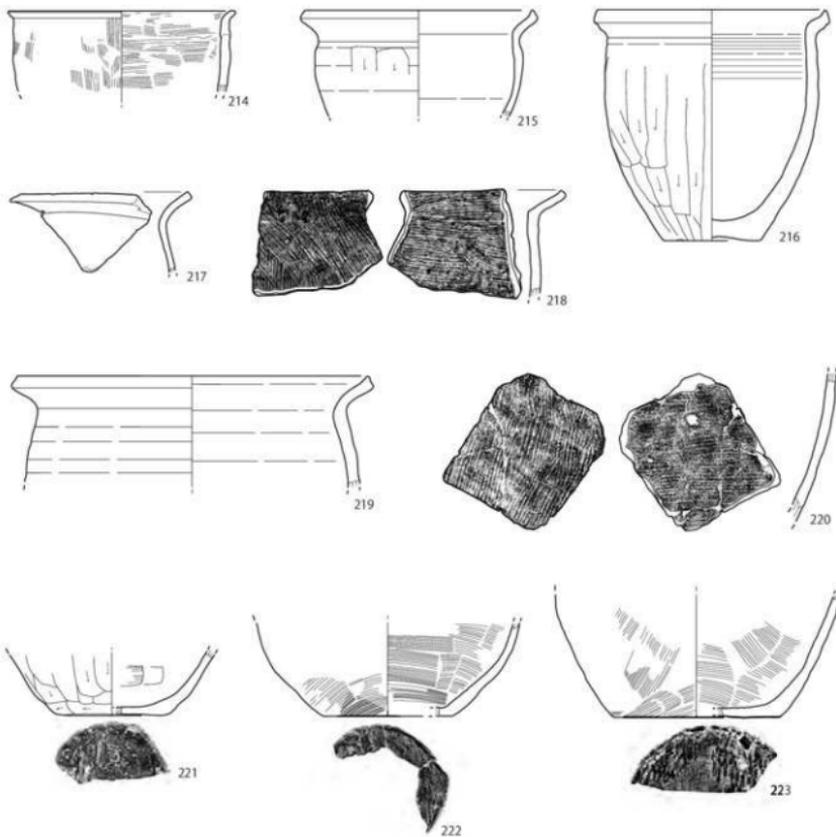
212



第 87 図 出土遺物 20 (15T1290-1)

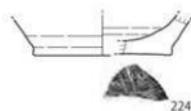
15T1290

土師器 甕



15T1286

土師器 甕



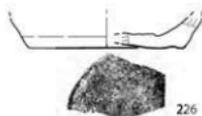
15B665

須恵器 埴



15B1405

土師器 甕



第 88 図 出土遺物 21 (15T1290-2・1286、15B665・1405)

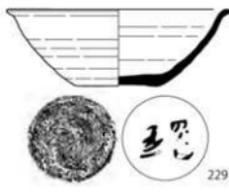
須惠器 坏



227



228



229



230



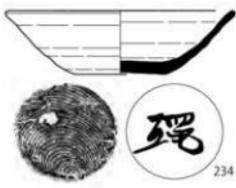
231



232



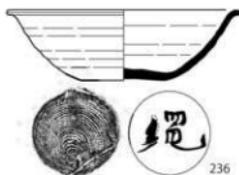
233



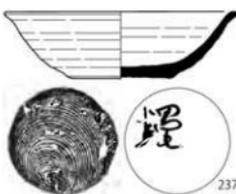
234



235



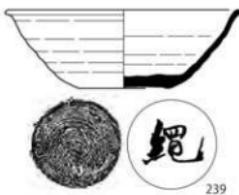
236



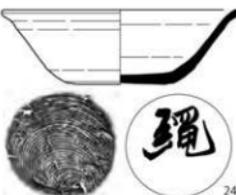
237



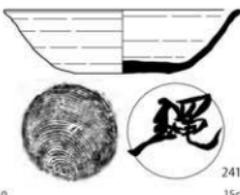
238



239



240

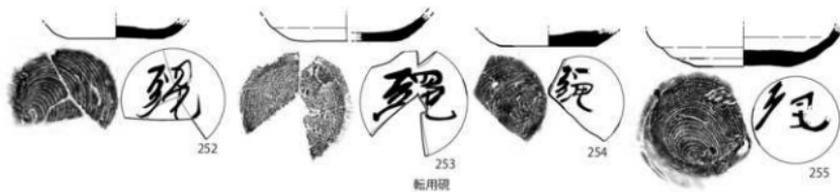
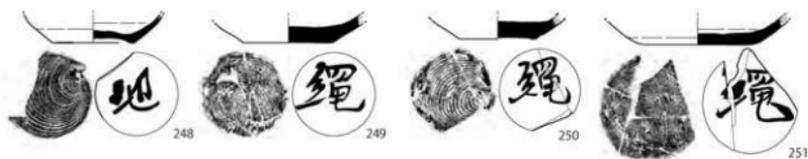
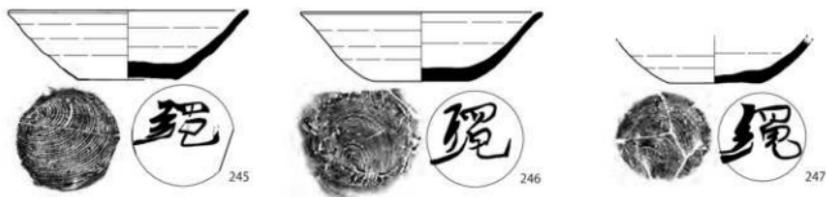
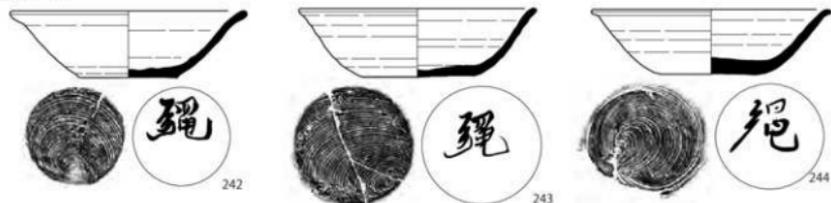


241

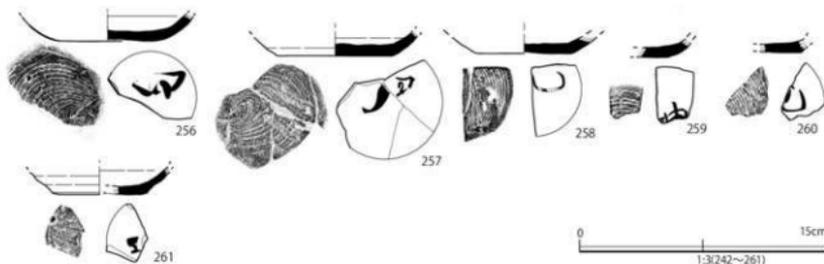
0 15cm
1:3(227~241)

第89回 出土遺物 22 (15D186-1)

須恵器 坏



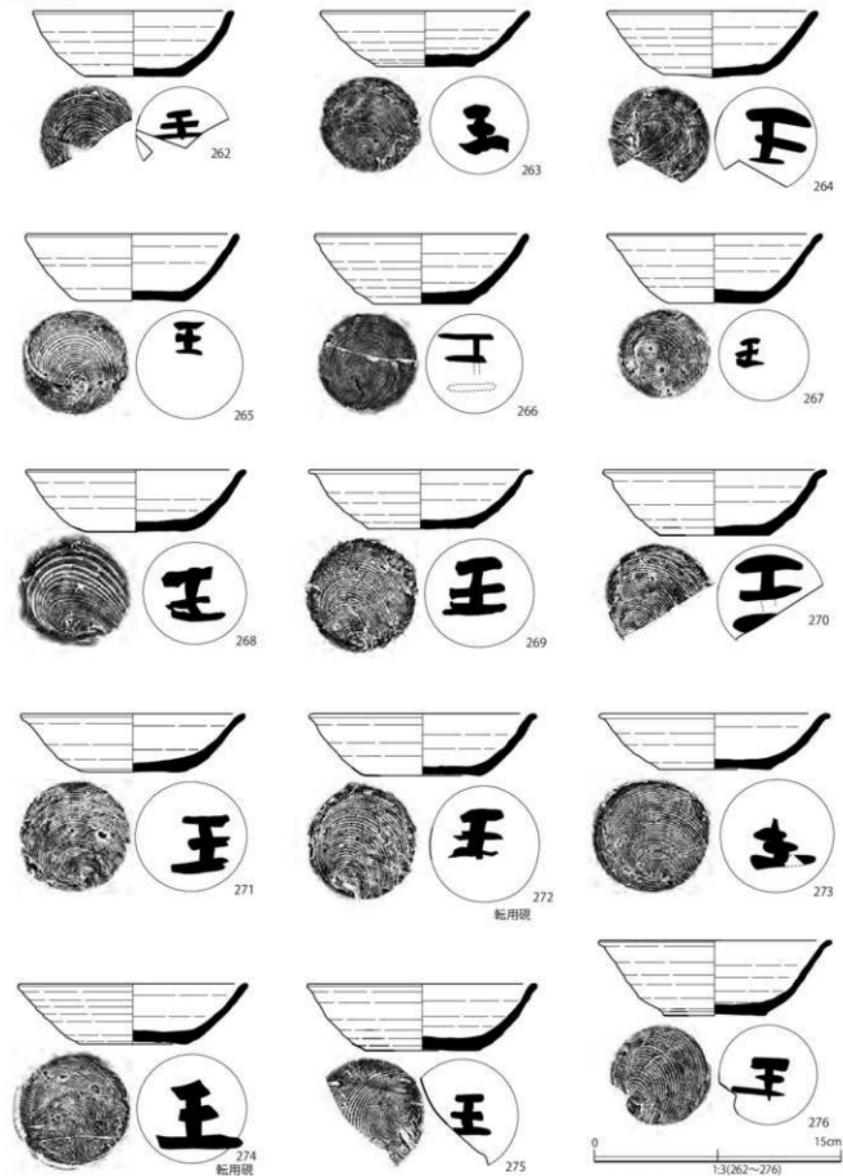
転用碗



0 15cm
1:3(242~261)

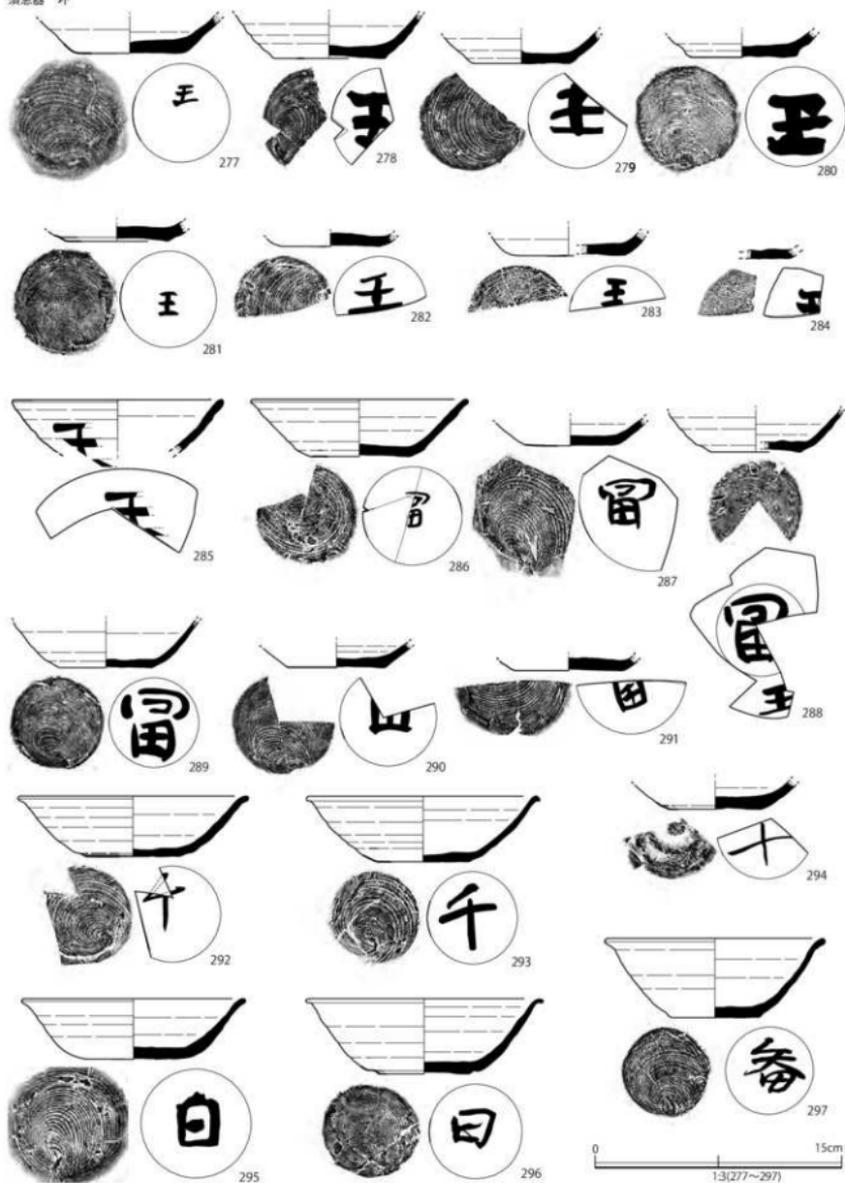
第90図 出土遺物 23 (15D186-2)

須恵器 坏



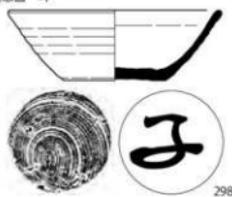
第 91 図 出土遺物 24 (15D186-3)

須恵器 坏

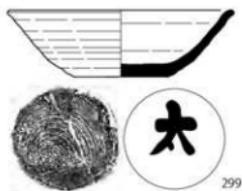


第 92 図 出土遺物 25 (15D186-4)

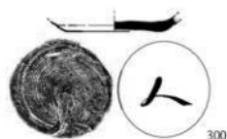
須惠器 坏



298



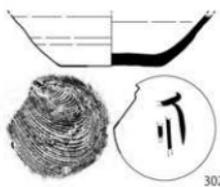
299



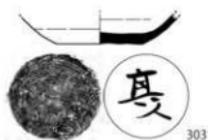
300



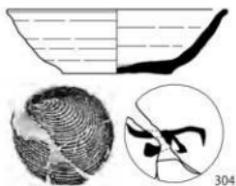
301



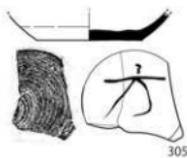
302



303



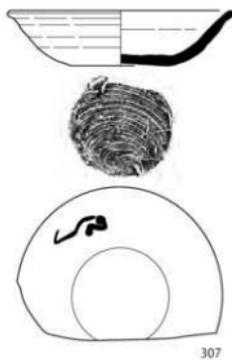
304



305



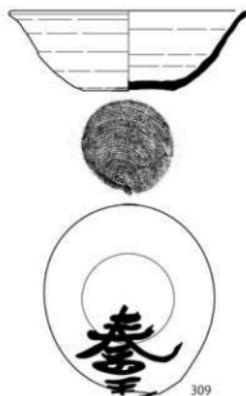
306



307



308

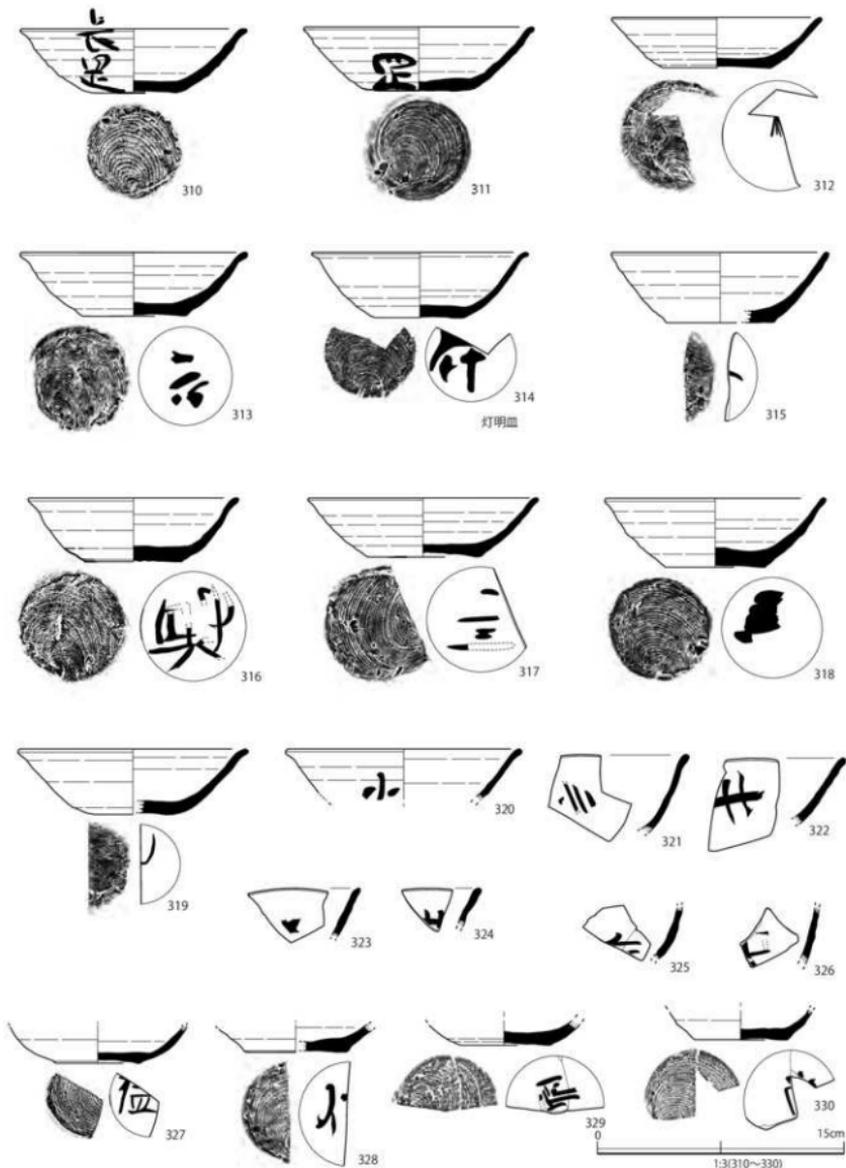


309

0 15cm
1:3(298~309)

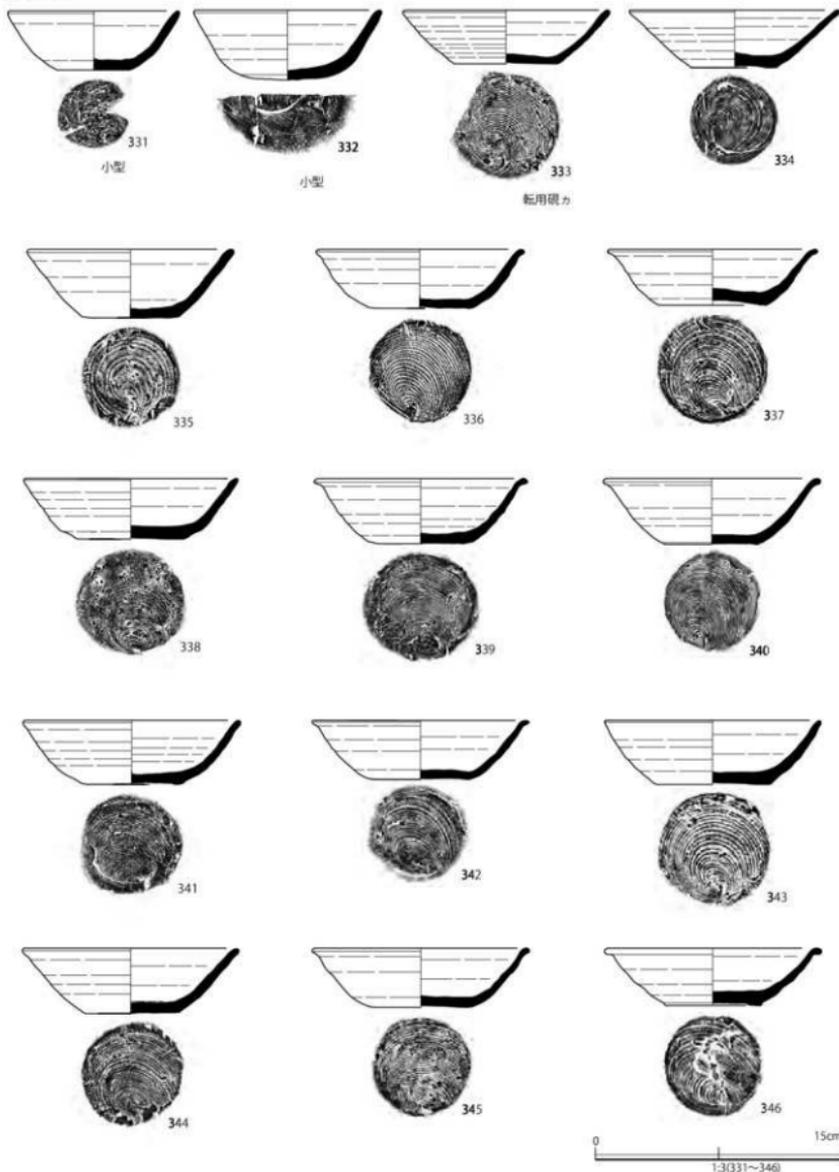
第93図 出土遺物 26 (15D186-5)

須恵器 坏



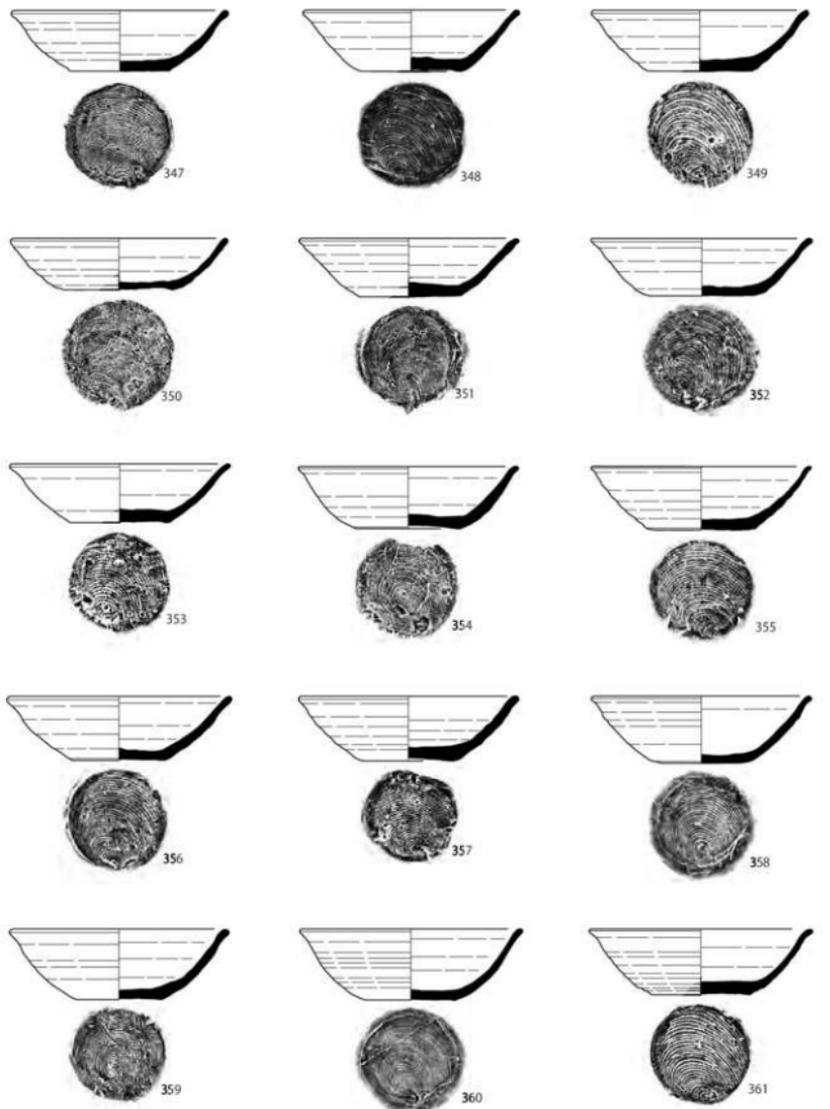
第94図 出土遺物 27 (15D186-6)

須惠器 坏



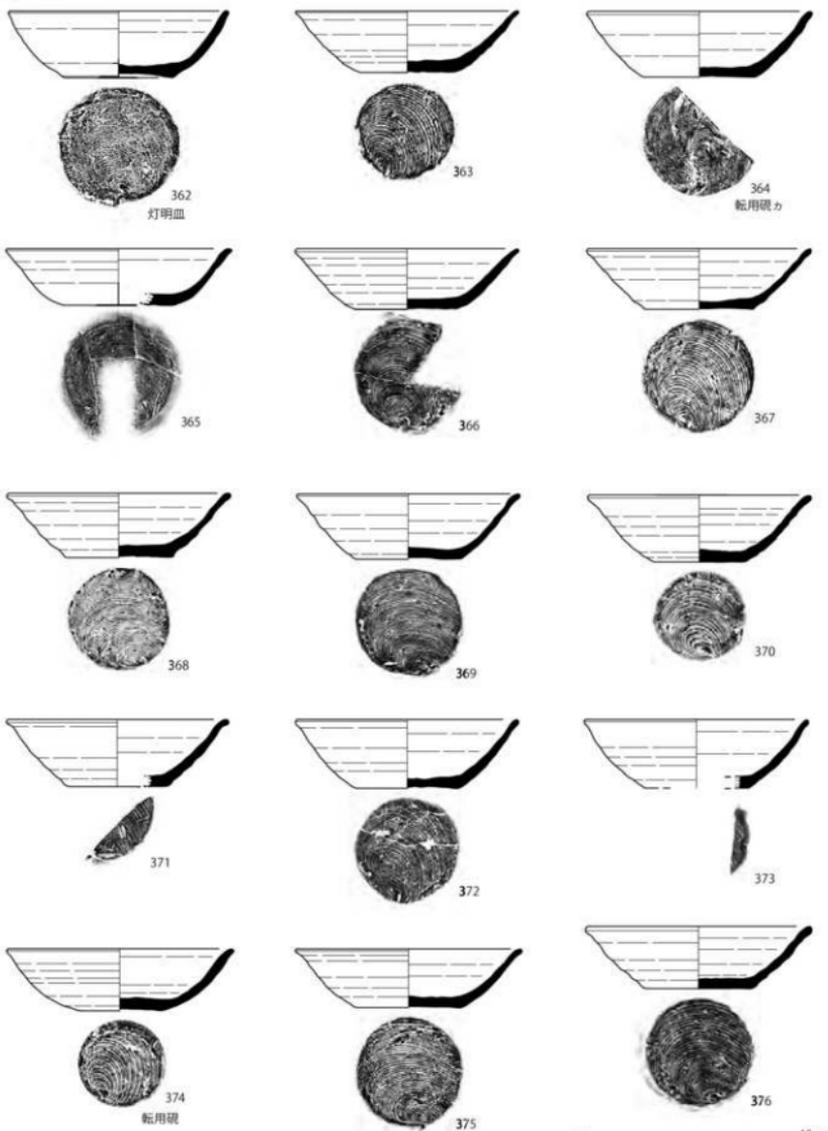
第95図 出土遺物 28 (1SD186-7)

須恵器 環



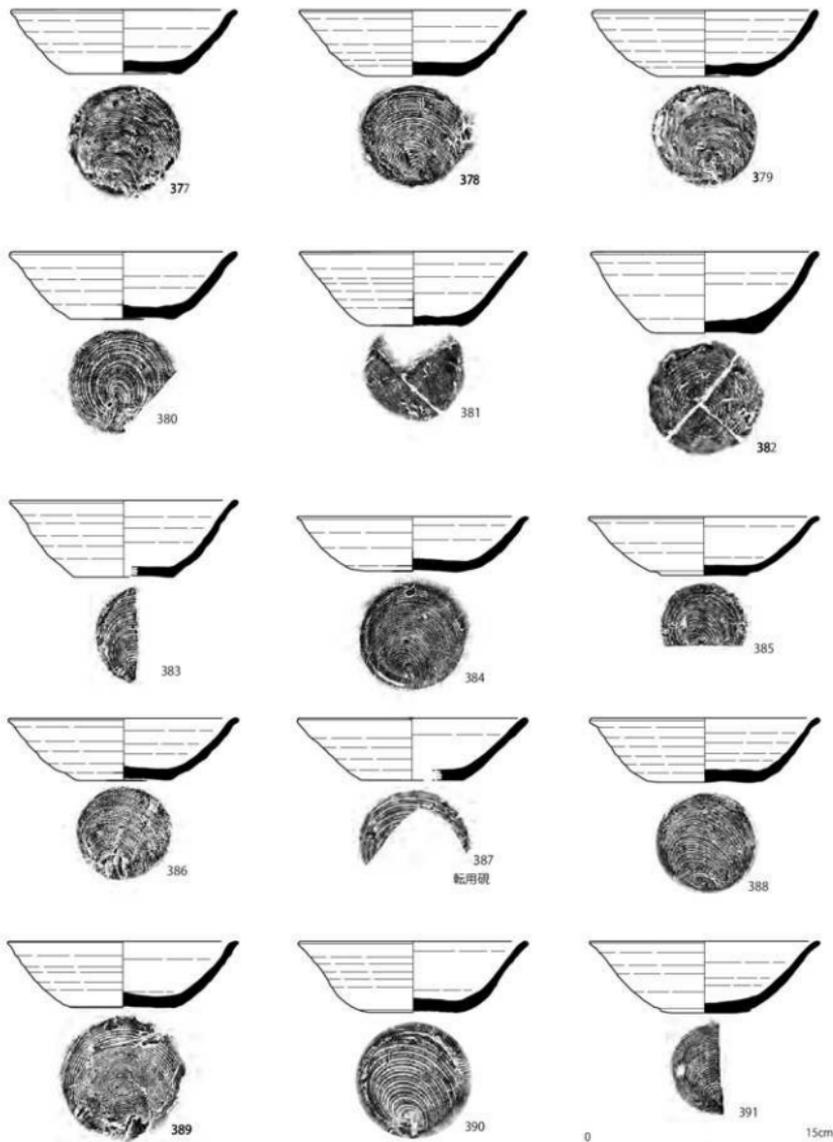
第96図 出土遺物 29 (15D186-8)

須惠器 坏



第 97 図 出土遺物 30 (15D186-9)

須恵器 坏

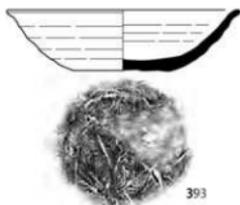


第98図 出土遺物31 (1SD186-10)

須惠器 坏



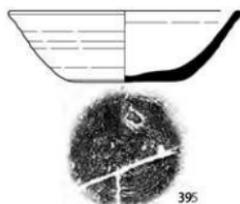
392



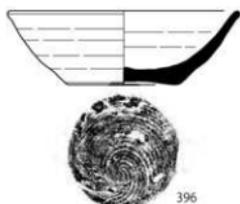
393



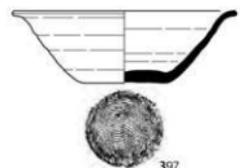
394



395



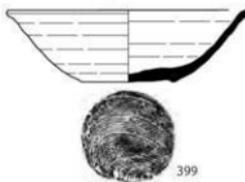
396



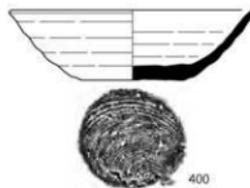
397



398



399

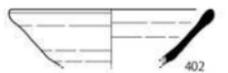


400

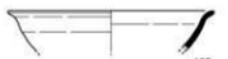


401

灯明皿



402



403

灯明皿



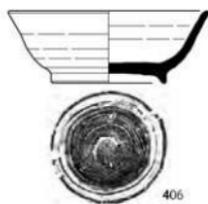
404

灯明皿

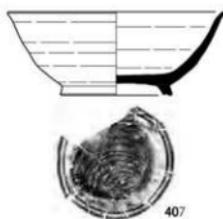


405

須惠器 有台坏



406

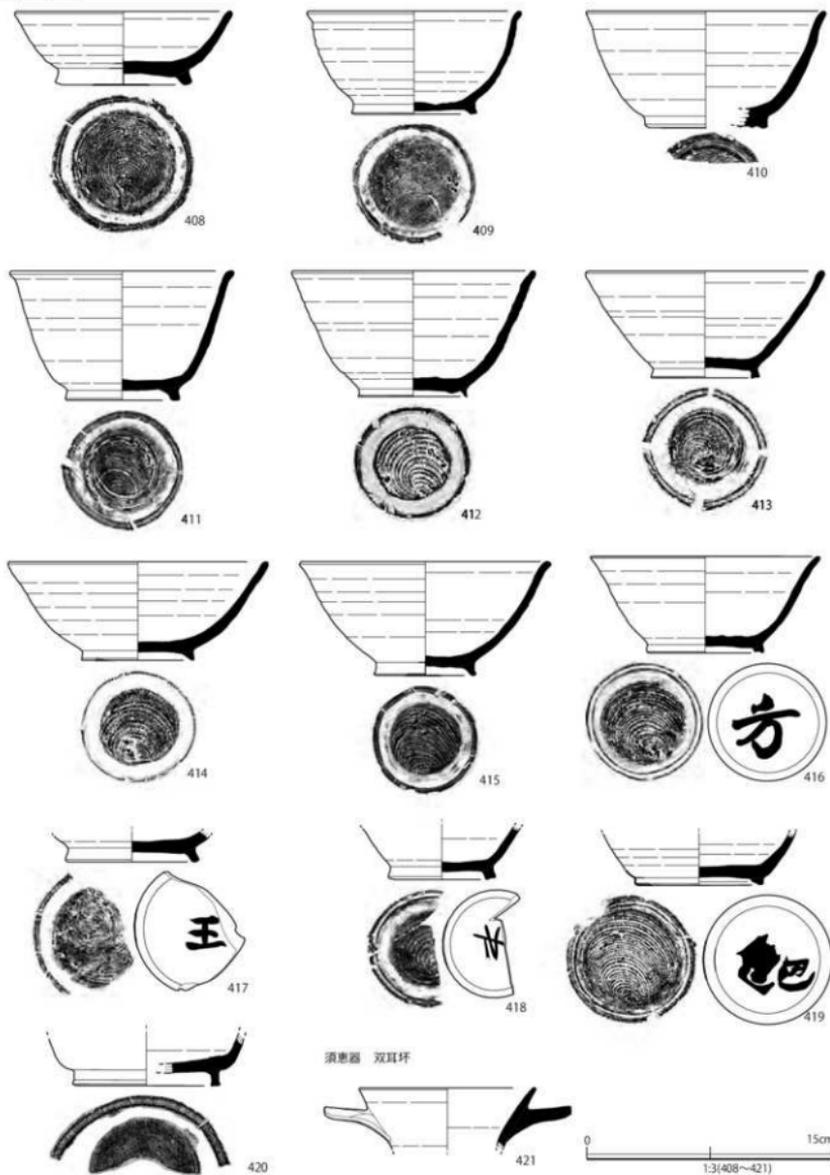


407



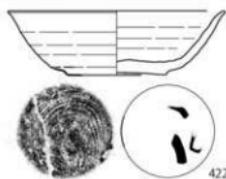
第99図 出土遺物 32 (1SD186-11)

須惠器 有台坏

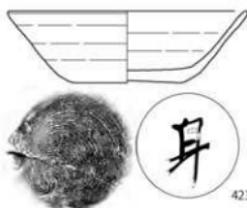


第100图 出土遺物33 (1SD186-12)

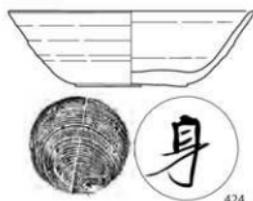
土師器 坏



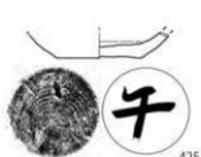
422



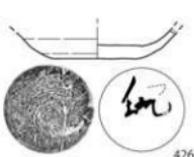
423



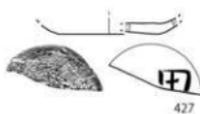
424



425



426



427



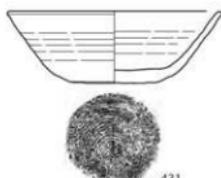
428



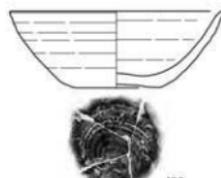
429



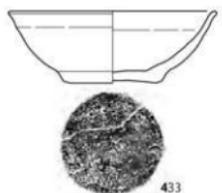
430



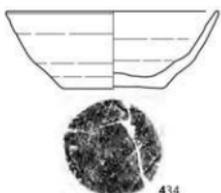
431



432



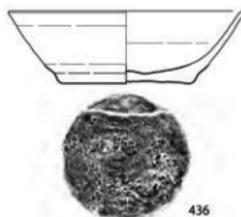
433



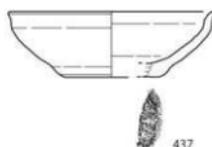
434



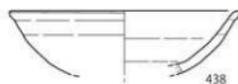
435



436



437



438

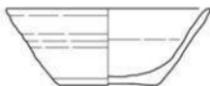


第101図 出土遺物34 (ISD186-13)

土師器 坏



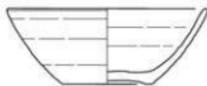
439



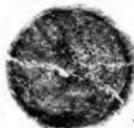
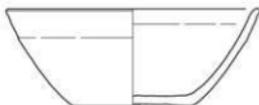
440



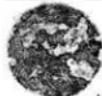
441



442



443



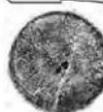
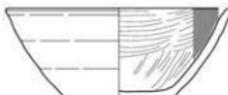
444



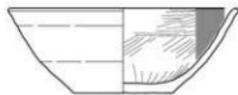
445



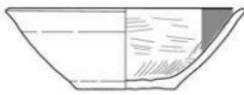
446



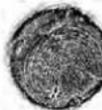
447



448

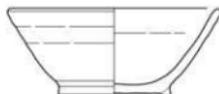


449

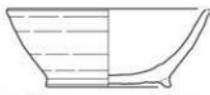


450

土師器 有台坏



452



453

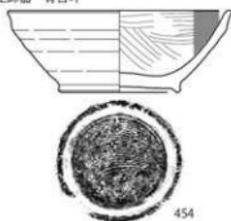


451
漆付着

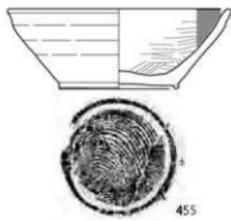


第102図 出土遺物 35 (1SD186-14)

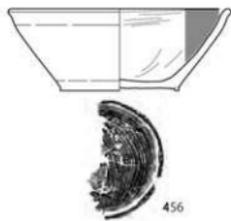
土師器 有台坏



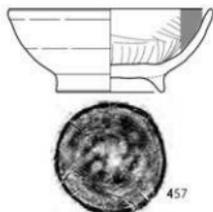
454



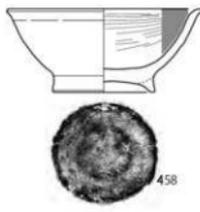
455



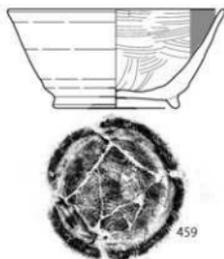
456



457



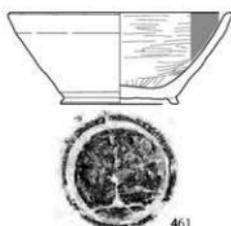
458



459



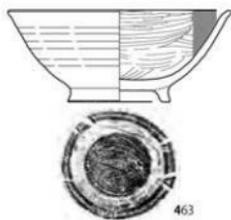
460



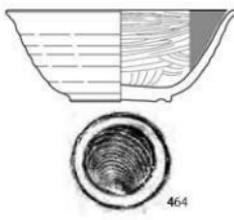
461



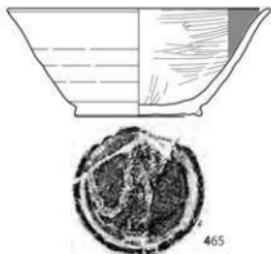
462



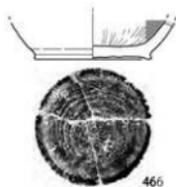
463



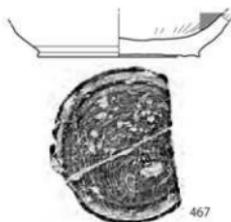
464



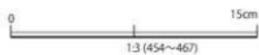
465



466

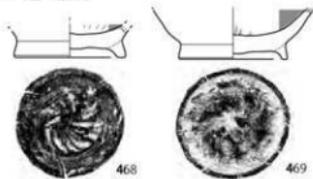


467

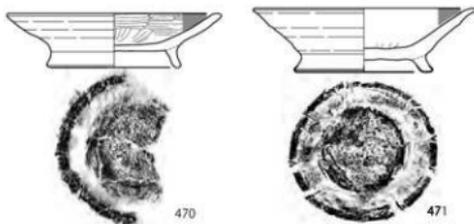


第 103 図 出土遺物 36 (1SD186-15)

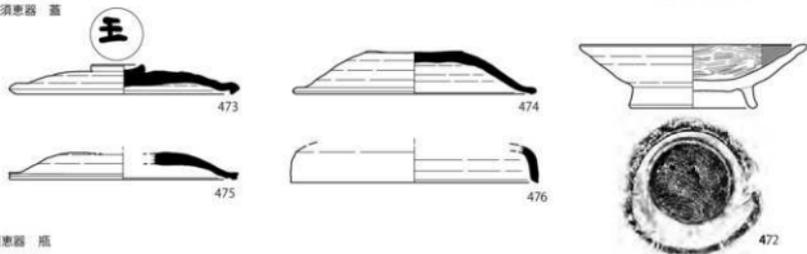
土師器 有台坏



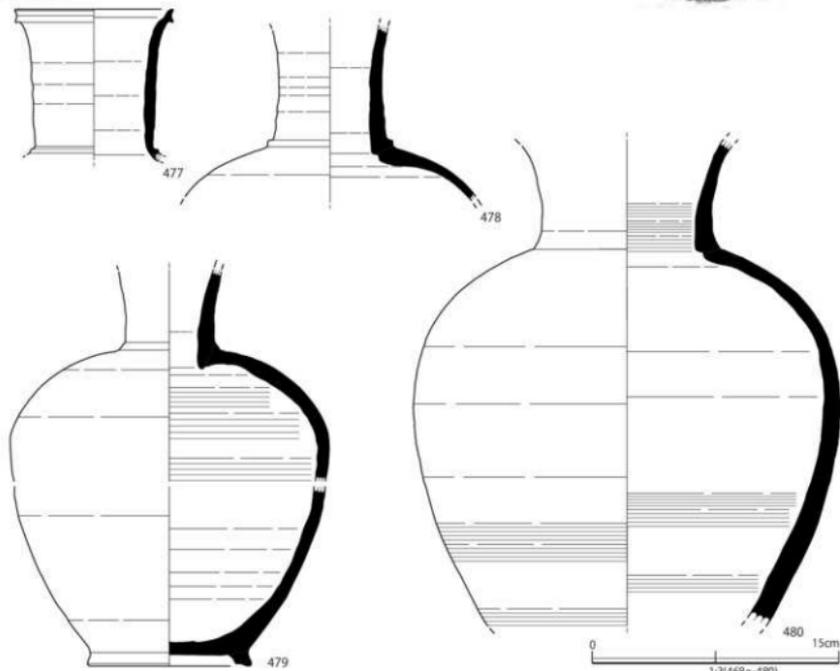
土師器 有台皿



須恵器 蓋

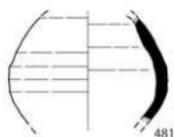


須恵器 瓶

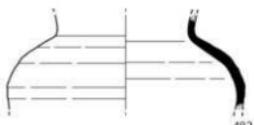


第104図 出土遺物 37 (1SD186-16)

須恵器 壺



481

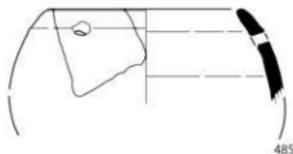


482



483

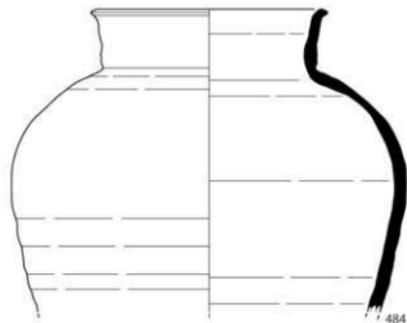
須恵器 鉢



485

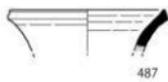


486



484

須恵器 皿類



487

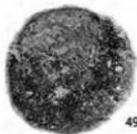


488

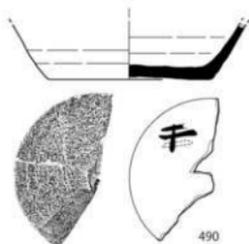


489

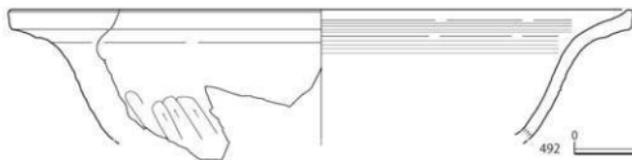
土師器 鉢



491



490

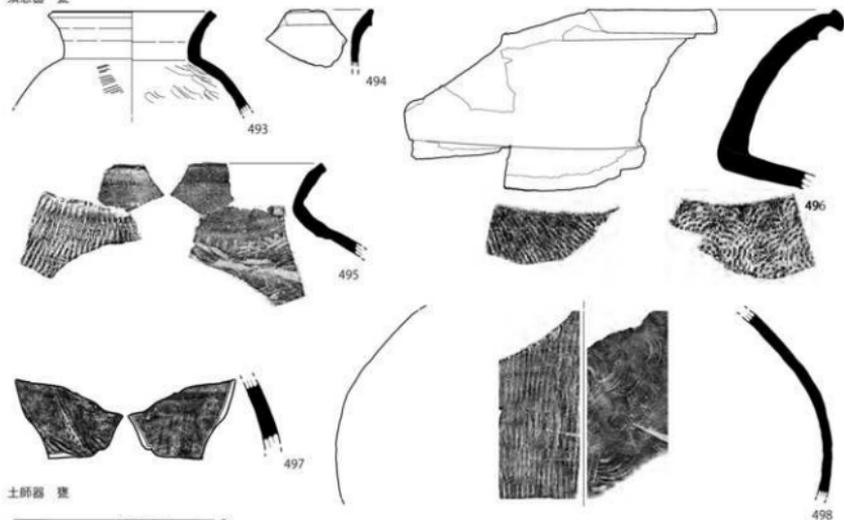


492

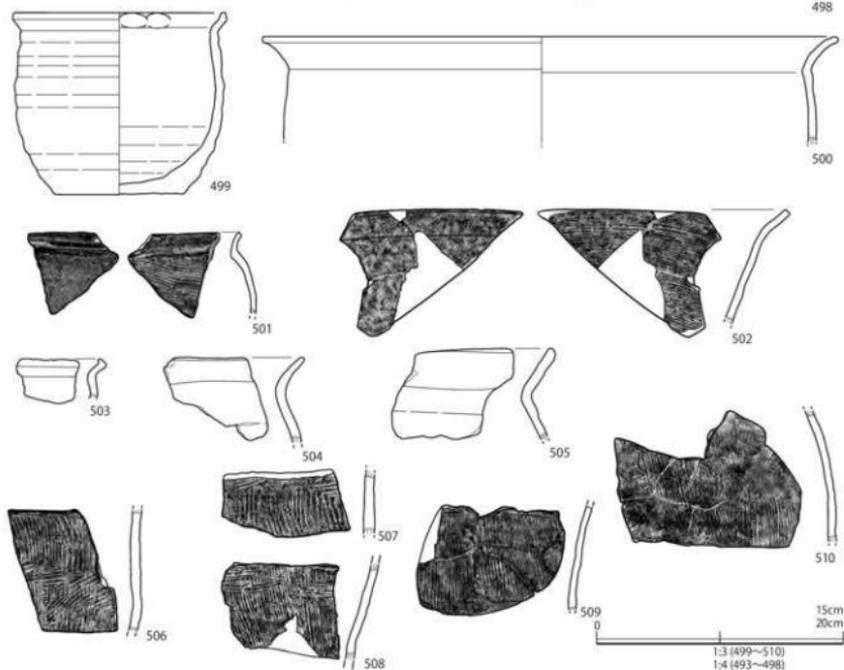


第 105 図 出土遺物 38 (15D186-17)

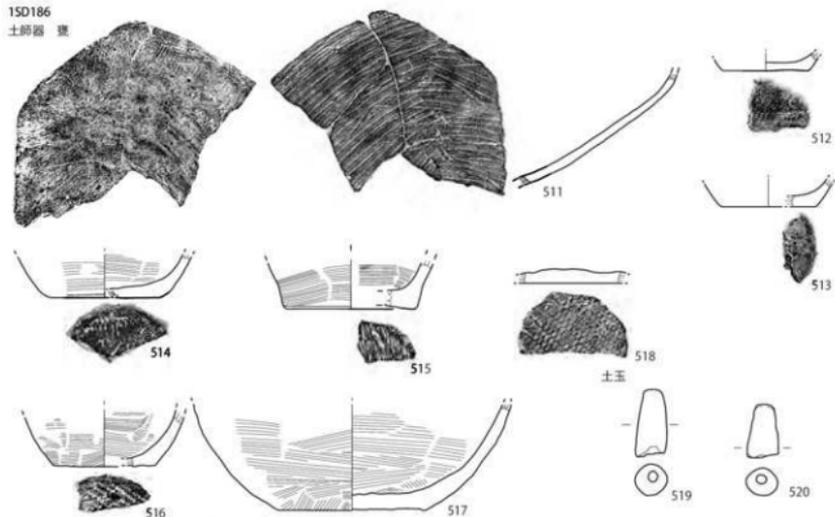
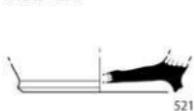
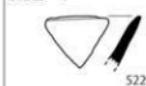
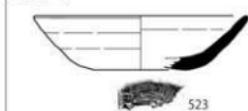
須恵器 Ⅱ



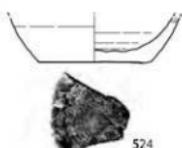
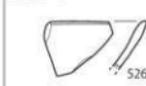
土師器 Ⅱ



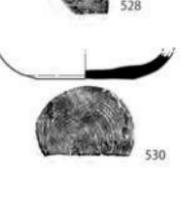
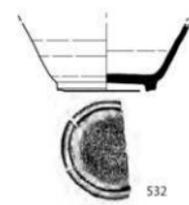
第106図 出土遺物 39 (1SD186-18)

1SD186
土師器 甕1SD2
須惠器 甕類1SK7
須惠器 环1SD11
須惠器 环

土師器 环

1SD13
須惠器 甕1SK18
土師器 环1SD27
須惠器 环

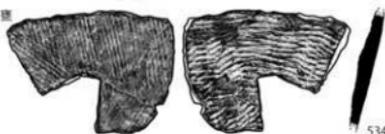
須惠器 有台环



須惠器 蓋



須惠器 甕

1:2 (519, 520)
1:3 (512~533)
1:4 (511, 523, 534)

第107図 出土遺物40 (1SD186-19・河川跡-1)

1SK28

須惠器 坏



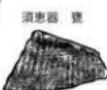
535

1SD137

土師器 有台坏



536



537

1SD150

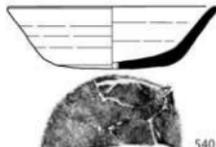
須惠器 坏



538

1SD161

須惠器 坏

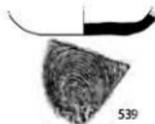


540

須惠器 甕



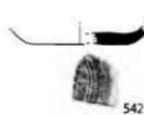
541



539

1SK167

須惠器 坏



542

1SK168

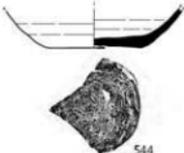
須惠器 坏



543

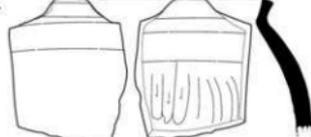
1SD175

須惠器 坏



544

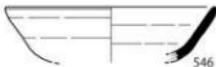
須惠器 鉢



545

1SK180

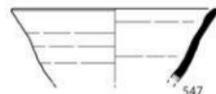
須惠器 坏



546

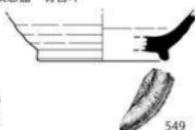


548



須惠器 有台坏

547



549

須惠器 蓋



550

須惠器 瓶類



551

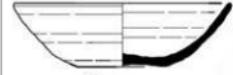
1SK182

須惠器 坏



552

須惠器 有台坏



554



553

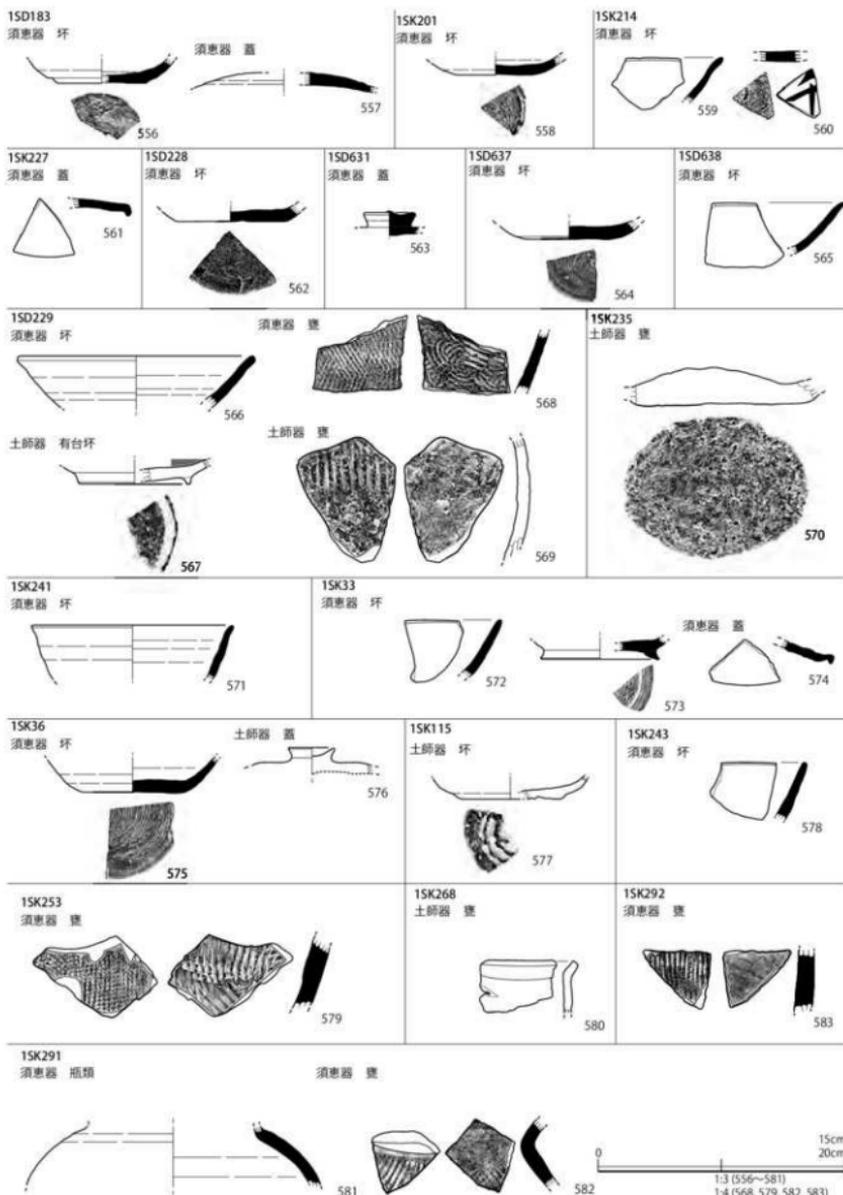
土師器 坏



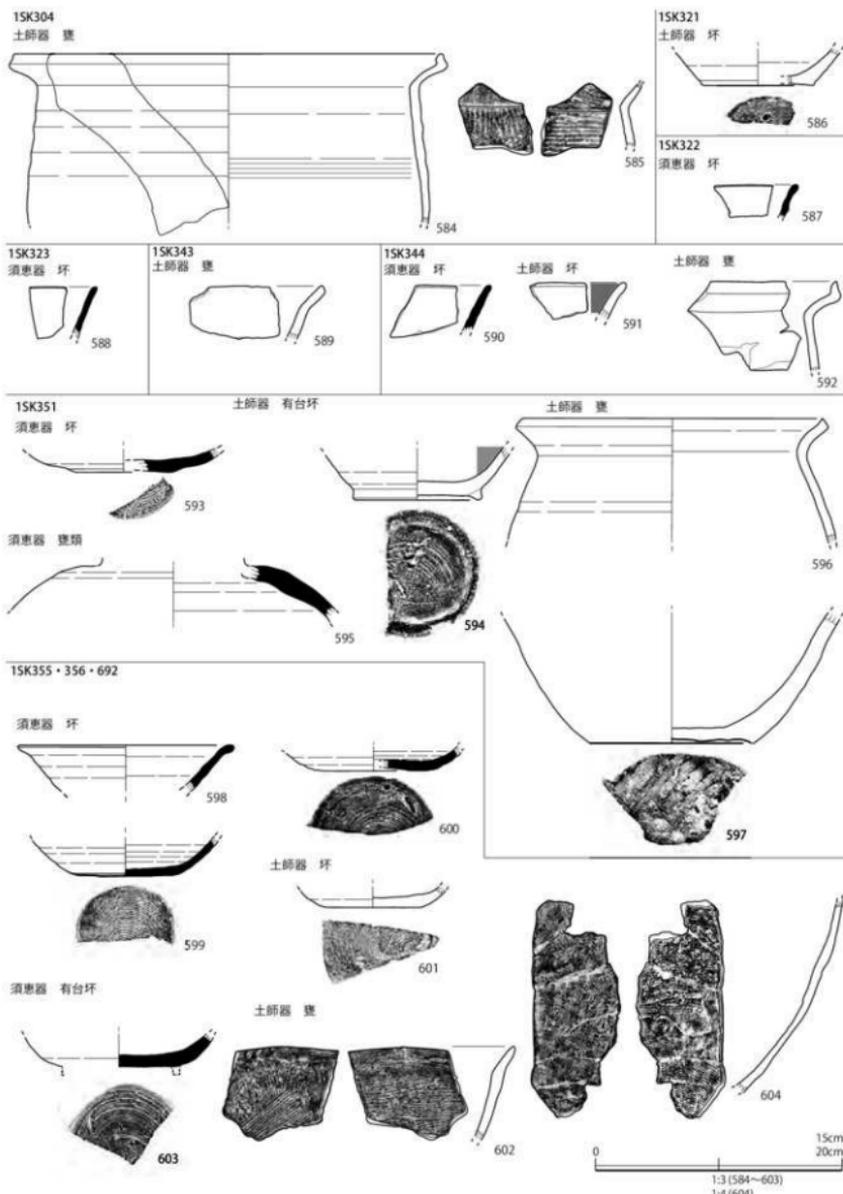
555



第 108 回 出土遺物 41 (河川跡-2)



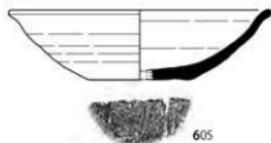
第109図 出土遺物42 (河川跡-3、土坑ほか-1)



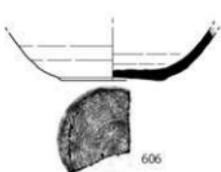
第110回 出土遺物43 (土坑ほか-2)

1SK358

須惠器 坏



605



606

土師器 坏

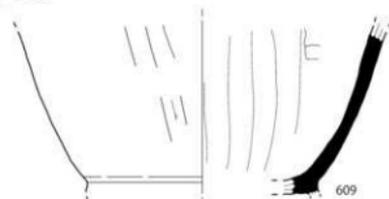


607

須惠器 皿類



608



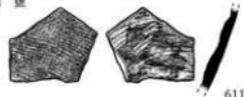
609

土師器 鉢

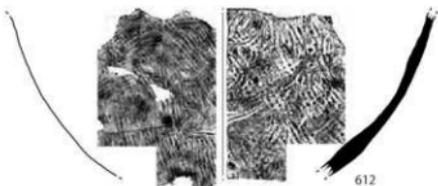


610

須惠器 甕

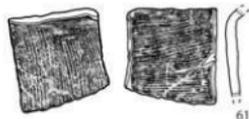


611



612

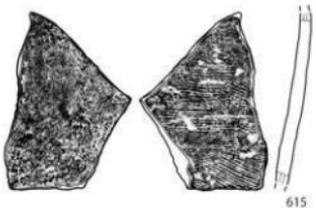
土師器 甕



613



614



615

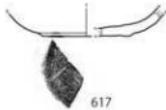
1SK369

須惠器 坏



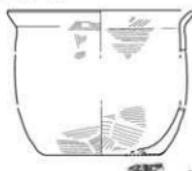
616

土師器 坏



617

土師器 甕



618



第 111 図 出土遺物 44 (土坑ほか-3)

15K373
土師器 甕



619

15K378
須恵器 坏



620

15K382
須恵器 瓶頸



621

15K387
土師器 甕



622

15K398
須恵器 坏



623

須恵器 蓋



624

土師器 甕

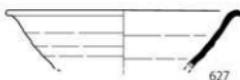


625

15K399
須恵器 坏

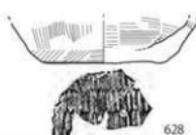


626

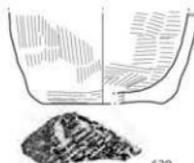


627

土師器 甕

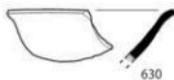


628



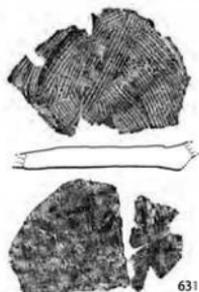
629

15K401
須恵器 坏



630

土師器 甕



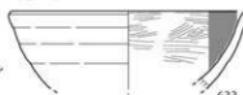
631

15K411
須恵器 坏



632

土師器 坏



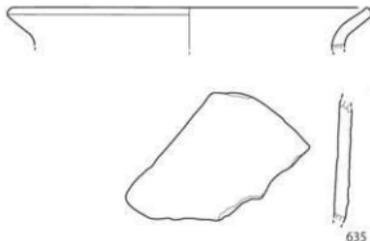
633

土師器 甕



634

15K418
土師器 甕



635

15K443
土師器 甕



637



第112図 出土遺物45 (土坑ほか-4)

1SK639

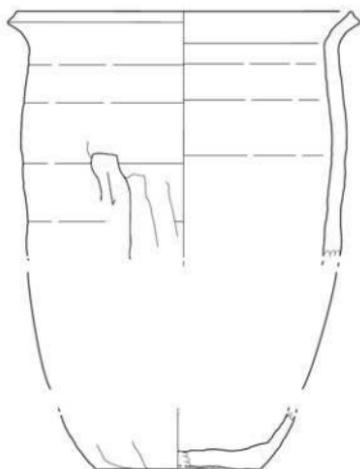
須恵器 坏

須恵器 壺



1SK783

土師器 甕

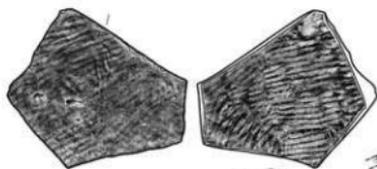


1SK643

土師器 坏



須恵器 甕



台石

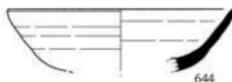


641

643

1SK1248

須恵器 坏



1SK1266

土師器 坏



1SK1314

須恵器 坏



1SK1160・1162

須恵器 坏



須恵器 有台坏



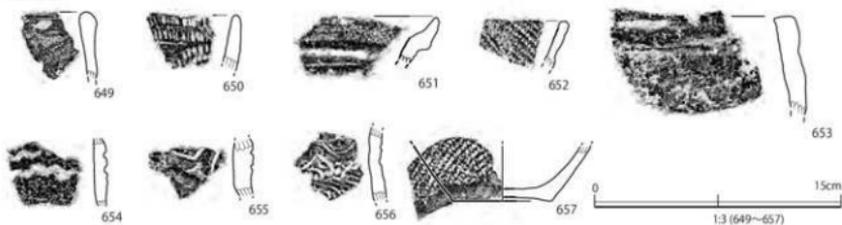
647

648

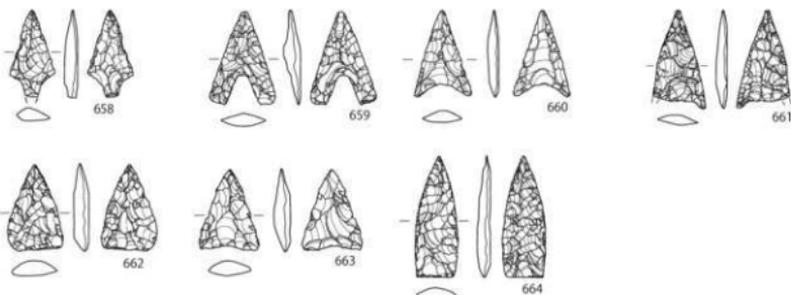


第 113 回 出土遺物 46 (土坑ほか-5)

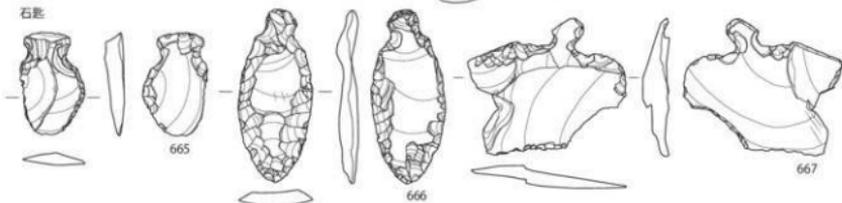
調査区一括
縄文土器



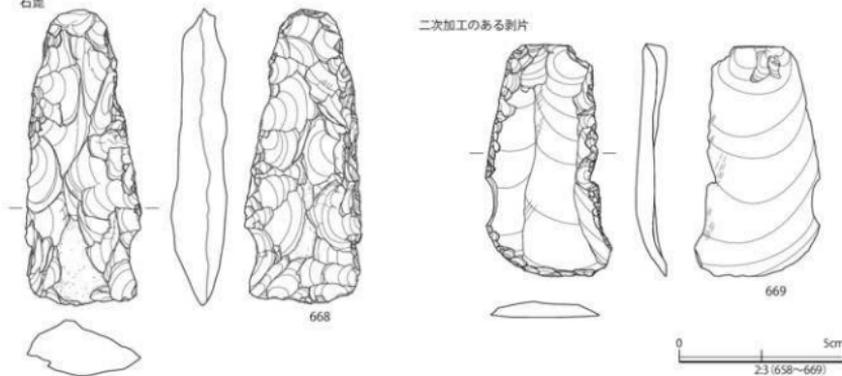
石器



石器



石器

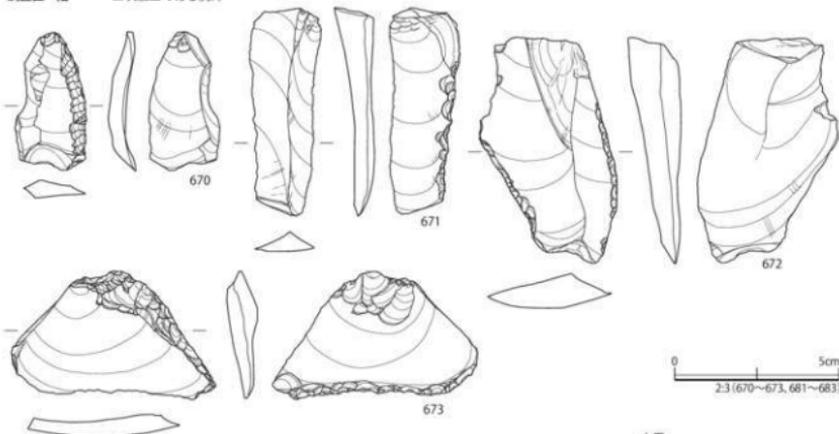


二次加工のある剥片

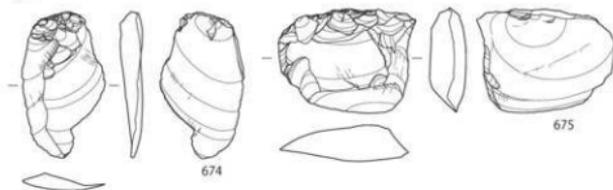
第114図 出土遺物47 (遺構外出土-1)

調査区一括

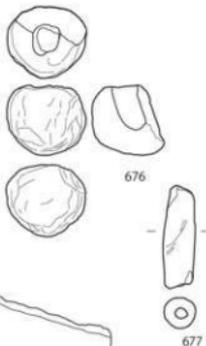
二次加工のある剥片



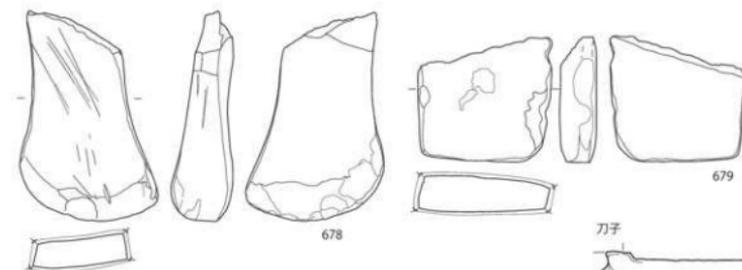
剥片



土玉



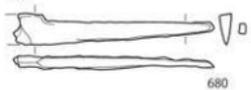
砥石



銭



刀子



第115図 出土遺物48 (遺構外出土-2)

表6 出土遺物観察表 1

番号	器種	細別	所属遺構	口径 長軸	残	底径 短径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 器高 / 口径 / 口径	調整・備考	
1	須恵器	有台杯	B-1b	15T121	(106)	3/8	6/8	52	4	0.58 0.49		
2	土師器	甕	底部	15T121		0/8	(70)	3/8	(25)	4	底：回糸切り	
3	土師器	甕	小型	15T121	(130)	1/8	0/8	75	3	外：ロクロ 内：ロクロ		
4	土師器	甕	底部	15T121		0/8	60	8/8	(59)	7	小型カ 外：ロクロ 下端回ケズリ 内：ロクロ 底：回糸切り*	
5	土師器	甕	胴片	15T121		0/8	0/8	(91)	7	外：ロクロ 縦ケズリ 内：ロクロ 11と同質		
6	土師器	甕	胴部	15T121		0/8	0/8	(61)	8	外：ケズリ ナデ 内：ハケメ ユビオサエ 残胴径 182mm		
7	須恵器	有台杯	A-1a	15T281	(130)	2/8	(80)	3/8	43	5	0.62 0.33	
8	須恵器	瓶類	口縁片	15T281	-	1/8	0/8	(31)	4	瓶カ 外：ロクロ 内：ロクロ		
9	土師器	甕	小型	15T281	(122)	3/8	0/8	(81)	5	外：ロクロ 内：ロクロ		
10	土師器	甕	底部	15T281		0/8	(90)	2/8	(27)	外：ロクロ 下端ケズリ 内：ロクロ 底：回糸切り		
11	土師器	甕	口縁片	15T281	-	1/8	0/8	(78)	7	外：ロクロ 縦ケズリ 煤付書 内：ロクロ 煤付書 5と同質		
12	土師器	甕	底部	15T281		0/8	(116)	2/8	(65)	4	長胴甕カ 外：縦ケズリ 内：ナデ	
13	須恵器	环	B-1	15T330		0/8	62	8/8	(18)		底部 底墨書：縄	
14	須恵器	环	B-1a	15T330	(124)	1/8	72	5/8	37	5	0.58 0.30	
15	須恵器	环	B-1a	15T330	144	7/8	64	8/8	47	5	0.44 0.33 底墨書：貞	
16	須恵器	环	B-1a	15T330	(132)	3/8	62	4/8	36	4	0.47 0.27	
17	須恵器	环	B-1a	15T330	(138)	1/8	(60)	3/8	41	4	0.43 0.30	
18	須恵器	有台杯	B-1	15T330		0/8	70	8/8	(19)		底部	
19	須恵器	有台杯	B-1b	15T330	(142)	1/8	72	6/8	71	5	0.51 0.50 底墨書：真	
20	須恵器	蓋		15T330	146	6/8	34	23	5	蓋み		
21	須恵器	瓶	長頸瓶	15T330		0/8	0/8	(141)	5	外：ロクロ 内：ロクロ 3段構成 頸径 60mm		
22	須恵器	瓶	横瓶	15T330		0/8	0/8	(217)	10	外：タタキ 内：アテ具底 カキメ		
23	須恵器	甕	長胴甕カ	15T330		0/8	162	2/8	(263)	8	外：タタキ 内：平行アテ具底 平底 残胴径 293mm 未接合同一器体	
24	須恵器	甕	中型	15T330	276	4/8	0/8	(270)	8	外：平行タタキ 内：円形アテ具底 胴径 408mm		
25	須恵器	甕	大型	15T330	(448)	3/8	-	8/8	677	12	外：平行タタキ カキメ 内：円形・平行アテ具底 底：丸底 胴径 782mm	
26	須恵器	甕	大型	15T330	370	5/8	-	2/8	(431)	12	外：タタキ 内：円形アテ具底 平行アテ具底 3点未接合同一器体	
27	土師器	甕	底部	15T330		0/8	78	8/8	(83)	5	小型カ 外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代底 胴径 138mm	
28	土師器	甕	長胴甕	15T330	(220)	2/8	0/8	(85)	5	外：ハケメ 内：ハケメ 残胴径 228mm		
29	土師器	甕	長胴甕	15T330	(230)*	1/8	0/8	(55)	5	外：ロクロ 内：ロクロ		
30	土師器	甕	長胴甕	15T330	(250)*	1/8	0/8	(84)	5	外：ロクロ カキメ 内：ロクロ		
31	須恵器	环	B-1a	15T365	(136)	2/8	56	5/8	36	4	0.41 0.26 底墨書：□	
32	須恵器	环	B-1a	15T365	138	7/8	56	8/8	40	3	0.41 0.29 底墨書：千	
33	須恵器	环	B-1	15T365		0/8	54	4/8	(23)	4	底部 底墨書：千	
34	須恵器	环	B-1	15T365		0/8	52	4/8	(28)	5	底部 底墨書：□	
35	須恵器	环	B-1	15T365		0/8	64	4/8	(15)	5	底部 底墨書：□	
36	須恵器	环	B-1	15T365		0/8	68	4/8	(26)	4	底部 底墨書：縄	
37	須恵器	环	B-1	15T365		0/8	56	4/8	(14)	6	底部 底墨書：縄	

表7 出土遺物観察表 2

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	口径 / 器高 / 口径		調整・備考					
				長軸	残	残	幅			底径 / 口径	器高 / 口径						
38	須恵器	坏	B-1a	15T365	128	4/8	54	8/8	41	4	0.42	0.32					
39	須恵器	坏	B-1a	15T365	136	6/8	57	8/8	42	4	0.42	0.31	歪み				
40	須恵器	坏	B-1a	15T365	142	4/8	60	8/8	43	3	0.42	0.30					
41	須恵器	坏	B-1a	15T365	(138)	3/8	56	4/8	48	4	0.41	0.35					
42	須恵器	坏	B-1a	15T365	(128)	2/8	(52)	2/8	38	3	0.41	0.30	歪み				
43	須恵器	坏	-1	15T365	(150)	3/8		0/8	<47>			4					
44	須恵器	有台坏	B-1a	15T365	128	5/8	(70)	3/8	47	3	0.55	0.37	切離し不明				
45	須恵器	有台坏	B-1a	15T365	130	5/8	70	8/8	51	4	0.54	0.39	歪み				
46	須恵器	有台坏	B-1b	15T365	(126)	2/8	(66)	3/8	55	4	0.52	0.44					
47	須恵器	有台坏	B-1a	15T365	(142)	4/8	(64)	1/8	56	3	0.45	0.39					
48	須恵器	有台坏	B-1	15T365		0/8	68	7/8	<47>	4			底部 底墨書：□				
49	土師器	坏	B-1	15T365		0/8	56	5/8	23	4			底墨書：千				
50	土師器	坏	B-1a	15T365	(124)	3/8	58	5/8	43	3	0.47	0.35					
51	土師器	坏	B-1a	15T365	144	4/8	56	8/8	47	3	0.39	0.33					
52	土師器	坏	B-1a	15T365	(132)	2/8	(58)	3/8	50	4	0.44	0.38					
53	土師器	坏	B-1	15T365		0/8	48	8/8	<30>	4			底部				
54	土師器	坏	B-1	15T365		0/8	50	8/8	<39>	4			底部				
55	土師器	坏	B-1	15T365		0/8	50	8/8	<47>	4			底部				
56	土師器	坏	B-2a	15T365	128	4/8	54	6/8	45	4	0.42	0.35					
57	土師器	坏	B-2a	15T365	(136)	1/8	53	5/8	45	4	0.39	0.33					
58	土師器	有台坏	B-1a	15T365	150	4/8	72	7/8	58	5	0.48	0.39					
59	土師器	有台坏	B-1	15T365		0/8	75	8/8	<19>	5			底部				
60	土師器	有台坏	B-2b	15T365	(134)	3/8	68	4/8	64	4	0.51	0.48					
61	土師器	有台坏	B-2	15T365		0/8	62	8/8	<45>	5			底部 内煤付着 灯明皿転用				
62	須恵器	瓶	口縁片	15T365	-	1/8		0/8	<42>	4	外：ロク口	内：ロク口					
63	須恵器	鉢	楕形鉢	15T365	(125)	2/8		0/8	<97>	6	外：ロク口	内：カキメ					
64	須恵器	瓶類	胴部	15T365		0/8		0/8	<109>	6	瓶カ	外：ロク口	内：ロク口	残胴径172mm			
65	須恵器	瓶類	底部	15T365		0/8	(103)	5/8	<42>	9	瓶カ	外：ロク口	下縁回ケズリ	内：ロク口	ユビオサエ	底：ナデ	高台貼付
66	土師器	鉢	鍋	15T365	(360)	1/8	(126)	3/8	138	9	外：ロク口	ケズリ	煤付着	内：ロク口			
67	土師器	鉢	鍋	15T365	(342)	3/8		0/8	<162>	6	外：ハケメ	内：ハケメ					
68	土師器	甕	小型	15T365	(146)	2/8	66	4/8	111	5	外：ロク口	ケズリ	内：ロク口	底：ケズリ	ナデ		
69	土師器	甕	口縁片	15T365	-	1/8		0/8	<52>	5	外：ロク口	内：ロク口					
70	土師器	甕	口縁片	15T365	-	1/8		0/8	<56>	7	外：ロク口	内：ロク口					
71	土師器	甕	長胴甕	15T365	192	4/8		0/8	<145>	6	外：ハケメ	内：ハケメ					
72	土師器	甕	長胴甕	15T365	(190)*	1/8		0/8	<40>	4	外：ハケメ	内：ハケメ					
73	土師器	甕	底部	15T365		0/8	(132)	1/8	<45>	5	長胴甕カ	外：ナデ	磨耗	内：ナデ	底：網代底		
74	土師器	甕	口縁片	15T365	-	1/8		0/8	-	4	外：ハケメ	内：ハケメ					
75	土師器	甕	口縁片	15T365	-	1/8		0/8	<72>	6	外：ハケメ	内：ハケメ					
76	土師器	甕	底部	15T365		0/8	76	6/8	(33)	4	外：ハケメ	内：ハケメ	底：網代底				

表8 出土遺物観察表 3

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 器高 / 口径	調整・備考
				長軸	短軸	残	残				
77	土師器 甕	底片	15T365	0/8	0/8	(9)				底：網代産	
78	土師器 甕	底片	15T365	0/8	-	1/8	(31)	6		外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代産	
79	土師器 甕	胴片	15T365	0/8	0/8	(62)		7		外：タタキ 内：平行アテ具 全面黄褐色 195と同質	
80	帯金具	巡方	15T365	27	(横)	25	(縦)	6	1	掘方出土 青銅 4.5g	
81	鉄滓	炉底	15T365	38	(横)	39	(縦)	16	35.0	鍛冶滓	
82	鉄滓	椀型	15T365	47	(横)	59	(縦)	17	48.0	鍛冶滓	
83	鉄滓	炉底	15T365	54	(横)	87	(縦)	29	112.5	鍛冶滓	
84	鉄滓	椀型	15T365	73	(横)	77	(縦)	38	177.0	鍛冶滓	
85	土製品	土玉	15T365	39	(縦)	19	(横)	12	6		
86	土製品	土玉	15T365	36	(縦)	12	(横)	12	5		
87	石製品	砥石	15T365	<46>	(縦)	<40>	(横)	<16>	21	破片 凝灰岩	
88	須恵器 坏	A-1a	15T510	140	8/8	84	8/8	37	4	0.60 0.26	歪み
89	須恵器 坏	A-1a	15T510	140	6/8	96	6/8	39	5	0.69 0.28	歪み
90	須恵器 坏	B-1a	15T510		0/8	(64)	2/8	(32)	4		底部
91	須恵器 甕	胴片	15T510	0/8	0/8	(108)		12		外：タタキ 内：平行アテ具産	
92	土師器 甕	小型	15T510	144	5/8	0/8	(76)	3		外：ロクロ 内：ロクロ カキメ	
93	土師器 甕	底部	15T510	0/8	68	7/8	(54)	4		小型カ 外：下端ケズリ 摩耗 内：ロクロ カキメ 底：回糸切り	
94	土師器 甕	長胴甕	15T510	(192)	2/8	0/8	(90)	7		外：ロクロ 煤付着 内：ロクロ	
95	土師器 甕	長胴甕	15T510	0/8	84	6/8	(269)	5		外：ロクロ ケズリ 内：カキメ ケズリ	
96	土師器 甕	胴片	15T510	0/8	0/8	(64)		5		外：ケズリ 内：ハケメ ユビオサエ	
97	須恵器 坏	A-1	15T566	0/8	(70)	3/8	(7)			底部	
98	須恵器 瓶	長頸瓶	15T566	0/8	0/8	(95)		7		外：ロクロ 頸部リング状凸帯 内：ロクロ 3段構成 頸径 64mm	
99	須恵器 甕	胴片	15T566	0/8	0/8	(249)		13		外：平行タタキ カキメ 内：平行アテ具産	
100	須恵器 坏	A-1a	15T581	(136)	1/8	(78)	3/8	42	4	0.57 0.31	
101	須恵器 坏	A-1a	15T581	(140)	1/8	(94)	3/8	34	4	0.67 0.24	内面煤付着 灯明皿転用
102	須恵器 蓋		15T581	156	7/8	29		34	6		歪み
103	土師器 甕	底部	15T581	0/8	66	8/8	(59)	4		小型カ 外：ロクロ 回ケズリ 内：ロクロ 底：回糸切り 全摩耗	
104	土師器 甕	底部	15T581	0/8	78	8/8	(78)	6		外：ロクロ 全摩耗 下端ケズリ 内：ロクロ 底：回糸切り ナデ	
105	須恵器 坏	A-1a	15T740	142	4/8	80	8/8	39	3	0.56 0.27	
106	須恵器 坏	A-1a	15T740	142	6/8	80	8/8	38	3	0.56 0.27	
107	須恵器 坏	A-1a	15T740	138	6/8	76	8/8	36	4	0.55 0.26	
108	須恵器 坏	A-1a	15T740	144	8/8	84	8/8	36	4	0.58 0.25	
109	須恵器 坏	B-1a	15T740	128	7/8	62	8/8	40	4	0.48 0.31	
110	須恵器 坏	B-1a	15T740	134	7/8	60	8/8	41	4	0.45 0.31	歪み
111	須恵器 坏	B-1a	15T740	140	6/8	64	8/8	46	4	0.46 0.33	外火燻産
112	須恵器 坏	B-1a	15T740	(142)	1/8	68	6/8	39	3	0.48 0.27	
113	須恵器 坏	B-1	15T740	0/8	67	8/8	(20)	4		底部 底墨書：其カ	

表9 出土遺物観察表 4

番号	器種	細別	修復遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	調整 / 器高 / 口径		調整・備考	
				長軸	残	残	幅			残	口径		
114	須恵器	有台坏	-1b	15T740	(110)	3/8	(60)	3/8	50	3	0.55	0.45	
115	須恵器	有台坏	A-1a	15T740	(132)	2/8	87	8/8	45	4	0.66	0.34	
116	須恵器	有台坏	B-1a	15T740	116	4/8	67	5/8	42	4	0.58	0.36	
117	須恵器	有台坏	B-1a	15T740	126	6/8	70	8/8	40	4	0.56	0.32	歪み
118	土師器	坏	B-1a	15T740	(128)	2/8	70	8/8	47	4	0.55	0.37	
119	土師器	坏	B-1	15T740		0/8	70	8/8	<43>	5			底部
120	土師器	坏	B-2a	15T740	142	4/8	58	8/8	50	5	0.41	0.35	底墨書: □
121	土師器	坏	B-2	15T740		0/8	62	8/8	<25>	5			底部 底墨書: 王
122	須恵器	蓋	無紐	15T740	142	4/8			20	5			頂部墨書: 富
123	須恵器	蓋	小型	15T740	124	8/8	26		25	8			歪み
124	須恵器	蓋		15T740	150	7/8	31		36	4			歪み
125	須恵器	蓋		15T740	(160)	3/8	28		32	4			内重ね焼き痕
126	須恵器	蓋	蓋蓋	15T740	(142)	1/8			51	7			
127	須恵器	瓶頸	胴部	15T740		0/8		0/8	<136>	6			瓶・蓋か 球胴形 外:ロクロ 内:ロクロ 残胴径 216mm
128	須恵器	壺	広口壺	15T740	(156)	3/8	(160)	3/8	324	11			外:ロクロ 下端ケズリ 内:ロクロ 下端ハケメ 胴径 260mm
129	須恵器	壺	広口壺	15T740	170	5/8		0/8	<234>	10			外:ロクロ 内:ロクロ 胴径 242mm
130	須恵器	甕	中型	15T740	(224)	3/8		0/8	<89>	7			外:口縁ナデ 肩タタキ 内:口縁ナデ 肩平行アテ具痕
131	須恵器	甕	胴部	15T740		0/8		0/8	<550>	15			大型か 頸~底部付近 外:タタキ 内:円形・平行アテ具痕 胴径 760mm 外:上半ロクロ 下半縦ケズリ 内:ロクロ 下端ハケメ 底:ケズリ
132	土師器	甕	長胴甕	15T740	202	4/8	102	7/8	340	9			外:ロクロ 内:ロクロ 屈曲強い
133	土師器	甕	長胴甕	15T740	(210)	2/8		0/8	<49>	5			外:ロクロ 内:ロクロ
134	土師器	甕	長胴甕	15T740	(220)	2/8		0/8	<78>	6			外:ロクロ 内:ロクロ
135	土師器	甕	口縁片	15T740	-	1/8		0/8	<108>	6			長胴甕か 外:ロクロ 内:ロクロ
136	土師器	甕	口縁片	15T740	-	1/8		0/8	<72>	6			外:ハケメ 内:ハケメ 復元口径が大きい。鍋か
137	土師器	甕	底部	15T740		0/8	84	6/8	<39>	7			外:ナデ 内:ナデ 底:網代敷 全面摩耗
138	土製品	ミニチュア		15T740	35		<27>	(縦)	34	10			
139	土製品	ミニチュア		15T740	37		(横)	32	(縦)	<35>			
140	土製品	ミニチュア		15T740	36		(横)	31	(縦)	35			
141	鉄製品	工具か		15T740	<48>		(縦)	51	(横)	5	13.0		錆のため刃部不明瞭
142	須恵器	坏	A-1a	15T777	138	8/8	86	8/8	30	5	0.62	0.22	
143	須恵器	坏	B-1a	15T777	148	5/8	62	8/8	41	4	0.42	0.28	底墨書: 罫、歪み
144	須恵器	坏	B-1a	15T777	132	7/8	60	8/8	43	3	0.45	0.33	
145	須恵器	坏	B-1a	15T777	130	7/8	60	8/8	38	5	0.46	0.29	
146	須恵器	坏	B-1a	15T777	134	5/8	72	4/8	43	4	0.54	0.32	
147	須恵器	有台坏	B-1a	15T777	129	4/8	(72)	1/8	44	4	0.56	0.34	
148	須恵器	有台坏	B-1a	15T777	130	4/8	72	8/8	50	4	0.55	0.38	
149	須恵器	有台坏	B-1	15T777		0/8	74	8/8	<21>	3			底部 底墨書か
150	須恵器	蓋		15T777	146	5/8	28		27	5			

表 10 出土遺物観察表 5

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考			
				長軸	残	短径	残			底径 / 口径	器高 / 口径		
151	土師器	坏	A-1a	15T777	112	7/8	66	8/8	35	3	0.59	0.31	底塗書：王、小型品
152	土師器	坏	B-1a	15T777	(126)	7/8	60	8/8	48	5	0.48	0.38	
153	土師器	坏	B-1a	15T777	136	4/8	56	4/8	45	4	0.41	0.33	
154	土師器	坏	B-2a	15T777	140	6/8	64	8/8	42	4	0.46	0.30	内脚痕多数
155	土師器	有台坏	A-2	15T777	132	6/8		0/8	<40>	4			底部 高台裏付欠損 内面黒色薄い
156	土師器	有台坏	-2	15T777	126	7/8		0/8	<42>	4			高台剥落 切離し不明
157	土師器	有台坏	A-2	15T777		0/8	68	4/8	<50>	3			底部
158	土師器	有台皿	B-1a	15T777	(128)	3/8	73	6/8	25	6	0.57	0.20	
159	土師器	鉢	小型	15T777	(96)	2/8	56	8/8	53	3			コップ形 外：ロクロ 内：ロクロ 底：回糸切り
160	土師器	甕	口縁片	15T777	-	1/8		0/8	(98)	6			長胴甕か 外：ロクロ ケズリ 内：ロクロ
161	土師器	甕	口縁片	15T777	-	1/8		0/8	(85)	5			長胴甕か 外：ロクロ 内：ロクロ
162	土師器	甕	胴片	15T777		0/8		0/8	(98)	5			長胴甕か 頸～胴片 外：ロクロ 内：ロクロ
163	土師器	甕	口縁片	15T777	-	1/8		0/8	(162)	8			長胴甕か 外：ロクロ 縦ケズリ 内：ナデ
164	土師器	甕	口縁片	15T777	-	1/8		0/8	(75)	4			外：ハケメ 内：ハケメ
165	土師器	甕	口縁片	15T777	-	1/8		0/8	(48)	6			外：ハケメ 内：ハケメ
166	土師器	甕	小型	15T777	136	8/8		0/8	(88)	3			外：ロクロ 内：ロクロ
167	土師器	甕	小型	15T777	138	5/8	91	8/8	145	5			内外：ロクロ 煤付蓋 底：ケズリ 歪み
168	土師器	甕	小型	15T777	(144)	2/8	88	5/8	(68)				外：ハケメ 内：ハケメ 底：木製痕 未接合同一器体
169	土師器	甕	長胴甕	15T777	(240)	2/8		0/8	(85)	5			外：ロクロ 内：ロクロ
170	土師器	甕	長胴甕	15T777	(210)	3/8		0/8	(63)	7			外：ロクロ 内：ロクロ カキメ
171	鉄製品	刀子		15T777	<99>	(横)	12		(縦)	4	6.0		刃部 1/3欠損
172	須恵器	坏	B-1a	15T1158	(140)	2/8	(52)	1/8	47	5	0.37	0.34	軟質
173	須恵器	坏	B-1a	15T1158	130	4/8	56	8/8	38	3	0.43	0.29	
174	須恵器	坏	B-1a	15T1158	138	7/8	58	8/8	39	3	0.42	0.28	
175	須恵器	坏	B-1a	15T1158	140	6/8	60	8/8	43	3	0.43	0.31	歪み
176	須恵器	坏	B-1a	15T1158	130	6/8	64	8/8	46	4	0.49	0.35	底部丸み
177	須恵器	坏	B-1a	15T1158	148	6/8	58	8/8	47	4	0.39	0.32	底部丸み
178	須恵器	坏	B-1a	15T1158	(140)	2/8	64	3/8	39	4	0.46	0.28	
179	須恵器	坏	B-1a	15T1158	(136)	2/8	54	5/8	39	3	0.40	0.29	
180	須恵器	坏	B-1a	15T1158	142	2/8	(62)	2/8	34	4	0.44	0.24	
181	須恵器	坏	B-1a	15T1158	148	8/8	70	8/8	45	4	0.47	0.30	
182	須恵器	坏	B-1	15T1158		0/8	60	4/8	<17>	5			底部 底塗書：縄
183	須恵器	有台坏	B-1b	15T1158	(140)	2/8	75	4/8	56	5	0.54	0.40	歪み
184	土師器	坏	B-1a	15T1158	(132)	3/8	50	6/8	49	5	0.38	0.37	
185	土師器	坏	B-1a	15T1158	(136)	2/8	50	8/8	50	4	0.37	0.37	
186	土師器	坏	B-1a	15T1158	140	4/8	60	4/8	54	5	0.43	0.39	
187	土師器	坏	B-1a	15T1158	(146)	3/8	64	4/8	44	5	0.44	0.30	
188	土師器	坏	B-1a	15T1158	158	5/8	64	6/8	57	5	0.41	0.36	
189	土師器	有台坏	B-2	15T1158		0/8	88	8/8	<47>	7			底部 外面回転ヘラケズリ

表 11 出土遺物観察表 6

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高	器厚	調整・備考
				長軸	短軸	残	鈕径			
190	須恵器 瓶	長頸瓶	15T1158		0/8		0/8	(98)	6	外：ロクロ 頸部リング状凸帯 内：ロクロ 2段構成 頸径 70mm
191	須恵器 瓶類	底胴部	15T1158		0/8	(110)	2/8	(195)	6	蓋カ 外：ロクロ 縦ケズリ 下端横ケズリ 内：カキメ 残胴径 208mm 未接合同一個体 外：ハケメ 内：ハケメ ユビオサエ 底：網代産 蓋み
192	土師器 甕	小型	15T1158	142	7/8	86	8/8	119	6	外：ハケメ 内：ハケメ 残胴径 236mm
193	土師器 甕	長胴甕	15T1158	(220)*	1/8		0/8	(169)	6	外：ハケメ 内：ハケメ 残胴径 236mm
194	土師器 甕	長胴甕	15T1158	(238)*	1/8		0/8	(275)	8	外：ロクロ ヘラケズリ 内：ナデ 縦長に残存、底部板を欠く 出羽型蓋カ 外：上半ロクロ 下半タタキ 内：平行アテ具痕 全黄褐色 未接合同一個体 残胴径 228mm
195	土師器 甕	長胴甕	15T1158		0/8		0/8	(294)	7	残胴径 228mm
196	鉄製品	刀子	15T1158	<62>	(横)	9	(縦)	7	2.5	刃部のみ 小型品
197	須恵器 坏	B-1a	15T1184	144	5/8	70	5/8	40	4	0.49 0.28
198	須恵器 坏	B-1a	15T1184	144	6/8	64	5/8	38	4	0.44 0.26
199	須恵器 坏	-1	15T1184	(152)	2/8		0/8	(53)	4	口縁部
200	須恵器 坏	B-1	15T1184		0/8	60	8/8	(33)	4	底部
201	須恵器 壺	広口壺	15T1184	(136)	2/8		0/8	(60)	8	口縁部のみ 外：ロクロ 障灰 内：ロクロ 自然釉
202	須恵器 鉢	括れ鉢	15T1184	(204)	3/8		0/8	(105)	8	外：ロクロ 内：ロクロ
203	土師器 甕	底部	15T1184		0/8	(98)	2/8	(72)	5	長胴蓋カ 外：ハケメ 内：ハケメ 底：ケズリ
204	土師器 甕	長胴甕	15T1184	(230)	2/8		0/8	(190)	8	外：ハケメ 内：ハケメ
205	鉄製品	刀子	15T1184	<113>	(横)	20	(縦)	11	14.5	刃部欠損 茎に木質付着
206	須恵器 坏	B-1a	15T1290	(150)	3/8	66	8/8	39	4	0.44 0.26
207	須恵器 坏	-1	15T1290	148	4/8		0/8	(41)	4	口縁部
208	須恵器 蓋		15T1290		0/8	36		(16)	8	鈕書：王
209	須恵器 有台坏	A-1	15T1290		0/8	80	8/8	(22)	4	底部
210	須恵器 有台坏	B-1	15T1290		0/8	(86)	3/8	(43)	4	底部
211	須恵器 瓶	長頸瓶	15T1290		0/8		0/8	(147)	5	外：ロクロ 内：ロクロ 頸径 58mm 胴径 208mm 3段構成
212	須恵器 壺	広口壺	15T1290	(190)	3/8		0/8	(260)	9	外：ロクロ 内：ロクロ カキメ 胴径 310mm
213	須恵器 壺	広口壺	15T1290		0/8	126	6/8	(278)	10	外：ロクロ 下半タタキ 下端ケズリ 内：ロクロ 障灰 胴径 276mm 厚耗 未接合同一個体
214	土師器 甕	小型	15T1290	(138)	2/8		0/8	(50)	6	外：ハケメ 内：ハケメ
215	土師器 甕	小型	15T1290	(144)	3/8		0/8	(65)	4	外：ロクロ 縦ケズリ 内：ロクロ
216	土師器 甕	小型	15T1290	143	8/8	60	8/8	141	6	外：ロクロ ケズリ 内：ロクロ カキメ 底：ケズリ
217	土師器 甕	口縁片	15T1290	-	1/8		0/8	(50)	4	長胴蓋カ 外：ロクロ 内：ロクロ
218	土師器 甕	口縁片	15T1290	-	1/8		0/8	(60)	6	長胴蓋カ 外：ハケメ 内：ハケメ
219	土師器 甕	長胴甕	15T1290	(220)	2/8		0/8	(68)	7	外：ロクロ 内：ロクロ
220	土師器 甕	胴片	15T1290		0/8		0/8	(91)	6	外：ハケメ 内：ハケメ
221	土師器 甕	底部	15T1290		0/8	66	4/8	(44)	5	小型カ 外：ケズリ 内：ハケメ 煤付着 底：ケズリ
222	土師器 甕	底部	15T1290		0/8	(80)	5/8	(57)	4	外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代産
223	土師器 甕	底部	15T1290		0/8	(100)	3/8	(75)	6	外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代産

表 12 出土遺物観察表 7

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高	器厚	調整・備考			
				長軸	残	総径	残			底径 / 口径	器高 / 口径		
224	土師器	甕	底部	15T1286	0/8	(84)	1/8	<25>	9	外：ロクロ	内：ロクロ	底：回糸切り	
225	須恵器	坏	B-1	15B665	0/8	58	8/8	<18>	4	底部			
226	土師器	甕	底部	15B1405	0/8	(90)	2/8	<19>	10	長柄狭カ	外：ロクロ	内：ロクロ 底：ケズリ ナデ	
227	須恵器	坏	B-1a	15D186	132	4/8	68	6/8	42	5	0.52	0.32	底墨書：縄、歪み
228	須恵器	坏	B-1a	15D186	134	8/8	62	8/8	42	4	0.46	0.31	底墨書：縄、歪み
229	須恵器	坏	B-1a	15D186	(136)	2/8	54	8/8	47	3	0.40	0.35	底墨書：縄、歪み
230	須恵器	坏	B-1a	15D186	(136)	3/8	58	8/8	42	4	0.43	0.31	底墨書：縄
231	須恵器	坏	B-1a	15D186	136	8/8	64	8/8	39	4	0.47	0.29	底墨書：「縄」
232	須恵器	坏	B-1a	15D186	138	8/8	62	8/8	46	4	0.45	0.33	底墨書：縄
233	須恵器	坏	B-1a	15D186	140	7/8	60	8/8	40	5	0.43	0.29	底墨書：縄
234	須恵器	坏	B-1a	15D186	(140)	1/8	59	8/8	39	4	0.42	0.28	底墨書：縄
235	須恵器	坏	B-1a	15D186	142	6/8	64	8/8	39	4	0.45	0.27	底墨書：縄
236	須恵器	坏	B-1a	15D186	142	6/8	51	8/8	43	3	0.36	0.30	底墨書：縄
237	須恵器	坏	B-1a	15D186	142	6/8	65	8/8	41	5	0.46	0.29	底墨書：縄
238	須恵器	坏	B-1a	15D186	(142)	3/8	60	8/8	45	4	0.42	0.32	底墨書：縄、歪み
239	須恵器	坏	B-1a	15D186	144	8/8	54	8/8	48	3	0.38	0.33	底墨書：縄
240	須恵器	坏	B-1a	15D186	144	7/8	64	8/8	45	4	0.44	0.31	内底狭カ 底墨書：縄
241	須恵器	坏	B-1a	15D186	144	6/8	58	8/8	39	3	0.40	0.27	底墨書：縄、歪み
242	須恵器	坏	B-1a	15D186	144	8/8	60	8/8	41	5	0.42	0.28	底墨書：縄
243	須恵器	坏	B-1a	15D186	144	4/8	68	8/8	42	3	0.47	0.29	底墨書：縄、歪み
244	須恵器	坏	B-1a	15D186	(146)	4/8	60	8/8	39	5	0.41	0.27	底墨書：縄、口縁端部屈曲
245	須恵器	坏	B-1a	15D186	(146)	3/8	62	7/8	42	4	0.42	0.29	底墨書：縄
246	須恵器	坏	B-1a	15D186	(147)	3/8	59	8/8	42	4	0.40	0.29	底墨書：縄
247	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	56	8/8	<27>	4	底墨書：縄			
248	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	50	8/8	<17>	3	底部	底墨書：□〔縄カ〕		
249	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	54	8/8	<16>		底部	底墨書：縄		
250	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	48	7/8	<14>		底部	底墨書：縄		
251	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	64	5/8	<17>		底部	底墨書：縄		
252	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	60	6/8	<13>		底部	底墨書：縄		
253	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	58	7/8	<16>		底部	底墨書：縄、内摩耗 転用破		
254	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	58	4/8	<10>		底部	底墨書：縄		
255	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	58	8/8	<25>		底部	底墨書：縄		
256	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	58	4/8	<17>	5	底部	底墨書：縄カ		
257	須恵器	坏		15D186	0/8	70	2/8	<15>		底部	底墨書：縄		
258	須恵器	坏		15D186	0/8	(58)	3/8	<12>		底部	底墨書：縄カ		
259	須恵器	坏	底片	15D186	0/8	-	1/8	<11>		底片	底墨書：□〔縄カ〕		
260	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	-	1/8	<8>		底片	底墨書：縄カ		
261	須恵器	坏	B-1	15D186	0/8	(52)	8/8	<17>	3	底部	底墨書：縄カ		
262	須恵器	坏	B-1a	15D186	122	5/8	(58)	4/8	40	5	0.48	0.33	底墨書：王

表 13 出土遺物観察表 8

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚寸	器厚 重寸	口径 / 器高 / 口径		調整・備考	
				長軸	残	残	幅			口径	口径		
263	須恵器	坏	B-1a	1SD186	128	7/8	58	8/8	34	4	0.45	0.27	底墨書：王
264	須恵器	坏	B-1a	1SD186	128	7/8	56	8/8	41	4	0.44	0.32	底墨書：王
265	須恵器	坏	B-1a	1SD186	130	4/8	64	8/8	41	4	0.49	0.32	底墨書：王
266	須恵器	坏	B-1a	1SD186	130	7/8	57	8/8	43	4	0.44	0.33	底墨書：王
267	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(130)	3/8	55	8/8	42	3	0.42	0.32	底墨書：王
268	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	6/8	60	8/8	38	4	0.45	0.28	底墨書：王
269	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	7/8	64	8/8	36	4	0.47	0.26	底墨書：王、歪み
270	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	4/8	67	8/8	40	5	0.49	0.29	底墨書：王
271	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(136)	7/8	64	8/8	36	4	0.47	0.26	底墨書：王
272	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	6/8	70	8/8	38	4	0.51	0.28	底墨書：王、内墨痕 転用硯
273	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	6/8	68	8/8	34	4	0.49	0.24	底墨書：王、歪み
274	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	5/8	64	8/8	37	4	0.46	0.26	底墨書：王、内墨痕 転用硯
275	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(140)	3/8	70	5/8	41	5	0.50	0.29	底墨書：王
276	須恵器	坏	B-1a	1SD186	142	7/8	60	8/8	46	3	0.42	0.32	底墨書：「王」
277	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	62	8/8	(23)	4			底部 底墨書：王
278	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	(68)	3/8	(27)	4			底部 底墨書：王
279	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	58	5/8	(19)	5			底部 底墨書：王
280	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	62	8/8	(16)				底部 底墨書：王
281	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	62	7/8	(12)				底部 底墨書：王
282	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	60	4/8	(8)				底部 底墨書：王
283	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	(66)	4/8	(14)				底部 底墨書：王
284	須恵器	坏	底片	1SD186		0/8	-	1/8	(6)				底片 底墨書：王力
285	須恵器	坏	-1	1SD186	(128)	3/8		0/8	(32)	4			口縁部 外墨書：王
286	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(132)	1/8	61	8/8	35	4	0.46	0.27	底墨書：富、歪み
287	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	56	5/8	(17)				底部 底墨書：富
288	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	56	7/8	(26)	3			底部 外墨書：王、底墨書：富
289	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	56	8/8	(29)	3			底部 底墨書：富
290	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	60	6/8	(15)				底部 底墨書：□〔富力〕
291	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	64	4/8	(9)				底部 底墨書：□〔富力〕
292	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	4/8	60	7/8	37	4	0.43	0.26	底墨書：千
293	須恵器	坏	B-1a	1SD186	142	6/8	56	8/8	40	3	0.39	0.28	底墨書：千、口縁部屈曲
294	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	(56)	3/8	(18)				底部 底墨書：千
295	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	4/8	58	8/8	37	4	0.43	0.27	底墨書：白
296	須恵器	坏	B-1a	1SD186	144	7/8	57	8/8	46	4	0.40	0.32	底墨書：日
297	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	8/8	52	8/8	48	3	0.39	0.36	底墨書：矢田、歪み
298	須恵器	坏	B-1a	1SD186	130	7/8	62	8/8	43	4	0.48	0.33	底墨書：子、歪み
299	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	5/8	58	8/8	41	4	0.42	0.30	底墨書：太
300	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	60	8/8	(10)				底部 底墨書：人
301	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	6/8	58	6/8	38	4	0.43	0.28	底墨書：□〔身力〕
302	須恵器	坏	B-1	1SD186		0/8	62	7/8	(31)	4			底部 底墨書：□〔身力〕

表 14 出土遺物観察表 9

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高	器厚	調整・備考			
				長軸	短軸	短径	幅			底径 / 口径	器高 / 口径		
303	須恵器	坏	B-1	ISD186	0/8	52	8/8	<18			底部 底墨書：真人		
304	須恵器	坏	B-1a	ISD186	134	8/8	60	8/8	39	5	0.45	0.29	底墨書：□〔方カ〕
305	須恵器	坏	B-1	ISD186	0/8	64	4/8	<17					底部 底墨書：方
306	須恵器	坏	-1	ISD186	0/8		0/8	<32	4				胴片 外墨書：□□〔善善カ〕
307	須恵器	坏	B-1a	ISD186	138	5/8	60	7/8	44	6	0.43	0.32	外墨書：□（記号）
308	須恵器	坏	B-1a	ISD186	138	7/8	54	8/8	44	3	0.39	0.32	底～外墨書：秦□〔善カ〕、歪み大
309	須恵器	坏	B-1a	ISD186	(146)	2/8	56	8/8	49	2	0.38	0.34	底～外墨書：秦□〔善カ〕
310	須恵器	坏	B-1a	ISD186	138	7/8	56	8/8	39	4	0.41	0.28	外墨書：□〔長カ〕 同、歪み
311	須恵器	坏	B-1a	ISD186	140	8/8	58	8/8	39	4	0.41	0.28	外墨書：同
312	須恵器	坏	B-1a	ISD186	128	5/8	66	7/8	31	3	0.52	0.24	
313	須恵器	坏	B-1a	ISD186	138	6/8	62	8/8	39	4	0.45	0.28	底墨書：□〔六カ〕
314	須恵器	坏	B-1a	ISD186	132	4/8	54	5/8	40	3	0.41	0.30	底墨書：□〔六カ〕 内環カ付着 灯明皿転用
315	須恵器	坏	B-1a	ISD186	132	4/8	(66)	3/8	43	4	0.48	0.33	底墨書：□
316	須恵器	坏	B-1a	ISD186	128	8/8	60	8/8	39	4	0.47	0.30	歪み 底部に火ぶくれ、底墨書：□
317	須恵器	坏	B-1a	ISD186	(140)	5/8	66	5/8	36	4	0.47	0.26	歪み大 底墨書：□
318	須恵器	坏	B-1a	ISD186	134	7/8	60	8/8	42	4	0.45	0.31	底墨書：□
319	須恵器	坏	B-1a	ISD186	140	5/8	50	4/8	40	4	0.36	0.29	底墨書：□
320	須恵器	坏	-1	ISD186	(146)	0/8		0/8	<31	3			口縁片 外墨書：□
321	須恵器	坏	-1	ISD186	-	1/8		0/8	<48	3			口縁片 外墨書：□
322	須恵器	坏	-1	ISD186	-	1/8		0/8	<41	4			口縁片 外墨書：□〔升カ〕
323	須恵器	坏	-1	ISD186	-	1/8		0/8	<30	4			口縁片 外墨書：□
324	須恵器	坏	-1	ISD186	-	1/8		0/8	<24	4			口縁片 外墨書：□
325	須恵器	坏	-1	ISD186	0/8		0/8	<4	4				胴片 外墨書：□
326	須恵器	坏	-1	ISD186	0/8		0/8	<35	4				胴片 外墨書：□
327	須恵器	坏	B-1	ISD186	0/8	(52)	3/8	<23	3				底部 底墨書：□
328	須恵器	坏	B-1	ISD186	0/8	64	4/8	<17	5				底部 底墨書：□〔イ〕
329	須恵器	坏		ISD186	0/8	56	5/8	<15					底部 底墨書：□
330	須恵器	坏		ISD186	0/8	56	5/8	<18					底部 底墨書：□
331	須恵器	坏	B-1a	ISD186	106	7/8	43	8/8	37	5	0.41	0.35	小型品、内重ね焼き接着痕
332	須恵器	坏	B-1a	ISD186	(114)	1/8	58	4/8	44	6	0.51	0.39	小型品、歪み
333	須恵器	坏	B-1a	ISD186	126	4/8	62	7/8	33	3	0.49	0.26	内摩耗 転用硯カ
334	須恵器	坏	B-1a	ISD186	(128)	1/8	52	8/8	35	3	0.41	0.27	
335	須恵器	坏	B-1a	ISD186	126	8/8	60	8/8	42	5	0.48	0.33	歪み
336	須恵器	坏	B-1a	ISD186	127	7/8	58	8/8	36	5	0.46	0.28	歪み
337	須恵器	坏	B-1a	ISD186	128	5/8	64	8/8	34	3	0.50	0.27	
338	須恵器	坏	B-1a	ISD186	130	7/8	66	8/8	37	4	0.51	0.28	
339	須恵器	坏	B-1a	ISD186	130	5/8	62	8/8	40	3	0.48	0.31	歪み
340	須恵器	坏	B-1a	ISD186	132	8/8	58	8/8	40	4	0.44	0.30	
341	須恵器	坏	B-1a	ISD186	132	8/8	56	8/8	39	4	0.42	0.30	

表 15 出土遺物観察表 10

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚寸	器厚 重寸	調整・備考			
				長軸	残	短軸	残			口径	器高/ 口径		
342	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	5/8	58	8/8	36	4	0.44	0.27	歪み
343	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	5/8	68	8/8	39	4	0.52	0.30	
344	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	4/8	58	8/8	40	4	0.44	0.30	
345	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	7/8	60	8/8	36	4	0.45	0.27	底～体部下半に黒斑、歪み
346	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	5/8	60	8/8	35	4	0.45	0.27	口縁端部屈曲
347	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	8/8	60	8/8	37	4	0.45	0.28	歪み
348	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	7/8	60	8/8	37	4	0.45	0.28	
349	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	6/8	64	8/8	38	4	0.48	0.29	
350	須恵器	坏	B-1a	1SD186	132	8/8	66	8/8	32	3	0.50	0.24	歪み
351	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	8/8	60	8/8	31	4	0.45	0.23	
352	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(134)	1/8	66	8/8	35	4	0.49	0.26	
353	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	5/8	60	8/8	36	4	0.45	0.27	
354	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(134)	3/8	64	6/8	38	5	0.48	0.28	歪み大
355	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	8/8	64	8/8	39	3	0.48	0.29	歪み
356	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	8/8	60	8/8	39	4	0.45	0.29	
357	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	4/8	58	8/8	40	5	0.43	0.30	歪み
358	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	8/8	58	8/8	41	4	0.43	0.31	歪み
359	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(134)	2/8	52	8/8	43	5	0.39	0.32	
360	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	4/8	54	8/8	44	3	0.40	0.32	
361	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	8/8	60	8/8	40	3	0.44	0.29	歪み
362	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	5/8	70	8/8	37	5	0.52	0.28	内煤付着 灯明皿転用
363	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	7/8	58	8/8	38	4	0.43	0.28	歪み
364	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(136)	2/8	70	5/8	41	5	0.51	0.30	内摩耗 転用破カ
365	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(136)	1/8	66	7/8	35	4	0.49	0.26	内外火障痕
366	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(136)	2/8	60	7/8	37	4	0.44	0.27	歪み
367	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	6/8	66	8/8	38	3	0.49	0.28	歪み
368	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	7/8	62	8/8	39	3	0.46	0.29	
369	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	6/8	64	8/8	40	3	0.47	0.29	
370	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	5/8	54	8/8	41	4	0.40	0.30	歪み
371	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	4/8	(60)	3/8	41	4	0.44	0.30	
372	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	7/8	60	8/8	42	4	0.44	0.31	歪み
373	須恵器	坏	B-1a	1SD186	136	7/8	(64)	2/8	42	4	0.47	0.31	歪み
374	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(138)	2/8	48	8/8	38	5	0.35	0.28	内摩耗 転用破
375	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	4/8	64	8/8	36	4	0.46	0.26	歪み
376	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	8/8	64	8/8	38	4	0.46	0.28	歪み
377	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	7/8	68	8/8	39	4	0.49	0.28	歪み
378	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	7/8	60	8/8	40	4	0.43	0.29	歪み
379	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	5/8	63	8/8	40	4	0.46	0.29	歪み
380	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(138)	2/8	64	6/8	41	4	0.46	0.30	

表 16 出土遺物観察表 11

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚寸	器厚 重寸	調整・備考			
				長軸	残	短径	残			底径 / 口径	器高 / 口径		
381	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(138)	3/8	58	6/8	45	4	0.42	0.33	
382	須恵器	坏	B-1a	1SD186	138	8/8	66	8/8	50	5	0.48	0.36	全面摩耗
383	須恵器	坏	B-1a	1SD186	139	5/8	60	4/8	47	3	0.43	0.34	歪み
384	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(140)	3/8	61	7/8	33	4	0.44	0.24	歪み
385	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(140)	1/8	52	5/8	37	4	0.37	0.26	歪み
386	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	5/8	58	8/8	38	4	0.41	0.27	歪み
387	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	7/8	62	5/8	38	4	0.44	0.27	内墨痕 転用硯
388	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	5/8	58	8/8	39	3	0.41	0.28	
389	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	7/8	64	8/8	40	4	0.46	0.29	歪み
390	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	5/8	62	8/8	43	3	0.44	0.31	
391	須恵器	坏	B-1a	1SD186	140	4/8	56	5/8	44	4	0.40	0.31	
392	須恵器	坏	B-1a	1SD186	141	5/8	63	7/8	36	5	0.45	0.26	
393	須恵器	坏	B-1a	1SD186	142	8/8	60	5/8	37	5	0.42	0.26	
394	須恵器	坏	B-1a	1SD186	142	7/8	66	8/8	42	5	0.46	0.30	歪み
395	須恵器	坏	B-1a	1SD186	142	7/8	66	8/8	44	4	0.46	0.31	全面摩耗
396	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(142)	3/8	70	8/8	45	5	0.49	0.32	全面摩耗
397	須恵器	坏	B-1a	1SD186	146	7/8	56	8/8	44	3	0.38	0.30	
398	須恵器	坏	B-1a	1SD186	148	5/8	60	8/8	40	4	0.41	0.27	
399	須恵器	坏	B-1a	1SD186	148	6/8	57	8/8	44	3	0.39	0.30	歪み
400	須恵器	坏	B-1a	1SD186	(150)	6/8	62	8/8	43	4	0.41	0.29	歪み
401	須恵器	坏	B-1a	1SD186	150	4/8	68	6/8	36	4	0.45	0.24	内煤付着 灯明皿転用
402	須恵器	坏	-1	1SD186	122	8/8	0/8	(34)	4				口縁部 口縁玉縁状、歪み
403	須恵器	坏	B-1	1SD186	(126)	3/8	-	0/8	(25)	3			内外煤付着 灯明皿転用
404	須恵器	坏	B-1a	1SD186	134	6/8	-	1/8	43	5	0.32		内煤付着 灯明皿転用
405	須恵器	坏	-1	1SD186	134	8/8	0/8	(35)	4				口縁部 歪み
406	須恵器	有台坏	B-1a	1SD186	(122)	2/8	69	8/8	44	4	0.57	0.36	
407	須恵器	有台坏	B-1a	1SD186	(132)	1/8	68	7/8	51	4	0.52	0.39	
408	須恵器	有台坏	B-1a	1SD186	132	6/8	83	8/8	45	5	0.63	0.34	
409	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	130	7/8	72	8/8	63	4	0.55	0.48	歪み
410	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	144	4/8	(70)	2/8	71	5	0.49	0.49	内外火燂痕
411	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	(136)	2/8	70	8/8	79	4	0.51	0.58	外縁灰、歪み
412	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	148	8/8	66	8/8	77	5	0.45	0.52	歪み
413	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	145	8/8	66	8/8	65	4	0.46	0.45	歪み
414	須恵器	有台坏	B-1a	1SD186	(158)	4/8	68	8/8	60	5	0.43	0.38	歪み
415	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	(152)	4/8	62	8	69	5	0.41	0.45	
416	須恵器	有台坏	B-1b	1SD186	(140)	3/8	72	8/8	59	4	0.51	0.42	底墨書：方
417	須恵器	有台坏	B-1	1SD186		0/8	80	4/8	(19)				底部 底墨書：王
418	須恵器	有台坏	B-1	1SD186		0/8	66	5/8	(33)	4			底部 墨書：□〔真カ〕
419	須恵器	有台坏	B-1	1SD186		0/8	78	8/8	(32)	4			底部 墨書：□〔真カ〕

表 17 出土遺物観察表 12

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高	器厚	調整・備考			
				長軸	短軸	残	鈕径			残	厚さ	底径 / 口径	器高 / 口径
420	須恵器	有台坏	B-1	ISD186		0/8	90	4/8	〈32〉		底部		
421	須恵器	双耳坏	-1	ISD186	(108)	2/8		0/8	〈38〉	4	口縁部 高台付くものか		
422	土師器	坏	B-1a	ISD186	132	5/8	60	8/8	39	4	0.45	0.30	底墨書: □、丕み
423	土師器	坏	B-1a	ISD186	146	5/8	64	8/8	44	3	0.44	0.30	底墨書: 身
424	土師器	坏	B-1a	ISD186	150	8/8	68	8/8	46	3	0.45	0.31	底墨書: 身
425	土師器	坏	B-1a	ISD186		0/8	54	8/8	〈16〉	5			底部 底墨書: 干、全摩耗
426	土師器	坏	B-1a	ISD186		0/8	52	8/8	〈19〉	4			底部 底墨書: 縄
427	土師器	坏	B-1a	ISD186		0/8	(62)	3/8	〈10〉				底部 底墨書: 縄カ
428	土師器	坏	B-1	ISD186		0/8	-	1/8	〈8〉				底片 底墨書: 縄
429	土師器	坏	底片	ISD186		0/8	-	1/8	〈8〉				底片 底墨書: 王カ
430	土師器	坏	B-1a	ISD186	130	8/8	50	8/8	43	4	0.38	0.33	丕み
431	土師器	坏	B-1a	ISD186	(130)	1/8	56	8/8	44	4	0.43	0.34	
432	土師器	坏	B-1a	ISD186	130	8/8	50	8/8	47	5	0.38	0.36	底摩耗、丕み
433	土師器	坏	-1a	ISD186	(126)	2/8	59	8/8	44	3	0.47	0.35	全摩耗 切離し不明
434	土師器	坏	-1a	ISD186	130	6/8	60	8/8	47	4	0.46	0.36	内外器表剥落、切離し不明、丕み
435	土師器	坏	B-1a	ISD186	139	6/8	65	5/8	53	4	0.47	0.38	黒色斑、丕み
436	土師器	坏	-1a	ISD186	(144)	1/8	76	8/8	44	3	0.53	0.31	切離し不明、全摩耗
437	土師器	坏	B-1a	ISD186	(126)	2/8	(60)	2/8	40	4	0.48	0.32	
438	土師器	坏	B-1a	ISD186	(140)	2/8		0/8	〈39〉	5			粘土紐接合痕
439	土師器	坏	B-1b	ISD186	118	7/8	50	8/8	48	3	0.42	0.41	内火禱痕
440	土師器	坏	B-1a	ISD186	124	4/8	60	8/8	47	4	0.48	0.38	
441	土師器	坏	B-1a	ISD186	124	5/8	48	8/8	42	3	0.39	0.34	
442	土師器	坏	B-1a	ISD186	(122)	2/8	54	8/8	46	3	0.44	0.38	
443	土師器	坏	B-1a	ISD186	154	8/8	72	8/8	60	4	0.47	0.39	底摩耗
444	土師器	坏	B-2b	ISD186	(140)	3/8	59	8/8	61	5	0.42	0.44	外下嘴ケズリ
445	土師器	坏	-2a	ISD186	(136)	2/8	50	8/8	53	5	0.37	0.39	切離し不明
446	土師器	坏	B-2b	ISD186	(136)	2/8	64	8/8	55	4	0.47	0.40	
447	土師器	坏	B-2b	ISD186	137	8	60	8/8	57	4	0.44	0.42	
448	土師器	坏	B-2a	ISD186	(140)	2/8	60	8/8	52	4	0.43	0.37	
449	土師器	坏	B-2a	ISD186	(146)	1/8	60	8/8	49	5	0.41	0.34	
450	土師器	坏	B-2	ISD186		0/8	60	8/8	〈29〉	3			底部 外下嘴ケズリ、底墨書: 王
451	土師器	坏	B-2	ISD186		0/8	(69)	2/8	〈18〉				内面に漆塗膜付着
452	土師器	有台坏	-1b	ISD186	130	5/8	66	8/8	54	5	0.51	0.42	内、底摩耗 切離し不明
453	土師器	有台坏	-1a	ISD186	123	4/8	76	8/8	48	5	0.62	0.39	切離し不明、底墨書: 身
454	土師器	有台坏	B-2a	ISD186	136	5/8	74	8/8	50	5	0.54	0.37	丕み
455	土師器	有台坏	B-2a	ISD186	136	7/8	72	8/8	49	5	0.53	0.36	
456	土師器	有台坏	B-2a	ISD186	(135)	3/8	(70)	4/8	50	4	0.52	0.37	ミカ力弱、丕み
457	土師器	有台坏	-2b	ISD186	124	4/8	66	8/8	51	5	0.53	0.41	切離し不明、丕み
458	土師器	有台坏	-2b	ISD186	118	4/8	62	8/8	51	5	0.53	0.43	切離し不明

表 18 出土遺物観察表 13

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考				
				長軸	残	短径	残			底径 / 口径	器高 / 口径			
459	土師器	有台坪	-2b	1SD186	(132)	2/8	72	8/8	61	5	0.55	0.46	全厚残	糸切痕
460	土師器	有台坪	B-2b	1SD186	(136)	2/8	70	7/8	57	6	0.51	0.42	外黒斑	
461	土師器	有台坪	-2b	1SD186	136	5/8	72	8/8	56	5	0.53	0.41	切離し不明	
462	土師器	有台坪	-2a	1SD186	148	7/8	73	8/8	54	5	0.49	0.36	切離し不明	
463	土師器	有台坪	B-2b	1SD186	136	8/8	63	8/8	56	4	0.46	0.41		
464	土師器	有台坪	B-2b	1SD186	140	5/8	30	8/8	56	5	0.21	0.40	削り高台カ	、歪み
465	土師器	有台坪	-2b	1SD186	(160)	3/8	78	8/8	66	5	0.49	0.41	切離し不明	
466	土師器	有台坪	-2	1SD186		0/8	70	8/8	(23)				底部	
467	土師器	有台坪	-2	1SD186		0/8	98	4/8	(27)				底部	
468	土師器	有台坪	-2	1SD186		0/8	66	8/8	(20)				底部	菊花状押圧文 切離し不明
469	土師器	有台坪	-2	1SD186		0/8	66	8/8	(31)	4			底部	菊花状押圧文 切離し不明
470	土師器	有台皿	-2a	1SD186	130	6/8	80	5/8	33	5	0.62	0.25	切離し不明	
471	土師器	有台皿	-2a	1SD186	(136)	1/8	84	8/8	39	6	0.62	0.29	切離し不明	
472	土師器	有台皿	B-2a	1SD186	138	6/8	78	4/8	39	6	0.57	0.28		
473	須恵器	蓋		1SD186	140	4/8	32		(20)	4			紐墨書：王	、歪み
474	須恵器	蓋		1SD186	148	6/8			26	5				
475	須恵器	蓋		1SD186	138	4/8			(16)	4				
476	須恵器	蓋		1SD186	(150)	1/8			(22)					
477	須恵器	瓶	長頸瓶	1SD186	(96)	* 1/8	0/8	(93)	6				外：ロクロ 内：ロクロ	頸径 74mm
478	須恵器	瓶	長頸瓶	1SD186	(94)	2/8	0/8	(108)	6				外：ロクロ 頸部リング状凸帯	内：ロクロ 3段構成 頸径 72mm*
479	須恵器	瓶	長頸瓶	1SD186		0/8	(100)	7/8	(297)	8			外：ロクロ リング状凸帯	内：ロクロ カキメ 底：凹ケズリ 高台貼付 未接合同一個体 頸径 52mm 胴径 194mm
480	須恵器	瓶	広口瓶	1SD186		0/8	0/8	(298)	10				外：タタキ ロクロ カキメ	内：ロクロ カキメ 頸径 102mm 胴径 260mm
481	須恵器	壺	胴部	1SD186		0/8	0/8	(66)	6				小型品	外：ロクロ 内：ロクロ 残胴径 96mm
482	須恵器	壺	広口壺カ	1SD186		0/8	0/8	(59)	5				外：ロクロ 内：ロクロ	残胴径 144mm
483	須恵器	壺	口縁部	1SD186	(160)	2/8	0/8	(46)	7				外：ロクロ 内：ロクロ	
484	須恵器	壺	広口壺	1SD186	160	6/8	0/8	(185)	7				外：ロクロ 内：ロクロ	胴径 240mm
485	須恵器	鉢	仏鉢カ	1SD186	(118)*	1/8	0/8	(58)	7				口縁片、	焼成前穿孔1箇所 内→外
486	須恵器	鉢	仏鉢カ	1SD186		0/8	0/8	(36)	6				胴片、	焼成前穿孔1箇所
487	須恵器	瓶類	口縁部	1SD186	-	1/8	0/8	(26)					瓶・壺カ	外：ロクロ 内：ロクロ
488	須恵器	瓶類	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	(43)	8				瓶カ	外：ロクロ 自然釉 内：ロクロ
489	須恵器	瓶類	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	(48)	6				瓶カ	外：ロクロ 内：ロクロ
490	須恵器	瓶類	底部	1SD186		0/8	98	4/8	(36)	4			底墨書：王	
491	土師器	鉢	括れ鉢	1SD186	(210)	2/8	78	8/8	125	4			外：ロクロ	下半ケズリ 内：ミガキ黒色処理 底：ナデ
492	土師器	鉢	鍋カ	1SD186	(380)	* 1/8	0/8	(80)	8				口縁片、	外：ロクロ ヘラケズリ 内：ロクロ カキメ
493	須恵器	壺	小型	1SD186	134	5/8	0/8	(84)	8				外：タタキ	内：円形アテ具痕
494	須恵器	壺	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	(28)	5				外：ロクロ	内：ロクロ

表 19 出土遺物観察表 14

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 器高 / 口径 / 口径	調整・備考
				長軸	残	残	幅				
495	須恵器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	(77)	9	外：平行タタキ 内：円形アテ具痕	
496	須恵器 甕	特大	1SD186	(594)*	1/8	0/8	0/8	(143)	17	口縁片 外：ナデ 平行タタキ 内：円形アテ具痕	
497	須恵器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(45)	9	外：カキメ 自然釉 内：ロク口 胎土白色で緻密、隔地輸入品か	
498	須恵器 甕	胴部	1SD186		0/8	0/8	0/8	(164)	7	外：平行タタキ 内：円形アテ具痕 残削径 402mm	
499	土師器 甕	小型	1SD186	(130)	4/8	7/8	4/8	112	5	内外：ロク口 口縁部ユビオサエ 底：ケズリ 歪み	
500	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	2/8	0/8	0/8	(65)	5	外：ハケメ 内：ハケメ 歪み大	
501	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	(52)	3	外：ハケメ 内：ハケメ	
502	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	(70)	4	外：ロク口 内：ハケメ	
503	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	(25)	4	外：ロク口 内：ロク口 煤付着	
504	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	5	外：ナデ 内：ナデ 全厚耗		
505	土師器 甕	口縁片	1SD186	-	1/8	0/8	0/8	(54)	6	外：ロク口 内：ロク口	
506	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(75)	5	外：ハケメ 内：ハケメ	
507	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(40)	5	外：ハケメ 内：ハケメ	
508	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(58)	4	外：ハケメ 内：ハケメ、煤付着	
509	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(64)	5	外：ハケメ 内：ハケメ	
510	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(80)	5	外：ハケメ 内：ハケメ	
511	土師器 甕	胴片	1SD186		0/8	0/8	0/8	(90)	6	内外：ハケメ 底部付近 細いへら状工具による調整	
512	土師器 甕	小型	1SD186		0/8	(52)	2/8	(11)		外：ロク口 内：ロク口 底：回糸切り	
513	土師器 甕	小型	1SD186		0/8	(58)	2/8	(17)		外：ロク口 内：ロク口 底：回糸切り	
514	土師器 甕	底部	1SD186		0/8	(66)	2/8	(26)	5	外：ハケメ 内：ハケメ	
515	土師器 甕	底部	1SD186		0/8	(80)	1/8	(30)	7	外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代痕	
516	土師器 甕	小型	1SD186		0/8	(62)	2/8	(35)		外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代痕	
517	土師器 甕	底部	1SD186		0/8	(88)	3/8	(65)	6	外：ハケメ 内：ハケメ 底：網代痕カ	
518	土師器 甕	底片	1SD186		0/8	0/8	<7>			底：網代痕	
519	土製品	土玉	1SD186	(27)		12		13	4	管玉形	
520	土製品	土玉	1SD186	(22)		13		11	3	管玉形	
521	須恵器 瓶類	底部	1SD2		0/8	(98)	2/8	(21)		瓶外 外：ロク口 内：ロク口 底：ナデ 高台貼付	
522	須恵器 坏	-1	1SK7	-	1/8	0/8	0/8	(30)	6	口縁片	
523	須恵器 坏	B-1a	1SD11	(130)	2/8	(56)	2/8	33	5	0.43 0.25	
524	土師器 坏	A-1	1SD11		0/8	(68)	2/8	(28)	7	底部 小型鉢・壺カ	
525	須恵器 甕	胴片	1SD13		0/8	0/8	0/8	(31)	4	外：タタキ 内：円形アテ具痕	
526	土師器 坏	-1	1SP18	-	1/8	0/8	0/8	(30)	4	口縁片	
527	須恵器 坏	-1	1SD27	(137)	2/8	0/8	0/8	(36)	5	口縁部	
528	須恵器 坏	B-1	1SD27		0/8	(50)	3/8	(12)	3	底部	
529	須恵器 坏	B-1	1SD27		0/8	64	5/8	(22)	4	底墨書：□	
530	須恵器 坏	B-1	1SD27		0/8	(62)	2/8	(17)	5	底部	
531	須恵器 有台坏	B-1	1SD27		0/8	74	8/8	(31)	4	底部	
532	須恵器 有台坏	B-1	1SD27		0/8	60	4/8	(41)	3	底部	
533	須恵器 蓋	口縁片	1SD27	-	1/8			-	4		

表 20 出土遺物観察表 15

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考	
				長軸	残	総径	残			底径 / 器高 / 口径	
534	須恵器 甕	胴片	15D27	0/8		0/8	(97)	10		外：タタキ	内：平行アテ具痕
535	須恵器 坏	B-1	15K28	-	1/8	0/8	(32)	4			口縁片
536	土師器 有台坏	-1	15D137		0/8	(70)	2/8	(26)			底部 切離し不明
537	須恵器 甕	胴片	15D137		0/8	0/8	(50)	8		外：タタキ	内：円形アテ具痕
538	須恵器 坏	-1	15D150	-	1/8	0/8	(39)	5			口縁片
539	須恵器 坏	B-1	15D150		0/8	(54)	3/8	(15)	5		底部
540	須恵器 坏	-1a	15D161	128	4/8	(68)	3/8	38	5	0.53	0.30 切り離し不明
541	須恵器 甕	胴片	15D161		0/8	0/8	(101)	12		外：タタキ	内：平行アテ具痕
542	須恵器 坏	B-1	15K167		0/8	(60)	2/8	(11)	4		底部
543	須恵器 坏	B-1	15K168		0/8	(54)	2/8	(15)	5		底部
544	須恵器 坏	B-1	15D175		0/8	58	4/8	(24)	3		底部
545	須恵器 鉢	挿れ鉢	15D175	-	1/8	0/8	(82)	10		口縁～胴部片	外：ロクロ 内：ロクロ ケズリ
546	須恵器 坏	-1	15K180	(128)	2/8	0/8	(34)	5			口縁部
547	須恵器 坏	-1	15K180	(126)	2/8	0/8	(45)	4			口縁部 軟質
548	須恵器 坏	B-1	15K180		0/8	60	5/8	(12)	5		底部
549	須恵器 有台坏	B-1	15K180		0/8	(82)	2/8	29	5		底部
550	須恵器 蓋		15K180	(144)	1/8			(16)	4		
551	須恵器 瓶頸	底胴部	15K180		0/8	90	6/8	(158)	8		壺カ 外：ロクロ 紐ケズリ タタキ 内：カキメ ナデ ユビオサエ 残胴径 258mm
552	須恵器 坏	B-1a	15K182	(140)	3/8	76	4/8	41	5	0.54	0.29
553	須恵器 坏	B-1a	15K182	132	4/8	54	4/8	39	4	0.41	0.30
554	須恵器 有台坏	B-1	15K182		0/8	(80)	3/8	(24)	5		底部 底墨書：□
555	土師器 坏	-1	15K182		0/8	58	7/8	(9)	4		底部 内・底摩耗 切離し不明 黒斑
556	須恵器 坏	B-1	15D183		0/8	(54)	2/8	(15)	4		底部
557	須恵器 蓋		15D183		0/8			(13)	5		
558	須恵器 坏	B-1	15K201		0/8	(50)	2/8	(12)	4		底部
559	須恵器 坏	-1	15K214	-	1/8	0/8	(27)	3			口縁片
560	須恵器 坏	B-1	15K214		0/8	-	1/8	(6)			底部 底墨書：千
561	須恵器 蓋		15K227	-	1/8			(11)	4		
562	須恵器 坏	B-1	15D228		0/8	(66)	3/8	(10)	6		底部
563	須恵器 蓋		15D631		0/8	32		(15)	4		
564	須恵器 坏	B-1	15D637		0/8	(58)	2/8	(11)			底部
565	須恵器 坏	-1	15D638	-	1/8	0/8	(31)	3			口縁片
566	須恵器 坏	-1	15D229	(146)	2/8	0/8	(32)	5			口縁部
567	土師器 有台坏	A-2	15D229		0/8	(68)	2/8	(15)	5		底部 内摩耗
568	須恵器 甕	胴片	15D229		0/8	0/8	(47)	8		外：タタキ	内：平行アテ具痕
569	土師器 甕	胴片	15D229		0/8	0/8	(75)	7		外：タタキ	内：円形アテ具痕 金黄橙色 全磨耗
570	土師器 甕	底片	15K235		0/8	-	1/8	(23)			底部板のみ 底：ナデ
571	須恵器 坏	-1	15K241	(124)	2/8	0/8	(33)	4			口縁部
572	須恵器 坏	B-1	15K33	-	1/8	0/8	(35)	5			口縁片

表 21 出土遺物観察表 16

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高	器厚	器厚 / 器高 / 口径	調整・備考
				長軸	残	鈕径	残				
573	須恵器	有台坪	B-1	15K33	0/8	(72)	2/8	(13)	5		底部
574	須恵器	蓋	口縁片	15K33	-	1/8		(11)	5		
575	須恵器	坪	B-1	15K36	0/8	(60)	3/8	(22)	5		底部
576	土師器	蓋		15K36	0/8	(28)		(16)	6		内厚減
577	土師器	坪	A-1	15K115	0/8	(60)	2/8	(14)	4		底部 底：渦巻状ヘラキリ痕
578	須恵器	環	-1	15K243	-	1/8	0/8	(35)	4		口縁片
579	須恵器	甕	胴片	15K253	0/8	0/8	0/8	(59)	14		外：タタキ 内：アテ具痕
580	土師器	甕	口縁片	15K268	0/8	0/8	0/8	(32)	4		外：ロクロ 内：ロクロ
581	須恵器	瓶類	肩胴部	15K291	0/8	0/8	0/8	(37)	6		蓋カ 外：ロクロ 内：ロクロ 残胴径 180mm
582	須恵器	甕	胴片	15K291	0/8	0/8	0/8	(56)	10		外：タタキ 内：平行アテ具痕
583	須恵器	甕	胴片	15K292	0/8	0/8	0/8	(64)	14		外：タタキ 内：平行アテ具痕
584	土師器	甕	長胴甕	15K304	(204)	1/8	0/8	(107)	5		外：ロクロ 内：ロクロ カキメ
585	土師器	甕	胴片	15K304	0/8	0/8	0/8	(38)	5		胴部片 外：ハケメ 内：ハケメ
586	土師器	坪	B-1	15K321	0/8	(68)	2/8	(22)	5		底部
587	須恵器	坪	-1	15K322	-	1/8	0/8	(20)	3		口縁片
588	須恵器	坪	-1	15K323	-	1/8	0/8	(34)	3		口縁片
589	土師器	甕	口縁片	15K343	-	1/8	0/8	(33)	6		外：ロクロ 内：ロクロ
590	須恵器	坪		15K344	-	1/8	0/8	(29)	4		口縁片
591	土師器	坪	-2	15K344	-	1/8	0/8	(24)	5		口縁片
592	土師器	甕	口縁片	15K344	-	1/8	0/8	(51)	5		外：ロクロ 内：ロクロ
593	須恵器	坪	B-1	15K351	0/8	(62)	2/8	(14)	5		底部
594	土師器	有台坪	-2	15K351EP2	0/8	(78)	6/8	(32)	6		底部
595	須恵器	瓶類	肩胴部	15K351	0/8	0/8	0/8	(34)	7		蓋カ 外：ロクロ 内：ロクロ 残胴径 196mm
596	土師器	甕	長胴甕	15K351	190	4/8	0/8	(76)	5		外：ロクロ 内：ロクロ
597	土師器	甕	底部	15K351		0/8	(100)	3/8	(80)	10	長胴甕カ 外：ナデ 粘土付着 内：ナデ 底：棒状工具によるケズリ
598	須恵器	坪	-1	15K355	(130)	2/8	0/8	(28)	4		口縁部
599	須恵器	坪	B-1	15K355	0/8	62	4/8	(24)	3		底部
600	須恵器	坪	B-1a	15K356	0/8	64	4/8	(15)	5		底部
601	土師器	坪	B-1	15K356	0/8	(60)	2/8	(13)	5		底部
602	土師器	甕	口縁片	15K356	-	1/8	0/8	(55)	6		外：ハケメ 内：ハケメ 括れ弱い
603	須恵器	有台坪	A-1	15K692	0/8	0/8	0/8	(20)	7		底部 高台剥落
604	土師器	甕	胴片	15K355	0/8	0/8	0/8	(158)	6		外：ハケメ 内：ハケメ 15K356 出土片とも接合
605	須恵器	坪	B-1a	15K358	(160)	1/8	63	4/8	43	5	0.39 0.27
606	須恵器	坪	B-1a	15K358	0/8	(64)	3/8	(33)	4		底部
607	土師器	坪	-1	15K358	(150)	2/8	0/8	(20)	4		口縁部
608	須恵器	瓶類	底部	15K358	0/8	(146)	3/8	(49)	10		蓋カ 外：下端ケズリ 内：底部から放射状のナデ
609	須恵器	瓶類	底胴部	15K358	0/8	0/8	0/8	(106)	8		瓶カ 外：ケズリ 内：放射状のナデ 底：高台貼付
610	土師器	鉢	胴カ	15K358	0/8	0/8	0/8	(57)	10		底部付近の胴片 外：ケズリ 内：ロクロ
611	須恵器	甕	胴片	15K358	0/8	0/8	0/8	(68)	7		外：タタキ 内：アテ具痕

表 22 出土遺物観察表 17

番号	器種	細別	所属遺構	口径		底径		器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考			
				長軸	短軸	残	残			底径 / 器高 / 口径	口径		
612	須恵器 甕	胴部	15K358	0/8	0/8	(133)	7	底部付近	外：タタキ	内：アテ具痕			
613	土師器 甕	胴片	15K358	0/8	0/8	(54)	6	頸部片	外：ハケメ	内：ハケメ			
614	土師器 甕	胴片	15K358	0/8	0/8	(46)	5	外：ハケメ	内：ハケメ				
615	土師器 甕	胴片	15K358	0/8	0/8	(102)	8	外：ハケメ	煤付着	内：ハケメ			
616	須恵器 坏	B-1	15K369	0/8	(60)	5/8	(9)	底部					
617	土師器 坏	B-1	15K369	0/8	(54)	3/8	(17)	5	底部				
618	土師器 甕	小型	15K369	(113)	1/8	-	1/8	(41)	4	外：ハケメ	内：ハケメ	底：網代痕	
619	土師器 甕	底部	15K373	0/8	(70)	2/8	(16)	小型カ	外：ハケメ	内：ハケメ	底：網代痕		
620	須恵器 坏	B-1a	15K378	(156)	1/8	68	4/8	41	4	0.44	0.26		
621	須恵器 瓶頸	口縁片	15K382	-	1/8	0/8	(19)	5	外：ロクロ	内：ロクロ			
622	土師器 甕	底部	15K387	0/8	(66)	2/8	(20)	小型カ	外：ハケメ	内：ハケメ	底：網代痕		
623	須恵器 坏	-1	15K398	(130)	2/8	0/8	(32)	3	口縁部				
624	須恵器 蓋		15K398	0/8			(13)	2					
625	土師器 甕	胴片	15K398	0/8	0/8	(36)	5	頸部片	外：ハケメ	内：ハケメ			
626	須恵器 坏	-1	15K399	-	1/8	0/8	(39)	3	口縁片				
627	須恵器 坏	-1	15K399	(142)	2/8	0/8	(35)	3	口縁部				
628	土師器 甕	底部	15K399	0/8	(74)	3/8	(26)	小型カ	外：ハケメ	内：ハケメ	見込み器表剥落 底：網代痕		
629	土師器 甕	底部	15K399	0/8	(72)	3/8	(56)	6	小型カ	外：ハケメ	内：ハケメ	底：網代痕	
630	須恵器 坏	-1	15K401	-	1/8	0/8	(32)	4	口縁片				
631	土師器 甕	底片	15K401	0/8	-	1/8	(17)		内：ハケメ	底：網代痕			
632	須恵器 坏	B-1	15K411	0/8	(56)	2/8	(18)	4	底部				
633	土師器 坏	-2	15K411	(146)	2/8	0/8	(48)	4	口縁部				
634	土師器 甕	口縁片	15K411	0/8	0/8	(35)	4	外：ハケメ	内：ハケメ				
635	土師器 甕	長胴甕	15K418	(222)	2/8	0/8	(26)	7	外：ロクロ	内：ロクロ			
636	土師器 甕	胴片	15K418	0/8	0/8	(41)	6	頸部片	外：ナデ	内：ハケメ			
637	土師器 甕	口縁片	15K443	0/8	0/8	(27)	5	外：ハケメ	内：ナデ				
638	須恵器 坏	A-1	15K639	0/8	(90)	2/8	(12)	4	底部				
639	須恵器 甕	胴片	15K639	0/8	0/8	(108)	10	外：タタキ	カキメ	内：円形アテ具痕			
640	土師器 坏	-1	15K643	(112)	1/8	0/8	(34)	5	口縁部				
641	須恵器 甕	胴片	15K643	0/8	0/8	(53)	11	外：平行タタキ	内：平行アテ具痕	底部付近			
642	石製品	金床石	15K643	(122)	156	36	840						
643	土師器 甕	長胴甕	15K783	(214)	3/8	(100)	3/8	(186)	9	外：ロクロ	ケズリ	内：ロクロ	底：ケズリ
644	須恵器 坏	-1	15K1248	(138)	2/8	0/8	(38)	4	口縁部				
645	土師器 坏	-1	15K1266	-	1/8	0/8	(33)	4	口縁片	外面黒色			
646	須恵器 坏	-1	15K1314	-	1/8	0/8	(25)	3	口縁片				
647	須恵器 坏	B-1	15X1160	0/8	64	6/8	(27)	5	底部	15X1162 出土片とも接合			
648	須恵器 有台坏	B-1b	15X1160	144	5/8	58	8/8	63	5	0.40	0.44	15X1162 出土片とも接合	

III 理化学分析

1 清水遺跡1地区における放射性

炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

A 測定対象試料

測定対象試料は、旧河川流路や竪穴建物跡等の遺構から出土した種子と炭化物の合計9点である(表23)。なお、種子の同定が行われており、C001、C006がオニグルミ核、C002、C005、C009がモモ核に同定されている(2節、種実同定参照)。

1SD186、1SD161は溝跡(旧河川流路)、1SD379は溝跡(掘乱)、1ST365、1ST1184は竪穴住居跡、1SK411は土坑と捉えられている。1SD186、1SD161、1ST365、1ST1184、1SK411は、出土遺物から9世紀代と考えられている。1SD379も同様の遺物が出土しているが、畑の耕作に伴う溝跡と平行していることから、現代の可能性が指摘されている。

B 測定の意義

試料が出土した遺構の継続期間を検討するため測定を実施する。

C 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「Aa」と表23に記載する。

- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

D 測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

E 算出方法

- (1) δ 13Cは、試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表23)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。14C年代は δ 13Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表23に、補正していない値を参考値として表24に示した。14C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、14C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%を意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい(14Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(14Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も δ 13Cによって補正する

必要があるため、補正した値を表 23 に、補正していない値を参考値として表 24 に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}C$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 24 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

F 測定結果

試料の測定結果を表 23、24 に示す。

ISD186 出土試料 4 点の 14C 年代は、1310 \pm 20yrBP (C001) から 1250 \pm 30yrBP (C006) の狭い範囲に収まる。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い C001 が 663 ~ 763cal AD の間に 2 つの範囲、最も新しい C006 が 691 ~ 772cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

その他の遺構から出土した試料の 14C 年代は、C009 が Modern、C011 が 1400 \pm 30yrBP、C012 が 1260 \pm 20yrBP、C013 が 1750 \pm 20yrBP、C014 が 1360 \pm 20yrBP である。暦年較正年代 (1σ) は、C011 が 632 ~ 661cal AD の範囲、C012 が 690 ~ 769cal AD の間に 2 つの範囲、C013 が 245 ~ 329cal AD の間に 2 つの範囲、C014 が 651 ~ 672cal AD の範囲で示される。

C009 は、現代の可能性が指摘されており、測定結果もそれに整合するものとなった。時期不明の C014 は、7 世紀半ばから後半頃を主とする年代値を示した。他の 7 点については、出土遺物から 9 世紀代と推定されているが、測定結果は 7 世紀から 8 世紀を中心とし、全体的に古い傾向がある。C002、C005、C006 は、2 σ 暦年代範囲で 9 世紀にかかるが、その確率はいずれも低い。7 点の中でも C013 は特に古く、弥生時代後期から古墳時代前期頃に相当する値となっている (小林 2009)。各遺構内における出土遺物のあり方等と年代測定結果を合わせた検討が必要と考えられる。

なお、試料 C013 が含まれる 1 ~ 3 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある (尾壽 2009、坂本 2010 など)。その日本産較正曲線を用いて試料 C013 の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

引用文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新石器時代の はじまり 第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- 尾壽大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代, 設楽博己, 藤尾慎一郎, 松木武彦編 弥生時代の考古学 1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- 坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木一弥生から古墳へー, 第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集, (株) 加速器分析研究所, 85-90
- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 23 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理方 法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-150490	C001	1SD186 最下層砂層 0799	種子	AAA	-27.27 ± 0.37	$1,310 \pm 20$	84.95 ± 0.26
IAAA-150491	C002	1SD186 F1 黒色層 0402	種子	AAA	-27.22 ± 0.46	$1,260 \pm 30$	85.49 ± 0.27
IAAA-150492	C005	1SD186 RN2317	種子	AAA	-23.81 ± 0.61	$1,260 \pm 30$	85.49 ± 0.27
IAAA-150493	C006	1SD186 RN2106	種子	AAA	-22.74 ± 0.49	$1,250 \pm 30$	85.54 ± 0.27
IAAA-150494	C009	1SD379 (擾乱) - ①	種子	AAA	-26.15 ± 0.52	Modern	137.22 ± 0.37
IAAA-150495	C011	1ST365	炭化物	AAA	-26.45 ± 0.53	$1,400 \pm 30$	84.04 ± 0.26
IAAA-150496	C012	1ST1184	炭化物	AAA	-25.61 ± 0.56	$1,260 \pm 20$	85.45 ± 0.25
IAAA-150497	C013	1SD161	炭化物	AAA	-30.02 ± 0.56	$1,750 \pm 20$	80.39 ± 0.24
IAAA-150498	C014	1SK411	炭化物	AAA	-26.16 ± 0.43	$1,360 \pm 20$	84.48 ± 0.26

表 24 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{13}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-150490	$1,350 \pm 20$	84.55 ± 0.25	$1,310 \pm 24$	663calAD - 694calAD (48.4%) 747calAD - 763calAD (19.8%)	658calAD - 721calAD (69.5%) 741calAD - 768calAD (25.9%)
IAAA-150491	$1,300 \pm 20$	85.10 ± 0.25	$1,259 \pm 25$	691calAD - 749calAD (59.6%) 761calAD - 770calAD (8.6%)	670calAD - 778calAD (90.6%) 792calAD - 804calAD (1.6%) 814calAD - 824calAD (0.9%) 841calAD - 861calAD (2.3%)
IAAA-150492	$1,240 \pm 20$	85.69 ± 0.25	$1,259 \pm 25$	691calAD - 749calAD (59.6%) 761calAD - 770calAD (8.6%)	670calAD - 778calAD (90.6%) 792calAD - 804calAD (1.6%) 814calAD - 824calAD (0.9%) 841calAD - 861calAD (2.3%)
IAAA-150493	$1,220 \pm 20$	85.94 ± 0.26	$1,254 \pm 25$	691calAD - 749calAD (58.4%) 761calAD - 772calAD (9.8%)	674calAD - 779calAD (86.3%) 791calAD - 827calAD (5.2%) 839calAD - 864calAD (3.9%)
IAAA-150494	Modern	136.90 ± 0.33	Modern		
IAAA-150495	$1,420 \pm 20$	83.79 ± 0.25	$1,396 \pm 25$	632calAD - 661calAD (68.2%)	607calAD - 666calAD (95.4%)
IAAA-150496	$1,270 \pm 20$	85.34 ± 0.23	$1,263 \pm 23$	690calAD - 750calAD (60.3%) 761calAD - 769calAD (7.9%)	670calAD - 776calAD (95.4%)
IAAA-150497	$1,840 \pm 20$	79.57 ± 0.22	$1,753 \pm 24$	245calAD - 263calAD (16.2%) 276calAD - 329calAD (52.0%)	229calAD - 354calAD (93.7%) 367calAD - 379calAD (1.7%)
IAAA-150498	$1,370 \pm 20$	84.28 ± 0.25	$1,355 \pm 24$	651calAD - 672calAD (68.2%)	639calAD - 690calAD (94.2%) 752calAD - 760calAD (1.2%)

[参考値]

2 種実同定

(株) 加速器分析研究所

本分析調査では、古代(9世紀代)とされる溝跡より出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を作成する。

A 試料

試料は、ISD186(試料番号C001~008)、ISD379(C009・010)より出土した種実遺体10個である。試料は全て乾燥しており、表面に泥が付着した状態である。

ISD186は旧河川流路で、出土遺物から9世紀代と考えられている。ISD379は、9世紀代の遺物が出土しているが、畑の耕作に伴う溝跡と平行していることから、現代の可能性が指摘されている。

なお、これらの試料の一部について放射性炭素年代測定が実施されている。ISD186出土試料C001、C002、C005、C006は、7世紀後半から8世紀後半頃を主とする年代値が得られており、出土土器が示す時期より古い傾向がある。ISD379出土試料C009はModernで、調査所見と整合する(1節、年代測定参照)。

B 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本や石川(1994)、中山ほか(2000)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施し、結果を一覧表で示す。また、種実遺体全個体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表に併記する。欠損等で完全な計測値を得られない場合は、残存値にプラス「+」で表示する。

C 結果

試料は、落葉広葉樹2分類群(オニグルミ、モモ)に同定された(表25)。栽培種は、モモの核が8個(C002~005,007~010)確認された。栽培種を除いた分類群は、高木になるオニグルミの核が2個(C001,006)確認された。各分類群の写真を第116図に示し、形態的特徴等を以下に述べる。

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var.

sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ3.2cm、径2.7cmの広卵体を呈す。頂部は尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い維管束の彫紋が走り、ごつごつしている(第116図-1、2)。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。C006の核は縫合線に沿って割れた個体で、片側の側面から下部にかけてと、隔壁に欠損がみられることから、人為による打撃痕の可能性がある(第116図-2)。

・モモ(*Prunus persica* Batsch)バラ科サクラン属

核(内果皮)は灰褐色、長さ2.2~3.2cm、幅1.5~2.2cm、厚さ1.3~1.8cmのやや偏平な楕円体を呈す。頂部はやや鋭く尖り湾曲し、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える(第116図-3~10)。

出土核8個は形態に違いがみられ、小型・丸みを帯びて頂部がやや尖る個体が3点(C002,005,008)、中型細身で頂部が鋭く尖る個体が2点(C007,010)、大型偏平で頂部が尖る個体が3点(C003,004,009)、確認された。

D 考察

出土した種実遺体には、栽培種のモモが確認された。ISD186、ISD379より確認されたモモは、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に利用される。果樹のモモは、遺跡周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料と示唆される。

ただし、今回のモモ核には、古代に多くみられる小型で丸い形状や、近世以降によくみられる大型・偏平で頂部が鋭く尖り湾曲する形状等の複数の系統が含まれる。さらに、年代測定結果によれば、ISD186のC002、C005は、較正年代(1σ)で7世紀末から8世紀後半頃の年代値、ISD379のC009はModernとなっており、大幅に年代の離れた試料が確認されている。近世以降に多い形状の試料3点のうち、年代測定されたC009が

Modernであることなども注意され、出土状況および年代も考慮して検討する必要がある。

栽培種を除いた分類群は、1SD186よりオニグルミが確認された。オニグルミは、高木になる落葉広葉樹で、川沿い等の湿潤な肥沃地に生育する河畔林要素である。当時の最上川流域の河畔林などに生育していたと考えられる。また、オニグルミは、核内部の子葉が食用可能で、収量も多く長期保存も可能な有用植物であることから、古くより植物質食料として利用され、遺跡出土例も多い。最下層砂層より出土した核 CO01 には、人が食用のために利用した痕跡は認められない。一方、CO06 には、打撃痕の可能性のある欠損が確認されたため、食用のために核を叩き割り、中の子葉を取り出した食料残渣の可能性はある。

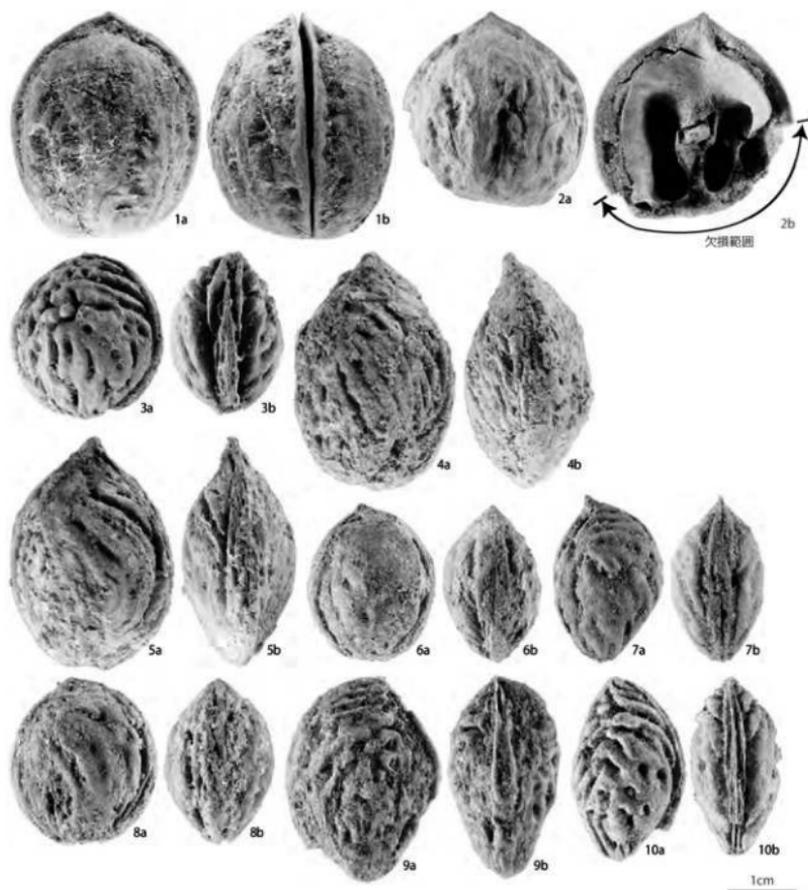
引用・参考文献

- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会.328p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑(2010年改訂版)』東北大学出版会.678p.
- 鈴木庸夫・高橋冬・安延高文 2012 『ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種—』誠文堂新光社.272p.
- ※) 本分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

表 25 種実同定結果

委託 番号	試料 番号	出土地点	種名	部位	状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	図版 番号	備考	
1	CO01	SD186 最 下砂層	0799	オニグルミ	核	完形	31.9	26.9	26.3	1	頂部縫合線わずかに開裂
2	CO02	SD186F1 黒色層	0402	モモ	核	完形	22.6	20.8	15.7	3	頂部やや尖る。側面一部欠損
3	CO03	SD186	RN2261	モモ	核	完形	32.3+	21.8	17.5	4	表面泥付着。頂部鋭く尖り、先端を僅かに欠損する
4	CO04	SD186	RN2222	モモ	核	完形	32.0	22.2	16.1	5	表面泥付着。頂部鋭く尖る
5	CO05	SD186	RN2317	モモ	核	完形	21.8	16.8	13.1	6	表面泥付着。頂部やや尖る
6	CO06	SD186	RN2106	オニグルミ	核	破片	27.6+	25.9+	15.0+	2	半分厚。下部(3~8時)・腹面欠損
7	CO07	SD186	RN1933	モモ	核	完形	22.8	15.0+	12.5	7	表面泥付着。頂部鋭く尖る。腹面縫合線欠損
8	CO08	SD186	RN1970	モモ	核	完形	22.7	20.0	15.0	8	表面泥付着。頂部やや尖る
9	CO09	SD379-①	2106	モモ	核	完形	28.0+	22.0+	15.2	9	表面泥付着。縫合線の大半を欠損
10	CO10	SD379-②	2106	モモ	核	完形	29.1	18.0	14.5	10	腹面基部縫合線欠損

注) 計測はデジタルノギスを使用し、欠損は残存値に「+」で示す。



1. オニグルミ 核(C001;1SD186最下砂層)

3. モモ(C002;1SD186F1黒色層)

5. モモ(C004;1SD186)

7. モモ(C007;1SD186)

9. モモ(C009;1SD379-①)

2. オニグルミ 核(C006;1SD186)

4. モモ(C003;1SD186)

6. モモ(C005;SD186)

8. モモ(C008;1SD186)

10. モモ(C010;1SD379-②)

3 火山灰の分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

各遺構覆土で確認された火山灰（テフラ）とされる堆積物の特性を明らかにし、それがテフラである場合には給源火山と噴出年代を特定することで遺構に関わる年代資料を作成する。

A 試料

調査対象とした遺構は、1次調査で得られた1SD186、1SK182、1SK321、1ST566、1SK643、1ST510、1SD161、1ST581の計8基である。これらの遺構について断面調査を行った後、遺構覆土から試料を採取した。以下に各遺構の産状を述べる。

1SD186は、試料採取地点では幅約3mの溝状遺構であり、検出面から溝底までは深さ50cmほどである。検出面直下に厚さ約5cmのにぶい黄橙色を呈する砂質シルトのブロックが散在する。試料はこのブロック状堆積物から採取した。

1SK182は、縁辺の検出面からの中心に向かって、側壁の傾斜に沿うようににぶい黄橙色の砂質シルトブロックの堆積が認められた。ブロックの厚さは最大で約7cmほど、ブロックの堆積する最も深い場所でも、土坑底からは20cmほど上位にある。試料は、ブロックの最も厚い部分より採取した。

1SK321は、現地表面から土坑底面までの厚さ約90cmの土層断面が作成されている。土坑底より約3cm上位に、厚さ約3cmの薄層をなすにぶい黄橙色砂質シルトが堆積する。試料は、この薄層より採取した。

1ST566は、底より約15cm上位に、最も厚い部分で厚さ約8cmのにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この砂質シルト層は、土坑の平面形の半分ほどを覆っている。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層の最も厚い部分より採取した。

1SK643は、底より約25cm上位に最大の厚さ約12cmのにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この堆積層は、土坑全面を覆っている。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層の最も厚い部分から採取した。

1ST510は、床面より30cmほど上位に厚さ数cmのにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この砂質シルト

層は、建物跡の中心部に直径約2mほどの広がりを示す。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層から採取した。

1SD161は、最も深いところで検出面から厚さ約36cmの土層断面が作成されている。土層断面の上部、検出面から約10cmほど下位の層位に、直径数cmの灰白色を呈するシルトブロックが散在している。試料は、このシルトブロックを複数採取した。

1ST581は、平面形の中心付近に直径約20cm、厚さ数cmほどのにぶい黄橙色を呈する砂質シルトのブロックが確認されている。試料は、この砂質シルトブロックから採取した。

B 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

C 結果

結果を表26に示す。1SD161以外の7試料では多量の細砂～極細砂径の火山ガラスが検出された。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在し、微量の無色透明のバブル型も認められた。スコリアおよび軽石はいずれの試料からも認められなかった。また、これら7試料の火山ガラスの屈折率測定結果を第117図に示す。いずれも $n_{1.505}$ 前後-1.509のレンジを示し、概ね $n_{1.506}$ -1.507にモ

ードがある。

1SD161 では、無色透明の軽石型火山ガラスが極めて微量認められたのみであった。砂分の主体は、極粗粒径の石英や長石類の鉱物粒であり、細粒径の風化した凝灰岩礫や粗粒径以下の斜方輝石や角閃石の鉱物粒が混在する。火山ガラスの屈折率は、レンジを特定できるほどの量が得られなかったが、n1.505 付近を示す火山ガラスとそれよりも低い n1.501 付近を示す火山ガラスとが測定された。

D 考察

1SD161 以外の黄灰色を呈する砂質シルト層は、分析により確認された砕屑物の特徴と遺構覆土中における産状から、いずれも火山ガラスからなるテフラの降下堆積物と判断される。なお、1SD161 で認められた灰白色を呈するブロック状堆積物は、分析結果からテフラと言えないが、火山ガラスの粘土化した堆積物の可能性がある。

本遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981;1984), Arai et al.(1986), 町田・新井(2003) など)との比較から、各遺構覆土で認められたテフラは十和田アテフラ(To-a)と考えられる。To-a は平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラで、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばない地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている(町田ほか,1981)。その噴出年代は、早川・小山(1998)の詳細な調査によれば、西暦915年とされている。なお、町田・新井(2003)に記載されたTo-aの火山ガラスの屈折率は、n1.496～1.508と広いレンジを示す。ただし、n1.502以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとされている(町田ほか,1981)。今回検出されたテフラは、低屈折率の火山ガラスを含まないTo-aに相当するものと考えられる。

今回の試料を採取した1SD186の溝や1SK182をはじめとする各土坑では、前述したように、テフラ層は遺構の基底よりも数cmから数10cmの土壌を挟んだ上位に堆積が認められた。また、堅穴建物跡の1ST510では、

住居の中心部に堆積している。これらの産状は、テフラの降下堆積した頃には、すでに遺構は廃絶された後であり、降灰後は自然に放置されたことにより、遺構内では比較的良好に保存されたものと考えられる。上述したようにTo-aの降灰年代は915年であるから、清水遺跡で確認された集落は、10世紀初め頃にはすでに廃絶されていたことが、今回の分析結果により示唆される。

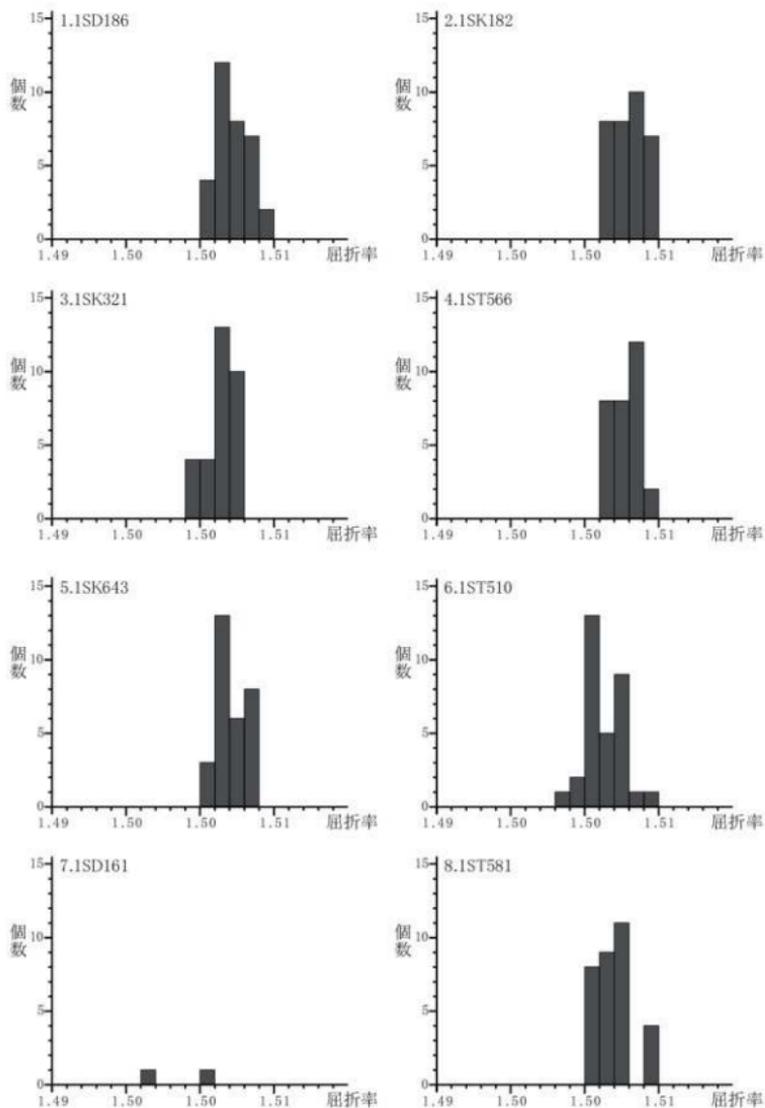
引用文献

- Arai F.・Machida H.・Okumura K.・Miyachi T.・Soda T.・Yamagata K.
1986 Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II -
Tephra occurring in Northeast Honshu and Hokkaido - Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21.223-250
古澤明 1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101,123-133.
星川由紀夫・小山貞人 1998 「日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年日-十和田湖と白頭山-」『火山』43,403-407
町田洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会 336p
町田洋・新井房夫・森脇広 1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51,562-569
町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦 1984 「テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-」渡辺直経(編)『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』同朋舎,865-928

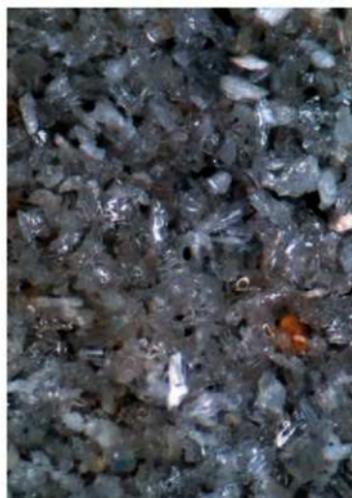
表 26 テフラ分析結果

No.	遺構名	スコリア	火山ガラス		軽石
			量	色調・形態	
1	1SD186	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
2	1SK182	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
3	1SK321	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
4	1ST566	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
5	1SK643	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
6	1ST510	-	++++	cl・pm>cl・bw	-
7	1SD161	-	(+)	cl・pm	-
8	1ST581	-	++++	cl・pm>cl・bw	-

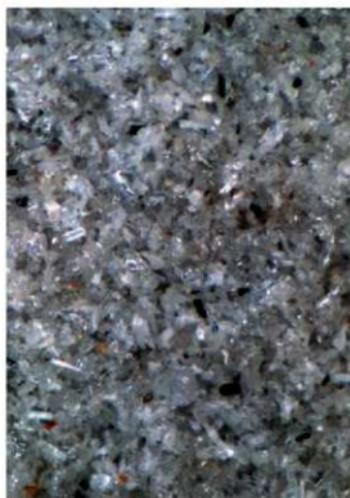
凡例 - :含まれない, (+):きわめて微量, +:微量, ++:少量, +++:中量, ++++:多量,
cl:無色透明, hr:褐色, bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型



第 117 図 火山ガラスの屈折率



1.To-aの火山ガラス(1SK182)



2.To-aの火山ガラス(1ST566)



3.To-aの火山ガラス(拡大)(1ST566)



4.砂分の状況(1SD161)



第118図 テフラ・砂分の状況

IV まとめ

1 1地区出土の墨書土器について

今回の調査で出土した墨書土器は、字種不明であっても墨痕が認められる小片をすべて数えると176点に及ぶ。うち図化したものの総数は142点である。この図化総数の84%にあたる119点がISD186溝跡からの出土である。墨書される器種は、82%にあたる117点が須恵器の無台坏であり、墨書の部位は、87%にあたる124点が底部のみになされる。

字種で最も多いものは、想定されるものを含めて「繩」で、44点、次に多いものは「王」で32点である。以下は表27・28にまとめ、字種ごとの集成は第119・120図に、赤外線写真を写真図版53～55にまとめている。

本遺跡において特徴的なのは「繩」の文字の大量出土である。墨書土器としては稀なこの文字が44点もまとまっており、39点がISD186、5点が堅穴建物からの出土で、すべて坏の底部に記されている。県内の遺跡では、河北町の熊野台遺跡（第3図）で1点出土しているのみ。ほか隣県を見れば秋田県の秋田城跡（小松ほか1976）で「繩」が1点、宮城県市の市川橋遺跡（千葉ほか2003）で「繩米」が1点、新潟県の釈迦堂遺跡（江口ほか2000）で「千繩」が2点程度のものである。このような出土状況下において注目されるのが、富山県富山市の任海宮田遺跡（武田ほか2008）である。「繩」あるいは「繩足」と記されるものが、95点も出土している。同遺跡C20区のSD001を中心にまとまって出土し、分布に広がりはない。時期は9世紀中頃から後半で、ほぼ清水遺跡と同時期である。

「繩」の書き方では、本遺跡のものは糸偏の崩し方に特徴があり、一画目の入り方が斜めではなく、横に入っているものが多く見られる（第119図37、143、242～246）。他の遺跡においては糸偏の一画目が横に入るものはみられないため、本遺跡の特徴と言えよう。糸偏の崩し方は各遺跡に特徴があり、任海宮田遺跡では、糸偏が立心偏（十）のように崩れたものがあり、新潟県の釈迦堂遺跡では糸偏はかなりシンプルな形に崩され「t」

のようになる。



「繩」のもつ意味については、「繩足」であれば人名の可能性もあるだろう。出土資料では、平城京の木簡に「内蔵伊美吉繩足」と記されるものがある。他にも六国史を通じて「繩」の記される人名は少なくはない。8世紀中葉の藤原継繩、乙繩、繩麻呂の兄弟から9世紀前半～中葉の春澄繩繩をはじめ、主として名に用いられる。このように当時広く用いられるものであったならば、任海宮田遺跡と本遺跡で用いられる「繩」は、それぞれ別の人物を指す可能性もあり、両者を早急に結びつけるわけにはいかない。また、氏族や姓ではなく、名を1文字記すことにどのような意味があったのかも検討を要する。

「王」は、32点を数える。坏の底面に記されるものが多いが、外面に記されるものや、蓋や甕類の底に記されるものなどバリエーションが増える。また、151や265、267、277、281のように底面に対して小さく記されるものもある。画数が少ないこともあろうが、比較的小さいものが目立つ。崩れ方や消えてしまっているものは、「千」との判断に悩む場合もある。その他字種で複数あるものは、「富」が6点ある。これらとは別に、288は底部に「富」外面に「王」と記されている。

他にも人名や地名を表す可能性のあるものがいくつかみられる。「貞」、「真」、「身」は、別の文字なのか、同じ文字を書こうとしているのか、崩し方が一定ではなく安定しない印象を受ける。「身」の3点はISD186出土で、すべて土師器坏に記される。303の「真人」は姓か。

306や308、309は、いずれも大きく崩れており解読困難であるものの、すべて外面に逆面で書かれている点が共通することなどから同一の文字ではないかと思われる。「秦善」を想定している。310と311も共通する「罌(罎)」の字を持つ。310の上の文字は、判読し難いが「長」で「長罎」となると判断した。県内寒河江市の高瀬山遺

跡は長岡郷に比定され、同名の墨書土器も出土している。297の「矢田」は氏族の矢田部を指すか。

他にも判読可能な文字は、「方」や「子」、「太」、「人」、「白」、「日」、「六」などがある。327と328は欠損により判読できないが、人偏の共通する文字と思われる。

これら墨書土器の判読については、国立歴史民俗博物館の三上喜孝教授のご教示を得た。

2 火山灰の堆積について

東北部を中心に古代の遺跡から検出される十和田火山灰 (To-a) は、その降灰年を『扶桑略記』の記述から915年と限定することができる重要な資料である。東北地方に広く分布し、これを用いて古代土器編年の指標とするものや、噴火という自然災害を受けての集落の消長を分析するものなどの研究が示されてきた。

十和田火山から直線距離で220kmほど離れた本遺跡においても、灰白色のシルトが黒ボク土中の遺構覆土に見え、これらを理化学分析した結果、いずれもTo-aと分析結果が得られた。よって分析を経ずとも目視で灰白色のシルトが確認できるものは、十和田火山灰と判断している。十和田火山灰のこれまでの県内の検出状況については、植松氏がまとめているが(植松2013)、その後の中央道関連の発掘調査によって新たな資料が得られている。よって、ここでは清水遺跡を中心に中央道関連の発掘調査で検出された36件を集成しておく。

表29は、清水遺跡および東北中央道関連の発掘調査で検出、分析された十和田火山灰の一覧である。清水遺跡内には、遺構覆土の上位に火山灰のみが集積する単純層をもつ遺構が多数検出され、中でも1ST1158 竪穴建物では最大層厚22cmに及び、遺構覆土の多くが火山灰で埋められていた。表土や地山と混じらないこれらの単純層は、人為的に集められたものではなく、風などに運ばれて窪みに溜まったものと考えられよう。火山灰の検出量は、清水遺跡で見れば、低地部分に比較的少なく、丘陵斜面に立地する遺構の覆土中に厚く含まれる傾向がある。

火山灰の堆積は、遺構の覆土の上位に堆積するものがほとんどで、下位に含まれるものもあっても床面に堆積するものは見られない。よってこれらの遺構は915年の噴火降灰時にはすでに廃絶していたことを示してい

る。火山灰の検出した遺構から出土する遺物の年代観の大部分は、9世紀代であり、10世紀初頭や前半のものは、ほとんどの遺構で見られない。これらの状況は、十和田火山の降灰の影響により集落が廃絶したのではないことを示している。また、火山灰が遺構覆土の上位に堆積している場合、火山灰より下位で出土した遺物と上位で出土した遺物で年代差を設定できよう。しかし、1地区の場合では、火山灰の下位で出土したものと、上位のものが接合することも多い。これは降灰前に周辺で廃棄されたものが、降灰の前後に流れ込んだことを示している。同地区では、10世紀代の遺物がみられないため、降灰後の新しい土地利用はほとんどなされなかったと考えられる。

竪穴建物等が埋没しきるまで、どれくらいの時間がかかるのか。立地環境や周辺の土地利用の状況に大きく左右されるのであろうから、一概に述べることは困難であろう。本遺跡の場合に限れば、出土遺物の様相から、数10～50年程度は竪穴が開いていたと考える必要がある。廃棄後の土地利用がほぼ認められない場合の埋没時間を示す事例として提示できるかもしれない。

十和田火山灰の降灰範囲は、なお不明な点が多い。これについては植松氏も言及しているが(植松前掲)、本遺跡より更に南の山形市や東の仙台市においても検出されており、降灰域の限界は明確ではない。とはいえ供給源である十和田火山から200kmを超えた本遺跡周辺地域においても、非常に厚い堆積状況を示していることから、その範囲は更に拡大する可能性があるだろう。

『火山灰アトラス』に掲載されるTo-aの火山ガラス屈折率は、n1.496-1.508と広い範囲を示すものであるのに対し、中央道関連の発掘調査で分析に出された火山灰の屈折率は、1.505以上の範囲にピークをもつものが多し。これに対して低屈折率の火山灰は南方に広がらず、分布が限られるとされている(町田ほか1981)。また、火山灰試料の置かれた状況による風化や汚染も考慮しなければならぬだろう。とはいえ、複数の遺跡、多様な遺構から検出した試料が、このように近似した値を示していることは、注目すべきものように思える。

3 調査のまとめ

清水遺跡の1地区の調査区は、遺跡の南端部にあた

り、平成22年に第1次、23年に第3次、26年に第7次調査を行った。合計の調査面積は、1,1570㎡に及ぶ。検出した遺構は、竪穴建物13軒、掘立柱建物4棟、土坑425基、複数の溝状遺構は、ひとつの河川の流路変化によるものと思われる。

竪穴建物の規模は、4～5.5mほどのものが多く、カマドが設置されるものは、すべて南壁に設置されているなどの共通点を持っている。そんな中で特殊な様相を示しているのは、1ST365で、1辺8mほどの大型の竪穴を有し、鉄滓の出土や火床面の形成は鍛冶工房などの存在をうかがわせる。掘方から出土した帯金具の巡方(80)は、県内では希少で、3例目のものである。

竪穴建物の出土遺物からそれぞれの時期を判断すると、大きな差は感じられず、従来の編年観(阿部・水戸1999)では9世紀の中～後葉に収まるものである。建物同士の重複関係はないが、1ST330の床面で検出した大型の須恵器甕(25)、(26)が1ST365・1184でも出土している。これらの大部分は1ST330側で出土していることから、同建物の廃絶後、1ST365・1184がつくられていることがわかる。とはいえ出土遺物の内容や、共通する「縄」の墨書土器の存在から、両者に大きな時間差はないものと考えられよう。

一般的に遺構の時期判断には、覆土中に含まれる遺物の最も新しいものを用い、古いものがある場合は混入と解釈されることが多い。1ST510、1ST740、1ST777などで出土する須恵器環には、器形が扁平で底部切り離しがヘラ切りのものがあり、単体でみれば8世紀後半代のもので判断されるだろう。同じ遺構内で出土する底径の小さい糸切りの環などの共伴を考えるには、両者に50年以上の時間差を考えねばならない。とはいえ、これら古手の環類を混入として解釈するには、多くのもので残存率がよく、床面で出土するものが多いことや、複数の遺構で同じ状況が確認でき、他に同様の環類を主体として出土する遺構は検出していないことなどから困難である。なお、1SD186には環類が大量に出土するが、ヘラ切りの環は、1点も含まれていない。このような出土状況を踏まえて、どのように判断されるべきかは、今後の課題である。

河川跡からは、1SD186を中心に多数の遺物が出土した。249点の環類を掲載し、うち119点は墨書が施さ

れたものである。墨書は「縄」や「王」など特定の字種が多く用いられている。1SD186の大量に遺物の出土する地点では、底面に礫を敷き詰め、縁道を木杭で囲う様子が確認されており、人工的に水場を作り出しているものと考えられる。このような状況からは、河川祭祀の事例として解釈されよう。近隣では清水遺跡の2地点や蟬田遺跡においても同様の出土状況が検出され、蟬田遺跡では斎申なども出土している。

出土遺物にみられる時期は、9世紀の中～後葉に収まる。遺物集中地点の最上層には、火山灰がブロック状に堆積しており、915年の十和田火山灰と分析されている。また、覆土中から出土したモモヤククルミの種実を用いて炭素年代を測定したところ、火山灰と同等の最上層から出土したもので、670-778calAD(90.6%)という値が出ている。火山灰の年代とは、最も新しい値をとっても100年以上の差が生じる。炭素年代は、最下層から出土したもので658-721calAD(69.5%)を示している。周辺の遺跡の発掘調査で炭素年代を測定しているものを見ても、多くの遺跡で類似した7～8世紀という値が出ている。しかし、出羽国建国以前の7世紀に内陸奥地の本遺跡周辺に開発が及ぶことや、出土遺物の様相からも、この結果をそのまま受け入れるのは難しい。炭素年代と古代史、土器編年上の齟齬がなぜ生じているのか、どのように解釈すべきかは、残された課題である。

土坑などはその性格を判断することが難しいものばかりである。1SK351だけは、四隅に柱穴と思いきビットをもち、底面が強く被熱することから、隣接する1ST365とともに、鍛冶関係の遺構として解釈できるかもしれない。また、1SK321は、底面近くに十和田火山灰が堆積していることから、他のものよりも時期が新しい可能性がある。黒ボク土中に火山灰が溝状に平行して堆積する1SX1160～1162なども同様に考えられよう。

以上、これらの調査成果を総合すると、清水遺跡1地区の性格は、9世紀中葉に新規に開拓され、50年前後の短い期間に営まれた村落との評価を与えることができよう。本遺跡の営まれた9世紀中～後葉の東北地方は、戦乱に加え飢饉や大地震など多数の自然災害に見舞われていた時代でありながら、盛んに新規開拓が行われた時代でもある。県内の遺跡数は、この時代に一気に増加し

ており、9世紀の後半には、本遺跡周辺を含む山形盆地北部が村山郡として分郡されるのも、こういった盛んな開発活動の結果であろう。

清水遺跡1地区では、丘陵の裾部に竪穴建物が展開し、東側の調査区外には更に建物が存在することが予想される。掘立柱建物は4棟検出しているが、小型で柱通りも悪く、規格性も薄い。一方で北側の清水遺跡の3地区には大型の掘方を持つ掘立柱建物が規格的に並ぶ様子が検出されているため、集落の中心地は彼の地に求められよう。低地部分では祭祀儀礼を行っており、おそらく当時

の田畑も低地部にあったと思われるが、今回の調査ではそれを示すものは検出していない。1地区の調査区内に10世紀以降の遺物はほとんど出土していないことから、集落は9世紀後半まで存続したが、その後は廃絶し、里山や耕地としての利用はあったとしても、居住はされなかったと考えられる。比較的短期間に大量に廃棄された坏類は、今後の当該時期の研究における編年の指標となるだろう。

引用文献

- 小松正夫ほか 1976 「第17次発掘調査」昭和50年度秋田城跡発掘調査概報 秋田市教育委員会
 阿部明彦・水戸弘美 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙検討会
 江口友子ほか 2000 『釈迦堂遺跡』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 松村恵司 2002 「鈔帯金具の位階表示機能」『鈔帯をめぐる諸問題』独立行政法人奈良文化財研究所
 千葉孝弥ほか 2003 『市川橋遺跡』多賀城市埋蔵文化財調査センター
 武田健次郎ほか 2008 『任海宮田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
 植松隆彦 2013 「古代東北の火山噴火と遺跡から見た災害規模—青森県十和田・広城火山灰を通して—」『年報 平成24年度』公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

表27 掲載墨書土器集成1

番号	遺構名	器種	墨書部位	字種	番号	遺構名	器種	墨書部位	字種
13	ST330	須恵器 坏	底	縄	239	SD186	須恵器 坏	底	縄
15	ST330	須恵器 坏	底	貞	240	SD186	須恵器 坏	底	縄
19	ST330	須恵器 有台坏	底	貞	241	SD186	須恵器 坏	底	縄
31	ST365	須恵器 坏	底	□	242	SD186	須恵器 坏	底	縄
32	ST365	須恵器 坏	底	千	243	SD186	須恵器 坏	底	縄
33	ST365	須恵器 坏	底	千	244	SD186	須恵器 坏	底	縄
34	ST365	須恵器 坏	底	□	245	SD186	須恵器 坏	底	縄
35	ST365	須恵器 坏	底	□	246	SD186	須恵器 坏	底	縄
36	ST365	須恵器 坏	底	縄	247	SD186	須恵器 坏	底	縄
37	ST365	須恵器 坏	底	縄	248	SD186	須恵器 坏	底	□ [縄カ]
48	ST365	須恵器 有台坏	底	□	249	SD186	須恵器 坏	底	縄
49	ST365	土師器 坏	底	千	250	SD186	須恵器 坏	底	縄
113	ST740	須恵器 坏	底	其カ	251	SD186	須恵器 坏	底	縄
120	ST740	土師器 坏	底	□	252	SD186	須恵器 坏	底	縄
121	ST740	土師器 坏	底	王	253	SD186	須恵器 坏	底	縄
122	ST740	須恵器 蓋	頂部	富	254	SD186	須恵器 坏	底	縄
143	ST777	須恵器 坏	底	縄	255	SD186	須恵器 坏	底	縄
151	ST777	土師器 坏	底	王	256	SD186	須恵器 坏	底	縄カ
182	ST1158	須恵器 坏	底	縄	257	SD186	須恵器 坏	底	縄
208	ST1290	須恵器 蓋	鋸	王	258	SD186	須恵器 坏	底	縄カ
227	SD186	須恵器 坏	底	縄	259	SD186	須恵器 坏	底	□ [縄カ]
228	SD186	須恵器 坏	底	縄	260	SD186	須恵器 坏	底	縄カ
229	SD186	須恵器 坏	底	縄	261	SD186	須恵器 坏	底	縄カ
230	SD186	須恵器 坏	底	縄	262	SD186	須恵器 坏	底	王
231	SD186	須恵器 坏	底	「縄」	263	SD186	須恵器 坏	底	王
232	SD186	須恵器 坏	底	縄	264	SD186	須恵器 坏	底	王
233	SD186	須恵器 坏	底	縄	265	SD186	須恵器 坏	底	王
234	SD186	須恵器 坏	底	縄	266	SD186	須恵器 坏	底	王
235	SD186	須恵器 坏	底	縄	267	SD186	須恵器 坏	底	王
236	SD186	須恵器 坏	底	縄	268	SD186	須恵器 坏	底	王
237	SD186	須恵器 坏	底	縄	269	SD186	須恵器 坏	底	王
238	SD186	須恵器 坏	底	縄	270	SD186	須恵器 坏	底	王

表 28 掲載墨書土器集成 2

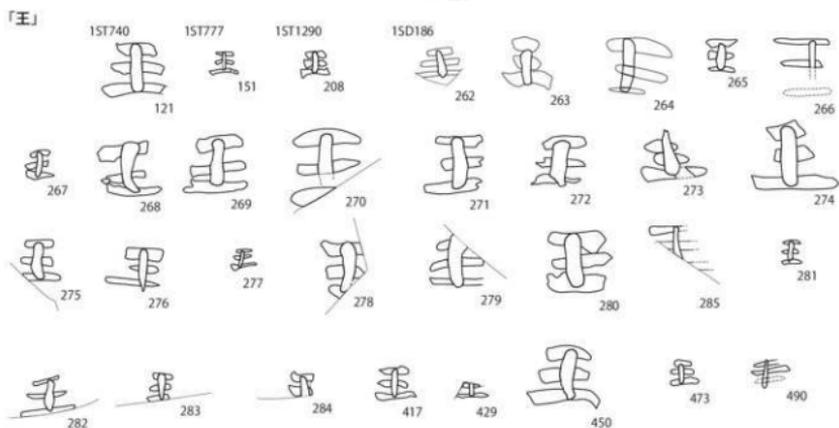
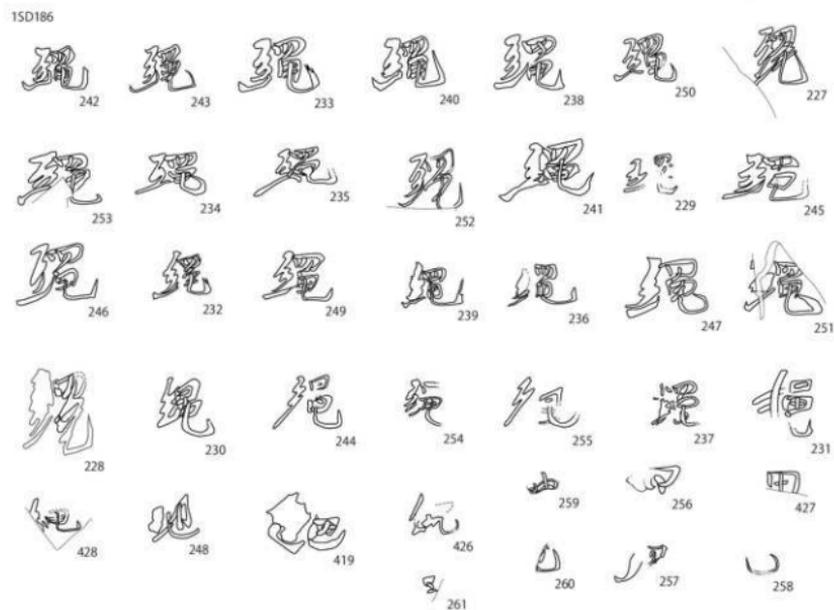
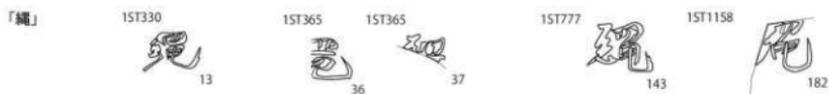
番号	遺構名	器種	墨書部位	字種
271	SD186	須恵器 坏	底	王
272	SD186	須恵器 坏	底	王
273	SD186	須恵器 坏	底	王
274	SD186	須恵器 坏	底	王
275	SD186	須恵器 坏	底	王
276	SD186	須恵器 坏	底	「王」
277	SD186	須恵器 坏	底	王
278	SD186	須恵器 坏	底	王
279	SD186	須恵器 坏	底	王
280	SD186	須恵器 坏	底	王
281	SD186	須恵器 坏	底	王
282	SD186	須恵器 坏	底	王
283	SD186	須恵器 坏	底	王
284	SD186	須恵器 坏	底	王カ
285	SD186	須恵器 坏	外	王
286	SD186	須恵器 坏	底	富
287	SD186	須恵器 坏	底	富
288	SD186	須恵器 坏	外・底	王、富
289	SD186	須恵器 坏	底	富
290	SD186	須恵器 坏	底	□〔富カ〕
291	SD186	須恵器 坏	底	□〔富カ〕
292	SD186	須恵器 坏	底	千
293	SD186	須恵器 坏	底	千
294	SD186	須恵器 坏	底	千
295	SD186	須恵器 坏	底	白
296	SD186	須恵器 坏	底	日
297	SD186	須恵器 坏	底	矢田
298	SD186	須恵器 坏	底	子
299	SD186	須恵器 坏	底	太
300	SD186	須恵器 坏	底	人
301	SD186	須恵器 坏	底	□〔身カ〕
302	SD186	須恵器 坏	底	□〔身カ〕
303	SD186	須恵器 坏	底	真人
304	SD186	須恵器 坏	底	□〔方カ〕
305	SD186	須恵器 坏	底	方
306	SD186	須恵器 坏	外	□□〔奏善カ〕
307	SD186	須恵器 坏	外	□〔記号〕
308	SD186	須恵器 坏	底～外	奏□〔善カ〕
309	SD186	須恵器 坏	底～外	奏□〔善カ〕

番号	遺構名	器種	墨書部位	字種
310	SD186	須恵器 坏	外	□〔長カ〕 圓
311	SD186	須恵器 坏	外	圓
313	SD186	須恵器 坏	底	□〔六カ〕
314	SD186	須恵器 坏	底	□〔六カ〕
315	SD186	須恵器 坏	底	□
316	SD186	須恵器 坏	底	□
317	SD186	須恵器 坏	底	□
318	SD186	須恵器 坏	底	□
319	SD186	須恵器 坏	底	□
320	SD186	須恵器 坏	外	□
321	SD186	須恵器 坏	外	□
322	SD186	須恵器 坏	外	□〔升カ〕
323	SD186	須恵器 坏	外	□
324	SD186	須恵器 坏	外	□
325	SD186	須恵器 坏	外	□
326	SD186	須恵器 坏	外	□
327	SD186	須恵器 坏	底	□
328	SD186	須恵器 坏	底	□〔イ〕
329	SD186	須恵器 坏	底	□
330	SD186	須恵器 坏	底	□
416	SD186	須恵器 有台坏	底	方
417	SD186	須恵器 有台坏	底	王
418	SD186	須恵器 有台坏	底	□〔真カ〕
419	SD186	須恵器 有台坏	底	□〔備カ〕
422	SD186	土師器 坏	底	□
423	SD186	土師器 坏	底	身
424	SD186	土師器 坏	底	身
425	SD186	土師器 坏	底	千
426	SD186	土師器 坏	底	備
427	SD186	土師器 坏	底	備カ
428	SD186	土師器 坏	底	備
429	SD186	土師器 坏	底	王カ
450	SD186	土師器 坏	底	王
453	SD186	土師器 有台坏	底	身
473	SD186	須恵器 蓋	底	王
490	SD186	須恵器 瓶	底	王
529	SD27	須恵器 坏	底	□
554	SK182	須恵器 有台坏	底	□
560	SK214	須恵器 坏	底	千

表 29 中央道調査による火山灰検出遺構

遺跡名	遺構名	堆積	層厚	屈折率
清水道跡 1地区	ISK182	覆土中位	ブロック	1.506・1.509
清水道跡 1地区	ISD186	覆土最上	4cm	1.505・1.509
清水道跡 1地区	ISK321	覆土下位	8cm	1.504・1.507
清水道跡 1地区	IST365EK1	覆土中位	ブロック	-
清水道跡 1地区	IST510	覆土最上	8cm	1.503・1.509
清水道跡 1地区	IST566	覆土中位	15cm	1.505・1.509
清水道跡 1地区	IST581	覆土中位	11cm	1.506・1.509
清水道跡 1地区	ISK643	覆土中位	8cm	1.505・1.508
清水道跡 1地区	IST740	覆土最上	12cm	-
清水道跡 1地区	IST777	覆土最上	4cm	-
清水道跡 1地区	IST1158	覆土最上	22cm	-
清水道跡 1地区	ISK1160他	覆土全体	ブロック	-
清水道跡 1地区	ISK1208	覆土最上	12cm	-
清水道跡 1地区	ISK1232	覆土下層	ブロック	-
清水道跡 2地区	2ST9EP8	覆土上位	含む	1.501・1.504
清水道跡 2地区	2ST69	覆土最上	18cm	1.500・1.506
清水道跡 2地区	2ST101	覆土中位	14cm	1.498・1.506
清水道跡 2地区	2ST140	覆土中位	ブロック	1.494・1.504

遺跡名	遺構名	堆積	層厚	屈折率
清水道跡 2地区	2ST141	覆土中位	12cm	1.499・1.509
清水道跡 2地区	2ST141	覆土中位	12cm	1.503・1.506
清水道跡 2地区	2ST146	覆土中位	ブロック	1.498・1.502
清水道跡 2地区	2SK149	覆土中位	13cm	-
清水道跡 2地区	2SG266	-	-	1.502・1.508
清水道跡 2地区	2ST276	覆土中位	ブロック	1.502・1.506
清水道跡 2地区	2ST1002	覆土上位	8cm	1.502・1.506
清水道跡 3地区	3SK1047	覆土最上	ブロック	1.497・1.509
清水道跡 3地区	3SK1048	覆土最上	ブロック	1.498・1.508
清水道跡 3地区	3ST1053	覆土上位	17cm	1.505・1.509
清水道跡 8次	ST448	-	ブロック	1.506・1.509
松嶺道跡	SE101	覆土中位	8cm	1.494・1.514
松嶺道跡	SK555	覆土中位	4cm	1.505・1.512
田向 2道跡 1・2次	ST68	覆土中位	ブロック	1.507・1.510
神田道跡 1・2次	グリッド	-	ブロック	1.505・1.509
沼田 2道跡	SK23	覆土下位	4cm	1.507・1.510
沼田 2道跡	SG158	覆土中位	10cm	1.505・1.506
東照野苗畑道跡	SG54	覆土中位	ブロック	1.506・1.508



第119図 1地区出土の墨書土器の集成1

「千」
15T365

15D186

15K214

「富」

15T740

15D186

「富王」



「貞」

15T330

「真」

15T330

「身」

15D186

「真人」



「秦善カ」



「長岡」



「岡」



「矢田」



「方」



「子」



「太」



「人」



「白」



「日」



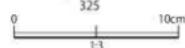
「六カ」



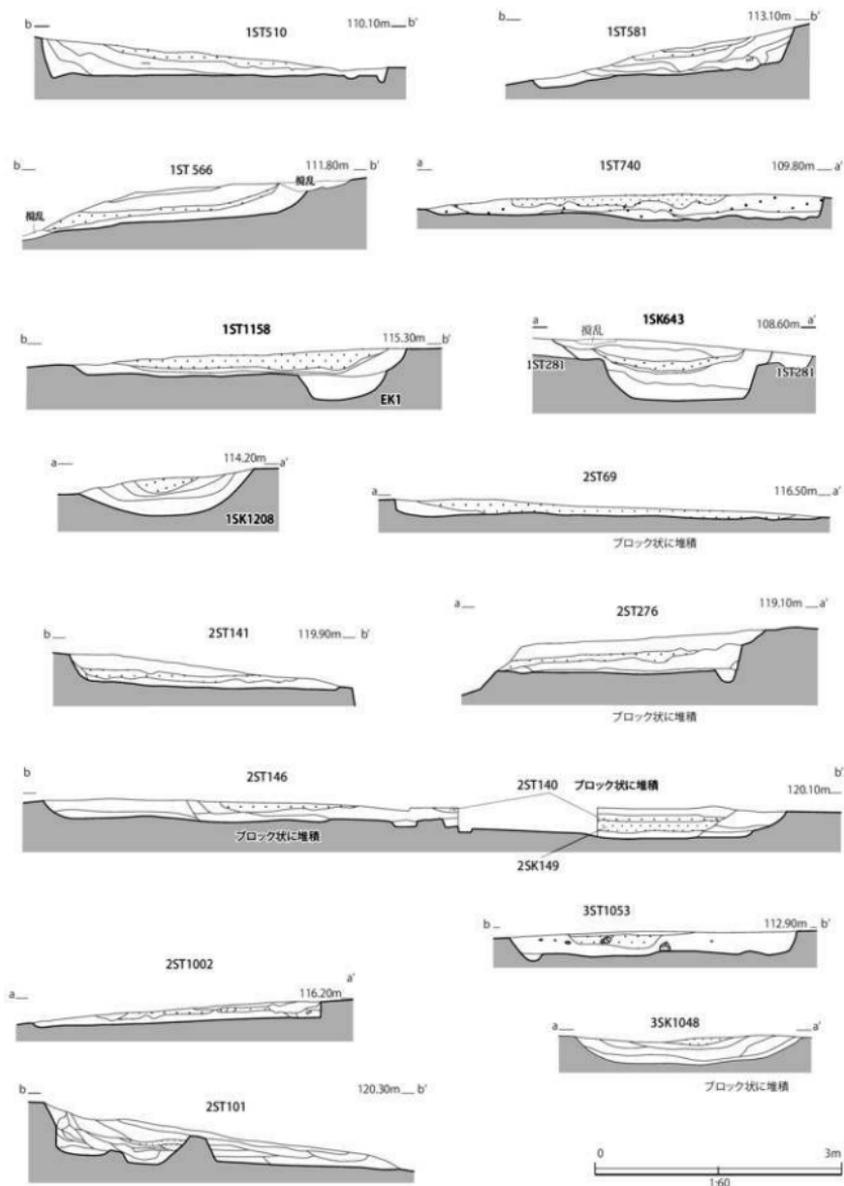
「イロ」



判読不能



第120図 1地区出土の墨書土器の集成2



第 121 図 清水遺跡から検出した火山灰の堆積状況の集成

写真図版



1 調査前風景 (南から)



2 A区検出状況 (南から)



3 B区検出状況 (南から)



4 C区全景 (北から)



5 G区検出状況 (北から)



6 H区検出状況 (西から)



7 空撮A-C区全景 (南から)



8 空撮E-F区全景 (北から)



9 空堀 E~F 区全景 (北東から)



10 空堀 A・D 区下層全景 (南から)



11 1ST121EL1 遺物出土状況 (北東から)



12 1ST121 完掘 (東から)



13 1ST281 断面 (南から)



14 1ST281 完掘 (北から)



15 1ST330 遺物 (25) 出土状況 (北から)



16 1ST330 遺物 (21) 出土状況 (東から)



17 1ST330EL1 遺物出土状況 (北東から)



18 1ST330EL1 完掘 (北から)



19 1ST330 完掘 (北から)



20 1ST330 掘方 (北から)



21 1ST365 完掘 (北から)



22 1ST365 掘方 (北から)



23 1ST510 火山灰検出状況 (南西から)



24 1ST510 断面 (東から)



25 1ST510 完掘 (北から)



26 1ST510 掘方 (北から)



27 1ST566 断面 (南西から)



28 1ST566 完掘 (西から)



29 1ST581 断面 (南東から)



30 1ST581 完掘 (西から)



31 1ST740 断面 3 (東から)



32 1ST740 遺物出土状況 (北から)



33 1ST740 遺物 (131 ほか) 出土状況 (北から)



34 1ST740EL1 遺物出土状況 (北から)



35 1ST740 完掘 (北から)



36 1ST740 掘方 (南から)



37 1ST777 断面 (西から)



38 1ST777 遺物出土状況 (北西から)



39 1ST777 完掘 (南西から)



40 1ST777 空掘 (南から)



41 1ST1158 検出 (西から)



42 1ST1158 断面 (西から)



43 1ST1158EL1 遺物出土状況 (北西から)



44 1ST1158EL1 遺物 (192+194) 出土状況 (北から)



45 1ST1158 完掘 (北西から)



46 1ST1158 掘方 (北から)



47 1ST1184 完掘 (北から)



48 1ST1184 掘方 (北から)



49 1ST1290 出土状況 (北から)



50 1ST1290EK2 完掘 (西から)



51 15T1290 完掘 (北から)



53 15T1286・1290 完掘 (北から)



52 15T1290 掘方 (北から)



54 15B1405・15A1406 完掘 (東から)



55 第1次調査風景 15T330 (東から)



56 第1次調査風景 15D186 (北から)



57 第3次調査風景 15T1158 (南から)



58 A区全景 (南から)



59 1SD186 完掘 (北から)



60 1SD186 断面 (北東から)



61 1SD186 断面 d-d' (南から)



62 1SD186 断面 e-e' (南東から)



63 1SD186 断面 i-i' (南東から)



64 1SD186 遺物出土状況 (北東から)



65 1SD186 遺物出土状況 (南から)



66 1SD186 遺物出土状況 (東から)



67 1SD186 遺物出土状況 (北から)



68 1SD186 杭列検出 (南から)



69 1SD186 完掘 (南から)



70 1SD27 断面 (北から)



71 1SD27 完掘 (北から)



72 1SD161 完掘 (北から)



73 1SD137 完掘 (南から)



74 1SK182 断面 (北から)



75 1SD183 完掘 (北から)



76 1SD1358 完掘 (南西から)



77 1SD1378 断面 aa-aa' (南から)



78 1SD1378 断面 av-av' (南から)



79 1SD1378 断面 (南から)



80 1SD1378+1383 完掘 (南から)



81 A・D区下層完掘 (南から)



82 第1次調査風景 (南から)



83 第1次調査風景 (北から)



84 第3次調査風景 (北から)



85 第3次調査風景 (北から)



86 15K98 完掘 (南から)



87 15K100 完掘 (北東から)



88 15K119+120 完掘 (南から)



89 15K243 完掘 (東から)



90 15K289 完掘 (北から)



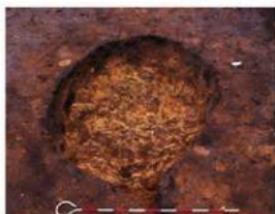
91 15K251+252 完掘 (北から)



92 15K301 完掘 (東から)



93 15K308+309 完掘 (東から)



94 15K310 完掘 (北から)



95 15K321 断面 (北から)



96 15K322 完掘 (北から)



97 15K324 完掘 (西から)



98 15K344 完掘 (西から)



99 15K351 断面 (南から)



100 15K351 完掘 (東から)



101 1SK353+354+358 断面 (南から)



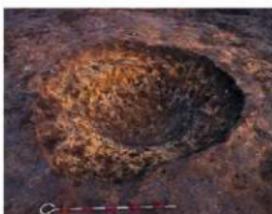
102 1SK355+356+692 完掘 (南から)



103 1SK369 完掘 (東から)



104 1SK378 完掘 (東から)



105 1SK387 完掘 (西から)



106 1SK398 完掘 (北東から)



107 1SK399 断面 (南東から)



108 1SK399 完掘 (東から)



109 1SK401 完掘 (東から)



110 1SK411 断面 (北西から)



111 1SK411 完掘 (北東から)



112 1SK419 完掘 (西から)



113 1SK544+545 断面 (南から)



114 1SK544-546 完掘 (南西から)



115 1SK571 完掘 (西から)



116 1SK639 完掘 (北から)



117 1SK643 完掘 (南から)



118 1SK759 完掘 (南から)



119 1SK771 完掘 (東から)



120 1SK1111+1112 完掘 (南東から)



121 1SK1169 完掘 (南から)



122 1SK1141 完掘 (西から)



123 1SK1164 断面 (南から)



124 1SX1175 断面 (南から)



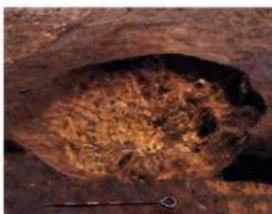
125 1SX1160-1162 断面 (北から)



126 1SX1160-1163 完掘 (南から)



127 15K1208 検出 (東から)



128 15K1208 完掘 (北から)



129 15K1215 完掘 (南から)



130 15K1228 断面 (北から)



131 15K1235 完掘 (南から)



132 15K1248 完掘 (南から)



133 15K1251+1252 完掘 (南から)



134 15K1266 断面 (南から)



135 15K1266 完掘 (南から)



136 15K1332 完掘 (南から)



137 15K1343+1344 完掘 (南から)



138 15K1020 完掘 (東から)



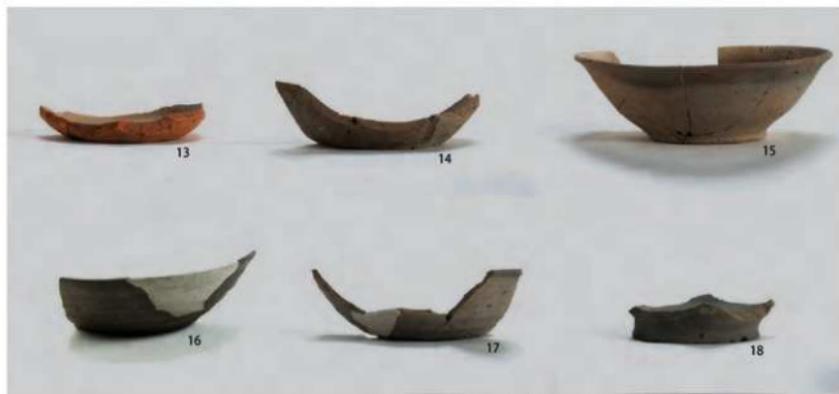
139 15K1023 完掘 (東から)



140 15K1035 完掘 (南から)



141 15K1062 完掘 (南から)



竖穴建物出土遺物写真1 (上段：1ST121、中段：1ST281、下段：1ST330)



豎穴建物出土遺物写真2 (1ST330)



竖穴建物出土遺物写真3 (15T330)



豎穴建物出土遺物写真4 (1ST365)



竖穴建物出土遺物写真 5 (1ST365)



竪穴建物出土遺物写真6 (上段: 1ST365、下段 1ST510)



竪穴建物出土遺物写真7 (上段左: 1ST510、上段右: 1ST566、中段: 1ST581、下段: 1ST740)



豎穴建物出土遺物写真8 (15T740)



竖穴建物出土遺物写真9 (15T740)



竖穴建物出土遺物写真 10 (上段：15T740、下段：15T777)



竖穴建物出土遺物写真 11 (1ST777)



豎穴建物出土遺物写真 12 (15T1158)



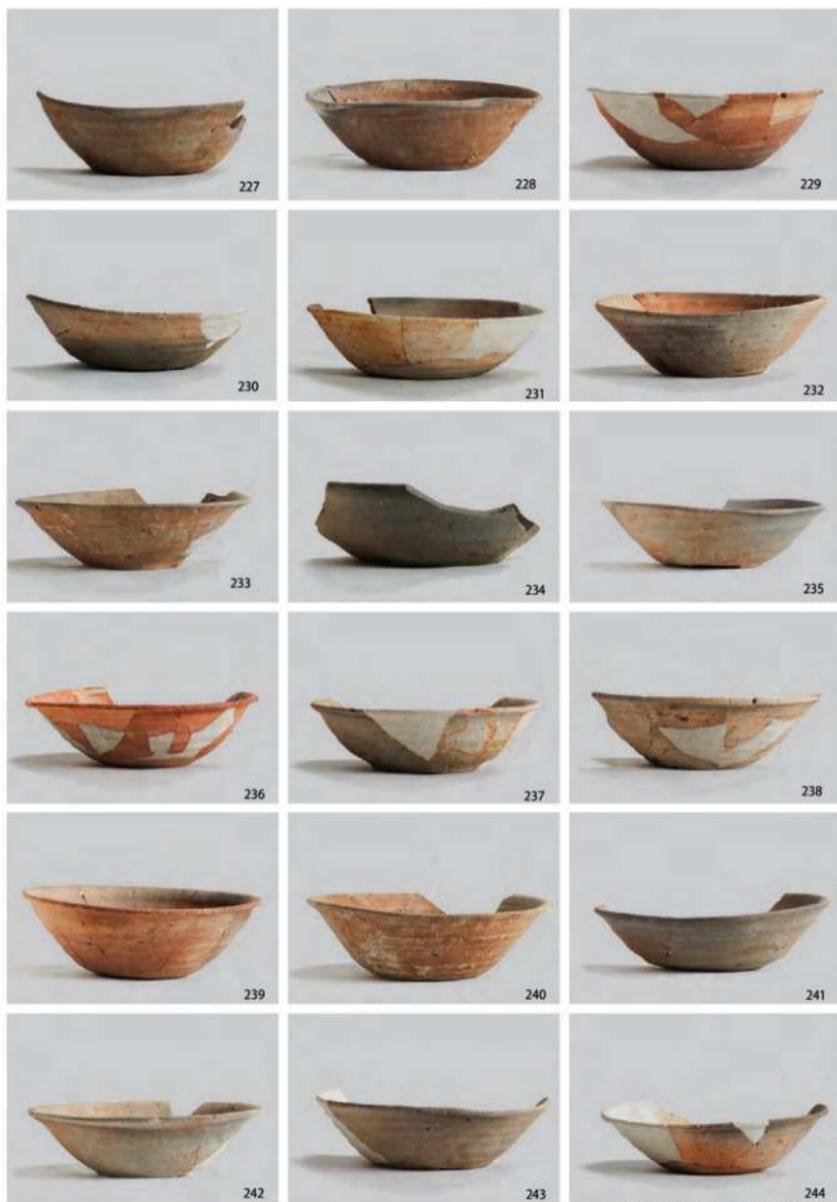
竖穴建物出土遺物写真 13 (1ST1158)



豎穴建物出土遺物写真 14 (上段: 15T1184、下段: 15T1290)



竪穴建物出土遺物写真 15 (上段：1ST1290、下段左：1ST1286、下段中：1SB665、下段右：1SB1405)



河川出土遺物写真 1 (ISD186)



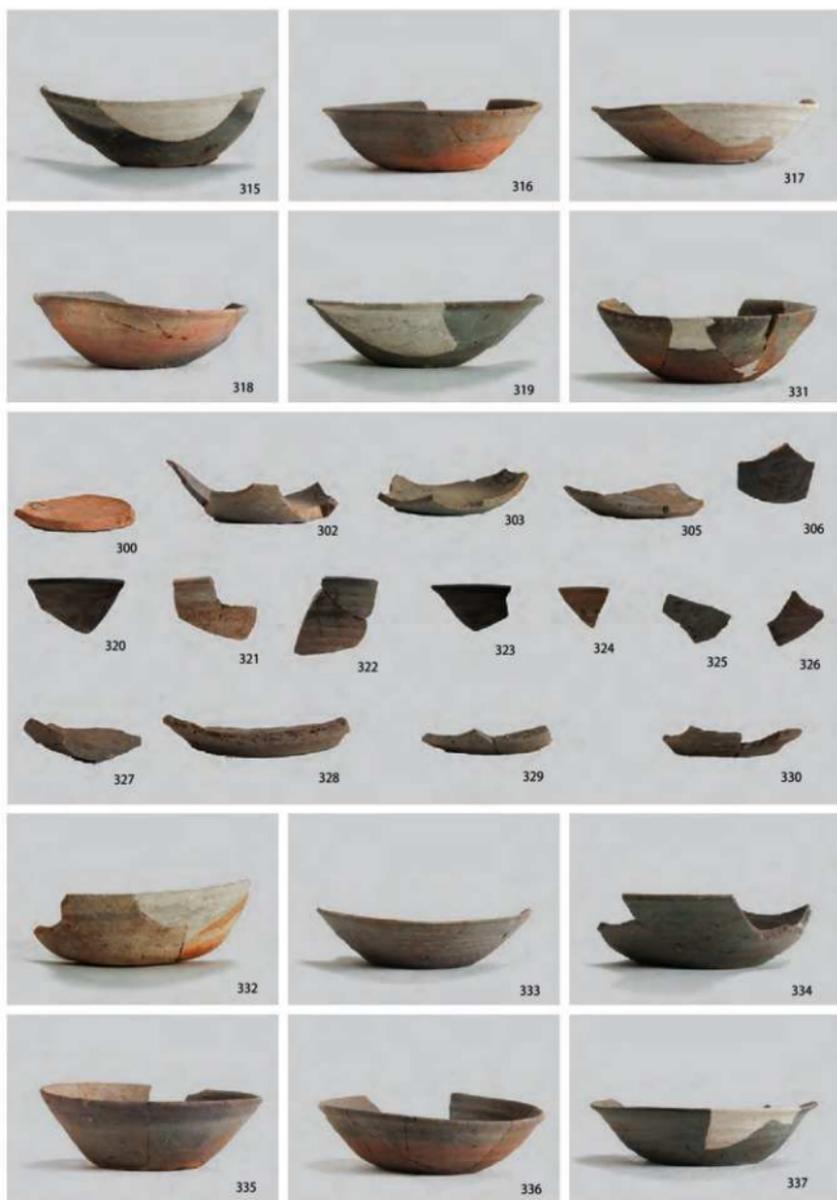
河川出土遺物写真2 (1SD186)



河川出土遺物写真3 (1SD186)



河川出土遺物写真 4 (1SD186)



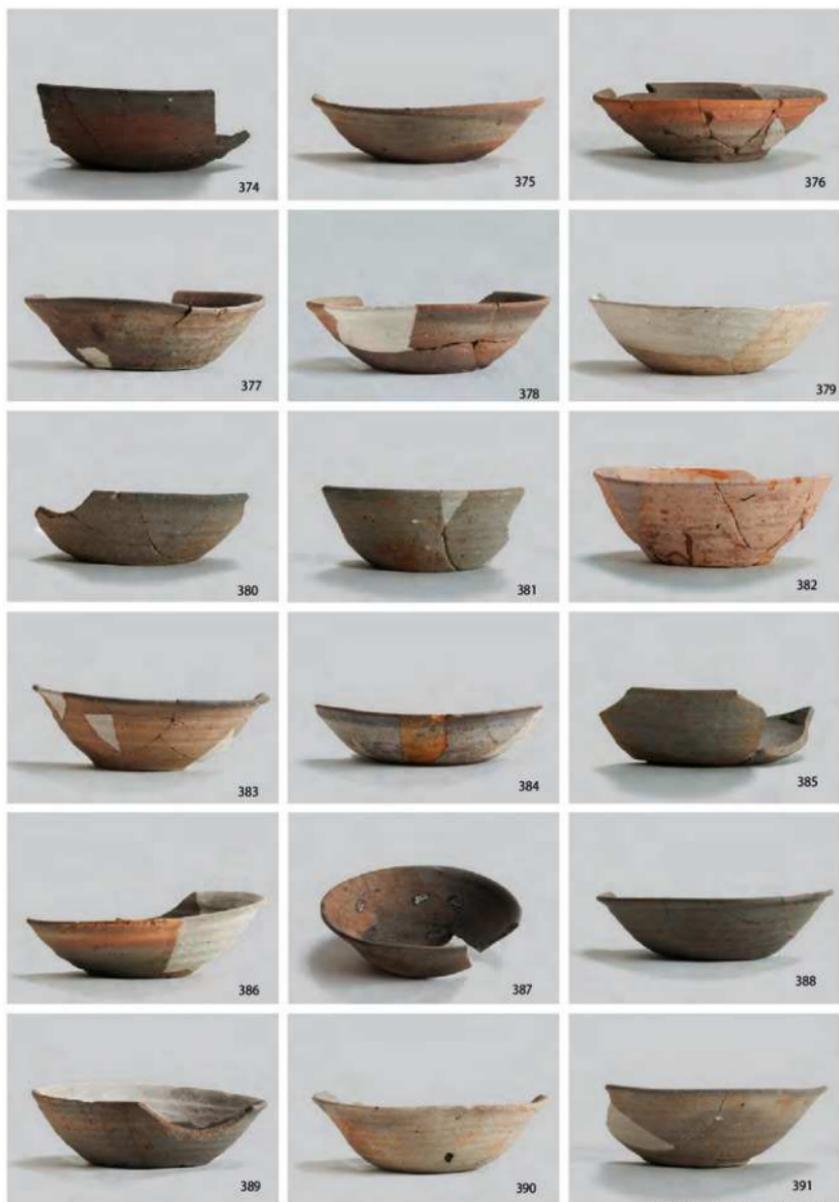
河川出土遺物写真5 (1SD186)



河川出土遺物写真 6 (1SD186)



河川出土遺物写真 7 (1SD186)



河川出土遺物写真 8 (15D186)



河川出土遺物写真 9 (1SD186)



河川出土遺物写真 10 (ISD186)



河川出土遺物写真 11 (1SD186)



河川出土遺物写真 12 (15D186)



河川出土遺物写真 13 (1SD186)



河川出土遺物写真 14 (15D186)



河川出土遺物写真 15 (上段：1SD186、下段：1SD27)



河川出土遺物写真 16 (1SK28-1SK241)



土坑ほか出土遺物写真1 (1SK33-1SK692)



土坑塚か出土遺物写真 2 (1SK358-1SK411)



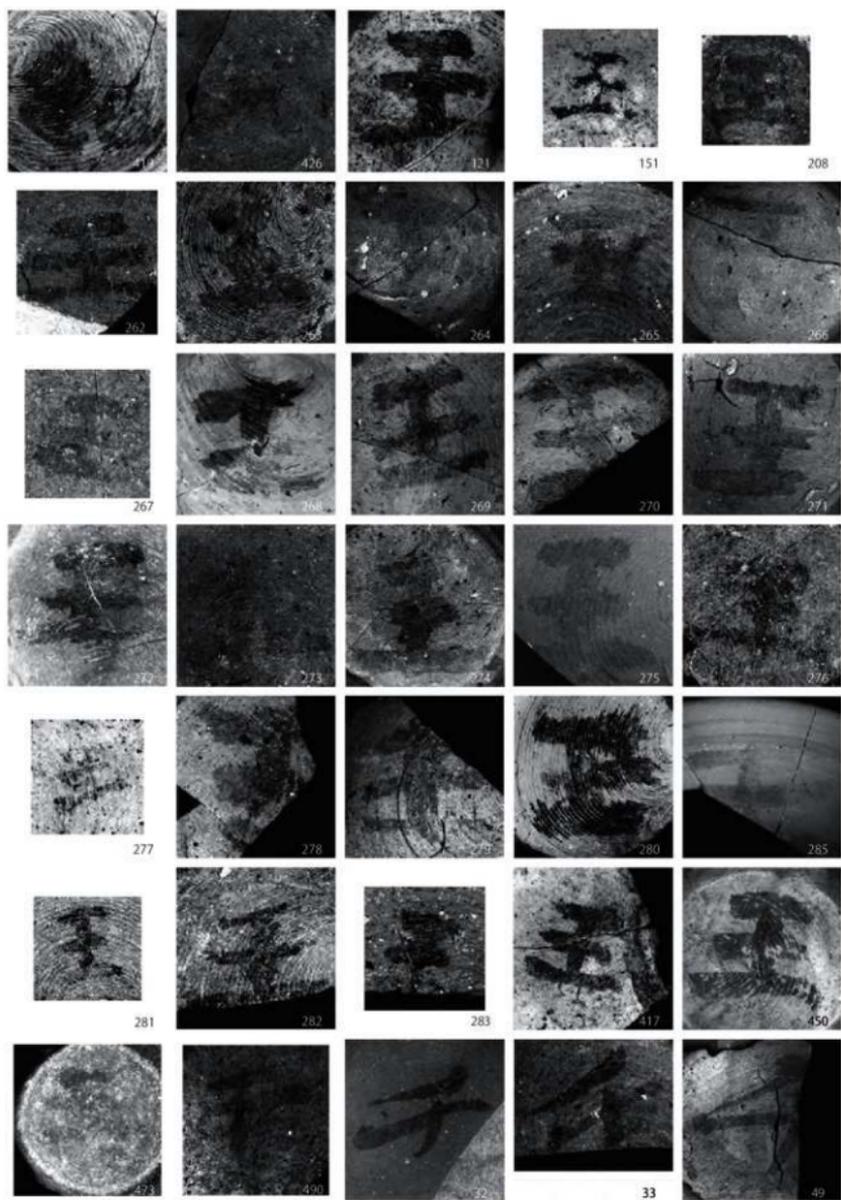
上段：土坑ほか出土遺物写真3 (15K418-15X1162)、下段：調査区一括出土遺物写真1



調査区一括出土遺物写真 2



墨書土器赤外線写真 1



墨書土器赤外線写真 2

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第238集

清水遺跡第1～7次発掘調査報告書

2020年3月31日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
電話 023-672-5301
印刷 田宮印刷株式会社
〒990-2251 山形県山形市立谷川三丁目1410番地の1
電話 023-686-6111

この PDF データは下記の報告書を底本として作成しました。

閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。

底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：清水遺跡第1～7・9次発掘調査報告書 第一分冊

発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

〒999-3246

山形県上市市中山字壁屋敷5608番地

電話：023-672-5301

URL：<http://www.yamagatamaibun.or.jp/>

mail：yac@yamagatamaibun.or.jp

電子版作成日：2020年3月31日